香淳皇后実録 卷一

皇后の御名は良子ながこと申し上げ、邦彦王くによし朝彦親王第三王子の第一王女であり、御母は倪子ちかこ公爵島津忠義第七女子である。御兄は朝融王あさあきら明治三十四年二月二日誕生・邦久王くにひさ明治三十五年三月十日誕生、御妹は信子女王のぶこ明治三十七年三月三十日誕生・智子女王さとこ明治三十九年九月一日誕生、御弟は邦英王くにひで明治四十三年五月十六日誕生である。

明治三十六年（西暦一九〇三年）

三月

六日 金曜日 午前六時二十五分、久邇宮鳥居坂町邸において御誕生になる。御身位は女王である。御体重は九百十匁約三千四百グラムである。御誕生に際して、東京帝室博物館総長股野琢が産所に参候する。この日、邦彦王より御守刀一台、御襦袢一台の御贈進がある。○皇親録、皇統譜皇族籍、明治天皇紀、官報、久邇宮

明治三十六年三月

明治三十六年九月

家文書、邦彦王行実、皇太子殿下良子女王殿下御略歴

九日 月曜日 御誕生後四日目に当たり、御胞衣が吾妻神社に納められる。○久邇宮家文書

十二日 木曜日 お七夜に当たり、良子と命名される。この日、天皇・皇后より邦彦王に王女誕生の

お祝いとして、白羽二重^{産衣}二匹、鮮鯛一折、酒一荷の贈賜がある。良子女王より鮮鯛代料を天皇・皇

后に御献上になる。○皇親録、皇統譜皇族籍、明治天皇紀、官報、久邇宮家文書、邦彦王行実、皇太子殿下良子女王殿下御略歴

十七日 火曜日 宮内大臣田中光顕の召喚により図書頭勝間田稔が宮内省に出省し、宮内大臣官房において御誕生に関する件の皇統譜登録が行われる。○皇親録

九月

十四日 月曜日 午前十時、邦彦王妃倪子に伴われ、初めて賢所・皇霊殿・神殿に御参拝になる。ついで御内儀謁見所において皇后と御対面になる。この日、天皇・皇后より祝賀として絹一疋及び玩具等の贈賜がある。良子女王より鮮鯛一折を天皇・皇后に御献上になる。○昭憲皇太后実録、官報、久邇宮家文

書、読売新聞

明治三十七年（西曆一九〇四年） 一歳

一月

二十三日 土曜日 避寒のため、邦久王と共に神奈川県下鎌倉に御旅行になり、三橋旅館別館に滞在される。四月十四日、御一緒に帰京される。○官報、侯爵久邇邦久伝

明治三十八年（西曆一九〇五年） 二歳

八月

五日 土曜日 避暑のため、邦彦王妃倪子及び朝融王・邦久王と共に鎌倉に御旅行になり、山階宮別邸に滞在される。九月十六日、三方及び信子女王と共に帰京される。○官報、侯爵久邇邦久伝

明治三十九年四月・八月

明治三十九年（西暦一九〇六年） 三歳

四月

四日 水曜日 先考墓所に参拝する邦彦王・同妃侘子に伴われ、朝融王・邦久王と共に京都に御旅行になる。二十六日、御一緒に帰京される。○官報、邦彦王行実、侯爵久邇邦久伝

八月

二十日 月曜日 朝融王・邦久王・信子女王と共に京都に御旅行になる。十二月八日、御一緒に帰京される。○官報、侯爵久邇邦久伝

明治四十年（西曆一九〇七年）

四歳

三月

六日 水曜日 朝融王・邦久王・信子女王・智子女王と共に鎌倉に御旅行になり、島津公爵別邸に滞在される。三月二十九日、御一緒に帰京される。○官報、侯爵久邇邦久伝

七月

二日 火曜日 午前、朝融王・邦久王・信子女王と共に青山練兵場にお成りになる。○久邇宮家日誌
三十日 火曜日 避暑のため、邦彦王妃倪子及び朝融王・邦久王・信子女王・智子女王と共に鎌倉に御旅行になり、島津公爵別邸に滞在される。九月九日、御一緒に帰京される。○官報、侯爵久邇邦久伝

九月

二日 月曜日 学習院女学部幼稚園に御入園になる。在園中の保母主任は教授野口幽香、担任の保母は講師坂本せつが務める。○久邇宮家日誌、皇太子殿下良子女王殿下御略歴、女子学習院五十年史
二十四日 火曜日 午後、朝融王・邦久王・信子女王と共に、島津邸にお成りになる。夜、御帰還になる。○久邇宮家日誌

明治四十一年七月・明治四十二年三月

明治四十一年（西曆一九〇八年） 五歳

七月

二十四日 金曜日 避暑のため、邦彦王妃倪子の渡欧に際し、お見送りのため、朝融王・邦久王・信子女王・智子女王と共に鎌倉に御旅行になる。九月九日、御一緒に帰京される。○久邇宮家日誌、官報、侯爵久邇邦久伝

明治四十二年（西曆一九〇九年） 六歳

三月

二十四日 水曜日 邦彦王妃倪子の渡欧に際し、お見送りのため、朝融王・邦久王・信子女王・智子女王と共に京都に御旅行になる。四月九日、御一緒に帰京される。なお、邦彦王妃は三月二十七日神戸を出帆、滞欧中の邦彦王の欧米諸国巡視明治四十年四月三日より差遣されるに同伴し、十月三十日王と共に帰国する。○久

邇宮家日誌、皇親録、官報、邦彦王行実、侯爵久邇邦久伝

三十日 火曜日 学習院女学部幼稚園の保育を修了される。○皇太子殿下良子女王殿下御略歴、松本源太郎日記

四月

十二日 月曜日 学習院女学部小学科に御入学になる。○久邇宮家日誌、皇族御学歴、皇太子殿下良子女王殿下御略歴、松本源太郎日記、女子学習院五十年史

十月

三十日 土曜日 この日邦彦王・同妃倪子が欧米諸国巡視より帰国し、東京市麴町区一番町二番地の宮内大臣官舎に当分の間仮寓する。良子女王は、引き続き朝融王・邦久王・信子女王・智子女王と共に鳥居坂町邸に残られる。十二月十一日、宮内大臣官舎及び庭園は内匠寮に返付されるが、同月十六日、その一部を久邇宮が拝借し、宮邸として用いることについて天皇の御聴許を得る。○久邇宮家日誌、土地建物録、官報、皇太子殿下良子女王殿下御略歴、邦彦王行実

十二月

八日 水曜日 邦憲王^{御父邦彦王の兄}薨去につき、九十日^{第一期二十日、第二期七十日}服喪される。○官報

二十三日 木曜日 午前、信子女王と共に一番町宮邸にお成りになる。夕刻、二十一日より同邸に宿泊の朝融王・邦久王と御一緒に鳥居坂町宮邸に戻られる。以後も良子女王は鳥居坂町と一番町の両宮邸を往来される。○久邇宮家日誌

明治四十三年三月・四月・五月・七月

明治四十三年（西曆一九一〇年） 七歳

三月

十五日 火曜日 麴町区一番町二番地の久邇宮邸に移居される。○皇太子殿下良子女王殿下御略歴
三十日 水曜日 学習院女学部小学科一年級を修了される。○久邇宮家日誌、皇族御学歴

四月

十一日 月曜日 学習院女学部小学科二年級に進級される。○久邇宮家日誌、皇族御学歴、松本源太郎日記

五月

二十八日 土曜日 学習院女学部において行われる皇后御誕辰拝賀式に、信子女王と共に御出席になる。○久邇宮家日誌、松本源太郎日記

七月

十六日 土曜日 午前、邦彦王妃倪子及び朝融王・邦久王・信子女王・智子女王と共に京都に御旅行

になる。九月七日、朝融王・邦久王・信子女王・智子女王と共に帰京される。○久邇宮家日誌、皇族旅行録、官報、侯爵久邇邦久伝

十一月

十二日 土曜日 学習院女学部の創立二十五年記念式に、皇后及び皇太子妃の行啓、皇族妃のお成りがあり、在学中の皇族女子と共に皇后と御対面になる。○皇族旅行録、昭憲皇太后実録、貞明皇后実録正本、官報、松本源太郎日記、女子学習院五十年史

明治四十四年（西暦一九一一年） 八歳

三月

三十日 木曜日 午後、朝融王・邦久王・信子女王・智子女王と共に靖国神社にお成りになり、遊就館を御覧になる。○久邇宮家日誌

四月

二十三日 日曜日 午後、朝融王・信子女王・智子女王と共に新宿御苑にお成りになる。○久邇宮家日誌

明治四十三年十一月・明治四十四年三月・四月

明治四十四年五月・六月・七月・八月

五月

二十八日 日曜日 地久節につき、信子女王・智子女王と共に御登校になる。○久邇宮家日誌

六月

十四日 水曜日 この日子爵織田長利の母純子御父邦彦
王の妹死去につき、九十日服喪される。○久邇宮家日誌、
皇族身分録、宮内省省報、官報

七月

十三日 木曜日 午前、信子女王・智子女王と共に東京を御出発、京都に御旅行になる。九月八日
まで滞在される。○久邇宮家日誌、皇族旅行録、宮内省省報、官報

八月

二十六日 土曜日 去る十三日、邦彦王・同妃倪子、及び朝融王・邦久王が京都に到着する。この日
午前、邦彦王妃に伴われ、朝融王・邦久王・信子女王・智子女王と共に仙洞御所を御訪問になる。○
久邇宮家日誌、皇族旅行録、宮内省省報、官報、邦彦王行実

二十九日 火曜日 午前、邦彦王妃倪子に伴われ、信子女王・智子女王と共に滋賀県の三井寺、ついで石山寺へお成りになる。○久邇宮家日誌

九月

八日 金曜日 朝融王・邦久王・信子女王・智子女王と共に帰京される。○久邇宮家日誌、皇族旅行録、宮内省省報、官報

十月

十二日 木曜日 学習院女学部専修科・中学科・小学科学生一同と共に新宿御苑にお成りになり、午前は動物園を、午後には植物園を拝観される。○宮内省省報

二十一日 土曜日 朝彦親王二十年祭に際し、朝融王・邦久王・信子女王・智子女王と共に京都に御旅行になり、二十八日まで御滞在になる。○久邇宮家日誌、皇族旅行録、官報

二十二日 日曜日 午前、大丸呉服店において、時代祭を御覧になる。○久邇宮家日誌

二十八日 土曜日 朝融王・邦久王・信子女王と共に帰京される。○久邇宮家日誌、皇族旅行録、官報

十一月

五日 日曜日 午後、邦彦王妃侘子に伴われ、信子女王・智子女王と共に袖ヶ崎の島津家及び三光町の島津家にお成りになる。○久邇宮家日誌

十三日 月曜日 学習院女学部の開校記念式に皇太子妃が行啓され、良子女王は在学中の皇族女子と共に皇太子妃と御対面になる。○貞明皇后実録正本、女子学習院五十年史

明治四十五年・大正元年（西暦一九一二年）

九歳

二月

十一日 日曜日 午前、紀元節奉賀式の後、学習院女学部本館二階より出火し、本館が焼失する。授業は十六日より再開される。○久邇宮家日誌、松本源太郎日記、女子学習院五十年史、学習院女子中・高等科一〇〇年史

二十五日 日曜日 午後、朝融王・邦久王・信子女王・智子女王と共に神田の錦輝館にお成りになり、活動写真を御覧になる。○久邇宮家日誌

四月

二十七日 土曜日 午前、学習院女学部学生と共に浜離宮にお成りになり、午後まで御清遊になる。

○宮内省省報、読売新聞

六月

二日 日曜日 午後、朝融王・信子女王・智子女王と共に代々木御料地へお成りになる。○久邇宮家日誌

七月

三十日 火曜日 天皇が崩御し、皇太子嘉仁親王が踐祚される。この日、元号が「大正^{たいしやう}」と改められる。○宮内省省報、官報

八月

二十七日 火曜日 夕刻、在京の満七歳以上二十歳未満の王・女王と共に参内され、御内儀において皇太后と御対面になった後、明治天皇の殯宮を御拝礼になる。○皇太后宮職日記、侍従日記、大喪儀記録

九月

十三日 金曜日 明治天皇大喪儀につき、夜、轎車が青山練兵場内葬場殿に向けて宮城を御出門の際、正門内において、皇太子裕仁親王・雍仁親王・宣仁親王、聡子内親王、親王妃・王妃、未成年の王・女王・王世子と共に奉送される。○明治天皇大喪録、明治天皇紀、侯爵久邇邦久伝

十二月

二十六日 木曜日 午前、朝融王・邦久王・信子女王・智子女王と共に東京を御出発、京都に御旅行になり、翌年一月五日まで御滞在になる。○久邇宮家日誌、皇族旅行録、宮内省省報、官報、侯爵久邇邦久伝

三十一日 火曜日 午前、邦彦王・同妃侘子に伴われ、朝融王・邦久王・邦英王・信子女王・智子女王と共に明治天皇陵に御参拝になる。○久邇宮家日誌、重要雑録、侯爵久邇邦久伝

大正二年一月・三月・四月

大正二年（西曆一九一三年） 十歳

一月

五日 日曜日 朝融王・邦久王・信子女王・智子女王と共に京都より帰京される。○久邇宮家日誌、皇族旅行録、宮内省省報、官報、侯爵久邇邦久伝

三月

二十九日 土曜日 学習院女学部小学科第四年級を御修了になる。○宮内省省報、官報、女子学習院五十年史

四月

四日 金曜日 この日学習院初等学科卒業の朝融王に対し、邦久王及び信子女王・智子女王と共に祝詞を言上される。○久邇宮家日誌、宮内省省報、官報

六日 日曜日 朝融王・邦久王・信子女王・智子女王と共に浜離宮にお成りになる。恒憲王邦憲王の王子、御従兄・紀久子女王鳩彦王の王女、御従妹と共に過ごされる。○久邇宮家日誌

八月

三日 日曜日 午後、邦彦王・同妃侷子、及び信子女王・智子女王と共に御出門、京都に御旅行になる。九月五日、朝融王・邦久王・邦英王・信子女王・智子女王と共に帰京される。○久邇宮家日誌、皇族旅行録、宮内省省報、官報、邦彦王行実

九月

二十日 土曜日 この日、主として明治十年以後薨去した淑子内親王仁孝天皇第三皇女、桂宮 始め朝彦親王を含む三十五柱の皇親の霊代を皇霊殿に合祀する祭典が行われる。午前、邦彦王・同妃侷子、及び朝融王・邦久王・邦英王・信子女王・智子女王と共に新橋駅にお成りになり、京都より御着京の霊代をお出迎える。○久邇宮家日誌、大正天皇実録、昭憲皇太后実録、貞明皇后実録正本、桂宮実録

十月

十二日 日曜日 夜、邦彦王・同妃侷子及び邦久王と共に、子爵東園基愛邸にお成りになる。○久邇宮家日誌

十一月

二日 日曜日 午後、鳩彦王・孚彦王の誕生日祝いの余興を御覧になるため、朝融王・邦久王・信子女王・智子女王と共に朝香宮邸高輪南町にお成りになる。○久邇宮家日誌

大正三年（西曆一九一四年） 十一歳

五月

十七日 日曜日 去る四月十一日、皇太后御歳六十五の崩御が発表される。御追号は昭憲皇太后と定められ、この月九日、追号奉告の儀が行われる。この日、昭憲皇太后の殯宮において御拝礼のため、午後一時過ぎ御出門、朝融王・邦久王・信子女王・智子女王と共に青山御所にお成りになる。○久邇宮家日誌、昭憲皇太后大喪録、侯爵久邇邦久伝、宮内省省報、官報

二十四日 日曜日 昭憲皇太后大喪儀につき、午後六時二十分御出門、朝融王・邦久王・信子女王・智子女王と共に青山御所にお成りになり、正門内において代々木葬場殿に向けて御出発の轎車御靈柩を奉戴を奉送される。○久邇宮家日誌、昭憲皇太后大喪録、昭憲皇太后実録、侯爵久邇邦久伝

六月

二十三日 火曜日 この日、麴町区一番町二番地第三号官舎の拝借の件を久邇宮より宮内省に願ひ出る。本件は二十五日、天皇の御聴許を得る。○皇親録

八月

二十一日 金曜日 朝融王・邦英王・信子女王・智子女王と共に御出門、神奈川縣鎌倉に御旅行になる。九月八日、邦英王・信子女王・智子女王と共に帰京される。○皇族旅行録、宮内省省報、官報

十二月

十二日 土曜日 午後一時、邦彦王・同妃倪子、及び朝融王・邦久王・邦英王・信子女王・智子女王と共に御出門、近く竣工・開業予定の東京停車場を御見学になる。三時三十分御帰殿になる。○久邇宮家日誌、日本鉄道史、日本国有鉄道百年史、東京駅々史

二十八日 月曜日 午後、邦彦王・同妃倪子、及び邦英王・信子女王・智子女王と共に御出門、神奈川縣逗子にお成りになる。翌年一月七日まで御滞在になる。○久邇宮家日誌、皇族旅行録、宮内省省報、官報

大正四年（西曆一九一五年） 十二歳

一月

七日 木曜日 午後、邦英王・信子女王・智子女王と共に神奈川縣逗子より帰京される。翌日、邦彦王・同妃倪子が帰京する。○久邇宮家日誌、皇族旅行録、宮内省省報、官報

大正四年二月・三月・四月

二月

七日 日曜日 午前、邦英王・信子女王・智子女王と共に神奈川県逗子にお成りになり、滞在中の朝融王・邦久王と共に過ごされる。午後、邦英王・信子女王・智子女王と共に帰京される。○久邇宮家日誌、侯爵久邇邦久伝

三月

三十一日 水曜日 学習院女学部小学科を御卒業になり、同中学科に御進級になる。○皇太子殿下良子女王殿下御略歴、東宮御婚儀記録、官報、松本源太郎日記、女子学習院五十年史

四月

一日 木曜日 明治天皇陵・昭憲皇太后陵に御参拝のため、朝融王・邦久王・邦英王・信子女王・智子女王と共に麴町久邇宮邸を御出発、午後六時二十五分東京駅を御発になる。翌日午前七時十一分京都駅に御着、久邇宮本邸北御殿に入られ、直ちに多嘉王御父邦彦王の弟、御叔父・同妃静子と御対面になる。三日、朝融王・邦久王・邦英王・信子女王・智子女王と共に明治天皇陵・昭憲皇太后陵に御参拝になり、帰途に京都府立桃山農事試験場桃山分場を御観覧になる。四日、朝融王・邦久王・邦英王・信子女王・智子女王と共に朝彦親王御祖父の墓所及び孝明天皇陵・英照皇太后陵を始め御歴代各陵に御参拝になり、御帰途に賀陽宮邸において故邦憲王妃好子御伯母・由紀子女王邦憲王第一王女、御従姉・佐紀子女王邦憲王第二王女、御従妹と御対面、

御昼餐の饗応をお受けになる。五日、朝融王・邦久王・邦英王・信子女王・智子女王と共に靈芝山光雲寺を拝観され、ついで京都市立記念動物園、平瀬貝類博物館を御覧になる。六日午後八時二十分、朝融王・邦久王・邦英王・信子女王・智子女王と共に京都駅を御発、七日午前九時四十分東京駅に着、御帰殿になる。○久邇宮家日誌、皇族旅行録、宮内省省報、官報、京都日出新聞、侯爵久邇邦久伝

七月

二十五日 日曜日 邦久王・邦英王・信子女王・智子女王と共に麴町久邇宮邸を御出発、神奈川県箱根に御旅行になる。八月三十一日、四方及び朝融王八月九日お成りと共に帰京される。この間、箱根に旅行の

邦彦王八月五日より二十五日まで滞在・同妃侘子八月二日より二十五日まで滞在とも御一緒にお過ごしになる。○皇族旅行録、宮内省省報、官報、侯爵

久邇邦久伝

十月

八日 金曜日 去る六月二十三日、久邇宮付事務官より宮内大臣に対し、当主宮が職務上平素東京に居住していることから、本邸移転のため、京都市上京区東桜町・亀屋町の賜邸地洋館、日本館、附属家並びに官舎等合計一千五百五十坪を返納し、東京に相当の邸地を賜わりたい旨を願ひ出る。この日、本邸敷地として当面、世伝御料南豊島御料地字筭開谷の一部面積一万八百七十二坪三合二勺が貸与され、殿邸建築並びに裝飾費として金三十万円が久邇宮に下賜される。○皇親録、邦彦王行実

大正四年十一月

二十三日 土曜日 かねて鎌倉において邦久王転地静養中につき、午前、邦英王・信子女王・智子女王と共に同地にお成りになり、材木座海岸及び旅館において過ごされる。夕刻、帰京される。○久邇宮家日誌、侯爵久邇邦久伝

十一月

十日 水曜日 京都へお成りのため、午後七時、朝融王・邦英王・信子女王・智子女王と共に御出門、同三十分東京駅を御発になる。翌十一日午前七時十一分京都七条停車場に御着、久邇宮本邸北御殿に入られる。十二日、邦彦王・同妃侃子、及び朝融王・邦久王^{先着}・邦英王・信子女王・智子女王と御同列にて京都帝室博物館にお成りになり、京都市主催の大典記念京都博覧会古美術展を御覧になる。また、同館構内より時代行列を御覧になる。十三日、御兄弟・御妹と共に大典記念京都博覧会の夜景を御覧になり、大丸呉服店に立ち寄られた後、御帰邸になる。十四日、大嘗祭当日のため御外出等はなく、祭儀に邦彦王参列につき、御兄弟・御妹と共に翌十五日午前一時頃まで御正装にてお慎みになる。十五日、御兄弟・御妹と共に紫宸殿及び大嘗宮の式場跡を御拝観になる。その後、明治天皇陵・昭憲皇太后陵に御参拝になる。十六日午前九時二十四分、御兄弟・御妹と共に京都駅を御発、御帰京の途に就かれる。午後八時二十分東京駅御着、九時御帰殿になる。○久邇宮家日誌、皇族旅行録、宮内省省報、官報、

侯爵久邇邦久伝、京都日出新聞

大正五年（西曆一九一六年） 十三歳

二月

十三日 日曜日 午後一時三十分、邦彦王・同妃侘子及び朝融王と共に御出門、渋谷御料地にお成りになり、久邇宮邸建設予定地を御検分になる。以後、この年は、折に触れて久邇宮邸建設予定地を御検分になる。○久邇宮御学問所日記

十九日 土曜日 午後三時、邦彦王・同妃侘子及び朝融王と共に御出門、仏国大使館にお成りになり、欧州戦場実況の活動写真を御覧になる。御晩餐の後、御帰殿になる。○久邇宮御学問所日記

七月

十九日 水曜日 千葉・茨城両県下に御旅行のため、邦彦王妃侘子及び朝融王・邦英王・信子女王・智子女王と共に御出発になる。この日、香取神宮に御参拝の後、折柄秋季機動演習地実査のため出張中の邦彦王と、旅館において御対面になる。翌日、鹿島神宮に御参拝になり、霞ヶ浦を横断、土浦の養魚場を御覧になり、御母及び御兄弟・御妹と共に帰京される。○久邇宮御学問所日記、皇族旅行録、官報、邦彦王行実

二十六日 水曜日 邦英王・信子女王・智子女王と共に御出発、神奈川県酒匂に御旅行になる。九月六日、お揃いにて帰京される。○皇族旅行録、宮内省省報、官報

大正五年二月・七月

大正五年九月・十一月・大正六年一月

九月

五日 火曜日 この日、渋谷御料地内の女官養生所建築物並びに同地所全部拝借の件を久邇宮より宮内省に願ひ出る。本件は翌年四月七日、天皇の御聴許を得る。○皇親録

十一月

五日 日曜日 午前、邦英王・信子女王・智子女王と共に神奈川県入生田にお成りになり、同県酒匂よりお成りの朝融王と共にミカン狩りをされる。同日帰京される。○久邇宮御学問所日記

大正六年（西曆一九一七年） 十四歳

一月

三十一日 水曜日 夕刻、久邇宮御学問所講師大日鯛二御歌所
寄人の指導にて、邦彦王・同妃倪子、及び御兄弟・御妹と共に和歌の稽古をされる。○久邇宮御学問所日記

二月

四日 日曜日 午後、邦彦王・同妃倪子、及び朝融王・信子女王・智子女王と共に渋谷御料地にお成りになり、久邇宮邸建設予定地を御検分になる。○久邇宮御学問所日記

五月

二十六日 土曜日 朝融王・邦英王・信子女王・智子女王と共に御出発、神奈川県鎌倉に御旅行になる。翌日、邦彦王・同妃倪子二十一日より滞在及び四方とお揃いにて帰京される。○宮内省省報、官報

七月

二十五日 水曜日 邦彦王・同妃倪子、及び信子女王・智子女王と共に御出発、神奈川県鎌倉に御旅行になり、昨日より滞在中の朝融王・邦久王・邦英王と御一緒に過ごされる。八月三日、邦彦王が暢王朝彦親王第六王子四十年祭及び大日本武徳会青年大演武会に参列のため鎌倉より京都にお成りになるに当たつて、同妃及び邦英王・信子女王・智子女王と共に同行される。八月九日、邦英王・信子女王・智子女王と共に鎌倉に御帰着になる。八月十九日、朝融王・邦久王・邦英王・信子女王・智子女王と共に帰京される。○久邇宮御学問所日記、皇族身分録、宮内省省報、官報、邦彦王行実、侯爵久邇邦久伝

八月

二十二日 水曜日 邦彦王妃倪子及び朝融王・邦久王・邦英王・信子女王・智子女王と共に御出発、

大正六年十二月・大正七年一月

神奈川県鎌倉に御旅行になる。九月五日、邦彦王妃及び朝融王・邦英王・信子女王・智子女王と共に帰京される。○久邇宮御学問所日記、宮内省省報、官報、侯爵久邇邦久伝

十二月

二十三日 日曜日 邦彦王が第十五師団長として愛知県豊橋に赴任中のため、この日、信子女王・智子女王と共に御出発、同地に御旅行になる。二十九日、邦彦王妃倪子及び信子女王・智子女王と共に帰京される。同日、豊橋より邦彦王が、三十日、鎌倉より朝融王・邦久王・邦英王がそれぞれ帰京する。○皇族身分録、皇親録、宮内省省報、官報、邦彦王行実

大正七年（西暦一九一八年） 十五歳

一月

十二日 土曜日 良子女王を皇太子妃に御予定の旨、天皇の御沙汰が下される。

これに先立ち、昨大正六年の十二月二十二日、公爵山県有朋・侯爵松方正義・侯爵西園寺公望が会合し、良子女王を皇太子妃に御予定の件につき、宮内大臣波多野敬直より各種の調査報告及び可否の意

見を徴し、ついで貞愛親王に言上し、御予定が然るべきことである旨を決議する。この日、宮内大臣は皇后の御内意を伺い、ついで天皇に奏聞する。その結果、右の御沙汰が下される。

これに伴い、宮内大臣は、十四日に愛知県豊橋の邦彦王御父第十五師団長の寓所父として赴任中に伺候して御沙汰を伝達し、翌十五日に皇太子の御機嫌伺いのため沼津御用邸に参邸する。また、十八日には邦彦王・同妃御母が参内して皇后に拝謁し、良子女王を皇太子妃とする旨の御内意につきお礼を言上する。○東宮御婚儀録、

皇太子裕仁親王御婚儀の件、行啓録、宮内省省報、貞明皇后実録正本、邦彦王行実、皇太子殿下良子女王殿下御略歴

二十一日 月曜日 子爵仙石政敬夫人素子御父邦彦王の妹死去につき、この日より九十日服喪される。○宮内省省報、官報

二月

四日 月曜日 学習院女学部中学科を御退学になる。良子女王の御教育のため、御学問所が設置されることとなる。御学問所は、麴町の久邇宮別邸内に建設される新御殿の二階に設けられる。○皇太子殿

下良子女王殿下御略歴、邦彦王行実、松本源太郎日記

三月

一日 金曜日 邦彦王妃御父邦彦王の任地侘子と共に豊橋へ御旅行になる。○宮内省省報、官報

十七日 日曜日 邦彦王・同妃侘子と共に長篠の戦跡にお成りになり、長篠城本丸土塁にクロマツの

十六日 火曜日 この日より、後閑菊野による修身の講義をお受けになる。御学問所にて正式な御学習が始まる五月十三日までは、「仁慈」・「恭儉」謙遜・謹慎・温和・節儉・自重・「誠実」正直・篤厚・勤勉・信約・公平・「講学」専心・窮理・立志・識見・果斷の各項目について、歴代天皇の御事蹟や昭憲皇太后の御歌、中江藤樹ほか古今東西の思想家・文学者を題材に学ばれる。また、「作法」国風及び洋風の室内装飾についても御学習になる。○良子女王殿下御教授日録

五月

一日 水曜日 天皇から久邇宮に対し、良子女王殿下御殿建築費等として賜金がある。○機密書類、久邇宮家関係書簡集

四日 土曜日 午後、天然色活動写真の映写会に御臨席のため、袖ヶ崎の島津公爵邸にお成りになる。

映写会は良子女王を正賓とし、皇族等が招待される。○読売新聞

十日 金曜日 良子女王殿下御学問所における御学習科目及び担当講師が次のとおり決定する。

修身

杉浦重剛 東宮御学問所御用掛

修身

後閑菊野 宮内省御用掛

国語

同

作文

竹田みち 東京女子高等師範学校助教

漢文

同

数学

鈴木元美 学習院教授

大正七年五月

大正七年五月

化学及物理 同

歴史 依田 豊学習院教授

地理 同

仏蘭西語 伊東清子

音楽ピアノ、唱歌 同

習字 小野鏑之助学習院教授

体操 土取 信東京府立第一高等女学校教諭

和歌 大口鯛二御歌所寄人

琴 山木浪子

なお、山木・伊東・大口は、良子女王の学習院女学部御退学以前より毎週定期的に参邸しており、御学問所においても引き続き奉仕する。また良子女王の側近奉仕の御用取扱として、学習院助教三輪もと、田中俊子海軍少佐田中謙治夫人が新たに任用される。○良子女王殿下御学問所日誌、庶務録、読売新聞、東京朝日新聞、土取

信久邇宮家辞令書

依田豊・鈴木元美・小野鏑之助・三輪もとが久邇宮邸に参上し、教授の囑託を受け、あるいは御用取扱を拝命する。参邸に当たり、依田以下に謁を賜う。また、杉浦重剛は十四日に宮内事務官久邇宮付木村英

俊を通じて修身講義を拝命し、久邇宮邸に参上する。○良子女王殿下御学問所日誌、松本源太郎日記、杉浦重剛閣係資料、邦彦王行実、東京朝日新聞、読売新聞

大正七年六月

になる。○良子女王殿下新御殿日誌

二十三日 木曜日 午前、杉浦重剛より修身の第一回講義をお受けになる。以後、木曜日の修身の講義は杉浦が担当する。○良子女王殿下御教授日録、杉浦重剛関係資料

二十五日 土曜日 午後一時御出門になり、渋谷の久邇宮本邸にお成りになる。お庭にて運動され、五時二十分御帰還になる。以後、土曜日・日曜日を中心にしばしば同邸にお成りになる。○良子女王殿下

新御殿日誌

二十六日 日曜日 午前八時十分御出門になり、電気博覧会を御覧になるため、信子女王・智子女王と共に上野公園にお成りになる。本館貴賓室にて御少憩の後、同会会長小松謙次郎の説明にて各館を御巡覧になる。正午、御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、電気博覧会誌、東京朝日新聞

六月

三日 月曜日 この日より、午前、御学問所において、後閑菊野による家政科の講義をお受けになる。

以後、家政科の講義は月曜日の修身の時間に行われる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御教授日録、国

語家政御教授日録

五日 水曜日 この度御学友に選定された佐藤貞陸軍軍医総監佐藤進の孫、明治三十六年二月生・平山信宮中顧問官平山成信の息女、明治三十六年一月生が学習院

教授馬上孝太郎に伴われ参邸する。佐藤・平山に謁を賜う。御学友は、月曜日から金曜日の午後三時よりおよそ一時間半、運動と談話のお相手をし、また、土曜日・日曜日にも、久邇宮邸にお成りの際にはお供をする。このほかにも随時、御学問所や御旅行先等において拝謁し、またお成りの際にお召

しにあずかることとなる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、東京朝日新聞、読売新聞、みもぎの花
八日 土曜日 午後一時二十分御出門、芝離宮にお成りになり、東久邇宮主権の皇族講話会に御臨席になる。文学博士服部宇之吉より「本邦婦人の道徳」、特命全権大使内田康哉より「露国見聞談」と題する講話をお聴きになる。五時前、御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、読売新聞、東京朝日新聞

十四日 金曜日 邦英王^{御弟}をお見舞いのため、後閑菊野を御名代として差し遣わされる。○良子女王殿下

新御殿日誌

十六日 日曜日 夜、賀彦王^{多嘉王の第一王子}の不例を報じる電報を受けられ、久邇宮の奉仕者を通じてお見舞いのお言葉をお伝えになる。○良子女王殿下新御殿日誌

十七日 月曜日 御夕餐後、蚕の世話をされる。○良子女王殿下新御殿日誌

十八日 火曜日 賀彦王薨去につき、この日より三日間、御学問所の授業が休業となる。また、二十七日の葬儀当日には、御学問所の授業を御遠慮になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十二日 土曜日 午後、繭掻きをされる。○良子女王殿下新御殿日誌

二十四日 月曜日 午前、豊橋から帰京した邦彦王妃侃子をお出迎えになる。○良子女王殿下新御殿日誌、

宮内省省報、官報

二十七日 木曜日 琬子女王^{多嘉王の第二王女}薨去につき、この日及び翌二十八日は御学問所が休業となる。また、七月三日の葬儀当日には、御学問所の授業を御遠慮になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学

問所日誌、体操御教授日録

大正七年六月

大正七年七月

七月

六日 土曜日 午後二時、第一学期の終業式に臨まれる。なお、講師一同は夏季休業中の参邸の日割りを協議し、決定する。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

七日 日曜日 御夕餐後、豊橋に出発する邦彦王妃侘子をお見送りになる。○良子女王殿下新御殿日誌、宮内省省報

この日、夏季休業中の御日課が次のとおり定められる。

		自八時三十分	午前
月	御学習	琴	
火	御自習		
水	御自習	琴	
木	御自習		
金	御自習	点茶	
土	御自習		
		自一時	午後
月	御学習	插花	
火	御自習		
水	御自習	御運動	
木	御自習	御運動	
金	御自習	御運動	
土	御自習	御運動	
		自四時至五時	後
		和歌	

○良子女王殿下御学問所日誌

二十三日 火曜日 朝、豊橋より帰還した邦彦王・同妃侘子、及び邦英王・智子女王をお出迎えになる。後刻、江田島より帰還した朝融王をお出迎えになる。○良子女王殿下新御殿日誌、宮内省省報

二十五日 木曜日 午後一時過ぎ御出門になり、邦彦王・同妃侃子、及び邦久王御兄・邦英王と共に渋谷の久邇宮本邸にお成りになる。三時頃、東園栄子子爵東園基愛夫人、御父邦彦王の姉も交え、お揃いにて邸内を御覧になる。五時半頃同所を御出発になり、御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌

三十一日 水曜日 午前、朝融王妃に内定した酒井菊子伯爵酒井忠興の息女と御対面になる。○良子女王殿下新御殿日誌

十時御出門、渋谷の久邇宮本邸にお成りになり、久邇宮と酒井家の顔合わせの宴に御臨席になる。午後四時頃同所を御出発になり、御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌

八月

一日 木曜日 午前、豊橋に出発する邦彦王・同妃侃子をお見送りになる。○良子女王殿下新御殿日誌、宮内省省報、官報

午前十時五十分御出門、鎌倉へ御旅行になる。東京駅より御乗車になり、午後零時四十分鎌倉駅にて御降車の後、鎌倉御用邸に御到着になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、宮内省省報、官報

二日 金曜日 御夕餐後、鎌倉御用邸を御出門になり、長谷に滞在中の邦久王・邦英王を御訪問になる。午後九時頃、御用邸に御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌

四日 日曜日 午前、鎌倉御用邸を御出門になり、鶴岡八幡宮に御参拝になる。途中、寿福寺の北条政子の墓にお立ち寄りになる。九時四十五分御用邸に御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌

大正七年八月

九日 金曜日 午前、学習院教授馬上孝太郎に謁を賜い、御機嫌伺いをお受けになる。○良子女王殿下新御殿日誌

十一日 日曜日 午前九時過ぎ鎌倉御用邸を御出門になり、鎌倉宮に御参拝になる。十一時、御用邸に御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌

十三日 火曜日 午前、邦彦王・同妃倪子へのお手紙を書かれる。なお、邦彦王は去る九日に近衛師団長に補され、この月二十三日着任する。○良子女王殿下新御殿日誌、宮内省省報、官報、邦彦王行実

午後、中山徳子侯爵中山孝鷹の息女より御機嫌伺いをお受けになる。○良子女王殿下新御殿日誌

十七日 土曜日 午前九時鎌倉御用邸を御出門になり、山階宮別邸、ついで伏見宮別邸にお成りになる。十一時三十分、御用邸に御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌

十八日 日曜日 御夕餐後に鎌倉御用邸を御出門、長谷余興場にお成りになる。同所にて邦久王・邦英王等と御対面になり、長谷に御同行になる。午後九時、御用邸に御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌

二十二日 木曜日 午後、邦彦王・同妃倪子参邸につき、お出迎えになる。○良子女王殿下新御殿日誌、宮内省省報

二十三日 金曜日 午前、邦彦王の出門をお見送りになり、後刻、同妃倪子の出門をお見送りになる。

○良子女王殿下新御殿日誌、宮内省省報、邦彦王行実

二十四日 土曜日 午後一時過ぎ鎌倉御用邸を御出門になり、島津公爵別邸にお成りになる。長谷からも邦久王・邦英王が参邸する。終わって、御用邸に御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌

二十五日 日曜日 御不例につき、この日以降、適宜治療を受けられつつ、静かにお過ごしになる。

○良子女王殿下新御殿日誌

二十九日 木曜日 久邇宮宮務監督山田春三に謁を賜い、御機嫌伺いをお受けになる。また、爾後御教育主任となる旨の報告をお受けになる。○良子女王殿下新御殿日誌

三十一日 土曜日 午後、御床払いになる。○良子女王殿下新御殿日誌

九月

二日 月曜日 午後零時五十五分頃鎌倉御用邸を御出門になり、金沢方面にお成りになる。金沢文庫において宝物を御覧になった後、称名寺境内において、晚鐘、及び青葉のカエデ等を御覧になる。ついで九覧亭において、郡長の説明にて金沢八景の風景を御覧になる。五時頃、御用邸に御帰還になる。

○良子女王殿下新御殿日誌

三日 火曜日 午前九時鎌倉御用邸を御出門になり、円覚寺にお成りになる。舍利殿・北条時宗廟所・仏殿を御覧になる。ついで建長寺半僧坊にお成りになる。管長・執事の案内にて、客殿において茶菓の饗応をお受けになる。その後、管長の案内にて御登山になり、景色を御覧になる。午後零時過ぎ御用邸に御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌

四日 水曜日 午前八時三十分鎌倉御用邸を御出門、江之島電気鉄道にお乗りになり、信子女王・智子女王と共に江ノ島にお成りになる。旅館岩本楼において御少憩の後、江島神社神主等の案内にて、江島神社・弁財天等に御参拝になる。茶屋において周囲を御眺望の後、再び江之島電気鉄道にお乗り

十五日 日曜日 この日、邦彦王・同妃倪子等のお見舞いをお受けになる。○良子女王殿下新御殿日誌

十九日 木曜日 この日、御床払いになる。○良子女王殿下新御殿日誌

二十日 金曜日 午前、茨城県下より帰京した邦彦王と御対面になる。○良子女王殿下新御殿日誌、宮内省省報

二十三日 月曜日 この日より、御学問所第二学期の授業をお受けになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、良子女王殿下御教授日録、国語家政御教授日録、漢文作文御教授日録

二十七日 金曜日 この日より、金曜日は久邇宮宮務監督山田春三による修身の講義をお受けになる。

○良子女王殿下御教授日録

二十八日 土曜日 午後一時半御出門、邦彦王妃倪子・信子女王と共に、閑院宮主催の皇族講話会に御臨席になる。陸軍少将高柳保太郎より、欧州戦争と婦人に関する講話をお聴きになる。四時半、御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、梨本伊都子日記

三十日 月曜日 御朝餐後、愛知・静岡両県下に出張する邦彦王をお見送りになる。○良子女王殿下新御殿日誌、宮内省省報、官報、邦彦王行実

十月

四日 金曜日 午後二時半御出門になり、渋谷の久邇宮本邸にお成りになる。邦英王・島津伊楚子公爵及忠重及び同子女等とお茶を共にされる。五時、御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌

六日 日曜日 午後四時御出門になり、邦彦王妃倪子に伴われ、信子女王・智子女王等と共に東伏見

大正七年十月

宮邸にお成りになる。八時半、御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌

八日 火曜日 午後、参邸の松浦益子伯爵松浦厚夫人に謁を賜う。松浦は、この日より点茶の御教授を囑託される。夕刻、邦彦王妃倪子・信子女王、及び松浦とお茶を共にされる。松浦の指導による稽古は十九日より開始される。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

九日 水曜日 午前、依田豊による歴史科の授業をお受けになる。この日より十二月二十一日まで七回にわたり、水曜日もしくは土曜日の授業において、今次の欧州大戦の原因及び経過が扱われる。○歴史地理御教授日録

十日 木曜日 午後五時五十分、愛知・静岡両県下より帰京した邦彦王をお出迎えになる。○良子女王殿下新御殿日誌、宮内省省報

十二日 土曜日 午後、霞関離宮にお成りになり、東伏見宮主催の皇族講話会に御臨席になる。文学博士服部宇之吉より、我が国の婦道についての講話等をお聴きになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、梨本伊都子日記

十七日 木曜日 午後、鳩彦王妃允子内親王・紀久子女王鳩彦王の王女、竹内絢子故子爵竹内惟忠夫人、御父邦彦王の姉と御対面になる。紀久子女王に、新御殿を御案内になる。○良子女王殿下新御殿日誌

十九日 土曜日 夕刻、邦彦王妃倪子の誕生日につき、恐悦を言上する。○良子女王殿下新御殿日誌

二十四日 木曜日 この日、神戸に立出する宮内事務官久邇宮付木村英俊に謁を賜う。木村は神戸同仁会に

臨席する邦彦王に同行する。○良子女王殿下新御殿日誌、皇族旅行録、宮内省省報

三十日 水曜日 学習院がこの日より十一月四日まで感冒予防のため休校となる。これに伴い、翌三十一日より御学友の参邸も取りやめとなる。○良子女王殿下新御殿日誌

十一月

一日 金曜日 午前九時四十五分御出門になり、英国より寄贈されたタンク^{戦車}を御見物のため、邦彦王妃倪子等と共に青山練兵場にお成りになる。御到着後、同所にて載仁親王・同妃智恵子、貞愛親王・博恭王・同妃経子、鳩彦王、王世子李垠等と御対面になる。陸軍輜重兵少佐水谷吉蔵よりタンクの説明をお受けになった後、英国軍の士官の紹介をお受けになる。また、英国軍の下士官による操縦実演を御覧になる。終わって、車体の構造等を御覧になる。十一時半、御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、東京朝日新聞

三日 日曜日 午前、陸軍の機動演習のため千葉・茨城・栃木各県下に出発する邦彦王をお見送りになる。○良子女王殿下新御殿日誌、宮内省省報、邦彦王行実

八日 金曜日 家族に流行性感冒罹患者が出たため、久邇宮宮務監督山田春三が出仕を遠慮する。○良子女王殿下新御殿日誌

十二日 火曜日 午前、参邸の山木浪子夫妻により行われる琴の奥許しの式に臨まれる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十五日 金曜日 麴町の久邇宮別邸内より、提灯行列を御覧になる。なお、提灯行列は去る十一日ドイツ国と連合国との休戦協定締結を祝って行われた。○良子女王殿下新御殿日誌

大正七年十二月

十七日 日曜日 午前九時三十分御出門になり、上野公園竹の台陳列館において開催の第十二回文部省美術展覧会にお成りになる。午後零時半御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、日展史

十九日 火曜日 午後、陸軍の機動演習から帰還した邦彦王をお出迎えになる。○良子女王殿下新御殿日誌

二十一日 木曜日 東京市主催の休戦条約成立祝賀会当日に当たり、麴町の久邇宮別邸内より、旗行列を御覧になる。御夕食後にも提灯行列を御覧になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十二日 金曜日 午前十一時御出門になり、菊花を御見物のため、邦彦王妃倪子と共に赤坂離宮にお成りになる。先着の邦彦王・邦久王も加わり御見物になる。午後零時半、御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十九日 金曜日 久邇宮宮務監督山田春三による修身の進講をお受けになる。この日はドイツの現在の国勢についてお聴きになる。○良子女王殿下御教授日録

十二月

七日 土曜日 午後一時半御出門、袖ヶ崎の島津公爵邸において開催の親睦会にお成りになる。六時十分、御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌

八日 日曜日 午前十一時十五分御出門、信子女王・智子女王と共に朝香宮邸にお成りになる。午後六時前、御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌

十四日 土曜日 午後一時御出門、霞関離宮にお成りになり、久邇宮主催の皇族講話会に御臨席になる。文学博士服部宇之吉による講話、法学博士山田三良による講和会議についての講話をお聴きにな

る。ついで立食の宴会に臨まれる。五時半、御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十一日 土曜日 この日、御学問所第二学期の授業が終了する。なお、本来は二十日にて終了の予定であったが、曜日の関係で一日繰り延べ、この日に終了となる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十三日 月曜日 御休業中の当分の御日課として、一時間の御読書^{宮内省御用掛後閑菊野による国語の進講}、一時間のお習字を行われ、他の時間に詠歌・琴・点茶等を行われることとなる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、国語家政御教授日録

二十四日 火曜日 午後二時、新御殿において、第二学期の終業式に臨まれる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、杉浦重剛関係資料

二十八日 土曜日 午後、邦彦王・同妃侘子と共に、従二位柳原愛子^{大正天皇御生母}に謁を賜う。その後、新御殿内を御案内になる。○良子女王殿下新御殿日誌

三十一日 火曜日 夕刻、お年越しの儀式に臨まれる。○良子女王殿下新御殿日誌

この月 良子女王御教育費等の御補助として、久邇宮に金員が下賜されることとなる。なお、一箇年分の賜金は数期に分けて下賜される。賜金は大正十三年に廃止される。○皇親録、庶務録

大正八年一月・二月

大正八年（西曆一九一九年） 十六歳

一月

一日 水曜日 御朝食前、御家族お揃いにて、側近奉仕者より新年の祝詞言上をお受けになる。午後、元日の儀式に臨まれる。○良子女王殿下新御殿日誌

六日 月曜日 昨日より御不例につき、午前、御仮床に就かれる。夕刻、医学博士吉本清太郎の拝診の結果、流行性感冒と診断される。以後、二月十二日まで御静養になる。○良子女王殿下新御殿日誌

十一日 土曜日 御学問所第三学期の始業式を挙行予定のところ、御不例につき、お取りやめとなり、当分の間休業と決定する。○良子女王殿下新御殿日誌

十九日 日曜日 久邇宮宮務監督山田春三に謁を賜い、お見舞いの言上をお受けになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二月

十三日 木曜日 御床払いになる。午後、御用心のため、再び御入床になる。○良子女王殿下新御殿日誌

十四日 金曜日 午後、御学友佐藤貞・平山信がお見舞いのため参殿する。以後、この年も折に触れ

て御学友・御同級生学習院女子部の御同級生と共に過ごされる。○良子女王殿下新御殿日誌

十五日 土曜日 この日、久邇宮宮務監督山田春三に謁を賜い、御床払いにつき恐悦の言上を受けられる。また、馬上孝太郎女子学習院教授・依田豊歴史・地理担当・鈴木元美数学・化学・物理担当・小野鑄之助習字担当の四講師がお見舞いのため参殿する。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十八日 火曜日 宮内省御用掛後閑菊野御教育主任、修身・国語担当による国語始が行われ、「月と花」について学ばれる。○良子女王殿下新御殿日誌、国語家政御教授日録

二十四日 月曜日 この日より御学問所の進講が開始される。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、良子女王殿下御教授日録、国語家政御教授日録、漢文作文御教授日録

この日、今般渡鮮の宮内事務官久邇宮付木村英俊に三回にわたり謁を賜う。○良子女王殿下新御殿日誌

二十八日 金曜日 午後、新任講師の児玉錦平・神戸絢参殿につき、謁を賜う。児玉はフランス語を火曜日・水曜日・金曜日の午後に、神戸は音楽ピアノ及び唱歌を火曜日・金曜日の午後にそれぞれ進講する。

○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

三月

一日 土曜日 午後、稔彦王妃聡子内親王参殿につき、御一緒に雛菓子をお召し上がりになる。以後、この年も随時、皇族・御親族と御対面になる。○良子女王殿下新御殿日誌

四日 火曜日 午後、この日より講師児玉錦平によるフランス語の進講をお聴きになり、*Le tour de*

大正八年四月

l'Europe pendant la guerre G・ブリュノ著『戦中欧州巡見記』の読み方及び翻訳について学ばれる。○良子女王殿下新御殿日誌、良

子女王殿下御学問所日誌、仏蘭西語御教授日録

六日 木曜日 満十六歳のお誕生日を迎えられる。

祝賀をお受けになることは御遠慮になる。○杉浦重剛関係資料

十日 月曜日 邦久王^{御兄}の誕生日につき、御家族と御夕餐を御会食になる。○良子女王殿下新御殿日誌

二十九日 土曜日 この日をもって御学問所第一学年の稽古を終えられる。○良子女王殿下御学問所日誌

三十日 日曜日 午後、この日誕生日の信子女王^{御妹}と共に皇族講話会に御臨席になる。文学博士服部

宇之吉より「正義につきて」と題する講話をお聴きになる。○良子女王殿下新御殿日誌、皇族親睦会録

三十一日 月曜日 午前、御学問所の第一学年終業式に御臨席になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王

殿下御学問所日誌、杉浦重剛関係資料

午後、信子女王・智子女王^{御妹}と共に渋谷にお成りになる。御学友二名もお召しになる。○良子女王殿下新

御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

四月

一日 火曜日 この日より十日まで御学問所は春季休業となる。○良子女王殿下御学問所日誌

三日 木曜日 午前、信子女王・智子女王と共に浜離宮にお成りになる。御学友二名もお召しになり、

魚釣り・摘み草等をして過ごされる。中島お茶屋にて御昼餐の後、芝離宮にお成りになり、折柄お成

りの邦久王・恒憲王邦憲王の王子と御対面になり、御一緒に過ごされる。夕刻、御帰還になる。○良子女王殿下新

御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

四日 金曜日 午前九時二十分御出門、女子学習院にお成りになる。院長室において、院長・主事・学生監に謁を賜う。それより卒業式成績品陳列室及び各教室を御巡覧になる。また、卒業生の作文・短冊・色紙、中学校四年全員の作文の献上をお受けになる。小学校・幼稚園の御視察は、時間の都合によりお取りやめになる。正午頃、御帰還になる。お成りに際し、金一封を賜う。また、女子学習院より、卒業式当日学生に配布したものと同じ菓子の献上がある。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、女子学習院五十年史

七日 月曜日 午前九時、信子女王・智子女王と共に御出門、上野池ノ端において開催の畜産工芸博覧会にお成りになる。正午頃、御帰還になる。絵葉書及び展示物一覧が献上される。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

八日 火曜日 午後一時、信子女王・智子女王と共に御出門、東京帝国大学理学部附属植物園にお成りになる。御学友二名をお召しになり、園長松村任三東京帝国大学理学部教授の案内にて温室その他を御覧になる。

六時二十分頃、御帰還になる。草花三鉢の献上をお受けになり、また数種をお買い上げになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十一日 金曜日 昭憲皇太后五年式年祭につき、御学問所は休業となる。この日、講師依田豊より『明治天皇』一冊が、宮内省御用掛後閑菊野より『昭憲皇太后』一冊がそれぞれ御覧に供される。○良子女

王殿下御学問所日誌

大正八年四月

日	土	金	木	水	火	月
数学	国語	習字	国語	修身	地歴	国語
理科 <small>一週間分</small>	漢文	作文	漢文	作文	御詠草	御詠草
琴			仏語	地歴	仏語	仏語
				琴		

○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、良子女王殿下御教授日録、国語家政御教授日録、漢文作文御教授日録

邦彦王の床払い並びに京都へ移居の智子女王の送別のため、洋食の御夕餐を御会食になる。御食後、智子女王との名残りを惜しまれる。○良子女王殿下新御殿日誌、邦彦王行実

十五日 火曜日 午前、智子女王が邦彦王妃御母に伴われて京都へ移居につき、邦彦王と共に御見送りになる。○良子女王殿下新御殿日誌、宮内省省報、官報

二十日 日曜日 午前九時、信子女王と共に御出門、神奈川県酒匂町の山本別荘にお成りになり、転地療養中の邦彦王と御対面になる。邦久王を交えて御昼餐を御会食の後、夕刻まで海岸を御散策になる。茶菓を召された後、邦久王・信子女王と共に同別荘を御出門、汽車に御乗車になり、大船駅にて乗車の邦英王昨十九日より葉山に滞在と合流され、東京駅に御着、七時四十分御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、

良子女王殿下御学問所日誌、宮内省省報、邦彦王行実

大正八年五月

二十四日 木曜日 昨日恒久王薨去につき、御学問所は休業となり、終日お慎みになる。○良子女王殿下
新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、官報、杉浦重剛関係資料

二十五日 金曜日 この日、京都より帰京の宮内事務官^{久邇}木村英俊に謁を賜う。また、女子学習院教
授馬上孝太郎参殿につき、謁を賜い、欧州出張へ出発の暇乞いをお受けになる。○良子女王殿下新御殿日誌、
良子女王殿下御学問所日誌

三十日 水曜日 恒久王斂葬の儀当日につき、御学問所は休業となり、終日お慎みになる。○良子女王
殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、官報

五月

四日 日曜日 午後、神奈川県酒匂町より邦彦王・同妃侘子帰還につき、御対面になる。○良子女王殿下
新御殿日誌、宮内省省報、官報、邦彦王行実

五日 月曜日 午前、御家族と共に、東京府豊多摩郡渋谷町大字下渋谷に新築の御邸に御移転になる。
御殿北の第二・第三の二間が御学問所に充てられる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、皇
族身分録、皇太子殿下良子女王殿下御略歴、東宮御婚儀記録、宮内省省報、官報、邦彦王行実

十日 土曜日 大阪・京都両府下へ邦彦王お成りにつき、供奉の宮内事務官^{久邇}木村英俊に謁を賜う。
○良子女王殿下新御殿日誌、宮内省省報、邦彦王行実

十五日 木曜日 午前、修身の進講に当たり、講師杉浦重剛より、御学問所における進講への奉仕が
この日をもつて一箇年となり誠に光栄とする旨の挨拶をお受けになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王

殿下御学問所日誌、良子女王殿下御教授日録、杉浦重剛関係資料

この日、近日中に皇太子妃に御内定となる旨をお聞きになる。○良子女王殿下新御殿日誌

二十日 火曜日 邦彦王の全快祝いと良子女王のお誕生日祝い・御全快祝いとを兼ねて、信子女王・智子女王と洋食の御夕食を御会食になる。○良子女王殿下新御殿日誌

二十一日 水曜日 宮内事務官久邇宮付木村英俊帰京につき、謁を賜う。○良子女王殿下新御殿日誌

二十四日 土曜日 午後、芝離宮にお成りになり、伏見宮主催の皇族講話会に御臨席になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、皇族親睦会録

二十五日 日曜日 午後、邦久王・信子女王と共に御出門、朝香宮の招きにより、浜離宮にお成りになる。鳩彦王御父邦彦王の弟・紀久子女王・孚彦王のほか徳川喜久子と御対面になり、鯉釣りをされ、数尾を

お土産とされる。ついで御散策の際、写真撮影に臨まれる。その後、茶菓の饗応をお受けになる。夕刻、御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

六月

一日 日曜日 午後、依仁親王・同妃周子参殿につき、邦彦王・同妃侘子と共に宮邸内の御案内等をして過ごされる。ついで、御晚餐を御会食になる。以後、参殿の皇族・御親族に、新築の久邇宮邸を御案内になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十日 火曜日 かねて皇太子妃に御予定のところ、この日、御内定の内旨が下される。午前、宮内大臣波多野敬直が内旨を奉じて参殿し、良子女王の皇太子妃御内定の旨を邦彦王に言上、次の御沙汰書

大正八年六月

を奉呈する。

邦彦王第一女良子女王ヲ皇太子妃ニ御内定ノ旨御沙汰候事

邦彦王・同妃侘子は直ちに参内し、お請け並びにお礼を啓奏する。御内定の内旨は、宮内大臣より東宮大夫浜尾新にも伝達され、十二日、皇太子が参内し、お請け並びにお礼を奉答する。

この行事により、御学問所は二時間目までとなり、三時間目以後は休業となる。良子女王は久邇宮宮務監督山田春三が持参した御沙汰書を御覧になり、ついで山田より種々言上をお受けになる。正午、邦彦王・同妃にお礼を言上される。引き続き、久邇宮付職員よりそれぞれ恐悦の言上をお受けになる。

また、宮内省御用掛後閑菊野、御用取扱の三輪もと・田中俊子より種々言上をお受けになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、数理科御教授日録、東宮侍従日誌、東宮職日誌、皇太子裕仁親王御婚儀の件、御婚儀録、東宮御婚儀記録、貞明皇后実録正本、皇太子殿下良子女王殿下御略歴、杉浦重剛関係資料、申酉回瀾録

十二日 木曜日 午前、講師杉浦重剛による修身の第七回進講が行われる。この日、「操守 正義」について学ばれる。なお、皇太子妃御内定につき、杉浦より祝詞の言上をお受けになる。午後、参殿の御学友よりお祝いの言上をお受けになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、良子女王殿下御教授日録、杉浦重剛関係資料

御不例のため、夕刻、医学博士吉本清太郎の拝診の後、御仮床に就かれ、十九日まで御静養になる。

二十二日まで御学問所は休業となる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十四日 土曜日 午後、宮内事務官^{久邇宮付}木村英俊に謁を賜う。この日、同人は久邇宮御使として参内し、

天皇・皇后に五種交魚を献上する。天皇・皇后より久邇宮に五種交魚が下賜される。○良子女王殿下新御

殿日誌、供御日録、貞明皇后実録正本

二十日 金曜日 御床払いになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十五日 水曜日 午前、中島敏女子学習院教授・木内成元学習院女子学部教授 参殿につき、謁を賜う。兩名に御殿内の拝見を差し許され、饌を賜う。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十八日 土曜日 この日、歴史の進講において講師依田豊より、御責任の一層重大となられたことに因み、明治天皇・昭憲皇太后の御儉徳・御慈愛につき言上をお受けになる。○良子女王殿下新御殿日誌、

良子女王殿下御学問所日誌、良子女王殿下御教授日録

三十日 月曜日 午後、正二位柳原愛子参殿につき、邦彦王・同妃幌子と共におもてなしをされる。

○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

七月

四日 金曜日 この日、久邇宮宮務監督山田春三の修身の進講中、今般皇太子妃に御内定につき一層御覚悟が必要である旨の言上をお受けになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、良子女王殿下御教授日録

十日 木曜日 午前、講師杉浦重剛より第一学期最後の修身第十回の進講が行われ、「清廉 改過」について学ばれる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、良子女王殿下御教授日録、杉浦重剛関係資料

夕刻、第一学期の終業式に臨まれる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、杉浦重剛関係資料

十一日 金曜日 御学問所は夏季休業となり、以後、十九日まで御復習やピアノの稽古等をしてお過

大正八年七月

ごしになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌
 二十一日 月曜日 この日より、概ね次の時間割にてお過ごしになる。

		自八時三十分			
	午	前	後		
月	仏語	習字	歌	ピアノ	お遊び
火	国語	図画	歌	ピアノ	お遊び
水	仏語	習字	歌	ピアノ	お花
木	国語	図画	歌	ピアノ	お遊び
金	仏語	習字	歌	ピアノ	お遊び
土	国語	読書	歌	ピアノ	お遊び
					御自習

講師児玉錦平は、月・水・金の各曜日の午前八時三十分より一時間、フランス語の稽古に奉仕することとなる。国語は、宮内省御用掛後閑菊野が『新撰徒然草読本』について進講する。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、仏蘭西語御教授日録

二十六日 土曜日 午前八時、邦彦王妃侘子及び邦久王・信子女王・智子女王と共に御出門、新宿御苑にお成りになる。正午前、御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌
 二十七日 日曜日 邦彦王の誕生日のお祝い、去る二十三日に実施予定のところ邦彦王が岐阜・浜松に旅行のためこの日に延期される。に列席される。正午、久

邇宮付職員より邦彦王と朝融王の誕生日の祝詞が言上される。御昼餐御会食後、くじによる賜物がある。その後、御親族が招かれ、余興として近衛師団軍楽隊による演奏やくじ引き等が催される。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

八月

一日 金曜日 時間割が次のとおり変更となる。

月	火	水	木	金	土
仏語	国語	仏語	国語	仏語	国語
自習	図画	自習	図画	自習	読書
歌	歌	歌	歌	歌	歌
お遊び	お遊び	お遊び	お遊び	お遊び	お遊び
習字	習字	お花	習字	習字	習字
お遊び	自習	お遊び	自習	お遊び	お遊び
ピアノ	ピアノ	ピアノ	ピアノ	ピアノ	ピアノ
お遊び	お遊び	お遊び	お遊び	お遊び	お遊び

○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、仏蘭西語御教授日録

十六日 土曜日 かねて箱根滞在中の邦彦王・同妃侘子を御訪問のため、午前八時四十五分、信子女王・智子女王と共に東京駅発の汽車にて同地にお成りになる。午後一時頃、小涌谷の男爵三井八郎右衛門別邸に御到着になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、宮内省省報、官報、侯爵久邇邦久伝

十八日 月曜日 午後、小涌谷の湯元にお成りになる。○良子女王殿下御学問所日誌

大正八年八月

大正八年八月

十九日 火曜日 午前、千条滝にお成りになる。三井男爵家の息女三名をお召しになる。午後、楽焼の製作をしてお遊びになり、後楽の二字をお入れになった抹茶茶碗を同家に賜う。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十日 水曜日 芦之湯にお成りになる。御帰路に鷹巣山に登られる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十二日 金曜日 木賀にお成りになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十三日 土曜日 男爵三井八郎右衛門・同夫人苞子及び息女をお召しになり、強羅にお成りになる。

○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十四日 日曜日 元箱根にお成りになる。松坂屋において洋食をお召し上がりになった後、モーターボートにて湖水を渡られ、箱根神社に御参拝になる。また船にて塔ヶ島の箱根離宮にもお成りになる。

○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十五日 月曜日 邦英王<sup>去る二十
二日到着</sup>・信子女王・智子女王、三井男爵家の息女二名と共に大涌谷にお成りになる。三井男爵家より楠細工手箱・竹製菓子器が献上される。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、宮内省省報

二十六日 火曜日 午後一時三十分、邦彦王・同妃侘子、及び信子女王・智子女王と共に御出門、国府津駅発の汽車にて七時頃東京に御帰還になる。なお、邦英王はこの日、箱根より葉山に旅行する。また、朝融王・邦久王は三十一日に帰京する。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、宮内省省報、

官報

九月

二日 火曜日 午前、講師依田豊より欧州大戦講和顛末についての講話をお聴きになる。九日、第二回講話として「講和の結果（続）」をお聴きになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御教授日録

三日 水曜日 午後、御不例につき、医学博士吉本清太郎の拝診をお受けになり、御仮床に就かれる。

七日、御床払いになる。その間、御学問所は休業となる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十一日 木曜日 午前、第二学期の始業式に御臨席になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、杉浦重剛関係資料

十四日 日曜日 午前、邦久王・邦英王・信子女王と共に朝香宮邸にお成りになる。午後、皇后の御

使として権典侍竹屋津根子参殿につき、急遽御帰還になり、謁を賜う。袴・帯・料理等の御贈進をお

受けになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十五日 月曜日 賀彦王^{多嘉王の王子}・璠子女王^{多嘉王の王女}の霊代を奉迎のため京都へ出向の宮内事務官^{久邇宮付}木村英俊

より暇乞いをお受けになる。二十日、皇霊殿に遷移する儀が行われる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、大正天皇実録、邦彦王行実

殿下御学問所日誌、

十七日 水曜日 この日より薙刀の稽古を始められる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、良子女王殿下御教授日録、体操御教授日録

良子女王殿下御教授日録、

十八日 木曜日 午前、講師杉浦重剛による、第二学期における修身の第一回進講をお受けになり、

「和魂漢才」について学ばれる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、良子女王殿下御教授日録、杉

大正八年十月

浦重剛関係資料

十九日 金曜日 午前、立礼態度・姿勢・歩み方・拝礼・最敬礼・普通礼の作法を学ばれる。十月十日にも立礼の作法について学ばれる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、良子女王殿下御教授日録

二十二日 月曜日 この日より講師西沢茂が御学問所において奉仕する。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十五日 木曜日 午前、講師杉浦重剛による修身の第二回進講が行われ、「戊申詔書」を題材として儉約について学ばれる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、良子女王殿下御教授日録、杉浦重剛関係資料

十月

一日 水曜日 夕刻、去る九月六日神宮祭主に任じられ今般京都より上京した多嘉王御父邦彦、王の弟、並びに

鳩彦王・池田安喜子故侯爵池田詮政夫人、御父邦彦王の姉・竹内絢子故子爵竹内惟忠夫人、御父邦彦王の姉・東園栄子子爵東園基愛夫人、御父邦彦王の姉・壬生篤子伯爵壬生

基義夫人、御父邦彦王の妹が参殿する。御会食に良子女王も御列席になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、

宮内省省報、官報、邦彦王行実

五日 日曜日 午前、信子女王と共に新宿御苑にお成りになる。邦彦王・同妃倪子及び邦久王のほか、御学友二名も交えて過ごされる。夕刻、御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

九日 木曜日 午前、講師杉浦重剛による修身の第四回進講が行われ、「戊申詔書御下賜の御主意」

について学ばれる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、良子女王殿下御教授日録、杉浦重剛関係資料

十一日 土曜日 この日より小林盈・武井芳成・依田豊著『改訂女子地理概説』を用いて地理概説の進講が開始される。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、良子女王殿下御教授日録

十八日 土曜日 邦彦王妃倪子の誕生日につき、正午、祝詞を言上される。ついで、故菊麿王妃常子

御母倪子の姉、松平充子 伯爵松平直亮夫人、御母倪子の姉、徳川家正・同夫人正子 御母倪子の姉、久松貞子 伯爵久松定讓夫人、御母倪子の姉、徳川頼貞・同夫

人為子 御母倪子の妹、山崎寿満子 御母倪子の実母が参殿し、祝詞の言上等に続き、活動写真が上映される。その後、御

夕餐を御会食になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十九日 日曜日 午前十時三十分御出門、赤坂離宮にお成りになる。お召しの御学友と共に御殿・御苑を御拝観になり、洗心亭において御昼餐をお召し上がりになる。御食後、御苑内を散策されるなどしてお過ごしになり、午後よりお成りの邦彦王妃倪子・邦久王と共に、午後五時頃御帰還になる。○

良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十五日 土曜日 午後一時御出門、霞関離宮にお成りになり、久邇宮主催の皇族講話会に御臨席になる。文学博士服部宇之吉より「我国の婦道」、林学博士川瀬善太郎より「林木」についての講話をお聴きになる。五時頃、御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、皇族親睦会録

十一月

二日 日曜日 午後一時御出門になり、芝離宮において開催の皇族懇話会にお成りになる。講談・狂言等の余興を御覧になり、五時過ぎに御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、皇

大正八年十一月

族親睦会録

四日 火曜日 午後、邦彦王のお見送りを受けて邦彦王妃侘子と共に御出門、皇太子妃御内定後初めて参内され、奥内謁見所において天皇・皇后と御対面になる。一旦退下の後、再び皇后と御対面になり、酒饌を共にされ、皇后より御盃を拝領される。なお、天皇・皇后より紅白縮緬・紋襦子洋服地が、皇后より指輪・腕輪、及びこの日の御盃瀬戸が下賜される。御帰還後、直ちに靈代を御遙拝になる。

終わって久邇宮付職員一同より祝詞の言上をお受けになる。夜、内宴が行われ、宮内事務官久邇宮付木村英

俊・邦彦王附属武官小倉可夫陸軍歩兵中佐・宮内省御用掛後閑菊野・宮中顧問官長崎省吾この日参内供奉・医学博士吉

本清太郎が出席する。また、山崎寿満子が参殿する。

この日の召見は、去る明治三十二年十二月の皇后の東宮妃御内定後初参内の先例に従い行われ、皇后より下賜の腕輪も、昭憲皇太后より皇后に下賜された品であり、その御由緒により、良子女王に譲られる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、供御日録、大正天皇実録、貞明皇后実録正本、邦彦王行実

六日 木曜日 午前、講師杉浦重剛による修身の第七回進講が行われ、「好問則裕」と題し『書経尚書』

について学ばれる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、杉浦重剛関係資料

七日 金曜日 午前、邦彦王・同妃侘子と共に帝国美術院展覧会にお成りになる。○良子女王殿下新御殿

日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十三日 木曜日 午前、講師杉浦重剛による修身の第八回進講が行われ、「戊申詔書衍義」について

学ばれる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、良子女王殿下御教授日録、杉浦重剛関係資料

十七日 月曜日 邦彦王妃幌子を通じて、皇后より下賜の化粧品を拝領される。○良子女王殿下新御殿日誌
二十二日 土曜日 午後、霞関離宮にお成りになり、皇族講話会に御臨席になる。法学博士立作太郎より「国際連盟」、文学博士服部宇之吉より「我国の婦道」についての講話をお聴きになる。○良子女王

殿下御学問所日誌、皇族親睦会録

二十五日 火曜日 継嗣のない東伏見宮が邦英王を永く預かることとなり、翌二十六日に同王が東伏見宮邸に移居するに当たって、夜、送別の内宴が催され、御臨席になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女

王殿下御学問所日誌

二十六日 水曜日 午後五時御出門、東伏見宮邸にお成りになり、邦英王移居の祝賀行事に臨まれる。

十時、御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十七日 木曜日 午前、講師杉浦重剛による修身の第十回進講が行われ、戊申詔書に関連して五箇条の御誓文について学ばれる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、良子女王殿下御教授日録、杉浦重

剛関係資料

三十日 日曜日 夕刻、依仁親王・同妃周子及び邦英王参殿につき、祝宴が催され、御臨席になる。

御晚餐の前後に余興を御覧になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十二月

四日 木曜日 この日、久邇宮宮務監督山田春三より、花御殿への御移転につき言上をお受けになる。

○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、良子女王殿下御教授日録

大正八年十二月

六日 土曜日 花御殿に御移転になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十八日 木曜日 午前五時頃、久邇宮邸内の西洋館二階より出火、同館は全部炎上し、六時頃鎮火する。良子女王は御家族と共に花御殿に御避難になり、この日より信子女王と共に同所において起居されることとなる。なお、御学問所は二十日まで休業となり、二十一日より冬季休業となる。

この日、天皇・皇后よりお見舞いとして久邇宮に、鶏卵五百個、日本酒二樽、切鮫五十人前、三種取肴・吸い物・飯・漬物三十人前、二種取肴・吸い物・飯・漬物五十人前が下賜される。また、皇太子よりお見舞いの御使として東宮侍従甘露寺受長が差し遣わされ、握り飯・煮染各百人前、清酒一樽が贈られる。さらに、多数の見舞客が参殿する。二十日、邦彦王妃倪子は参内し、皇后にお礼を言上する。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、供御日録、貞明皇后実録正本、邦彦王行実、杉浦重剛関係資料

十九日 金曜日 午後、皇后の御使として典侍千種任子参殿につき、謁を賜う。天皇・皇后より久邇宮に紅白梅が枝・煉製錦織合計百個が、皇后より良子女王に三種交魚が下賜される。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、供御日録、貞明皇后実録正本

二十二日 月曜日 この日、邦彦王妃倪子が参内し、皇后より良子女王に下賜の呉服を拝領する。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十四日 水曜日 正午頃、御都合により延期された終業式が行われるが、御臨席をお取りやめになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十五日 木曜日 午前、京都より智子女王が帰京し、花御殿に起居することとなる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、宮内省省報、官報

伏見宮邸において、午餐にお成りになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十六日 金曜日 午後一時、邦彦王妃侘子と共に御出門、参内され、皇后と御対面になる。四時頃御帰還になる。この日、皇后より呉服を拝領される。また、皇后より良子女王・信子女王・智子女王に羽子板・羽子・歴史双六が下賜される。なお、久邇宮より皇后に三種交魚が献上される。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、供御日録

大正九年（西曆一九二〇年） 十七歳

一月

三日 土曜日 参邸した御学問所の御学友佐藤貞・同平山信と御一緒に、凧上げ等をされる。この年も、随時御学友・御同級生学習院女学部
の御同級生に謁を賜う。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

六日 火曜日 午後一時十五分御出門、参内され、奥宮殿において初めて皇太子と御対面になる。皇后も御同席になる。皇后より反物・金冠人形の、皇太子より金紗・扇面・硯の御贈進をお受けになる。

四時過ぎ御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、東宮侍従日誌、供御日録、貞明皇后実録
正本、邦彦王行実

四時三十分頃御出門、邦彦王御父・同妃侘子御母と共に東伏見宮邸にお成りになる。○良子女王殿下新御殿日誌、

大正九年一月

大正九年二月

良子女王殿下御学問所日誌

七日 水曜日 午前十一時御出門、朝香宮邸にお成りになる。夕刻、御帰還になる。○良子女王殿下新御

殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十二日 月曜日 午前、御学問所始業式に臨まれる。授業は翌日から開始される。○良子女王殿下新御殿

日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十九日 月曜日 池田安喜子御父邦彦王の姉、故侯爵池田詮政夫人死去につき、この日より九十日服喪される。御学問所はこ

の日及び翌二十日、並びに安喜子及びその子息禎政十八日死去葬儀当日の二十六日休業となる。○良子女王殿下

新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、宮内省省報、官報、東京朝日新聞

二十一日 水曜日 御不例につき、御学問所は休業となる。翌二十二日に御床払いになるが、御学問

所の再開は二十七日となる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二月

十四日 土曜日 午前七時邦彦王・同妃侘子と共に御出門、葉山の東伏見宮別邸に寄られ、十一時過ぎ葉山御用邸に到着される。ついで、天皇・皇后と御対面になる。その後、崇仁親王と御対面になる。

終わって東伏見宮別邸を再び訪問される。午後五時過ぎ御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王

殿下御学問所日誌、大正天皇実録、貞明皇后実録正本

三月

六日 土曜日 満十七歳のお誕生日を迎えられる。

御服喪中のため祝賀はなく、内々のお悦びとして信子女王御と御昼餐を御会食になる。○良子女王殿下新御殿日誌

御殿日誌

二十九日 月曜日 午後、御学問所終業式に臨まれる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

三十日 火曜日 午後、智子女王御妹、二十四日
京都より帰京及び参邸の規子女王守正王第
二王女ほかとお過ごしになる。以後、

この年も、皇族・御親族と随時、御対面・御会食になる。○良子女王殿下新御殿日誌

四月

五日 月曜日 午前十時御出門、浜離宮にお成りになり、摘み草・魚釣り・写真撮影等をされる。午

後三時三十分同所を御発、御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌

六日 火曜日 今般渡欧の稔彦王御父邦彦
王の弟留別の御晚餐が催され、御臨席になる。○良子女王殿下新御殿日誌、

宮内省省報、官報

七日 水曜日 午前十時御出門、智子女王と共に東伏見宮邸にお成りになる。午後には信子女王も参

邸する。九時頃御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌

九日 金曜日 午後二時御出門、智子女王・慶光院盈子御父邦彦王の姉、
慶光院参三郎夫人と共に朝香宮邸にお成りになる。

九時頃御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌

大正九年四月

十日 土曜日 午後、御学問所第三学年の始業式に臨まれる。なお、この度高取稚成が絵画の講師となる。また御学友はこの度より連日御学問所に参邸することとなる。十二日より開始の今学期時間割は次のとおり。なお、五月十日から月曜日午後一時開始の講義は修身から憲法に変更となる。

		午前		午後	
	自九時	自十時	自一時	自二時	自三時
月	修身	国語	修身		
火	国語	漢文	仏語	音楽	体操
水	歴史	図画	仏語	仏語	和歌
木	修身	漢文	仏語	体操	
金	漢文	国語	仏語	音楽	
土	歴史	習字		点茶	点茶

○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十七日 土曜日 午後一時三十分頃御出門、伏見宮邸にお成りになり、伏見宮主催の皇族講話会に御臨席になる。文学博士市村瓊次郎より「古今思想の変遷」について、掌典佐伯有義より新嘗祭についての講話をお聴きになる。四時三十分過ぎ、御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、読売新聞

十八日 日曜日 午前九時御出門、女子学習院にお成りになる。職員並びに御同級生この年三月に卒業の奉迎を

お受けになり、院長室において、院長大島義脩の先導により成績品を御巡覧になる。その際、各室にて御同級生に謁を賜う。その後、理科室において、レントゲン光線・無線電信の実演があり、説明をお聞きになる。終わって御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、女子学習院五十年史
午後、御学友の佐藤貞・平山信をお召しになり、花御殿において九重雛をお飾りになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十日 火曜日 参邸の正二位柳原愛子と御昼餐を御会食になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十一日 水曜日 来る二十八日、方子女王^{守正王第一王女}と王世子李垠が結婚し、この日、饗宴が行われる。午前十一時三十分御出門、梨本宮邸にお成りになり、饗宴に臨まれる。午後二時過ぎ御帰還になる。

○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、宮内省省報、官報

二十六日 月曜日 午後、今般帰国のお礼言上のため参邸の女子学習院学生監馬上孝太郎に謁を賜う。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、宮内省省報、官報

五月

一日 土曜日 午後、この度御学問所の講師に就任した大島義脩^{女子学習院長}に謁を賜う。大島は十日から月曜日の午後に憲法の講義を行う。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌
李王垢・同妃尹氏と御対面になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌
二日 日曜日 御不例により御仮床に就かれる。大腸カタルと診断され、この日御予定の賀陽宮邸お

大正九年五月

成りはお取りやめとなる。六日の御床払いまで御学問所は休業となる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

九日 日曜日 午前九時御出門、信子女王と共に賀陽宮邸にお成りになる。十一時、同所を退出され、御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十日 月曜日 午後、初めて講師大島義脩より憲法の講義をお受けになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、国体講話要目

十六日 日曜日 邦英王^{御弟}の誕生日のお祝いのため、午後二時御出門、東伏見宮邸にお成りになる。

邦彦王・同妃侘子は後刻参邸する。手品の余興等が催され、終わって九時前御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌

二十九日 土曜日 午後、芝離宮にお成りになり、閑院宮主催の皇族講話会に御臨席になる。文学博士市村瓊次郎より「古今思想の変遷」^{前回の、}参謀本部第二部長田中国重^{陸軍少将}より「西比利の近況」につ

いての講話をお聴きになる。五時頃、御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、東京朝日新聞

三十日 日曜日 午前六時三十分御出門、邦久王^{御兄}、慶光院盈子ほかと共に千葉県成田にお成りになり、新勝寺に御参拝になる。ついで三里塚の下総御料牧場において、牛・馬・羊・豚などの飼養の様子、バターの製造過程等を御覧になる。午後九時過ぎ御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

六月

一日 火曜日 午後一時御出門、邦彦王妃侘子と共に参内され、紅葉山御養蚕所を御見学になる。六時頃御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

六日 日曜日 午後二時御出門、公爵島津忠重の園遊会にお成りになる。余興を御覧になるなどしてお過ごしになり、五時三十分御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十九日 土曜日 午前九時御出門、邦彦王・同妃侘子と共に東京教育博物館にお成りになり、「時」展覧会を御覧になる。正午過ぎ御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、東京教育博物館一覽、読売新聞、東京朝日新聞

午後一時御出門、水交社における常磐会の尼港救済音楽会・バザーにお成りになる。六時過ぎ御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十六日 土曜日 午後一時御出門、芝離宮にお成りになり、東伏見宮主催の皇族講話会に御臨席になる。文学博士市村瓊次郎より現代思想の変遷についての講話、海軍少将加藤寛治より欧米各国戦後視察談をお聴きになる。五時三十分頃、御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、読売新聞、東京朝日新聞

三十日 水曜日 午前の歴史の講義において、尼港事件についてお聴きになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、歴史御教授日録

十五日 木曜日 夕刻、御学問所終業式に臨まれる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、杉浦重剛関係資料

二十四日 土曜日 午前七時三十分御出門、邦彦王・同妃倪子と共に上野公園竹の台陳列館にお成りになり、羅甸亜米利加物産展覧会を御覧になる。十時過ぎ御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、宮内省省報

二十六日 月曜日 午前、邦彦王・同妃倪子と共に、広島県江田島より帰京の朝融王御兄と御対面になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、宮内省省報、官報

二十八日 水曜日 午前、参邸の木内成元学習院女学部教授に謁を賜う。○良子女王殿下新御殿日誌

八月

二日 月曜日 邦彦王・同妃倪子のお見送りをお受けになり、午前七時三十分御出門、信子女王・智子女王と共に鎌倉御用邸にお成りになる。御夕餐後、両女王と共に鶴岡八幡宮にお成りになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、宮内省省報、官報

五日 木曜日 御夕餐後、銭洗弁天にお成りになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

七日 土曜日 午前六時鎌倉御用邸を御出門、高德院、長谷寺、御霊神社権五郎神社にお成りになる。八時頃御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

八日 日曜日 午前、山羊牧場にお成りになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

大正九年八月

九日 月曜日 午前十時鎌倉御用邸を御出門、葉山の東伏見宮別邸にお成りになり、依仁親王・同妃周子、邦英王と御対面になる。午後三時三十分頃御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

問所日誌

十二日 木曜日 午前七時三十分鎌倉御用邸を御出門、昨日参邸した御学友の佐藤貞・平山信と共に鶴岡八幡宮にお成りになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

御夕餐後、信子女王・智子女王と共に御出ましになり、合鍵稲荷社周辺から山羊牧場方面へと廻られる。午後七時三十分頃御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十四日 土曜日 御機嫌伺いのため参邸の講師杉浦重剛に謁を賜う。杉浦より臨時進講をお受けになり、鎌倉幕府の民政に関する所感をお聴きになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、修身礼

法御教授日録、杉浦重剛関係資料

参邸の邦英王と御対面になる。午後、御一緒にお出ましになり、円覚寺・建長寺、及び鎌倉宮に御参拝になる。四時頃御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十六日 月曜日 午前、鎌倉御用邸を御出門、八時三十分鎌倉駅を御発、途中逗子駅より乗車の邦英王と御一緒に横須賀駅にて降車される。それより逸見波止場に進まれ汽艇にお乗りになり、追浜飛行場に向かわれる。御着後、飛行機陳列場、軍用気球倉庫を御覧になる。その後、山上の軍用鳩の鳩舎にお成りになる。終わって汽艇にて逸見波止場にお戻りの後、汽車に乗られ、御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十七日 火曜日 午前、寿福寺の源実朝・北条政子両墓所、ついで海蔵寺の十六ノ井にお成りになる。

九時三十分頃御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十八日 水曜日 午前八時鎌倉御用邸を御出門、岩崎別邸にて御少憩の後、三崎警察署に到着され、同所裏より乗船される。城ヶ島灯台下に上陸され、灯台並びに周囲の景色を御覧になる。再び御乗船、遊ヶ浦方面を周遊される。三崎警察署裏に上陸され、続いて東京帝国大学理学部附属海実験所にお成りになる。所長飯島魁の官舎に入られ、飯島夫妻に謁を賜い、その後、御昼餐をお召し上がりになる。それより実験所・標本室等を巡覧され、続いて海岸にお出ましになり、魚・蟹等を採集される。

午後六時過ぎ御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十九日 木曜日 午前、参邸の中山故侯爵中山孝麿夫人に謁を賜う。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

所日誌

二十三日 月曜日 朝融王昨日参邸・邦久王同日・信子女王・智子女王と共に、午前参邸の邦英王と御対面になる。

その後、信子女王・智子女王・邦英王と御一緒に山にお出ましになり、植物採集をされる。○

良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十四日 火曜日 午前、鎌倉御用邸を御出門、信子女王・智子女王と共に九時二分発の汽車に乗車され、帰京される。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、宮内省省報、官報

本殿において、修善寺への旅行から帰京の邦彦王・同妃幌子と御夕餐を御会食になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、宮内省省報、官報、邦彦王行実

二十七日 金曜日 栃木県日光にお成りのため、午前六時、邦彦王・同妃幌子、及び邦久王・信子女王・智子女王と共に御出門、汽車にお乗りになる。日光御到着後、邦彦王・同妃は天機奉伺のため日

大正九年八月

光田母沢御用邸に参邸する。良子女王は邦久王始めと共に御宿所の日光山輪王寺にお入りになり、門跡大僧正彦坂謹照ほかに謁を賜う。御昼餐後、東照宮・大猷院・二荒山神社等にお成りになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報、邦彦王行実

二十八日 土曜日 午前、邦久王・信子女王・智子女王と共に日光山輪王寺を御出発、天皇・皇后の御機嫌伺いのため、日光田母沢御用邸にお成りになる。また、邦彦王・同妃倪子を交え、崇仁親王と御対面になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

午後、霧降の滝にお成りになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十九日 日曜日 午前七時日光山輪王寺を御出門、裏見滝、般若滝、方等滝、華嚴滝等を御覧になる。ついで船にお乗りになり、中禅寺湖を渡られ、帝室林野管理局東京支局日光出張所において御昼餐をお召し上がりになる。その後、同所の養魚場において魚釣りをされる。午後六時頃御泊所にお戻りになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

三十日 月曜日 午前、日光山輪王寺の宝物館にお出ましになる。ついで日光御用邸及び植物園にお成りになる。午後、買い物のため日光の町中へお出ましになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

三十一日 火曜日 午前、日光山輪王寺を御出門、信子女王・智子女王と共に九時五十分発の汽車に乗車される。午後二時五分上野駅に御着、御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、

宮内省省報、官報

九月

五日 日曜日 午後六時御出門、東伏見宮邸にお成りになり、尼港事件の活動写真を御覧になる。九時三十分頃御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十一日 土曜日 午後、御学問所始業式に臨まれる。授業は十三日から開始される。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十二日 日曜日 午前十時御出門、芝離宮にお成りになる。後刻到着の邦久王、御親族ほかと魚釣りや、茶菓をお召し上がりになるなどしてお過ごしになる。午後五時過ぎ御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十四日 火曜日 午前、去る十一日付にて久邇宮宮務監督を免じられた山田春三参邸につき謁を賜う。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、宮内省省報、官報、邦彦王行実

二十五日 土曜日 午後一時御出門、芝離宮にお成りになり、山階宮主催の皇族講話会に御臨席になる。海軍少将山内四郎より「海軍と航空」、文学博士市村瓊次郎より「欧州戦後思想の変遷」についての講話をお聴きになる。四時五十分、御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、

東京朝日新聞

二十八日 火曜日 午前八時三十分御出門、邦彦王・同妃侘子と共に上野公園竹の台陳列館にお成りになり、日本美術院展覧会及び二科美術展覧会を御覧になる。正午御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

大正九年十月

十月

三日 日曜日 午前十時御出門、新宿御苑にお成りになる。御散策等をしてお過ごしになり、午後四時三十分御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

八日 金曜日 午後、帰国のお礼言上のため参邸の本野清子元御学問所講師、旧姓伊東、子爵本野盛一夫人に謁を賜う。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十六日 土曜日 午後一時御出門、芝離宮にお成りになり、梨本宮主催の皇族講話会に御臨席になる。

文学博士市村瓊次郎より「欧州戦後思想の変遷」前回の、林学博士本多静六より森林についての講話をお聴きになる。五時前、御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十八日 月曜日 東伏見宮の招きにより、午後一時頃御出門、信子女王と共に新宿御苑にお成りになる。洋館において依仁親王・同妃周子、邦英王と御対面になり、その後、温室等を御覧になる。五時三十分頃御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十日 水曜日 午前十時過ぎ御出門、芝離宮にお成りになる。魚釣りや、茶菓をお召し上がりになるなどしてお過ごしになる。御夕食前に御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十三日 土曜日 午前十時御出門、信子女王と共に梨本宮の招宴にお成りになる。午後四時頃御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十四日 日曜日 午後一時三十分御出門、明治神宮にお成りになる。四時頃御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十七日 水曜日 午後二時三十分過ぎ御出門、信子女王と共に山階宮邸にお成りになる。規子女王を交え、手品、落語、講談等の余興を御覧になる。七時頃御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

三十日 土曜日 午前、教育勅語発布三十年記念日につき、講師大島義脩より教育勅語に関する講話をお聴きになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十一月

二日 火曜日 午前十時三十分御出門、信子女王と共に東伏見宮邸にお成りになる。庭のキクを御覧になり、また邦英王と過ごされる。午後五時頃御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

三日 水曜日 師正王^{稔彦王第二王子}の誕生日の内祝のため、午前十一時頃御出門、信子女王と共に東久邇宮

邸にお成りになる。午後四時お暇乞いになり、御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十日 水曜日 子爵東園基愛^{御伯母東園榮子の夫君}この日死去につき、夜、鳴り物を遠慮される。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十五日 月曜日 午後、参邸の元久邇宮宮務監督山田春三に謁を賜う。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十九日 金曜日 午前八時十分過ぎ御出門、邦彦王・同妃規子と共に上野公園竹の台陳列館にお成り

大正九年十一月

になり、帝国美術院第二回美術展覽会を同院幹事正木直彦の説明にて御覧になる。終わって御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、宮内省省報、大正期美術展覽会出品目録

二十二日 月曜日 午後一時四十分頃御出門、南葵文庫にお成りになり、徳川侯爵家紀州徳川家 主催の臨時

音楽演奏会パイプオルガン備付工事竣成を機として開催に臨まれる。後刻到着の信子女王のほか、載仁親王・依仁親王始め皇族等

と共に、管弦楽、チェロ独奏、オルガン奏、ヴァイオリン・ピアノ合奏をお聴きになる。立食の饗応をお受けになった後、六時頃御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、南葵音楽事業部

摘要、東京朝日新聞

二十五日 木曜日 午後二時十五分頃御出門、信子女王と共に明治神宮に御参拝になる。三時過ぎ御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十六日 金曜日 午後、参邸の正二位柳原愛子に謁を賜う。○良子女王殿下新御殿日誌

夜、参邸の元久邇宮宮務監督山田春三に謁を賜う。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十七日 土曜日 午後零時三十分御出門、久邇宮主催の皇族講話会に御臨席になる。文学博士服部宇之吉より「婦人道德」、薬学博士丹波敬三より「欧州戦後に於ける製菓の発達」についての講話をお聴きになる。四時三十分過ぎ、御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、東京朝日

新聞

二十八日 日曜日 午後、参邸の伯爵酒井忠正・同夫人秋子に謁を賜う。○良子女王殿下新御殿日誌

三十日 火曜日 この度邦久王近衛歩兵第四聯隊へ入営につき、お祝いの御夕餐に臨まれる。翌一日午前、入営の王をお見送りになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、官報、邦彦王行実

十二月

一日 水曜日 午後、参邸の女子学習院教授中島敏、及び三浦芳栄子に謁を賜う。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

五日 日曜日 午前、近衛歩兵第四聯隊より帰還した邦久王をお出迎えになる。王は、夕刻、兵宮に向け出立する。○良子女王殿下新御殿日誌

九日 木曜日 杉浦重剛より所労を理由として休講の願い出があり、午前の修身の時間はピアノを自習される。杉浦は、去る十一月十八日の講義の後、後閑菊野^{良子女王御教育の主任}より、良子女王に色盲の遺伝子がおありになる可能性があるため、邦彦王が皇太子との御婚約の辞退を求められている旨を告げられた。

御婚約内定の取り消しに反対の杉浦は、去る四日、病気を理由として東宮御学問所御用掛の辞職を申し出た。またこの後、十六日の良子女王の講義にも出仕せず、さらに二十日の終業式も欠席する。杉浦による修身は、翌年一月の始業後も休講が続く、三月に再開される。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、杉浦重剛関係資料、小笠原長生日記、奈良武次日記

十一日 土曜日 午後一時二十分頃御出門、芝離宮にお成りになり、稔彦王妃聡子内親王主催の皇族講話会に御臨席になる。文学博士服部宇之吉より「欧州戦後に於ける社会状況の概観」、文学博士白鳥庫吉より「日本種に就て」の講話をお聴きになる。終わって御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、東京朝日新聞

十二日 日曜日 午後、参邸の元久邇宮宮務監督山田春三に謁を賜う。山田に^{謡曲の}砧^{演目}の御絵を下賜される。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

大正十年一月

二十日 月曜日 正午前、御学問所終業式に臨まれる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十二日 水曜日 午前、江田島より帰京の朝融王、及び京都より帰京の智子女王と御対面になる。

○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、宮内省省報、官報

三十一日 金曜日 御揮毫の御絵・御歌を元久邇宮宮務監督山田春三に賜う。○良子女王殿下新御殿日誌、

良子女王殿下御学問所日誌

大正十年（西曆一九二二年） 十八歳

一月

二日 日曜日 久邇宮宮務監督栗田直八郎、医学博士吉本清太郎より新年の祝詞言上をお受けになる。

○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

三日 月曜日 午後、御学問所の御学友佐藤貞の年始伺いをお受けになる。また、御同級生学習院女学部の御同級生

二名の年始伺いをお受けになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

五日 水曜日 午前、邦彦王御父の王子女により音楽会が催される。邦彦王・同妃御母妃子並びに側近奉仕

者ほか招かれ、ピアノ、ヴァイオリン、マンドリン等が披露される。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王

殿下御学問所日誌

午後、大神楽を御覧になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

六日 木曜日 午前十一時御出門、東久邇宮の招宴にお成りになる。規子女王^{守正王第二王女}ほかが出席する。

午後五時御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

七日 金曜日 午後五時御出門、朝香宮の晚餐にお成りになる。成久王ほかが出席する。九時過ぎ御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

八日 土曜日 参殿の女子学習院教授中島敏・元学習院女学部教授木内成に謁を賜う。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

九日 日曜日 午前、参殿の御同級生二名と羽子突き等をしてお過ごしになる。午後、御学友佐藤貞・同平山信と小倉百人一首等をされる。以後、この年も随時、御学友・御同級生に謁を賜う。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十一日 火曜日 午後、御学問所始業式に臨まれる。授業は翌十二日より開始される。なお、式に先立ち、新任の講師阪正臣に謁を賜う。同人は三十一日より、月曜日の午後、『古事記』についての講義を行う。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十四日 金曜日 御風気につき御仮床に就かれ、御学問所は休業となる。二十二日の御床払いまで御静養になり、御学問所における授業は二十四日に再開となる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十六日 日曜日 午後、元久邇宮宮務監督山田春三に謁を賜う。以後、この年も随時、元奉仕者に謁を賜う。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

大正十年二月

二十六日 水曜日 参殿の中山三千代故侯爵中山孝麿夫人に謁を賜う。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十九日 土曜日 午後一時御出門、芝離宮にお成りになり、北白川宮主催の皇族講話会に御臨席になる。文学博士市村瓊次郎より「婦人の思想変遷に就て」、文学博士黒板勝美より「聖徳太子に就て」の講話をお聴きになる。四時三十分、御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、読売新聞、東京朝日新聞

三十一日 月曜日 午後、講師阪正臣より『古事記』についての講義を初めてお受けになる。○良子女王殿下御学問所日誌

二月

六日 日曜日 この度軍事等の研究のため渡欧する公爵島津忠重御母、良子女王殿下の弟及び同夫人伊楚子ほかが出席の午餐に臨まれる。○良子女王殿下新御殿日誌、読売新聞、東京朝日新聞

十日 木曜日 この日、宮内省より、良子女王の皇太子妃御内定に変更はない旨が発表される。これより先、公爵山県有朋を始め元老らが、良子女王の子孫に色盲が遺伝する虞があることをもって、宮内大臣中村雄次郎を通じて邦彦王に御婚約の辞退を求めた。邦彦王は要請に応じず、皇后に上書を呈出した。また、御婚約の辞退に反対の東宮御学問所御用掛杉浦重剛も、昨年十二月四日辞表を提出し久邇宮御学問所への出仕を見合わせた上、一部関係者に事の顛末を語って御婚約決行を求める運動を行った。これらによりこの問題が徐々に知られるようになり、御婚約の取り消し反対と、宮内省や山県を攻撃する運動が、政界の一部、とりわけ右翼方面に広まった。去る一月下旬には久邇宮を

情報源として、事の内情を暴露した小冊子「宮内省ノ横暴不逞」のほか、諸方面に対する各種怪文書が流布した。こうした事態の中、山県ら元老は御婚約を辞退すべきとして譲らなかつた。また、政府により具体的な報道は禁止されたものの、新聞の報道ぶりから、宮中方面に重大問題が進行中であることが国民にも知られるようになった。このため、何らかの決着を早期に図ることを迫られた中村宮内大臣は、自身の責任において事態を收拾することを決意し、この日、良子女王の御婚約内定に変更がないことを発表すると共に、自身の辞職も表明した。○申酉回瀾録、東宮妃廢立事件日誌、披雲秘記、松本剛吉

政治日誌、田中義一伝記、東京日日新聞、現代史資料

十三日 日曜日 午前、本殿において、公爵島津忠重と御対面になる。以後、この年も随時、皇族・御親族と御対面・御会食になる。○良子女王殿下新御殿日誌

十八日 金曜日 講師杉浦重剛に謁を賜う。同人は、皇太子と良子女王の御婚約内定取り消しに反対し、昨年十二月九日以降、良子女王への修身の講義に出仕せず休講を続けていたが、この日、翌三月より出仕の旨を申し出る。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、杉浦重剛関係資料

十九日 土曜日 午後一時御出門、芝離宮にお成りになり、竹田宮主催の皇族講話会に御臨席になる。文学博士服部宇之吉より欧州戦後における社会状況の概観について、文学博士黒板勝美より聖徳太子についての講話をお聴きになる。五時頃、御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、読売新聞

二十日 日曜日 御夕餐前、新任の宮内大臣牧野伸顕参殿につき、謁を賜う。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

大正十年三月

三月

一日 火曜日 講師杉浦重剛に対し、お見舞いとして「紙雛」の御絵・「愛蓮説」御書を賜う。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、杉浦重剛関係資料

三日 木曜日 午前、賜品拝受のお礼言上のため参殿の講師杉浦重剛より、桃の節句及び桃についての講話をお聴きになる。この日から、昨年十二月から休講となっていた木曜日の杉浦による修身の講義が再開される。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、良子女王殿下御教授日録、杉浦重剛関係資料

六日 日曜日 満十八歳のお誕生日を迎えられる。

正午、久邇宮職員一同より祝詞の言上をお受けになる。午後、邦彦王・同妃倪子、及び邦久王^{御兄}・信子女王^{御妹}出席のお祝いの催しに臨まれる。また、祝詞言上のため参殿の本野清子^{元御学問所講師、旧姓伊東、子爵本野盛一夫人}に謁を賜う。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、読売新聞

二十三日 水曜日 午前八時御出門、邦彦王・同妃倪子及び信子女王と共に埼玉県所沢の陸軍航空学校にお成りになり、ドイツ国から押収した戦利飛行機、並びに飛行将校及び航空学校生徒の飛行を御覧になる。午後一時十分御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、読売新聞

二十六日 土曜日 午後一時三十分御出門、芝離宮にお成りになり、朝香宮主催の皇族講話会に御臨席になる。文学博士深作安文より「思想問題に就て」、文学博士服部宇之吉より「欧州戦後に於ける社会状況の概観」と題する講話をお聴きになる。五時前、御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、読売新聞

二十八日 月曜日 夕刻、御学問所終業式に臨まれる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

四月

三日 日曜日 雛祭りが催される。御親戚、御学友等約百名が招かれ、午餐のほか、余興等が賑やかに行われる。皇族は成久王妃房子内親王・鳩彦王妃允子内親王・守正王妃伊都子・依仁親王妃周子ほかが出席する。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

四日 月曜日 午前十時御出門、智子女王^御と共に女子学習院にお成りになる。御着後、院長大島義脩ほかの案内にて陳列場に生まれ、卒業式成績品を御巡覧になる。ついで常磐会館に移られ、常磐会幹事の案内にて館内を一覧される。正午過ぎ御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、読売新聞

七日 木曜日 浜離宮にお成りになり、鴨猟を午前・午後各一回ずつ行われる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、狩猟録

九日 土曜日 午前十一時御出門、信子女王・智子女王と共に東伏見宮の招宴にお成りになる。午後五時三十分頃御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十二日 火曜日 午後、御学問所始業式に臨まれる。この度より信子女王も御学問所において稽古することとなり、良子女王の時間割は次のように定められる。なお、月曜日の古事記・体操、火曜日の和歌、水曜日の絵画・点茶、木曜日の仏語・体操、土曜日の習字、並びに午前中の御運動は信子女王と御一緒に取り組まれる。授業は翌十三日から開始される。

二十一日 木曜日 午後六時前御出門、邦彦王・同妃侘子及び邦英王^{御弟}と共に東久邇宮の招宴に臨まれる。九時頃御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十九日 金曜日 午前より中江藤樹についての作文を清書される。この年中江についての作文にしばしば取り組まれ、六月、講師竹田みちに提出される。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、
申酉回瀾録

三十日 土曜日 午前十時二十分頃御出門、信子女王と共に賀陽宮を御訪問になる。正午御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

五月

一日 日曜日 午後一時御出門、邦彦王妃侘子・信子女王と共に島津公爵家の親睦会にお成りになる。手品等の余興を御覧になり、五時頃御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

五日 木曜日 去る三日恒憲王と公爵九条道実息女敏子結婚につき、この日、招宴がある。午前十一時四十五分御出門、霞閑離宮にお成りになり、賀陽宮の招宴に臨まれる。午後二時頃御帰還になる。

○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、宮内省省報

十四日 土曜日 午後一時三十分御出門、芝離宮にお成りになり、東伏見宮主催の皇族講話会に御臨席になる。文学博士服部宇之吉より「欧州戦後婦人思想の変遷」、文学博士芳賀矢一より「我國の古典に就て」と題する講話をお聴きになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、読売新聞

二十二日 日曜日 午後四時四十五分御出門、東伏見宮邸にお成りになり、邦英王の誕生日^{五月十日}を^{六日}を

大正十年六月

お祝いになる。大神楽、マンドリン等の余興を御覧になり、九時御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌
二十六日 木曜日 午前、病氣全快のお礼言上のため参殿の講師杉浦重剛に謁を賜う。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、杉浦重剛関係資料

二十九日 日曜日 午後、山田浩二撞球選手による玉突きを御覧になる。六月五日、七月三十日にも同人の

玉突きを御覧になる。○良子女王殿下新御殿日誌

三十日 月曜日 午後一時頃御出門、信子女王と共に井の頭公園にお成りになる。五時頃御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

六月

四日 土曜日 法学博士松岡均平・医学博士吉本清太郎に御夕餐の御陪食を賜う。その後、両人と玉突きをされる。○良子女王殿下新御殿日誌

八日 水曜日 午後三時十五分御出門、赤坂離宮にお成りになり、邦彦王・同妃幌子始め皇族二十方と共に、皇太子去る三月三日横浜御出港の英国御到着時の活動写真を御覧になる。五時過ぎ御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、大阪毎日新聞活動写真史

十二日 日曜日 午後、世界十五万哩旅行者の中村直吉冒険家より旅行談をお聴きになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十三日 月曜日 御夕餐の際、子爵竹内惟治邦彦王の姉竹内絢子子息死去の報をお聞きになる。これに伴い、翌日に

御予定の上野お成りはお取りやめとなる。また、御学問所は翌十四日及び同人告別式当日の十六日に休業となる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十八日 土曜日 午前九時御出門、信子女王と共に女子学習院にお成りになり、絵巻物・古筆展覧会を御覧になる。正午前御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、女子学習院五十年史

十九日 日曜日 午前十時三十分御出門、邦彦王・同妃倪子及び信子女王と共に男爵田健治郎別邸にお成りになる。邸内を御覧になった後、御昼餐をお召し上がりになる。その後、卓球等をしてお過ごしになり、午後五時頃御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、田健治郎日記

二十日 月曜日 午後零時三十分御出門、邦彦王・同妃倪子及び信子女王と共に川崎のマツダランプ東京電気株式会社を御見学になる。電球製作設備等を御覧になり、六時三十分頃御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、東京電気株式会社五十年史

七月

二日 土曜日 午後一時三十分御出門、山階宮主催の皇族講話会に御臨席になる。文学博士服部宇之吉より敬神崇祖について、内務省社会局長心得田子一民より社会事業について、留岡幸助社会事業家より我が国の貧民の状態についての講話をお聴きになる。五時過ぎ、御帰還になる。なお、この度より臣籍に降嫁の元皇族も出席する。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

三日 日曜日 午前十時三十分御出門、浜離宮にお成りになる。お召しの田やす男爵田健治郎夫人・同息女、医

大正十年八月

学博士吉本清太郎ほかと共に苑内の御散策、魚釣り等をしてお過ごしになる。午後六時頃御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

六日 水曜日 御不例のため、夕刻より御仮床に就かれる。二十六日の御床払いまで静養される。翌七日から御学問所は休業となり、九日の終業式も欠席される。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十三日 土曜日 御昼餐後、邦彦王の誕生日のお祝いの席に臨まれる。その後、参殿の皇族等と御対面になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十五日 月曜日 午後、暑中御機嫌伺いのため参殿の中島敏・木内成に謁を賜う。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

三十一日 日曜日 邦彦王・同妃侘子、及び邦久王・信子女王・智子女王・邦英王と共に、朝融王に對し、成年式及び海軍兵学校卒業のお祝いとしてお品をお贈りになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、官報

八月

一日 月曜日 神奈川県湯本へ御旅行のため、午前九時四十五分、邦彦王妃侘子及び信子女王・智子女王と共に御出発、汽車にて向かわれる。小田原駅にて邦彦王と落ち合われ、午後一時頃岩崎別荘に御到着になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、宮内省省報、官報、邦彦王行実

二日 火曜日 午前十一時頃御出門、玉簾の滝にお成りになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

問所日誌

四日 木曜日 午前十時頃、福住橋付近にお成りになり、箱根にお成りの依仁親王・同妃周子の通過をお迎えになる。御帰途に早雲寺にお立ち寄りになり、宝物等を御覧になる。十一時過ぎ御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、宮内省省報、官報

十一日 木曜日 午前七時御出門、邦彦王・同妃侘子、及び朝融王去る五日参邸・信子女王・智子女王と共に大涌谷にお成りになり、登山をされる。夕刻、御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十三日 土曜日 午後、横須賀軍港に碇泊の軍艦出雲に帰艦する朝融王をお見送りになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、宮内省省報、官報

十八日 木曜日 午前十時御出門、信子女王・智子女王と共に小涌谷の東伏見宮別邸にお成りになる。午後五時頃御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十日 土曜日 午前七時三十分御出門、邦彦王・同妃侘子、及び信子女王・智子女王と共に横須賀軍港にお成りになり、遠洋航海に出航の朝融王を見送られる。終わって、水交社において御昼餐、鎌倉の山階宮別邸にお立ち寄りになり、午後五時三十分頃御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、宮内省省報、官報、邦彦王行実

二十一日 日曜日 午後、法学博士松岡均平及び同夫人ほかに謁を賜う。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十二日 月曜日 午前五時御出門、初花の滝、ついで忍ヶ滝にお成りになる。九時御帰還になる。

大正十年九月

○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十三日 火曜日 午前十一時御出門、富士屋ホテルにお成りになり、依仁親王・同妃周子、邦英王と御昼餐を御会食になる。また、宮ノ下御用邸にお立ち寄りになり、邸内を御覧になる。午後四時頃御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十六日 金曜日 午前十時御出門、木賀宮内旅館にお成りになる。午後四時御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

三十一日 水曜日 午前十時三十分御出門、芦ノ湖畔の男爵岩崎小弥太別邸にお成りになる。岩崎男爵及び同夫人・松方正作及び同夫人・松岡均平陪食の饗応を受けられ、午後五時三十分御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

九月

一日 木曜日 午後三時三十分小田原駅を御発車、邦彦王妃倪子・信子女王と共に帰京される。なおこの日、邦彦王が別に帰京し、智子女王が京都に旅行する。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、宮内省省報、官報

二日 金曜日 元久邇宮宮務監督山田春三病氣重体につき、お見舞いのため宮内省御用掛後閑菊野を差し遣わされる。山田は十三日死去する。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、官報

三日 土曜日 皇太子が海外御巡遊を終え、この日東宮御所に還啓につき、午後、講師杉浦重剛より祝詞言上をお受けになる。御夕餐後には、奉祝の花火をお庭より御覧になり、また玄関において、洪

谷町民による提灯行列の万歳をお受けになる。十日夜には花電車を御覧になる。○良子女王殿下新御殿日誌、

良子女王殿下御学問所日誌、宮内省省報、官報、杉浦重剛関係資料、東京朝日新聞

十二日 月曜日 午後、御学問所始業式に臨まれる。授業は翌日から開始される。なお、本学期より

水曜日の歴史の講義は人文講話となり、講師大島義脩から心理学・社会学・経済学・文学史・美術史等の梗概を学ばれることとなる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十六日 金曜日 午前、参殿の伯爵珍田捨巳に謁を賜う。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十日 火曜日 夜、元内務次官小橋一太より、社会政策についての講話をお聴きになる。○良子女王

殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十九日 木曜日 午後一時三十分頃御出門、上野公園桜ヶ岡において開催の日本美術協会展覧会にお成りになる。四時過ぎ御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、東京朝日新聞

十月

一日 土曜日 午後一時御出門、芝離宮にお成りになり、朝香宮主催の皇族講話会に御臨席になる。

文学博士服部宇之吉より敬神崇祖について、文学博士松本亦太郎より智慧の遺伝についての講話をお聴きになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、読売新聞

二日 日曜日 午後一時御出門、邦彦王・同妃倪子及び信子女王と共に滝泉寺_{目黒不動尊}にお成りになる。

ついで駒沢村の稲田等を御覧になり、三時三十分頃御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下

御学問所日誌

大正十年十月

大正十年十月

三日 月曜日 御晚餐にお召しになった法学博士松岡均平及び同夫人ほかに謁を賜う。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

海外御巡遊よりお戻りの皇太子から、お土産の品の御贈進をお受けになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

五日 水曜日 午後二時御出門、邦彦王・同妃倪子及び信子女王と共に赤坂離宮にお成りになり、皇太子海外御巡遊の活動写真を御覧になる。四時三十分過ぎ御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

夜、海軍大佐今村信次郎より南洋諸島巡航についての講話をお聴きになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

八日 土曜日 午後、芝離宮にお成りになり、東宮職御用掛山本信次郎海軍大佐、皇太子海外御巡遊の供奉員より皇太子海外御巡遊についての謹話をお聴きになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十四日 金曜日 翌日からの京都御旅行のため、この日より御学問所は休業となる。授業は翌月四日に再開される。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十五日 土曜日 京都へ御旅行のため、午前九時三十分邦彦王妃倪子・信子女王と共に東京駅を御発車になる。午後七時三十分七条駅御着車、智子女王ほかのお出迎えをお受けになる。後刻、邦彦王も京都に到着する。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、宮内省省報、官報

十六日 日曜日 午後零時三十分御出門、明治天皇陵・昭憲皇太后陵、孝明天皇陵・英照皇太后陵、朝彦親王墓、邦憲王墓に御参拝になる。御帰途に、御挨拶のため賀陽宮別邸にお立ち寄りになる。○

良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十七日 月曜日 午前七時三十分御出門、滋賀県草津の鶏冠山にお成りになり、茸狩りをされる。午後六時過ぎ御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十八日 火曜日 午前七時三十分御出門、大阪城内の偕行社にお成りになる。ついで造幣局を訪問され、金貨の原料、銅貨、白銅等の鑄造を御巡覧になる。終わって神戸に向かわれ、武庫離宮にお成りになり、御昼餐をお召し上がりになる。続いて平敦盛の墓所に御参拝になり、その後、海岸を御散策になる。帰路、湊川神社に御参拝になり、午後六時過ぎ京都にお戻りになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、造幣局七十年史

十九日 水曜日 午前十時御出門、賀茂御祖神社・賀茂別雷神社に御参拝になる。午後、北野神社に御参拝になる。夜、大丸呉服店にお成りになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十一日 金曜日 午前十一時御出門、紫倉山にお成りになり、本願寺主催の茸狩りに臨まれる。○

良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十二日 土曜日 午前九時三十分御出門、賀陽宮招待の茸狩りに参加される。午後四時頃御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十三日 日曜日 午前、護王神社に御参拝になり、その後、下立売通の久邇宮邸跡を御覧になる。

ついで大宮御所・仙洞御所を御覧になる。午後、黒谷、真如堂を経て慈照寺^{銀閣}にお成りになる。続いて、吉田神社に御参拝になる。聖護院門跡において御夕餐をお召し上がりになり、九時過ぎ御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十四日 月曜日 午前、泉涌寺にお成りになり、朝彦親王三十年祭に臨まれる。邦彦王・同妃侘子・

信子女王・智子女王、恒憲王・故邦憲王妃好子・佐紀子女王、多嘉王御父邦彦
王の弟・同妃静子、守正王御父邦彦
王の弟

鳩彦王同・同妃允子内親王・紀久子女王・湛子女王、稔彦王妃聡子内親王が参列する。御昼餐の後、

御帰還になる。午後、賀陽宮別邸を御訪問になり、四時御帰還になる。なお、二十九日には久邇宮邸

洪谷において朝彦親王三十年霊前祭が執行される。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、宮内省省

報、邦彦王行実、東京朝日新聞、京都日出新聞

二十五日 火曜日 午前九時御出門、相国寺、光雲寺に御参詣になる。それより山科の並河靖之別邸

において御昼餐をお召し上がりになる。午後、醍醐寺三宝院、ついで平等院を御覧になる。午後七時

頃御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十六日 水曜日 午前十時御出門、東本願寺に御参詣になる。御帰途に、久邇宮臨時御用掛角田敬

三郎邸にお立ち寄りになる。十一時過ぎに御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十七日 木曜日 邦彦王・同妃侘子及び信子女王と共に御帰京のため、午前九時十五分京都を御出

発、午後七時二十分東京駅に着かれ、御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、宮

内省省報、官報、京都日出新聞

十一月

一日 火曜日 昨夜来の御不例のため、御学問所は休業となる。三日に御床払いをされ、授業は四日

再開となる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

六日 日曜日 午後、参殿の侯爵山階芳麿に謁を賜い、御夕餐を御会食になる。○良子女王殿下新御殿日誌
七日 月曜日 午前七時三十分頃御出門、上野公園竹の台陳列館にお成りになり、帝国美術院第三回美術展覧会を御覧になる。十一時過ぎ御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、宮内省省報

八日 火曜日 午前十時御出門、深川の男爵岩崎久弥別邸にお成りになる。岩崎男爵及び同夫人、松方正作及び同夫人、松岡均平等より接待をお受けになる。午後五時三十分御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十二日 土曜日 午後、子爵金子堅太郎より明治天皇の御治績・御遺徳に関する謹話をお聴きになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十八日 金曜日 午後、参殿の故菊麿王妃常子御母兄子の姉・岩崎孝子男爵岩崎小弥太夫人と御対面になり、佐賀錦の制作等をお過ごしになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十九日 土曜日 御夕餐後、陸軍特別大演習における空中戦、爆弾投下を久邇宮邸内から御覧になる。翌日も御覧になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十一日 月曜日 午前、代々木練兵場における観兵式に参加の飛行機をお庭より御覧になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十二月

二日 金曜日 午前九時頃御出門、邦彦王・同妃侘子及び信子女王と共に女子学習院にお成りになり、

大正十年十二月

風俗展覧会を御覧になる。十一時頃御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、女子学
習院五十年史

三日 土曜日 午後、参殿の故菊麿王妃常子・岩崎孝子より佐賀錦の指導をお受けになる。○良子女王
殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

四日 日曜日 午後、邦彦王・同妃侘子、及び邦久王・信子女王・邦英王、鳩彦王と共に、庭球選手
の清水善造・岡本忠からデヴィス・カップ参戦談をお聴きになる。ついで両名の試合、及び鳩彦王・
邦久王と清水・岡本との試合を御覧になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、読売新聞、東京

朝日新聞

七日 水曜日 邦彦王妃侘子の誕生日につき、御昼餐を御会食になる。御夕餐は、故菊麿王妃常子、

松平充子^{御母侘、子の姉}、伯爵徳川達孝・同夫人知子^{御母侘、子の姉}、侯爵黒田長成ほかと御会食になり、その後余興とし

て観世流の謡曲を御鑑賞になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十日 土曜日 午後、久邇宮主催の皇族講話会に御臨席になる。稔彦王妃聡子内親王・守正王妃伊都
子と共に、文学博士服部宇之吉より敬神崇祖について^{前回の}、理学博士山崎直方より太平洋についての^{続き}

講話をお聴きになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十一日 日曜日 午前八時御出門、葉山の東伏見宮別邸にお成りになり、ミカンの収穫等をされる。

午後六時東京駅御着車、北白川宮邸に立ち寄り後、御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王

殿下御学問所日誌

十三日 火曜日 退職のお礼言上のため参殿の賀陽宮御用取扱鈴木歌子に謁を賜う。○良子女王殿下新御

殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十六日 金曜日 午前七時三十分御出門、埼玉鴨場にお成りになり、午前・午後各二回鴨猟をされる。

午後四時三十分御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、狩猟録

十七日 土曜日 午後、邦彦王妃侘子と共に、参殿の岩崎孝子と佐賀錦を制作される。○良子女王殿下新

御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十日 火曜日 夕刻、御学問所終業式に臨まれる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十四日 土曜日 午後五時頃御出門、朝香宮招待の忘年会にお成りになる。○良子女王殿下新御殿日誌、

良子女王殿下御学問所日誌

二十五日 日曜日 午前九時十分品川駅を御出発になり、鎌倉の東園子爵邸にお成りになる。海岸、

島津公爵別荘等に立ち寄られ、午後六時三十分御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問

所日誌

二十九日 木曜日 夕刻より、ワシントン会議、朝融王のホワイトハウス訪問等の活動写真を御覧に

なる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

三十一日 土曜日 正午、久邇宮職員一同より歳末の祝詞言上をお受けになる。○良子女王殿下新御殿日誌、

良子女王殿下御学問所日誌

午後二時頃御出門、自動車にて東京市内の景況を約二時間にわたり御覧になり、三時頃御帰還になる。

○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

大正十年十二月

大正十一年一月

大正十一年（西曆一九二二年） 十九歳

一月

一日 日曜日 午前、久邇宮職員一同より新年の祝詞言上をお受けになる。御夕餐はお祝御膳をお召し上がりになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二日 月曜日 午前、医学博士吉本清太郎より拝賀をお受けになる。午後、王世子李垠・同妃方子女王より新年の祝賀をお受けになる。また、伯爵松平直亮・同夫人充子^{御母}の^子の姉の拝賀をお受けになる。○良子女王殿下新御殿日誌

三日 火曜日 学習院女学部の御同級生二名参邸につき謁を賜い、新年の祝詞言上をお受けになる。

○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

四日 水曜日 午後六時十分御出門、東久邇宮邸にお成りになり、招宴に臨まれる。十一時頃御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

六日 金曜日 午後、大神楽を御覧になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

七日 土曜日 午後、御学問所の御学友佐藤貞・平山信、御同級生等をお召しになり、カルタ遊びをされる。以後、この年も、折に触れて御学友・御同級生に謁を賜う。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

下御学問所日誌

松浦益子 伯爵松浦厚夫人 参邸につき謁を賜い、新年の祝詞言上をお受けになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王

殿下御学問所日誌

十日 火曜日 徳川知子 伯爵徳川達孝夫人、御母侷子の姉 参邸につき、御対面になる。以後、この年も、皇族・御親族と

随時、御対面・御会食になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十一日 水曜日 午後、御学問所の始業式に臨まれる。授業は翌日より開始される。○良子女王殿下新御

殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、杉浦重剛関係資料

十八日 水曜日 午前、新年の招宴に出席のため竹内絢子 故子爵竹内惟忠夫人、御父邦彦王の姉 ・壬生篤子 伯爵壬生基義夫人、御父邦彦王の姉 参

邸につき、午後にかけて信子女王 御妹 と共に御接待になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十二日 日曜日 午後、女子学習院教授中島敏・元学習院女学部教授木内成参邸につき、謁を賜い、

新年の祝詞言上をお受けになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十八日 土曜日 午後五時、邦彦王 御父 ・同妃侷子 御母 及び信子女王と共に御出門、朝香宮邸にお成り

になり、登山家榎有恒よりアルプス登山談をお聴きになり、幻灯を御覧になる。○良子女王殿下新御殿日誌

二月

四日 土曜日 午後、岩崎孝子 男爵岩崎小弥太夫人、男爵島津彦の息女 参邸につき、茶菓を共に召され、その後、佐賀錦織り

の稽古をされる。この年は、同人より六回にわたり、佐賀錦織りの指導をお受けになる。○良子女王殿

大正十一年二月

下新御殿日誌

六日 月曜日 近く歩兵第四十一聯隊長に転補の皇族付武官^{邦彦}陸軍歩兵大佐小倉可夫のため送別の御

夕餐開催につき、邦久王^{御兄}と共に御列席になり、同人及び久邇宮宮務監督栗田直八郎・宮内事務官^{久邇}宮付

木村英俊と御会食になる。○良子女王殿下新御殿日誌、官報

十四日 火曜日 信子女王と共に、静岡県熱海に御旅行になる。午前十時品川駅を御発、小田原駅より軽便鉄道に乗り換えられ、午後三時熱海停留場に御着になる。お出迎えの邦彦王・同妃侘子^{去る十二日より同}

^{地に}と共に男爵安保清種別邸に御到着、御学友佐藤貞及び同母の操^{男爵佐藤達次郎夫人}等のお出迎えをお受けになる。

以後、二十二日の御帰京までの間、御両親及び御学友佐藤貞と共にお過ごしになる。○良子女王殿下

下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、宮内省省報、官報、東京朝日新聞、邦彦王行実

十七日 金曜日 午前、邦彦王妃侘子・信子女王と共に御学友佐藤貞を伴われ、湯前神社に参詣される。ついで海岸を御散策になる。午後、丹那隧道の工事の様子を御覧になり、梅園にお出ましになる。

○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十八日 土曜日 午前、来宮神社に参詣され、境内の大樟を御覧になる。ついで水源地に向かわれ、

同所において濾過池・貯水池等を御覧になる。その後、熱海停留場にお成りになり、葉山出張^{射撃演習視察}より帰還の邦彦王をお出迎えになり、御一緒に帰邸される。午後、邦彦王・同妃侘子と共に磯山、魚見

崎、観魚洞にお出ましになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、宮内省省報、邦彦王行実

十九日 日曜日 午後、大湯にお出ましになり、間歇泉を御覧になる。それより温泉寺にお成りになる。

り、藤原藤房の遺跡や寺院の宝物を御覧になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十日 月曜日 午前、邦彦王妃侘子と共に男爵佐藤達次郎別邸にお成りになる。御学友佐藤貞と御昼餐を御会食後、邦彦王妃とお別れになり、御学友と共に熱海ホテルの建設現場にお成りになり、支配人の案内により工事及び周囲の状況を御覧になる。東京衛成病院熱海分院の構内を通過し、安保別邸に御帰邸になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十一日 火曜日 午前、邦彦王・同妃侘子及び信子女王と共に佐藤操・貞を伴われて御出発、伊豆山において御両親とお別れになり、伊豆山神社に参詣され、宝物等を御覧になる。ついで走り湯にある相模屋旅館を訪問され、御両親及び別途到着の邦久王と御対面になり、御昼餐を御会食になる。その後、館内の千人風呂を御覧になり、貸し切りの特別風呂にお入りになる。夕刻、安保別邸に戻られる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、宮内省省報、官報、侯爵久邇邦久伝

二十二日 水曜日 信子女王と共に御帰京の途に就かれる。邦彦王・同妃侘子及び邦久王のお見送りをお受けになり、午後零時二十分熱海停留場を御発、小田原駅において乗り換えられ、品川駅に御着、

六時三十分久邇宮邸に御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、宮内省省報、官報

二十四日 金曜日 この日より御学問所において御修学を再開される。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王

殿下御学問所日誌

二十七日 月曜日 この日、宮内事務官^{久邇}木村英俊より、朝融王^御が海軍少尉候補生として軍艦出雲

に搭乗して遠洋航海中に発病し、佐世保に急行中である旨をお聞きになる。よって、朝融王並びに静岡熱海滞在中の邦彦王・同妃侘子にお見舞状を認められる。○良子女王殿下新御殿日誌、邦彦王行実

大正十一年三月

三月

一日 水曜日 午後、去る二月二十一日以来滞在中の静岡県熱海より帰還した邦久王をお出迎えになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、宮内省省報、官報、侯爵久邇邦久伝

六日 月曜日 満十九歳のお誕生日を迎えられる。

この日、講師杉浦重剛に謁を賜い、恐悦の言上及び中村惕斎『姫鑑』の献上をお受けになる。また、信子女王・邦英王^{御弟}、御学友等よりお祝品をお受けになる。邦英王とお祝いの御晚餐を御会食になり、御学友二名・久邇宮宮務監督栗田直八郎・宮内省御用掛後閑菊野等をお召しになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、杉浦重剛関係資料

八日 水曜日 去る一日より佐世保出張の医学博士吉本清太郎帰京につき、謁を賜う。博士より、三月四日より盲腸周囲炎のため佐世保海軍病院に入院治療中の朝融王の容体についての言上をお聞きになる。十一日、同じく佐世保出張より帰京の宮内事務官^{久邇宮付}木村英俊より、王の様子に関する言上をお聞きになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、邦彦王行実

九日 木曜日 午前、修身の講義の際、講師杉浦重剛より進化論についてお聴きになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、良子女王殿下御教授日録、杉浦重剛関係資料

十日 金曜日 邦久王の誕生日につき、王並びに信子女王と洋食の御昼餐を御会食になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十一日 土曜日 午前、歴史の講義の際、講師依田豊より青島戦役の経過、大戦中の海軍の活動、辛亥革命等についてお聴きになる。十八日には、二十一箇条要求の提出とその内容・意義、帝制問題、

日米共同宣言等についてお聴きになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、歴史御教授日録

十八日 土曜日 午後、芝離宮にお成りになり、故恒久王妃昌子内親王主催の皇族講話会に御臨席になる。子爵渋沢栄一より最近の外遊所感についての講話をお聴きになり、活動写真を御覧になる。○

良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、皇族親睦会録、渋沢栄一伝記資料

十九日 日曜日 午前十時御出門、朝香宮の招待により白金御料地にお成りになり、摘み草をされる。また、鳩彦王妃允子内親王及び王子女と御対面になる。午後五時頃御帰還になる。○良子女王殿下新御殿

日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十三日 木曜日 午前、講師杉浦重剛による倫理に関する最終進講に当たり、同人よりかつて皇太子の倫理御進講を拝命した際に差し出した御進講趣意書の写が奉呈され、当御学問所における進講も同じ趣旨に基づくものである旨が言上される。○良子女王殿下御学問所日誌、良子女王殿下御教授日録、杉浦重剛関

係資料

二十五日 土曜日 午前、歴史の講義の際、講師依田豊より踐祚・即位の礼・大嘗祭、及び第一次より第三次に至る日露協約の由来・要項・意義等についてお聴きになる。なお、本学年の御学問所における御修学は、この日終了となる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、歴史御教授日録

二十六日 日曜日 午後、皇族付武官^{邦彦}王付陸軍歩兵中佐梅沢銀造夫人君栄参邸につき、謁を賜う。○良

子女王殿下新御殿日誌

二十九日 水曜日 正午、花見の宴に臨まれる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

三十日 木曜日 旧暦三月三日に当たするため、午後、皇族及び御親族、その他御縁故の向きを雛祭り

大正十一年四月

に招待される。お伽、百面相、手品等の余興の後、お庭において茶菓を供される。翌三十一日には久邇宮職員一同をお召しになり、雛壇前においてお祝御膳の御夕餐を御会食になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、杉浦重剛関係資料

三十一日 金曜日 午後、講師竹田みち及び同母参邸につき、謁を賜う。兩名に対し、白酒を賜う。

○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

四月

一日 土曜日 午前六時三十分御出門、御学友二名と共に千葉県三里塚の下総御料牧場にお成りになる。飼育の馬や羊等を御覧になり、羊肉料理の御昼餐をお召し上がりになる。午後七時過ぎ御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

三日 月曜日 午後、芝離宮にお成りになり、摘み草等をされ、伯爵壬生基義一家と共に過ごされる。

○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

四日 火曜日 午前六時十分邦彦王・同妃倪子及び邦英王と共に品川駅を御発、横須賀軍港にお成りになる。停泊中の軍艦出雲に御乗艦になり、今般盲腸周囲炎全治の朝融王と御対面になる。それよりお揃いにて水交社にお成りになり、御昼餐を御会食になる。午後四時頃、御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、宮内省省報、官報、邦彦王行実

五日 水曜日 午前九時三十分御出門、神奈川県鎌倉に滞在中の稔彦王妃聡子内親王を御訪問になる。午後五時、御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、宮内省省報

六日 木曜日 午後、新築棟上の子爵東園基光邸にお成りになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

七日 金曜日 午前、芝離宮にお成りになり、賀陽宮催しの午餐に臨まれる。夕刻、御帰還になる。

○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

八日 土曜日 夜、講師土取信の指導により、邦彦王妃倪子及び朝融王・信子女王・智子女王御と共に舞踏の稽古をされる。○良子女王殿下新御殿日誌

十日 月曜日 夜、邦彦王妃倪子と共に東伏見宮邸にお成りになり、舞踏稽古会に臨まれる。○良子女

王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十一日 火曜日 午前九時信子女王と共に御出門、女子学習院にお成りになり、卒業学生の成績品並びに同院より翌十二日来日予定の英国皇太子に献上すべき絵巻を御覧になる。十一時過ぎ御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、宮内省省報、官報、女子学習院五十年史

十三日 木曜日 午前十時、邦彦王・同妃倪子、及び朝融王・信子女王と共に御出門、神奈川県橘樹郡鶴見町の総持寺にお成りになる。寺院内を拝観され、邦彦王が揮毫した額を御覧になる。精進料理の御昼餐をお召し上がりになり、午後四時過ぎ御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問

所日誌、庶務録

十九日 水曜日 昨日二十九日に続き、午後、花見の宴が催され、模擬店等を御覧になる。○良子女王

殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十日 木曜日 午後二時三十分御出門、朝融王・信子女王と共に侯爵徳川頼倫邸の南葵文庫にお成

りになり、今般来日の英国皇太子の御召艦レナウン号に乗組の軍楽隊歓迎音楽会に臨まれ、各種演奏をお聴きになる。その後、賀陽宮邸に立ち寄られ、病氣療養中の佐紀女王をお見舞いになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、南琴音楽事業部摘要

二十一日 金曜日 午後零時三十分邦彦王・同妃侘子及び朝融王と共に御出門、明治神宮に御参拝になる。その後、代々木練兵場において神宮に奉納のため開催の相馬野馬追を御覧になる。午後四時三十分頃御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十二日 土曜日 午前、御学友佐藤貞・同母操参邸につき、邦彦王・同妃侘子及び信子女王と共に謁を賜う。近く帰嫁の佐藤貞に、良子女王より思召しをもって紅白縮緬皇后より御拝領を、邦彦王・同妃よりお祝いの品を賜い、両名よりお礼言上をお受けになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十八日 金曜日 夕刻、御学問所の終業式に臨まれる。邦彦王も出席する。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、杉浦重剛関係資料

二十九日 土曜日 皇太子のお誕生日のお祝いに招かれ、午後一時邦彦王妃侘子及び信子女王・智子女王と共に御出門、東宮仮御所にお成りになる。皇太子と御対面の後、皇族妃等と共に外苑芝生の余興場において東京大相撲を御覧になり、茶菓の御饗応を受けられる。四時三十分頃御帰還になる。○

良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、典式録、東京朝日新聞

五月

一日 月曜日 この日より御学問所において第五学年の御修学を始められる。時間割は次のとおり。

大正十一年五月

王殿下御学問所日誌、宮内省省報、官報、侯爵久邇邦久伝

十三日 土曜日 午前、朝融王の案内により自動車にて仙石原のゴルフリンクスにお成りになる。御昼餐後、自動車にて長尾峠にお成りになり、御徒歩にて峠を下りられる。引き続き仙石原を抜け、湖尻よりモーターボートにて芦ノ湖を縦断される。元箱根より上陸され、松坂屋において御休息後、自動車にて小涌谷の別邸に戻られる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十四日 日曜日 午前、邦彦王・同妃侘子及び信子女王と共に小涌谷の別邸を御発、小田原町風祭の田辺別邸にお成りになる。夕刻、同所を御発、小田原駅発の汽車にて帰京される。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、宮内省省報、官報

十六日 火曜日 今般帝室林野管理局事務官に転任の前宮内事務官^{久邇}木村英俊に謁を賜い、暇乞いを受けられる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、良子女王殿下御教授日録、宮内省省報、官報

二十日 土曜日 午後四時御出門、邦英王と共に三井男爵邸にお成りになる。庭園を御覧になった後、新粉細工等をされ、御夕餐を御会食になる。その後、余興として観世流の能「草紙洗小町」、狂言「蝸牛」等を御覧になる。九時三十分頃御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十一日 日曜日 午後一時三十分邦彦王・同妃侘子及び信子女王と共に御出門、南葵楽堂にお成りになり、三浦環による独唱をお聴きになる。四時三十分御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、南葵音楽事業部摘要

二十二日 月曜日 午後七時、邦彦王・同妃侘子、及び邦英王・信子女王と共に南葵楽堂にお成りになり、式部職による音楽会を御鑑賞になる。九時三十分過ぎ御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良

二十五日 木曜日 午前、講師杉浦重剛より修身の講義として、中江藤樹と伊藤仁齋との比較についてお聴きになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、良子女王殿下御教授日録、杉浦重剛関係資料

午後、新任の宮内事務官^{久邇}野村礼讓^{兼学習院教授}に謁を賜い、就任のお礼言上を受けられる。○良子女王殿下新御

殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、宮内省省報、官報

午後七時三十分御出門、邦彦王・同妃幌子及び信子女王と共に徳川頼貞^{侯爵徳川頼倫嗣子}邸にお成りになり、今般来日のエフレム・ジンバリストによるヴァイオリンの演奏を御鑑賞になる。十時御帰還になる。○

良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十七日 土曜日 午後一時三十分邦彦王・同妃幌子と共に御出門、麴町区富士見町の楽部にお成りになり、雅楽の演奏をお聴きになる。五時頃御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、雅楽日録、読売新聞

二十八日 日曜日 午後一時三十分御出門、朝融王・邦久王と共に南葵楽堂にお成りになり、春期音楽会を鑑賞される。五時御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、南葵音楽事業部摘要

六月

四日 日曜日 午後零時三十分御出門、赤坂離宮にお成りになり、皇族講話会春季懇親会に御臨席になる。皇太子も御臨席になり、活動写真・奇術・狂言その他各種余興が催される。五時過ぎ、御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、皇子御殿日誌、

大正十一年六月

行啓録、皇族親睦会録、宮内省省報

七日 水曜日 夜、理学士田辺尚雄より音楽に関する講話をお聴きになる。以後、十四日、十九日、二十二日の合計四回にわたり同人より講話をお聴きになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、続田辺尚雄自叙伝

十日 土曜日 潮干狩りをされるため、午前八時両国駅を御発、千葉県千葉郡幕張町に向かわれる邦彦王は自動車にて現地にお成り。御到着後、富松家にお入りになり、関係者に謁を賜う。それより向浜にお出ましになり、

立ち網のキス・カレイをお手捕りになる。ついでハマグリ・アサリをお採りになる。強風雨のため船にはお乗りにならず、海岸からお引き揚げになり、御昼餐をお召し上がりになる。午後二時同地を御発、自動車にて御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十一日 日曜日 午前、朝融王・邦久王・信子女王と硬球のテニスをされる。以後、折に触れてテニスをされる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十二日 月曜日 午後二時邦彦王・同妃侘子、及び朝融王・信子女王と共に御出門、荏原郡大崎町の公爵島津忠重邸にお成りになり、茶菓を召される。五時御帰還になる。翌十三日、久邇宮邸裏門側の島津公爵別邸にお成りになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十五日 木曜日 鳩彦王・同妃允子内親王の招待により、夕刻、邦彦王・同妃侘子、及び朝融王・信子女王と共に朝香宮邸にお成りになる。参邸の故恒久王妃昌子内親王・成久王妃房子内親王・稔彦王妃聡子内親王を交えて御晩餐を御会食になり、家庭踊り理学士田辺尚雄が西洋の社交ダンスに着想を得て作った日本的な社交舞踊をされる。○良子女王

殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、田辺尚雄自叙伝

十八日 日曜日 午後、邦彦王妃侘子及び朝融王・信子女王と共に麴町区三年町の公爵島津忠承別邸にお成りになる。鹿児島料理の御晩餐をお召し上がりになり、活動写真を御覧になる。○良子女王殿下新

御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十日 火曜日 皇太子裕仁親王と良子女王の御結婚が勅許される。この日、邦彦王より、良子女王と皇太子の結婚の勅許を仰ぐ旨の奏請書が宮内事務官久邇宮付を経て宮内大臣に差し出される。皇太子よりも同じく奏請書が東宮大夫より宮内大臣に差し出される。宮内大臣からの両件の奏請を撰政皇太子が裁可

され、各勅許書に天皇御名並びに撰政名を御署名になる。午前十一時、勅使として侍従加藤泰通が参邸し、勅許書が下される。良子女王は、邦彦王より皇太子との結婚勅許の旨をお聞きになる。

午後、邦彦王・同妃侘子はお礼言上のため参内する。夜、久邇宮邸において内宴が催され、御臨席になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、皇太子裕仁親王御婚儀の件、大正天

皇実録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

二十一日 水曜日 結婚勅許につき、この日、皇族を始め多数の参賀者と御対面になり、あるいは謁を賜う。翌二十二日も参賀者に謁を賜う。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十三日 金曜日 今般宮内省御用掛後閑菊野の息女寿賀子結婚につき、邦彦王・同妃侘子、及び良子女王・信子女王よりお祝品を下賜される。夕刻、兩名参邸につき、邦彦王・同妃侘子及び信子女王と共に謁を賜い、お礼言上をお受けになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十四日 土曜日 午後一時御出門、芝離宮にお成りになり、稔彦王妃聡子内親王主催の皇族講話会

大正十一年七月

に御臨席になる。文学博士鳥居竜蔵より有史以前の日本についての学術講話、講談師大島伯鶴より講談「桃山時代の歌合」をお聴きになる。五時、御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、皇族親睦会録、読完新聞

二十六日 月曜日 午前、国分峰久邇宮宮務監督
国分三亥夫人 参邸につき、謁を賜う。午後、侯爵松方正義内大臣 参邸につ

き、謁を賜う。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十七日 火曜日 昨日依仁親王薨去につき、午後、御学問所のピアノの稽古は休業となる。○良子女

王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、依仁親王殿下薨去の件、皇族身分録、宮内省省報、官報、依仁親王

東京市長後藤新平参邸につき、謁を賜う。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十八日 水曜日 午後三時三十分邦彦王・同妃倪子、及び朝融王・信子女王と共に御出門、東伏見

宮邸にお成りになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、皇族身分録

七月

一日 土曜日 午後、故依仁親王に永訣のため、邦彦王妃倪子・信子女王と共に東伏見宮邸にお成りになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、依仁親王殿下薨去の件、依仁親王

八日 土曜日 御学問所の終業式に臨まれる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十日 月曜日 昨九日より御不例につき、御仮床に就かれる。十二日、御床払いになる。○良子女王殿下

新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十五日 土曜日 午後、恒憲王妃敏子・佐紀子女王参邸につき、御対面になる。来る十九日に武彦王

と結婚する女王より、暇乞いをお受けになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、皇族身分録、宮内省省報、官報

二十日 木曜日 午前、邦彦王妃侘子・信子女王と共に豊島岡墓地にお成りになり、依仁親王墓所を御拝礼になる。東伏見宮邸にお立ち寄りになった後、御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

午後、井上末子侯爵井上勝之助夫人、関屋衣子宮内次官関屋貞三郎夫人 参邸につき、謁を賜う。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十二日 土曜日 夜、文学博士鹿子木員信より思想問題に関する講話をお聴きになる。○良子女王殿下新御殿日誌

二十三日 日曜日 邦彦王の誕生日につき、朝融王・邦久王を交えて御一家にて御夕餐を御会食になる。その際、勤務の高等官並びに元久邇宮宮務監督栗田直八郎、医学博士吉本清太郎に御陪食を賜う。終わって、朝融王の遠洋航海中の様子や、南葵文庫における演奏会の模様等の活動写真を御覧になる。

○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十四日 月曜日 午前、暑中お見舞いに参邸の中島敏・木内成に、謁を賜う。ついで講師依田豊・鈴木元美・竹田みち・児玉錦平参邸につき、謁を賜う。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十六日 水曜日 栃木県塩原町において御避暑のため、午後一時、邦彦王・同妃侘子及び智子女王と共に上野駅を御発、四時二十六分西那須野駅に御着、自動車にて子爵三島通陽別邸に御到着になる。

○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、宮内省省報、官報、下野新聞、邦彦王行実

大正十一年八月

二十八日 金曜日 午前、子爵三島通陽別邸を御出門、天狗岩・七つ岩・屏風岩等にお成りになり、三島通庸紀恩碑を御覧になる。ついで親抱の松より塩の湯を経て温泉湯上に進まれ、小太郎ヶ淵にお成りになる。御少憩後、玉簾滝、塩原発電所・貯水池、兄弟滝を巡られる。午後、御帰邸になる。○

良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

邦彦王の指導にて油彩画を描かれる。○良子女王殿下御学問所日誌

二十九日 土曜日 午後、邦彦王・同妃侘子と共に塩原御用邸にお成りになり、崇仁親王と御対面になる。お揃いにて地元の獅子舞を御覧になるなどしてお過ごしになった後、御帰邸になる。○良子女王

殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

三十日 日曜日 明治天皇十年式年祭につき、午前の外出をお控えになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良

子女王殿下御学問所日誌

午後、紅葉山にお登りになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

三十一日 月曜日 午前、自動車にて木の葉石^{化石の一種}の産出地にお成りになり、御見学になる。御帰途

に、塩原八幡宮に御参拝になり、境内の逆杉を御覧になる。ついで源三窟にお立ち寄りになる。○良子

女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

八月

一日 火曜日 午後、子爵三島通陽別邸より塩原御用邸にお移りになる。この日午前、崇仁親王は塩原御用邸より日光田母沢御用邸附属邸に移転する。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、宮内省

省報、官報、三笠宮崇仁親王

四日 金曜日 午後、講師高取稚成参邸につき、謁を賜う。その後、同人による御前揮毫を御覧になる。翌日夜にも同人による揮毫を御覧になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

六日 日曜日 午前、信子女王・智子女王並びに御学友と共に紅葉山にお成りになる。○良子女王殿下新御殿日誌

七日 月曜日 夕刻、塩原御用邸にお成りの朝融王と御対面になる。朝融王は八月九日に帰京する。

○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、宮内省省報

八日 火曜日 夕刻、邦彦王お成りにつき、御対面になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、宮内省省報、官報

九日 水曜日 午後、風拳の滝、竜化の滝、白雲洞、稚児ヶ淵、材木岩、五色岩、布滝等にお成りになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十一日 金曜日 午後、袖ヶ沢の万人風呂にお成りになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十二日 土曜日 午前、女子学習院長大島義脩・同夫人参邸につき、謁を賜い、御機嫌伺いをお受けになる。ついで、信子女王・智子女王と共に大島夫妻をお庭に御案内になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

午後、信子女王・智子女王と共に御学友等を伴われ、小太郎ヶ淵にお成りになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

大正十一年八月

十三日 日曜日 塩原五滝巡りのため、午前八時三十分御出門、塩湯の旅館明賀屋にて軽装にお召し替えの後、霹靂の滝・咆哮の滝にお成りになる。雷霆の滝において御昼餐をお召し上がりになった後、雄飛の滝・仁三郎の滝をそれぞれ御覧になる。午後四時頃明賀屋に立ち寄られ、御帰邸になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、下野新聞

十四日 月曜日 午前、温泉神社にお成りになり、御拝礼になる。○良子女王殿下御学問所日誌

十五日 火曜日 午前、宮内事務官^{久遠}野村礼讓参邸につき、謁を賜い、長野・新潟・福島・山形・秋

田各県を旅行後に青森県十和田湖畔に滞在中の邦久王の様子について言上をお受けになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、宮内省省報、官報

二十一日 月曜日 午前、自動車にて塩谷郡箒根村の箒川にお成りになり、在郷軍人等による鮎漁を御覧になる。河原のテント内において鮎料理の御昼餐をお召し上がりになった後、御帰邸になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、下野新聞

二十二日 火曜日 正午頃、講師土取信参邸につき、信子女王・智子女王と共に謁を賜い、御機嫌伺いをお受けになる。夜、同人より新案特許の遊具の献上をお受けになり、その用法をお聴きになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十五日 金曜日 午後、軽井沢より朝融王、仙台より邦久王、日光より邦英王お成りにつき、御家族お揃いでお過ごしになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、宮内省省報、官報

二十六日 土曜日 午後、邦彦王・同妃侘子、及び朝融王・邦久王・邦英王・信子女王・智子女王と共に自動車にて御出門、西那須野村の侯爵松方正義経営の千本松農場にお成りになる。侯爵のお出迎

えをお受けになり、御休所の前庭に引き出された馬・羊を御覧になる。降雨の恐れがあるため、農園の御巡覧をお取りやめになり、農園産のスイカ、トウモロコシの塩茹でをお召し上がりになる。夕刻、御帰邸になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十七日 日曜日 午前、邦彦王・同妃侘子、及び朝融王・邦久王・邦英王・信子女王・智子女王と共に自動車にて御出門、塩原八幡宮に御参拝になり、ついで源三窟を御覧になる。それより木の葉山の産出地にお成りになる。正午前、御帰邸になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十八日 月曜日 午後、邦彦王・同妃侘子、及び朝融王・邦英王・信子女王・智子女王と共に御出門、子爵三島通陽の案内により天狗岩に御登攀になる。紅葉山にお立ち寄りの後、夕刻に御帰邸になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十九日 火曜日 午前、子爵三島通陽の案内により、岩の湯を過ぎ、前山を登られ、芋石穿孔貝の巢の化石を産出する岩の麓まで進まれ、御採集になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

九月

四日 月曜日 午前、貝石を御採集のため、去る一日より塩原滞在中の伯爵壬生基義・同夫人篤子及びその子供たちと御一緒に化石沢にお成りになる。午後、御帰邸になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

六日 水曜日 那須湯本温泉にお成りのため、午前十時二十五分西那須野駅を御発、十時四十三分黒磯駅に御到着になる。自動車にて喰初寺に立ち寄られ、数珠割石を御覧になる。正午前、那須湯本内

大正十一年九月

湯旅館に御到着になる。御昼餐の後、湯川上流の殺生石を御覧になる。また温泉神社に御参拝になり、宝物を御覧になる。午後三時五十分旅館を御出発になり、黒磯駅を御発、西那須野駅に御着、六時前に御帰邸になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、下野新聞

七日 木曜日 午前、邦彦王妃倪子・信子女王と共に七夕祭りをされる。お三方にて御採取の細竹をお庭の芝生にお立てになり、短冊を飾り付けられ、七夕の歌や詩をお書きになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十一日 月曜日 午前、邦彦王・同妃倪子及び信子女王と共にお庭においてハツタケ狩りをされ、御昼餐と御夕餐にお召し上がりになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十二日 火曜日 午後一時二十六分邦彦王・同妃倪子及び信子女王と共に西那須野駅を御発、四時三十分上野駅に御着、五時過ぎ御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、宮内省省報、官報、邦彦王行実

十五日 金曜日 午前、宮内大臣牧野伸頭参邸につき、邦彦王・同妃倪子と共に謁を賜う。終わって、

宮内大臣は花御殿を拝見する。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十八日 月曜日 午後、御学問所の始業式に臨まれる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十九日 火曜日 この日より次の時間割にて御学修を開始される。なお、毎月およそ二回、修身は杉浦重剛が担当する。

大正十一年九月

になる。その際、勅使より邦彦王に対し、納采の御沙汰書「皇太子裕仁親王良子女王ト結婚ノ約ヲ成ス
為良子女王ニ納采ヲ行フヘキ旨御沙汰候事」及び天皇から

の幣贄洋服地、酒・鮮鯛が伝達される。また、天皇・皇后より邦彦王・同妃侘子にそれぞれ五種交魚の、皇太子

より久邇宮に五種交魚の御贈進がある。終わって邦彦王・同妃はお礼言上のため参内、ついで東宮仮御所に参殿する。十一時三十分、久邇宮邸の御霊殿において奉告祭が行われる。

午後一時三十分良子女王は小礼服を着用され、勲章を賜うの儀に臨まれ、勅使として参邸の侍従次長小早川四郎と御対面になり、勲一等に叙する旨の御沙汰及び宝冠章を拝受される。二時、勲章を佩用

されて贈劍の儀に臨まれ、皇太子の御使として参邸の東宮侍従長入江為守と御対面になり、令旨「皇太子裕仁

親王劍ヲ良子女王ニ贈ルヘキ旨御沙汰候事」及び御劍を拝受される。終わって邦彦王・同妃はお礼言上のため参内、ついで東宮仮

御所に参殿する。六時三十分、久邇宮邸において御親族を招いての宴会が催される。この日、祝賀のため講師・御学友を始め多数の者が久邇宮邸に参上する。夜、大食堂において諸員に清酒を賜う。○

良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、東宮侍従日誌、東宮職日記、東宮内舎人日記、皇太子裕仁親王御婚儀の件、

御婚儀録、東宮御婚儀録、皇族身分録、皇族叙勲録、大正天皇実録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、邦彦王行実

二十九日 金曜日 御学問所は仏語の御修学以外は臨時休業となる。この日参賀の講師杉浦重剛に謁を賜い、墨の献上をお受けになる。その他参賀者に謁を賜う。翌日も多くの参賀者に謁を賜う。○良子

女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十月

五日 木曜日 午後、漢文の講義の際、参邸の宮内大臣牧野伸顕に陪聴を差し許される。その後同人に謁を賜い、今後のお心得につき種々言上をお聞きになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、漢文御教授日録、牧野伸顕日記

六日 金曜日 午前、皇后の御使として典侍千種任子参邸につき、邦彦王・同妃倪子と共に謁を賜う。皇后より、御文庫に納めた紫絞縮緬・稚児鬘人形・硯の御贈進がある。午後、邦彦王妃と共に御出門、納采の儀後初めて参内され、天皇・皇后とそれぞれ御対面になる。御参内に当たり、天皇・皇后それぞれよりお品の御贈進がある。夕刻、御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、大正天皇実録、貞明皇后実録正本

八日 日曜日 午後、朝融王と共に東久邇宮邸にお成りになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十四日 土曜日 男爵島津忠弘御母倪子の弟 昨十三日死去につき、御学問所は休業となる。十六日も、葬儀のため休業となる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、宮内省省報、官報

十五日 日曜日 午後、邦彦王・同妃倪子と共に子爵東園基光邸を御訪問になる。ついで故依仁親王妃周子のお招きにより、東伏見宮邸を御訪問になり、先着の朝融王・邦久王と共にテニスをされる。ついで御夕餐を御会食になる。夜、御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十二日 日曜日 午後、邦彦王・同妃倪子と共に子爵東園基光邸内の新宅にお成りになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十八日 土曜日 午前十一時三十分御出門、芝離宮にお成りになり、近日渡欧予定の鳩彦王の送別会に臨まれる。演劇やお伽噺等の各種余興を御覧になり、午後五時三十分御帰還になる。○良子女王殿下

新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、宮内省省報

三十日 月曜日 故久邇宮宮務監督山田春三の妹参郎につき、謁を賜い、納采の恐悦言上及び花束の献上を受けられる。同人に対し、真綿等を賜う。○良子女王殿下御学問所日誌

午後、故依仁親王妃周子の招待により、邦彦王・同妃侘子及び朝融王と共に東伏見宮邸にお成りになり、テニスをされる。○良子女王殿下新御殿日誌

十一月

一日 水曜日 近く池田政銀侯爵池田詮政子息に婚嫁の壬生綾子伯爵壬生基義息女、御従姉に、お祝品として御召縮緬を下賜される。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二日 木曜日 杉浦梅杉浦重剛息女参郎につき、謁を賜い、今般の結婚に際してのお仕向けにつきお礼言上をお受けになる。また、父の杉浦重剛より高橋光子書の昭憲皇太后十二徳之御歌の掛物、並びに支那天

津製の筆が献上される。○良子女王殿下御学問所日誌

三日 金曜日 午後、井上末子・関屋衣子参郎につき、謁を賜う。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

四日 土曜日 午後一時信子女王と共に御出門、東伏見宮邸にお成りになる。テニスコート開きとしてテニス選手熊谷一弥等の試合開催につき、別途到着の邦彦王・同妃侘子と共に御覧になる。五時頃

御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

五日 日曜日 午前、子爵東園基光邸にお成りになり、生け花をされる。午後、男爵佐藤達次郎軟式テニスの選手を伴い参邸につき、朝融王並びに御学友と共に試合を御覧になる。夜、子爵東園基光主催の新邸開きの招宴に御参列になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

六日 月曜日 午前七時御出門、邦彦王・同妃倪子及び信子女王と共に帝国美術院展覧会にお成りになる。正午頃御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

午後九時御出門、邦彦王・同妃倪子及び信子女王と共に徳川頼貞邸の音楽会にお成りになり、ピアノ・ヴァイオリンの演奏、声楽をお聴きになる。午前零時過ぎ、朝融王も交えて御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十一日 土曜日 午後一時御出門、皇族講話会に御臨席になる。文学博士上田万年よりお国言葉についての講話をお聴きになる。また余興として、口演童話家天野雉彦による談話をお聴きになる。五時過ぎ、御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、皇族親睦会録

十二日 日曜日 午後一時御出門、邦彦王妃倪子及び邦久王・信子女王と共に新宿御苑にお成りになり、テニス等をされる。四時三十分御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十六日 木曜日 長崎まさ子久邇宮御用取扱
長崎多恵子息女に結婚祝いとして、御召縮緬を下賜される。○良子女王殿下新御殿

日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十八日 土曜日 午後、子爵東園基光邸にお成りになり、野菜皇后より
御拝領を御贈進になる。その後、東園栄子を花御殿に御案内になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

大正十一年十一月

十九日 日曜日 午前十時三十分御出門、朝香宮邸にお成りになる。故恒久王妃昌子内親王・稔彦王妃聡子内親王並びに規子女王<sup>守正王第
二王女</sup>・敦子女王<sup>博恭王第
二王女</sup>・知子女王<sup>博恭王第
三王女</sup>・参邸につき、三女王と共にテニスや舞踏等をしてお過ごしになる。午後五時三十分御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十三日 木曜日 午後、子爵東園基光邸にお成りになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十六日 日曜日 午前十一時三十分御出門、山階宮邸にお成りになり、武彦王・同妃佐紀子女王の結婚^{七月十日}披露の招宴に参列される。午餐の饗応後、講談・合奏等の余興を御覧になる。午後三時御帰還になる。○良子女王殿下御学問所日誌

二十八日 火曜日 午前七時三十分御出門、湯島聖堂構内の東京博物館にお成りになり、文部省主催の消費経済展覧会を御覧になる。ついで湯島聖堂にお成りになる。なお、昨二十七日の皇后行啓時の活動写真を御覧になる。正午過ぎ御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、貞明皇后実録正本

夕刻、花御殿内において、東京日日新聞社の主催により、活動写真「嵐」^{ユニヴァーサル映画}を御覧になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十九日 水曜日 この日、講師高取稚成より竜田川紅葉を描いた日本画が献上される。○良子女王殿下新御殿日誌

三十日 木曜日 午前十時御出門、邦彦王・同妃倪子及び信子女王と共に女子学習院にお成りになり、欧米旅行展覧会を御覧になる。引き続き常磐会バザーにお成りになり、御同級生の店においてお買い上げになる。午後一時頃御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、女子学習院五十年史伯爵三条西実義及び子息公正参邸につき、謁を賜う。○良子女王殿下新御殿日誌

十二月

一日 金曜日 御風気のため、御仮床に就かれる。御学問所は休業となる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二日 土曜日 御風気のため、御参内をお取りやめになる。この日、皇后より御使をもつて京都府・

三重県行啓のお土産品の御贈進がある。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、貞明皇后年譜

六日 水曜日 午後、御寝所において参邸の御学友二名に謁を賜い、お見舞いとして草花の献上を受けられる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

八日 金曜日 講師小野鏑之助女子学習院教授 昨七日死去につき、この日、弔問のため、御使として後閑菊野を差し遣わされる。小野は、御学問所において習字の指導に奉仕した。○良子女王殿下御学問所日誌、宮内省省報

九日 土曜日 この日、帝国在郷軍人会が機関誌『我が家』に御歌の掲載を願ひ出たため、御染筆の御歌若菜の短冊を同会に下賜される。○良子女王殿下御学問所日誌、帝国在郷軍人会三十年史

滋賀県高島郡上小川村に新たに造営された県社藤樹神社に対し、中江藤樹を題材とした御作文「吾が

敬慕する人物」を下賜される。同社は高島郡内の各町村の有志によりかねて造営が進められ、この年五月に竣工、鎮座祭が挙行される。これより先、同社創立協賛会理事長佐野真次郎^{高島郡長}は、大正十年二月十一日付の『大阪毎日新聞』の記事により、良子女王が中江藤樹を題材とする御作文を執筆されたことを知り、藤樹神社創立協賛会顧問を務める杉浦重剛を通じて、御作文を下賜された旨を久邇宮家に願ひ出る。佐野は同年二月及び四月の二回にわたり久邇宮邸に参向し、神社完成の暁に御作文を寄付する旨の御沙汰を拝受する。この年十一月、杉浦より御作文が下賜される旨の内報があり、この日、拝受のため参邸した佐野に対し、宮内事務官^{久邇宮付}野村礼讓より御作文が伝達される。○良子女王殿下

御学問所日誌、藤樹神社所蔵資料、大阪毎日新聞、藤樹神社百年史

十一日 月曜日 この日、御床払いになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十三日 水曜日 この日より御学問所が再開される。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十六日 土曜日 午後、邦彦王妃侘子と共に参内され、皇后及び故依仁親王妃周子と茶菓を共にされる。皇后より、洋服地・羽子板、製糸標本並びに縮緬染方標本を拝領される。夕刻、御退出になる。

○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十七日 日曜日 午前、朝香宮邸にお成りになり、鳩彦王妃允子内親王主催の園遊会に御出席になる。

余興として福引、運動会等が行われる。夕刻、御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

所日誌

十九日 火曜日 夕刻、御学問所の終業式が行われる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十一日 木曜日 午後、子爵東園基光邸にお成りになり、岡田三郎助・宅野田夫の揮毫を御覧にな

る。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十二日 金曜日 午前、京都より智子女王帰還につき、午後にかけて御対面になる。夜、参邸の大谷光暢・同妹忠子を交え、東本願寺の布教、皇后の東本願寺行啓等の活動写真を御覧になる。○良子女

王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、宮内省省報、官報

二十三日 土曜日 午後、閑院宮主催の皇族講話会に御臨席になる。陸軍騎兵中佐建川美次より英仏両国の近況についての講話をお聴きになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十四日 日曜日 午後、テニス選手熊谷一弥参邸につき、邦久王・信子女王・智子女王と共に同人をお相手としてテニスをされる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十五日 月曜日 午前九時御出門、邦彦王・同妃倪子、及び信子女王・智子女王と共に東京帝室博物館にお成りになる。東京帝国大学教授滝精一より実物講話として、展示品の仏像について説明をお聴きになる。約一時間の後、御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十六日 火曜日 午前十時御出門、男爵島津忠備御母邦彦王妃の弟邸の科学普及館にお成りになる。正午過ぎ御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

従来下賜されてきた良子女王の御教育その他の費用御補助金は、今般フランス語並びに美学御修得のため、増額される。○皇親録

二十九日 金曜日 午前、子爵東園基光邸にお成りになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

午後一時四十分御出門、邦彦王・同妃倪子、及び信子女王・智子女王と共に神奈川県国府津にお成り

大正十二年一月

になり、子爵相馬孟胤邸にお入りになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、宮内省省報、官報
三十一日 日曜日 午前、国府津の市街を見物される。夕刻、邦久王参邸につき、御家族と御一緒に
歳末のお祝御膳をお召し上がりになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、宮内省省報、官報

大正十二年（西曆一九二三年） 二十歳

一月

一日 月曜日 神奈川県国府津の子爵相馬孟胤邸において、邦彦王^{御父}・同妃侘子^{御母}、及び邦久王^{御兄}・信
子女王^{御妹}・智子女王^{御妹}と共に新年をお迎えになる。午後、久邇宮職員一同より祝詞言上をお受けになる。

○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、侯爵久邇邦久伝

二日 火曜日 午後、久邇宮宮務監督国分三亥・宮内事務官^{久邇宮付}野村礼讓より祝詞言上をお受けにな
る。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

三日 水曜日 午前、御学友中村貞^{旧姓佐藤}・平山信より年賀の挨拶をお受けになる。以後、この年も随時、
御学友・御同級生^{学習院女学部同級生}に謁を賜う。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、宮内省省報

四日 木曜日 午前十時四十分御泊所子爵相馬孟胤邸を御出門、国府津駅において東京より参着の邦

英王^{御弟}と御一緒になり、それより箱根湯本の岩崎小弥太の別荘にお成りになる。午後五時頃、御泊所の子爵相馬孟胤邸に御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

元久邇宮宮務監督栗田直八郎^{朝香宮宮務監督}より祝詞言上をお受けになる。以後、この年も随時、元奉仕者の拝謁等がある。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

五日 金曜日 午前、故子爵竹内惟忠夫人絢子^{御父邦彦王の姉}・同子女の惟斌・千代子が来邸する。続いて皇族付武官陸軍歩兵中佐梅沢銀造、伯爵壬生基義・同夫人篤子^{御父邦彦王の妹}・同子女の綾子・基泰等と御昼餐を御会食になる。以後、この年も皇族・御親族と随時、御対面・御会食になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

六日 土曜日 午後、法学博士松岡均平と御昼餐を共にされる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

七日 日曜日 一同にて国府津停車場付近の山際までお成りになり、京都に帰還する智子女王をお見送りになる。なお、東京より到着の宮内次官関屋貞三郎・宮内事務官^{久邇宮付}野村礼讓も共に見送りをする。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、宮内省省報

八日 月曜日 午後、邦彦王・同妃侃子及び信子女王と共に帰京される。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、宮内省省報、官報

九日 火曜日 午後、子爵東園基光邸にお成りになる。夕方、御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

大正十二年一月

十一日 木曜日 午後、朝融王^{御兄}を見舞うため参邸した酒井夏子^{故伯爵酒井忠興夫人}・同息女菊子^{朝融王の婚約者}と御一緒にお過ごしになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十二日 金曜日 午前九時三十分御出門、邦彦王・同妃倪子と共に葉山御用邸にお成りになる。天皇・皇后と御対面になり、お品を拝領する。夕方、御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十三日 土曜日 午後、御学問所の始業式に臨まれる。時間割は従前のおりで、授業は十五日より開始される。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

東園栄子^{子爵東園基愛夫人、御父邦彦王の姉}・竹内絢子・壬生篤子を招待しての新年宴会に臨まれる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十八日 木曜日 午後、肖像画の作成のため参邸した洋画家岡田三郎助^{東京美術学校教授}に謁を賜う。翌十九日

午前にも同人に謁を賜い、午後二時前まで肖像画作成のためモデルを務められる。岡田は、引き続き二十日午前、二十一日午前にも参邸し、肖像画の作成を行う。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十日 土曜日 午後一時三十分御出門、芝離宮にお成りになり、山階宮主催の皇族講話会に御臨席になる。東京市助役前田多門より社会事業についての講話をお聴きになる。午後四時三十分頃、御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、山階芳麿の生涯、読売新聞、東京朝日新聞

二十一日 日曜日 午前十一時御出門、年始につき竹田宮邸・朝香宮邸・東伏見宮邸にお成りになる。

その際、朝香宮邸において御昼餐をお召し上がりになり、また紀久子女王御父邦彦王の弟
鳩彦王の王女の居室において

暫時お過ごしになる。ついで東伏見宮邸にお成りのところ、留守につき、玄関までのお立ち寄りのみにて、五時頃御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

夜、邦彦王・同妃侘子以下一同と共に、久邇宮職員の家族に謁を賜う。また、御夕餐を賜い、活動写真の陪観を許される。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十二日 月曜日 午後三時御出門、邦彦王・同妃侘子及び信子女王と共に米国大使館にお成りになり、音楽会に御臨席になる。六時頃御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十四日 水曜日 午後一時三十分御出門、袖ヶ崎の島津公爵邸にお成りになり、霊舎に御参詣になる。三時過ぎ御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十八日 日曜日 この日、邦久王の成年式が行われる。夕刻より久邇宮邸において祝宴があり、御参列になる。祝宴には皇族・御親族等約五十名が参加する。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、宮内省省報、官報、侯爵久邇邦久伝

三十日 火曜日 午後、花御殿において、宮内次官関屋貞三郎夫人衣子に茶菓を賜う。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二月

一日 木曜日 午後、翌二日より鎌倉に滞在する東園栄子・同愛子基愛の
息女と御対面になり、暇乞いをお受けになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

三日 土曜日 午後二時御出門、東京音楽学校にお成りになり、国民教育奨励会主催の音楽会に御臨席になる。会場において故菊麿王妃常子と御対面になる。御学友二名も陪聴する。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

四日 日曜日 この日、貞愛親王が紀尾井町の伏見宮本邸において薨去する。親王の薨去に伴い、この日より八日まで五日間の宮中喪が発せられる。また、邦彦王は九十日服喪する。

貞愛親王は安政五年四月二十八日、邦家親王第十四王子御祖父朝彦親王の弟として誕生、明治四年親王宣下を受け、翌年伏見宮を継承した。陸軍軍人として累進し、三十七年陸軍大将に任じられ、大正四年元帥府に列せられ、元帥の称号を拝受した。明治三十六年の彰仁親王薨去後は皇族中筆頭の長老として重んじられ、大正天皇の踐祚に当たっては特に師佐の勅語を拝受した。享年六十六。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、墓誌銘録、宮内省省報、官報、貞愛親王事蹟

六日 火曜日 貞愛親王薨去につき、午後二時三十分御出門、伏見宮邸にお成りになり、御拝礼になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十三日 火曜日 この週より美術講話が火曜日・木曜日の二回行われることとなり、文学博士滝精一東京帝国大学教授より講話通算第十回をお聴きになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十四日 水曜日 故貞愛親王の国葬につき、午前六時三十分御出門、紀尾井町の伏見宮邸にお成りになる。九時、靈柩が豊島岡墓地の祭場に向けて宮邸を発するのをお見送りになり、同四十分、御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、宮内省省報、貞愛親王事蹟

十七日 土曜日 故熾仁親王妃董子去る七日薨去につき、午後二時三十分御出門、弔問のため、有栖

川宮邸にお成りになる。三時過ぎ御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十八日 日曜日 邦彦王・同妃侘子が、故熾仁親王妃董子の葬儀に参列するため熱海より帰京する。

良子女王はお側にてお手伝いをされる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十二日 木曜日 午後、講師ジュリー・モレルよりフランス語の指導をお受けになる。その後、フ

ランス語御学習の模様を御覧になるため参邸した故依仁親王妃周子と茶菓を共にされる。○良子女王殿下

新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十三日 金曜日 邦彦王・同妃侘子が、故熾仁親王妃董子の斂葬の儀に参列するため熱海より帰京

する。良子女王は豊島岡墓地へ出発する王・同妃をお見送りになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿

下御学問所日誌

二十五日 日曜日 京都より帰京した宮内事務官^{久邇宮付}野村礼讓に謁を賜う。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

女王殿下御学問所日誌

二十八日 水曜日 午後一時三十分、皇后の御使として典侍千種任子が参邸する。同人を通じて、皇

后より友禪・縮緬・七宝花瓶の御贈進がある。また、特別の思召しとして菓子^のの御贈進がある。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

元久邇宮宮務監督栗田直八郎に謁を賜う。これより先、栗田に染筆画を賜い、同人はお礼言上のため

に参邸した。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

大正十二年三月

三月

四日 日曜日 午前、紀久子女王・湛子女王と御一緒にお過ごしになる。午後、宮内次官関屋貞二郎夫人衣子と共に参邸した子女五名も加わり、御一緒にお過ごしになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

六日 火曜日 満二十歳のお誕生日を迎えられる。

久邇宮家喪中につき、お祝いは延期となる。この日、久邇宮邸内の霊舎に御参拝になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十日 土曜日 邦久王の誕生日につき、お祝いをお申し入れになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十六日 金曜日 午前、新築御殿の上棟式が行われる。邦彦王が喪中のため、良子女王、及び邦彦王・同妃倪子以下は参列をお取りやめになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十七日 土曜日 この日、お礼言上のため参邸した依田豊に謁を賜う。その際、依田にお手ずからお品を賜う。なお、昨十六日には、約一年の予定をもって欧米に出張する同人に金一封を賜う。○良子女王殿下御学問所日誌

二十一日 水曜日 午後、御学問所の終業式に臨まれる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十二日 木曜日 午前、東園子爵邸にお成りになる。○良子女王殿下新御殿日誌

参邸の故依仁親王妃周子・邦英王と御昼餐を御会食になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

午後一時三十分頃より久邇宮邸においてテニスコート開きが行われ、皇族・御親族が参邸する。テニス選手の熊谷一弥・福田雅之助が招かれ、お相手をする。良子女王は参邸の皇族等と共に参加される。

○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十三日 金曜日 午後、故依仁親王妃周子が輔導のため参邸する。続いて、お招きにより井上末子侯爵井上勝之助夫人等が参邸する。御対面の後、庭や花御殿等を御案内になり、また独唱等を披露される。その後、お茶を共にされるなどして、一同をおもてなしになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

六時十五分頃、東園栄子の招きにより信子女王と共に東園子爵邸にお成りになり、御夕食を御会食になる。九時過ぎ御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十四日 土曜日 午後一時十分頃御出門、芝離宮にお成りになり、久邇宮主催の皇族講話会に御臨席になる。文学博士沢柳政太郎より「最近欧米教育ト我国教育トノ比較」と題する講演をお聴きになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十五日 日曜日 午前、邦久王・信子女王と共にテニスをされる。テニス選手熊谷一弥が参邸し、指導する。松平直国もお招きになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十八日 水曜日 午後、朝香宮邸にお成りになり、敷地内で摘み草を行われる。朝香宮宮務監督栗田直八郎元久邇宮宮務監督より御機嫌伺いをお受けになる。四時三十分頃御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十九日 木曜日 午前九時三十分御出門、信子女王と共に上野の東京帝室博物館にお成りになる。

文学博士滝精一より説明を受けられながら、仏画及び絵巻物を御覧になる。先着の御学友等がお供す

大正十二年四月

る。午後零時三十分頃御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

夜、欧米出張のため出発する依田豊のお見送りのため、後閑菊野を東京駅に差し遣わされる。○良子女

王殿下御学問所日誌

三十日 金曜日 久邇宮家喪中のため、信子女王の誕生日のお祝いは延期となる。この日、信子女王

と共に霊舎に御参拝になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

三十一日 土曜日 午後二時三十分御出門、東伏見宮邸にお成りになる。学習院初等科を卒業した邦英王の恩賜品等を御覧になる。夕刻、テニス選手熊谷一弥と共に、テニスをされる。十時御帰還にな

る。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

四月

二日 月曜日 昨日に成久王がフランス国において自動車事故により薨去し、同妃房子内親王・鳩彦王が重傷を負ったとの報が入り、皇后の思召しをお伺いの上、この日予定されていた御参内をお取りやめになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、皇族身分録、宮内省省報、官報

三日 火曜日 この日より三日間の宮中喪が発せられる。このため女子学習院等へのお成りは当分見合わせとなる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

伯爵大谷光演・同子女光暢・忠子が参邸する。邦彦王・同妃侘子、及び邦久王・信子女王と共に御対面になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

七日 土曜日 午後、お見舞いのため、朝香宮邸にお成りになる。○良子女王殿下御学問所日誌

八日 日曜日 午後、文学博士滝精一の説明により、井上侯爵家・岩崎男爵家が所蔵する約三十点の日本画・支那画を御覧になる。御学友のほか、宮内省や博物館の関係者等約二十名が陪観する。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十二日 木曜日 この日、宮内省より、皇太子との御成婚期が十一月下旬に内定した旨が発表される。

○良子女王殿下御学問所日誌、官報

十四日 土曜日 午後、御学問所の始業式に臨まれる。今学期の時間割は次のとおりとなる。

月	火	水	木	金	土	自九時	午	前	自一時	午	自二時
						自十時			自十一時		自一時
仏語モレル	仏語モレル	仏語モレル	漢文	漢文	仏語モレル			和歌	諸講話		体操
			絵画	絵画	絵画			仏語見玉	仏語モレル		音楽
								仏語モレル	音楽		

諸講話の時間には、当分の間、大島義脩による人文講話が行われることとなる。また、杉浦重剛による修身の授業は、毎月一回木曜日の第一時限に、漢文に代わり行われることとなる。○良子女王殿下新御

大正十二年四月

殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十五日 日曜日 午前十時御出門、邦彦王・同妃幌子及び信子女王と共に、麴町区平河町の邦久王の

新邸川崎別邸を
一時借用にお成りになり、御昼餐を御会食になる。午後二時御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、

良子女王殿下御学問所日誌、侯爵久邇邦久伝

午後、御殿内に陳列の古代土器を御覧になり、太田天洋の説明をお聴きになる。○良子女王殿下新御殿日誌、

良子女王殿下御学問所日誌

十八日 水曜日 皇后の御不例により、この日予定されていた御参内がお取りやめになる。二十日に

は、お見舞いのため後閑菊野を宮城御内儀に遣わされる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、

供御日録

十九日 木曜日 午前、御学問所において、杉浦重剛より修身の授業をお受けになる。この日は、こ

の度の御旅行先における勤王家の事蹟についてお聞きになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問

所日誌、良子女王殿下御教授日録

二十日 金曜日 女子学習院教授辞職につき、挨拶及び御機嫌伺いのため参邸した中島敏に謁を賜う。

なお、中島は「さと」と改名の上、引き続き講師として奉仕する。○良子女王殿下御学問所日誌、宮内省省報

二十一日 土曜日 午前七時三十分御出門、邦彦王・同妃幌子と共に、上野竹の台において開催の仏

蘭西現代画展覧会にお成りになる。続いて美術協会にお成りになり、絵画を御巡覧になる。御学友が

陪観する。同所にて御昼餐の後、午後一時御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

午後二時三十分御出門になり、東伏見宮邸にお成りになる。宮邸にはフランス国・ベルギー国の特命

全権大使夫人及びその息女、フランス語講師ジュリー・モレルが招かれる。御交際の稽古のため、大使夫人等をお相手に御会話になり、また庭の御散策、茶菓の饗応などをされる。邦英王も途中より同席する。五時頃御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十二日 日曜日 この日、信子女王と共に、東園子爵邸にお成りになる。○良子女王殿下御学問所日誌

二十四日 火曜日 午前十時二十分御出門になり、参内され、皇后の御機嫌を奉伺される。十一時三十分頃御退出になり、御帰還になる。なお、参内に先立ち、故依仁親王妃周子が参邸する。○良子女王

殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、大森鍾一関係資料

二十七日 金曜日 午後八時三十分御出門、徳川頼貞邸にお成りになり、ヨゼフ・ホルマンチェロ奏者の演奏

をお聴きになる。午前零時過ぎ御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌

二十八日 土曜日 朝香宮宮務監督栗田直八郎元久運宮宮務監督より、鳩彦王妃允子内親王明治天皇第八皇女の渡欧に随行す

る暇乞いをお受けになる。○良子女王殿下新御殿日誌、宮内省省報

二十九日 日曜日 午後六時、故依仁親王妃周子の招宴に御臨席のため、邦彦王・同妃侘子及び信子女王と共に東伏見宮邸にお成りになる。また、近く渡欧の鳩彦王妃允子内親王に御挨拶をされるため、信子女王と共に朝香宮邸にお成りになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、官報

三十日 月曜日 午前、久邇宮邸において開催のテニス会に、朝融王・邦久王・信子女王と共に参加される。熊谷一弥がお相手となり、観客として公爵島津忠承・松平直国・子爵竹内惟斌、御学友二名が参邸する。正午より、テント内において立食の饗応が催される。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御

学問所日誌

大正十二年四月

大正十二年五月

この月 この度の御慶事につき、久邇宮における費用御補助のため天皇から賜金があり、この月より翌十三年一月までの間、三回に分けて下賜される。また、昨年秋の御婚儀勅許の前後以降の久邇宮における経費膨張を受け、今後御慶事が行われるまでの不足分を見込み、翌五月の御旅行費と併せて別途賜金がある。○皇親録、東宮御婚儀録

五月

二日 水曜日 午前、東京音楽学校卒業生の早川みな・松本芳江、及び同校教授ハンカ・シエルデルツプ・ペツォルトが参邸する。松本のピアノ演奏、早川及びペツォルトの独唱等をお聴きになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

四日 金曜日 この日より、邦彦王・同妃侘子及び信子女王と共に三重・奈良両県下、京都府下並びに四国・九州地方を御旅行になる。邦彦王の、大日本武徳会及び同仁会の総裁としての職務を兼ねた地方実地視察のための旅行であり、良子女王始め御家族はこれに御同伴になる。午前九時三十分東京駅発の汽車に御乗車になり、午後九時十一分三重県の山田駅にて御降車になる。御泊所の神宮祭主官舎に御到着になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、宮内省省報、官報、良子女王殿下御一行御来高之記、邦彦王行実

五日 土曜日 午前八時三十分邦彦王・信子女王と共に御泊所の神宮祭主官舎を御出発になり、豊受大神宮^外に向かわれる。良子女王は、二の鳥居より徒歩にて内玉垣御門敷下に進まれ、御拝礼になる。

その後、豊受大神宮を御出発になり、皇大神宮^内に向かわれ、同様に御拝礼になる。終わって神楽殿

まで退下される。その際、神楽殿では大々神楽が奉納される。十一時御泊所に御帰還になる。

午後零時三十分邦彦王・同妃倪子及び信子女王と共に御泊所を御出発、五十鈴川沿岸に設けられた天幕にお成りになる。同所において、慶光院盈子^{御父邦彦王の姉}等と共に、式年遷宮に伴う御用材の御木曳を御

覧になる。一時過ぎ御退場になり、二見町の二見浦に向かわれる。夫婦岩を御覧になり、ついで賓日館に立ち寄られ、御休憩になる。それより鳥羽町に向かわれ、樋の山の頂上にお成りになる。下山後、如雪園にお立ち寄りになり、五時三十分、御泊所の神宮祭主官舎に御帰還になる。○良子女王殿下新御殿

日誌、良子女王殿下御学問所日誌、良子女王殿下御一行御来高之記、邦彦王行実、大正十八年神宮式年御造管御用財奉曳誌

六日 日曜日 朝、御泊所の神宮祭主官舎を御出門、午前七時四十五分山田駅発の汽車に御乗車になり、奈良に向かわれる。三重県知事柴田善三郎夫妻、伯爵三条西実義、慶光院盈子等が奉送する。午後一時十六分奈良駅にて御降車、神武天皇陵・橿原神宮にお成りになり、それぞれ御参拝になる。終わって奈良駅より御乗車になり、六時二十八分京都駅にて御降車になる。駅にて智子女王等のお出迎えをお受けになった後、御泊所である荒神口久邇宮別邸に御到着になる。その後、多嘉王^{御父邦彦王の弟}・同妃静子・王子女、並びに山田より参着の慶光院盈子と御対面になり、久邇宮家令角田敬三郎等に謁を賜う。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、良子女王殿下御一行御来高之記、邦彦王行実

七日 月曜日 午前九時三十分、邦彦王・同妃倪子及び信子女王と共に御泊所である荒神口久邇宮別邸を御出門、明治天皇陵・昭憲皇太后陵にお成りになり、御参拝になる。続いて泉涌寺にお成りになり、泉山御陵、ついで朝彦親王墓に御拝礼になる。終わって御泊所に御帰還になる。

午後二時三十分御泊所を御出門、邦彦王妃倪子及び信子女王・智子女王と共に聖護院別邸にお成りに

大正十二年五月

なる。後刻、大日本武徳会より帰還の邦彦王も参邸する。五時、御泊所である荒神口久邇宮別邸に御帰還になる。なお、久邇宮家令角田敬三郎に御絵及びお品を賜う。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、良子女王殿下御一行御来高之記、邦彦王行実

八日 火曜日 朝、御泊所である荒神口久邇宮別邸を御出門、午前七時五十分京都駅発の汽車に御乗車になる。午後三時四十分岡山県宇野駅にて御降車になった後、宇野棧橋より厳島丸に御乗船になり、香川県の高松棧橋に向かわれる。高松棧橋にて御下船になり、御泊所披雲閣旧高松城の一角にある伯爵松平頼寿別邸に御到着になる。御夕餐後、玉藻廟社務所にお成りになり、高松市民等による奉迎の提灯行列を御覧になる。○

良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、良子女王殿下御一行御来高之記、邦彦王行実、良子女王御巡遊画報

九日 水曜日 午前七時二十分、邦彦王妃倪子・信子女王と共に御泊所披雲閣を御出発になり、高松棧橋より厳島丸に御乗船になり、小豆島に向かわれる。丸金醤油株式会社が特設した棧橋にて御下船になり、苗羽村の同社を御訪問になる。醤油製造の実況を社長木下忠次郎の説明により御覧になる。

ついで遊仙橋に向かわれ、同所より徒歩にて新緑や奇岩を御覧になりつつ、寒霞溪を進まれる。紅葉亭にて御少憩になった後、山駕籠にお乗りになり、山頂に向かわれる。山頂にて御昼餐の後、下山され、草壁小学校を御訪問になる。御少憩の後、校庭にマツをお手植えになる。ついで草壁港より鉄道省の汽船にお乗りになり、志度港に向かわれる。同所にて御下船の後、志度寺にお成りになり、宝物館を御覧になった後、お手植えをされる。終わって、六時十分御泊所披雲閣に御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、良子女王殿下御一行御来高之記、邦彦王行実、小豆郡誌第一続編、志度町史、内海

町史

十日 木曜日 午前七時三十分、御泊所披雲閣を御出発になり、栗林公園にお成りになる。庭園を巡覧され、ついで商品陳列所を御見学になる。それより掬月亭にて休憩を取られ、マツをお手植えになる。ついで表誠館にお成りになり、館内を御覧になる。続いて県会議事堂において開催の連合婦人会に臨まれる。それより県棧橋に向かわれ、同所より厳島丸にお乗りになり、坂出町に向かわれる。途中の海上において鯛網漁瀬戸内海における伝統漁法を御覧になる。坂出港にて御下船になり、塩田を御覧になった後、午後一時、鎌田共済会の図書館に御到着になる。それより香風園にお成りになり、御休所翠松閣において御少憩の後、建物前に設けられた天幕内において御昼餐をお召し上がりになる。香川県知事佐々木秀司・同夫人等が陪食する。園内を御巡覧の後、図書館前の南庭においてマツをお手植えになる。終わって、図書館内において会頭鎌田勝太郎に謁を賜い、続いて久米通賢・平賀源内の遺品、県内中等学校及び小学校児童の成績品展示を御巡覧になる。館内にて御昼餐の後、崇徳天皇陵に向かわれ、御拝礼になる。その後、白峰山の山上で念仏踊りを御覧になる。六時三十分、御泊所披雲閣に御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、財団法人鎌田共済会所蔵資料、良子女王殿下御一行御来高之記、鎌田共済会要覧、鎌田共済会雑誌、香川県教育会五十年史、淡翁鎌田勝太郎伝

十一日 金曜日 御出発前、マツをお手植えになる。昨夜来の降雨のため、予定を一時間遅らせ午前八時、御泊所披雲閣を御出発になり、屋島山麓から新談古嶺に向かわれる。御到着の後、昨年皇太子が行啓の際、お野立所とされた亭にて御少憩になり、前方の飯野山讃岐富士を望まれる。なお香川県知事佐々木秀司の請願により、邦彦王はこの亭を遊鶴亭と命名する。ついで、談古嶺において同県社会主事より源平古戦場に関する講話をお聴きになった後、屋島寺を御見学になる。終わって、高松駅に向

かわれ、御乗車になる。午後零時三十分過ぎ、琴平駅にて御降車になり、それより金刀比羅宮の社務所にお成りになる。ついで本宮に御参拝になる。その後、社務所にて御昼餐をお召し上がりになる。なお、金刀比羅宮御訪問に際し、この年新造の図書館を御見学になる。また、マツをお手植えになる。御訪問を終えて、善通寺偕行社、善通寺にお成りになる。善通寺においては、岡田梶太郎・同母かめ軍国美談「太郎やあい」の主人公兵士一太郎とその老母のモデルに御会釈を賜う。また、記念のお手植えがある。続いて丸亀聖蹟記念館を御訪問になる。この際、記念のお手植えがある。その後、丸亀駅より高松駅を経て、六時御泊所披雲閣に御帰還になる。その後、伯爵松平頼寿主催の御夕餐に臨まれる。

この日、良子女王は大島診療所に御使を差し遣わされ、菓子料を賜う。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、良子女王殿下御一行御来高之記、邦彦王行実、昭和十二年統計年報、金刀比羅宮風光図会、かめ女の遺影、六大新報

十二日 土曜日 午前七時、御泊所披雲閣を御出発になり、汽船にて高松港より岡山県の宇野港に向かわれる。同港にて御下船の後、宇野駅より岡山駅を経て、後楽園に向かわれる。御到着後、同仁会有功章親授式に臨席する邦彦王とお別れになり、同所にて御昼餐をお召し上がりになる。後刻、親授式より帰還の邦彦王と共に、岡山駅にて御乗車になる。午後六時二十六分京都駅にて御降車になり、御泊所の荒神口久邇宮別邸に御到着になる。なお、呉軍港碇泊中の軍艦伊勢に帰艦する朝融王が東京より参邸する。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、宮内省省報、良子女王殿下御一行御来高之記、邦彦王行実

十三日 日曜日 朝、御泊所の荒神口久邇宮別邸を御出発になり、邦彦王・同妃侘子、及び朝融王・

信子女王・智子女王と共に、午前八時四十五分京都駅発の汽車に御乗車になり、兵庫県三ノ宮駅にて御降車になる。正午、大阪商船株式会社所属の「ばいかる丸」にて神戸港を御出発になり、福岡県の門司に向かわれる。船内では甲板において遊戯に興じられ、また御学友にお手紙を認められるほか、船内各室を御見学になるなどしてお過ごしになる。なお、朝融王・智子女王は門司まで同道する。○

良子女王殿下御学問所日誌、良子女王殿下御一行御来高之記、邦彦王行実

十四日 月曜日 午前八時、福岡県門司港にて御下船になる。その後、邦彦王・同妃侘子及び信子女王と共に第十二師団司令部、八幡製鉄所を御視察になる。終わって八幡駅より東郷駅を経て、宗像大社にお成りになる。同社に御参拝になった後、東郷駅より博多駅を経て、福岡市内の西公園にお成りになり、ついで西新町に残る元寇防塁を御覧になる。続いて福岡県女子師範学校において神功皇后駐輦の遺跡等を巡覧された後、午後六時御泊所の黒田侯爵別邸に御到着になる。○良子女王殿下御学問所日誌、

良子女王殿下御一行御来高之記、邦彦王行実、八幡市史

十五日 火曜日 午前八時、御泊所の黒田侯爵別邸を御出発になる。初めに香椎宮にお成りになり、御拝礼になる。また、香椎高等女学校にお立ち寄りになる。ついで筥崎宮にお成りになり、御拝礼になる。続いて九州帝国大学にお成りになり、同大学総長真野文二の案内により工学部・医学部附属医院等を御視察になる。医学部内において御昼餐の後、本館前庭においてイチョウをお手植えになる。その後、太宰府神社太宰府天満宮に御参拝になる。終わって都府楼跡を御覧になり、ついで商品陳列所にお立ち寄りになる。午後六時、御泊所の黒田侯爵別邸に御帰還になる。○良子女王殿下御学問所日誌、良子女王殿下

御一行御来高之記、邦彦王行実、糟屋郡教育銘鑑、九州帝国大学一覽、九大広報

大正十二年五月

この日、御名代として宮内省御用掛後閑菊野を福岡県立女子専門学校に差し遣わされる。○良子女王殿下御学問所日誌

十六日 水曜日 朝、御泊所の黒田侯爵別邸を御出発になる。午前七時三十四分博多駅発の汽車に御乗車になり、久留米駅に向かわれる。久留米駅にて御降車になり、第十八師団司令部にお成りになる。

同師団偕行社において御少憩になった後、マツをお手植えになる。ついで商業会議所にお立ち寄りの後、久留米城跡を見学される。ついで久留米駅より御乗車になり、午後零時四十三分熊本駅にて御降車になり、熊本市黒髪^{改良}の御泊所細川侯爵別邸に御到着になる。午後二時、御泊所を御出発、第六師団司令部・水前寺成趣園を御訪問になる。その後、熊本県蚕業試験場を場長大櫛平三郎の案内にて御視察になり、苗箱にクワ^{改良}の種子をお手播きになる。ついで本妙寺を御訪問になった後、御泊所の細川侯爵別邸に御帰還になる。○良子女王殿下御学問所日誌、良子女王殿下御一行御来高之記、邦彦王行実、日本蚕業史、大櫛平三郎先生伝、久留米市誌、郷土資料

十七日 木曜日 朝、御泊所の細川侯爵別邸を御出発、午前八時二十五分熊本駅発の汽車に御乗車になり、鹿児島県に向かわれる。午後三時二十七分鹿児島駅に御到着になり、御降車の後、吉野村の御泊所島津公爵別邸^磯に御到着になる。○良子女王殿下御一行御来高之記、邦彦王行実

十八日 金曜日 午前九時、御泊所の島津公爵別邸^磯を御出発になり、鶴嶺神社に御参拝になる。ついで島津家の清水墓所・長谷場墓所^{島津家菩提寺の福昌寺跡、歴代当主を始めとする墓の在所}・常安墓所^{公爵島津忠義等の墓の在所}にそれぞれ参詣された後、鹿児島市内の松原神社・照国神社に御参拝になる。それより御陵を御遙拝になる。余興場にて武者行

列を御覧になった後、商品陳列所にお立ち寄りになり、ついで鹿児島市内の公爵島津忠承別邸玉里邸にお成りになる。同所にて御昼餐の後、学生運動会場にお成りになり、鹿児島県青年団員の国民体操等を御覧になる。ついで城山にお成りになる。西南戦争当時の状況について説明をお聞きになり、西郷隆盛洞窟・西郷隆盛終焉の地を御見学になる。続いて南洲神社に御参拝になり、ついで鹿児島市教育参考館を御見学になる。午後四時四十五分、御泊所島津公爵別邸磯邸に御帰還になる。○良子女王殿下御学問所日誌、良子女王殿下御一行御来高之記、邦彦王行実

十九日 土曜日 午前九時、御泊所島津公爵別邸磯邸を御出発になり、棧橋より御乗船、桜島にお成りになる。桜島より棧橋に戻られた後、尚古集成館を御見学になり、正午、御泊所に御帰還になる。

午後、再び御泊所を御出発になり、鹿児島地方専売局、及び鶴嶺高等女学校・鹿児島県立女子師範学校・同第二高等女学校始め鹿児島市内を御覧になり、三時四十分、御泊所島津公爵別邸磯邸に御帰還になる。○良子女王殿下御学問所日誌、良子女王殿下御一行御来高之記、邦彦王行実、良子女王御巡遊画報、鹿児島県史

二十日 日曜日 午前八時三十分御泊所島津公爵別邸磯邸を御出門、鹿児島駅より宮崎県の高原駅を経て、狭野神社宮崎神宮別宮にお成りになる。同社に御参拝の後、モミをお手植えになる。午後二時十五分高原駅を御出発になり、都城駅を経て、島津荘島津家先祖の領地跡内の早水神社に御到着になり、境内の休憩所にて周囲を御展望になる。ついで神柱神社境内にある九臯殿にお成りになり、島津久寛・同久家の写真等を御覧になった後、モミをお手植えになる。物産陳列所を御覧になり、その後、戊辰戦争に従軍した者等に御会釈を賜い、都城駅より御乗車、五時四十三分宮崎駅に御到着になり、御下車の後、御泊所の

大正十二年五月

紫明館に御到着になる。○良子女王殿下御学問所日誌、良子女王殿下御一行御来高之記、邦彦王行実、大正に於ける都城島津家日誌、北諸県郡行啓誌

二十一日 月曜日 午前七時四十分御泊所の紫明館を御出発、邦彦王・同妃侘子及び信子女王と共に宮崎神宮にお成りになる。同社に御参拝になり、鶴戸神宮を遙拝される。なお、御参拝に当たり、オガタマをお手植えになる。ついで青島にお成りになり、島内を見学される。この際、青島神社にてマツをお手植えになる。終わって御泊所にお戻りになる。

正午、御泊所を御出発、宮崎駅より延岡駅を経て、途中徒歩にて宗太郎峠を越えられ、大分県の重岡に到着される。重岡駅より別府駅を経て、御泊所の和田豊治別邸に御到着になる。○良子女王殿下御学問所日誌、良子女王殿下御一行御来高之記、邦彦王行実、郷土の神社

二十二日 火曜日 御泊所和田豊治別邸の近傍を御散策になる。別府町内の海地獄・坊主地獄・血の池地獄などを御巡覧になった後、温泉熱を利用した照波園孵卵場を御視察になる。商品陳列場を御訪問の後、別府公園において体操を御覧になる。夜には、御泊所において余興として鶴崎踊りを御覧になる。○良子女王殿下御学問所日誌、良子女王殿下御一行御来高之記、邦彦王行実、良子女王御巡遊画報、鶴崎おどり沿革史、最新別府案内、大分県警察史

二十三日 水曜日 夕刻、御泊所の和田豊治別邸を御出門、麻生太吉別邸にお成りになる。池上秀畝による御前揮毫、書画幅等を御覧になる。ついで御晚餐を御会食になる。午後九時頃、御泊所の和田豊治別邸に御帰還になる。○良子女王殿下御学問所日誌、良子女王殿下御一行御来高之記

二十四日 木曜日 朝、御泊所の和田豊治別邸を御出門、午前七時二十九分別府駅発の汽車に御乗車

になり、宇佐駅にて御降車になる。それより宇佐神宮に御参拝になり、宮司より和氣清麻呂に関する説明をお聞きになる。宇佐駅より門司駅を経て、船にて関門海峡を渡り、午後一時五分、山口県の内務省下関土木出張所の波止場に御到着になる。御下船の後、長府町に向かわれ、忌宮神社、乃木神社に御参拝になり、ついで旧乃木希典邸を御覧になる。その後、下関市内に戻られる。途中、車中より壇ノ浦古戦場を見学される。市内御到着の後、阿弥陀寺・安徳天皇陵・赤間神宮に御参拝になる。それより御泊所春帆楼に御到着になる。御到着後、日清戦争の講和談判が行われた部屋を御覧になる。

○良子女王殿下御学問所日誌、良子女王殿下御一行御来高之記、邦彦王行実

二十五日 金曜日 朝、御泊所の春帆楼を御出発になり、午前九時二十分下関駅発の汽車に御乗車になる。午後二時五分、広島県の宮島駅にて御降車になり、それより厳島神社に御参拝になる。その後、

厳島の御泊所岩惣旅館に御到着になる。○良子女王殿下御学問所日誌、良子女王殿下御一行御来高之記

二十六日 土曜日 午前六時三十分御泊所の岩惣旅館を御出発になり、栈橋より渡船にお乗りになる。

御下船の後、宮島駅より御乗車になり、午後八時三十二分京都駅に御到着、御降車の後、御泊所の荒神口久邇宮別邸に御到着になる。○良子女王殿下御学問所日誌、良子女王殿下御一行御来高之記

二十七日 日曜日 朝、御泊所の荒神口久邇宮別邸を御出発、午前七時五十分京都駅発の汽車に御乗車になり、大阪駅にて御降車になる。それより住吉大社に御参拝になり、終わって舞楽及び住吉踊りを御覧になる。その後、邦彦王妃倪子・信子女王と共に住吉大社を御出発、中山太陽堂化粧品工場を御視察の後、日本赤十字社大阪支部病院にお成りになる。ついで大阪市中央公会堂にお成りになり、御昼餐をお召し上がりになる。午後、同仁会有功章親授式より帰還した邦彦王も加わり、一同お揃い

で公会堂を御出発、大阪毎日新聞社、大阪朝日新聞社に順次お成りになる。大阪毎日新聞社では、バルコニーより市内女学校生徒等の体操を御覧になる。市民館において社会事業宣伝の活動写真を御覧になる。その後、産院、公設市場、乳児院にお成りになり、堀川住宅及び共同宿泊舎を巡覧される。

終わって大阪駅より御乗車になり、六時二十六分京都駅に御到着、御降車の後、御泊所の荒神口久邇宮別邸に御到着になる。○良子女王殿下御学問所日誌、良子女王殿下御巡遊画報、創立十七年沿革略史

二十八日 月曜日 御泊所の荒神口久邇宮別邸においてお過ごしになる。○良子女王殿下御学問所日誌、良子女王殿下御一行御来高之記

二十九日 火曜日 神戸にお成りになり、この日神戸港に到着した故成久王の遺骸をお迎えになる。○良子女王殿下御学問所日誌、御遭難録、皇族身分録、良子女王殿下御一行御来高之記、良子女王御巡遊画報

夜、東本願寺の招宴に臨まれる。○良子女王殿下御学問所日誌

三十日 水曜日 邦彦王・同妃侘子・信子女王と共に、京都帝室博物館・京都高等工芸学校皇太子・良子女王の御婚儀用御料服地の製作を拜命・京都織物株式会社本社工場同上を御見学になる。○良子女王殿下御学問所日誌、良子女王殿下御一行御来高之記、邦彦王行実、京都高等工芸学校一覽、京都織物株式会社五十年史

三十一日 木曜日 朝、御泊所の荒神口久邇宮別邸を御出門、午前八時京都駅発の汽車に御乗車になり、奈良駅にて御降車になる。それより法隆寺にお成りになり、御見学の後、お手植えをされる。御昼餐の後、薬師寺・唐招提寺を御見学になる。平城宮址の御見学は雨天により中止となり、平城宮址

の木標の見える場所において文学博士黒板勝美東京帝国大学
文学部教授より説明をお聞きになる。午後六時十分、御泊所の奈良ホテルに御到着になる。○良子女王殿下御学問所日誌、邦彦王行実

六月

一日 金曜日 午前八時御泊所奈良ホテルを御出発になり、東大寺を御見学になる。ついで春日神社に御参拝になる。開化天皇陵において御拝礼の後、御泊所にお戻りになる。

午後一時、御泊所を御出発になり、奈良女子高等師範学校にお成りになる。ついで奈良帝室博物館にお成りになり、文学博士滝精一の説明を受けつつ御見学になる。県商品陳列所にお立ち寄りの後、奈良県公会堂に御到着になり、同所にて鹿寄せをされる。六時三十分、御泊所奈良ホテルに御帰還になる。○良子女王殿下御学問所日誌、良子女王殿下御一行御来高之記、邦彦王行実、奈良女子高等師範学校・第三臨時教員養成所一覽

二日 土曜日 午前九時四十五分御泊所奈良ホテルを御出発、奈良駅より吉野駅を経て、吉野山に向かわれる。途中、車窓より吉野川の鮎胤・筏流し等を御覧になる。ついで吉野神宮に御参拝になり、またお手植えをされる。村上義光の墓、南朝宮址・蔵王堂等を御覧になる。午後三時十五分、御泊所の辰巳屋別館さくら花壇に御到着になる。○良子女王殿下御学問所日誌、良子女王殿下御一行御来高之記、邦彦王行実

三日 日曜日 午前八時三十分御泊所辰巳屋別館さくら花壇を御出発になり、後醍醐天皇陵に御拝礼になる。ついで如意輪寺において宝物を御覧になり、またお手植えをされる。吉水神社・山口神社にそれぞれ御拝礼になり、十一時四十分、辰巳屋別館さくら花壇に御到着になる。

午後一時三十分、同所を御出発になり、吉野駅より奈良駅を経て、六時二十八分京都駅に御到着になり、御降車の後、御泊所の荒神口久邇宮別邸に御到着になる。なお、途中の奈良駅の待合室にて御休憩の際、奈良師範学校生徒の手芸成績品を御覧になり、数点をお持ち帰りになる旨を仰せになる。○良子女王殿下御下御学問所日誌、良子女王殿下御一行御来高之記、邦彦王行実

四日 月曜日 午前十時三十分御泊所の荒神口久邇宮別邸を御出門、賀茂御祖神社_{下鴨神社}・賀茂別雷神社

_{上賀茂神社}に御参拝になる。京都府立京都農林学校にお立ち寄りになり、苺採りをされる。午後三時三十分頃御泊所の荒神口久邇宮別邸に御帰還になる。○良子女王殿下御下御学問所日誌、良子女王殿下御一行御来高之記、邦彦

王行実

五日 火曜日 午前、御泊所の荒神口久邇宮別邸を御出門、午前九時十五分京都駅発の汽車に御乗車

になり、午後七時三十分、東京駅に御到着になる。御降車の後、久邇宮邸に御帰還になる。○良子女王

殿下御学問所日誌、宮内省省報、官報、良子女王殿下御一行御来高之記、邦彦王行実

七日 木曜日 午後八時三十分、故成久王の霊代が安置される北白川宮邸にお成りになる。○良子女王

殿下御学問所日誌

十日 日曜日 午後、久邇宮邸において、東西女子庭球選手十数名によるテニス競技を御覧になる。

雍仁親王始め皇族・王族等が参邸する。○良子女王殿下御下御学問所日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十一日 月曜日 午後五時三十分頃御出門、邦彦王・同妃倪子及び信子女王と共に東宮仮御所_{震開離宮}にお

成りになる。午後六時、先着の載仁親王・故依仁親王妃周子と共に、皇太子のお招きによる御晩餐の

席に臨まれる。終わって八時頃退出され、御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、典式録、東宮侍従日誌、東宮内舎人日記、東宮職日誌、牧野伸顕日誌

十二日 火曜日 この度の旅行にて御用を受けた子爵金子堅太郎等を招待の御晩餐に臨まれる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十三日 水曜日 午後、邦彦王・同妃倪子及び信子女王と共に、自動車にて埼玉県川越方面に遠乗りされる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十八日 月曜日 この日より、御学問所の授業が再開される。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

九州帝国大学総長真野文二・貴族院議員鎌田勝太郎と御晩餐を共にされる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十九日 火曜日 夜、小林一郎^{仏教思想家}による仏教講話をお聞きになる。この日より、毎週火曜日・金曜日に小林の講話をお聞きになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十日 水曜日 午後二時過ぎ御出門、東京音楽学校にお成りになり、ヨゼフ・ホルマンの演奏をお聴きになる。閑院宮の女王二方も出席する。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十二日 金曜日 午後一時三十分御出門、宮城内の紅葉山御写真場においてお写真の撮影をお受けになる。お写真は御結婚に関わるもので、故依仁親王妃周子も立ち会う。御礼服のお写真のほか、通常服をお召しになつての集合写真の撮影もお受けになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、

大森鍾一関係資料

大正十二年六月

二十三日 土曜日 午前九時御出門、邦彦王・同妃侘子及び信子女王と共に品川駅を御出発、横浜に御到着になる。横浜港に停泊中の東洋汽船株式会社所属「大洋丸」に御乗船になり、船内を見学された後、御昼餐をお召し上がりになる。陳列された横浜港の輸出入品を御覧になった後、午後五時三十分御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十四日 日曜日 午前十時御出門、邦彦王・同妃侘子及び信子女王、東園栄子と共に浜離宮にお成りになる。午後四時三十分頃御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十七日 水曜日 この度の久邇宮家の御旅行の関係者である元大阪府知事井上孝哉^{内務次官}夫妻、文学博士黒板勝美・文学博士滝精一・日本郵船副社長加藤正義等と、御晚餐を共にされる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十九日 金曜日 午前七時三十分御出門、丸ノ内の日本郵船会社新館にお成りになり、海の展覧会を御観覧になる。御学友が陪観する。終わって御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、燃料協会誌、官報

午後、参邸の正二位柳原愛子とお茶を共にされる。○良子女王殿下新御殿日誌

七月

一日 日曜日 午前十時御出門、信子女王と共に東伏見宮邸にお成りになり、故依仁親王妃周子と御対面になる。午後四時三十分頃御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

三日 火曜日 信子女王と共に、稔彦王妃聡子内親王^{明治天皇第九皇女}の招待による御晚餐に臨まれる。故恒久

王妃昌子内親王も参加する。終わって、御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

五日 木曜日 邦彦王・同妃倪子及び信子女王と共に御出門、午後九時有栖川宮邸にお成りになり、

故威仁親王妃慰子六月二十
九日薨去の霊前に御拝礼になる。終わって、御帰還になる。なお、これに先立ち、同

邸において霊代安置の儀が行われる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、皇族身分録、官報

八日 日曜日 午後、宮城に参内され、三時に皇后及び皇太子と御対面になる。三時三十分頃、お三方にて茶菓を召される。皇后より反物等の、皇太子より真珠入り簪の御贈進がある。また、皇后より、今後はお印を桃印とするようにとの旨のお書付を拝領する。四時十五分退出され、御帰還になる。○

良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、東宮侍従日誌、東宮内舎人日記、東宮職日誌、供御日録、貞明皇后実録正本
夕刻、御出門になり、朝香宮邸のテニス会にお成りになる。途中からの御参加のため、テニスはなさらずに、故恒久王妃昌子内親王と御談話になるなどしてお過ごしになる。午後八時三十分、先着の信子女王と共に御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十日 火曜日 午後、御学問所の終業式に臨まれる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十一日 水曜日 この日より御学問所が休業となるため、時間割を定めてお過ごしになる。時間割は、午前中はお勉強として、古典、習字、仏語、及び週に一回の絵画、午後は刺繍・裁縫等とされる。また、ピアノは、信子女王と都合を調整の上、午前又は午後に一時間から一時間半ほど稽古をされることとなる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十二日 木曜日 午後、賜物に対するお礼言上のため参邸した中山三千代故侯爵中山
孝麿夫人に謁を賜う。また御前において茶菓を賜い、御殿内の拝見をお許しになる。○良子女王殿下御学問所日誌

大正十二年八月

十四日 土曜日 伯爵清棲家教御祖父朝彦親王の弟 昨十三日死去につき、この日より二十日間お慎みになる。○良

子女王殿下新御殿日誌

十九日 木曜日 夕刻、東園子爵邸にお成りになる。○良子女王殿下新御殿日誌

二十一日 土曜日 この日、邦久王が陸軍士官学校を卒業する。久邇宮邸に帰還した同王のため、夜、内宴が催される。○良子女王殿下新御殿日誌、皇族身分録、侯爵久邇邦久伝

二十四日 火曜日 午前、文学博士芳賀矢一より芸術・文学・国文学に関する講話をお聴きになる。

この日から、芳賀矢一による国文学史の講話をお聴きになる。○良子女王殿下新御殿日誌

夜、御出門、信子女王・智子女王と共に東園子爵邸にお成りになり、招宴に臨まれる。○良子女王殿下新御殿日誌

二十七日 金曜日 夜、東園子爵邸にお成りになり、お月見をされる。○良子女王殿下新御殿日誌

八月

一日 水曜日 夜、東園子爵邸にお成りになる。○良子女王殿下新御殿日誌

四日 土曜日 午前、御出門になり、九時十六分品川駅を御出発、藤沢駅を経て、鵜沼の東久邇宮別邸にお成りになる。午後、海岸にお成りになり、地元青年団員による地引き網漁を御覧になる。夕刻、御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十日 金曜日 午前、邦彦王・同妃侃子、及び信子女王・智子女王と共に御出門になり、七時二十分上野駅発の汽車にて新潟県赤倉に向かわれる。長野県軽井沢に向かう稔彦王妃聡子内親王が同車する。

午後三時四十八分、田口駅に御到着になり、それより自動車にて山道を進まれ、四時三十分頃、中頸城郡名香山村の御泊所の細川侯爵別邸に御到着になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、

宮内省省報、官報

十二日 日曜日 午前十時御泊所の細川侯爵別邸を御出門、在郷軍人分會長茂原市太郎の案内により、赤倉温泉の南裏通に進まれ、黒姫山・飯綱山・野尻湖、さらに菱ヶ嶽・米山等を御覧になる。それより小出別荘の離れ座敷において御少憩になる。その後、赤倉住民の願いにより町内を通過され、正午御泊所の細川侯爵別邸に御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

午後、参邸の善光寺住職の大宮智栄に謁を賜う。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌
布施秀治中頸城郡明治村出身の歴史家より上杉謙信に関する講話をお聴きになる。翌十三日午前にも続きをお聴きになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十三日 月曜日 午後二時御泊所の細川侯爵別邸を御出門、在郷軍人分會長茂原市太郎の案内により、邦彦王・同妃倪子及び信子女王と共に関温泉付近の山々に登られる。山上において御少憩になり、茂原より、付近がスキーの好適地である旨の説明をお聞きになる。夕刻、御泊所の細川侯爵別邸に御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十四日 火曜日 午前十時御泊所の細川侯爵別邸を御出門、蓮華の滝を御覧になりつつ妙高山に登られ、御来光の滝付近において御昼餐をお召し上がりになる。地元民が滝壺においてすくったイワナが、御膳に供される。午後三時下山され、小出別荘にお立ち寄りの上、五時過ぎ御泊所の細川侯爵別邸に御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十五日 水曜日 午前、御泊所の細川侯爵別邸を御出門、邦彦王・同妃侘子及び信子女王と共に八時頃、田口駅を御出発になり、長野県に向かわれる。長野駅に御到着の後、川中島古戦場である八幡原にお成りになり、八幡宮前の休憩所において長野県知事より説明をお聞きになる。ついで松代町の真田伯爵邸にお成りになり、陳列された同家の家宝、佐久間象山の書画等を御覧になる。それより海津城にお成りになり、信越地方の史談をお聞きになる。ついで城山館にお成りになり、御昼餐をお召し上がりになる。午後、善光寺に御参拝になる。午後五時、長野駅を御出発になり、赤倉の御泊所細川侯爵別邸に御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、邦彦王行実

十七日 金曜日 午前、田口駅を出発され、邦彦王・同妃侘子、及び信子女王・智子女王と共に新潟県高田市に向かわれる。八時三十五分高田駅に御到着の後、高田偕行社にお成りになる。同所にて御少憩の後、階上において陸軍歩兵中佐蟻坂仲歩兵第五十八聯隊付より高田城の沿革を、陸軍歩兵大尉鳥居周治第十三師団副

官よりスキーの由来と効用・使用法に関する講話をお聴きになる。終わって、窓外の高田城址を展望される。階下において御少憩の後、高土村の川上善兵衛が経営する岩の原葡萄園に向かわれる。川上園主より、ブドウ栽培の方法、葡萄酒製造の方法に関する説明をお聞きになり、また献上品を御覧になる。それより園内を巡られ、ブドウ栽培の模様を御覧になる。終わって直江津に向かわれ、和倉楼にて御昼餐をお召し上がりになる。午後、五智国分寺において親鸞上人配所跡を、林泉寺において上杉謙信の遺物を御覧になり、続いて春日山に登られ、城址において布施秀治の説明をお聞きになる。同所にて御休憩の後、五時四分高田駅を御出発になり、赤倉の御泊所細川侯爵別邸に御帰還になる。

○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、邦彦王行実、中頸城郡史

十九日 日曜日 午前七時三十四分御泊所の細川侯爵別邸を御出発、邦彦王・同妃幌子、及び信子女王・智子女王と共に第十三師団陣地攻防演習を御見学になる。田口駅を御出発になり、関山駅を経て関山陸軍演習場に向かわれる。御到着の後、歩兵第二十六旅団長中島銃之助陸軍少将の先導にてテントに入られ、演習を御見学になる。前線の小銃、中央部の機関銃・歩兵砲、後方の砲兵群による一斉攻撃、タンクが前進する模様、受話器を耳に当てながら前進する通信班、担架隊が草むらを匍匐する様子などを御覧になる。十時に戦闘中止となった後、自動車にて戦線を巡視される。御昼餐後、雲雀山のテントに移られ、砲工兵隊の実弾射撃、爆破等を御覧になる。その後、関山駅を御出発、五時過ぎに御泊所の細川侯爵別邸に御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、歩兵第二十六旅団歴史

二十一日 火曜日 午後、御泊所の細川侯爵別邸を御出門になり、二時頃より当地に新設の共同浴場「滝の湯」の開場式に臨まれる。終わって、御泊所の細川侯爵別邸に御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十三日 木曜日 午前、御泊所の細川侯爵別邸を御出門になり、十時四十六分田口駅を御出発、長野県の柏原駅を経て、野尻湖に御到着になる。湖畔よりモーターボートにて琵琶島に向かわれ、御休所において御昼餐をお召し上がりになる。午後、同所にて長野県内務部長竹井貞太郎及び地元住民より野尻湖の魚類や琵琶島に関する伝説をお聞きになる。また湖周辺の風景や地元青年団員の水泳を御覧になる。その後、モーターボートにて、西岸の外国人別荘地方面を始め湖上を一周される。御上陸の後、俳諧寺にお立ち寄りになり、柏原駅では小林一茶の旧跡を御訪問になる。終わって、午後三時三十五分同駅を御出発、田口駅を経て、御泊所の細川侯爵別邸に御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、

大正十二年八月

良子女王殿下御学問所日誌

二十五日 土曜日 午前八時御泊所の細川侯爵別邸を御出門、近傍の丸山に向かわれる。降雨を避けつつ中腹に設けられた天幕まで進まれるが、霧が深いため引き返され、御泊所の細川侯爵別邸に御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十七日 月曜日 午前九時過ぎ御泊所の細川侯爵別邸を御出門、池の平にお成りになる。温泉地として開発の進む同地を御見学になった後、妙高温泉、田口町を経て、御泊所の細川侯爵別邸に御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、天下之妙高

二十八日 火曜日 午前七時十五分御泊所の細川侯爵別邸を御出門、邦彦王・同妃侘子及び信子女王と共に、諏訪に向かわれる。田口駅より長野駅を経て、午後一時五十二分、上諏訪駅に御到着になる。それより諏訪大社上社に到着され、御参拝になる。三時三十分高島公園にお成りになり、園内において諏訪に関する説明をお聞きになる。それより諏訪大社下社秋宮、ついで同春宮に向かわれ、それぞれ御参拝になり、また宝物を御覧になる。五時三十分、上諏訪温泉の御泊所牡丹屋に御到着になる。

○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、邦彦王行実

二十九日 水曜日 午前七時三十分、上諏訪温泉の御泊所牡丹屋を御出発になる。八時、岡谷町の片倉製糸紡績株式会社平野製糸所に到着され、社長片倉兼太郎の案内にて御見学になる。終わって岡谷駅より姥捨駅を経て、正午、姥捨山^{冠着}中の見晴台に御到着、同所において御昼餐をお召し上がりになる。午後、長楽寺にお成りになる。四十八枚田等を御見学の後、同寺を御出発、姥捨駅より長野駅を経て、三時四十分田口駅に御到着、細川侯爵別邸に御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御

学問所日誌、邦彦王行実、片倉製糸紡績株式会社二十年誌

三十日 木曜日 夜、故依仁親王妃周子及び邦英王が細川侯爵別邸に参着する。同妃・同王は栃木県日光において天皇・皇后に伺候の後、同邸に立ち寄った。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、

宮内省省報

三十一日 金曜日 午前、御泊所の細川侯爵別邸を御出発になり、邦彦王・同妃靨子、及び信子女王・智子女王、故依仁親王妃周子・邦英王と共に、滝之湯の故岡倉天心の別荘にお成りになる。その後、松林桂月の草庵をお訪ねになり、妙高倶楽部を経て、御泊所の細川侯爵別邸に御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、松林桂月

九月

一日 土曜日 午前十一時五十八分、巨大地震が発生し、東京・神奈川・埼玉・静岡・千葉及び山梨の一府五県に未曾有の惨禍をもたらす。赤倉の細川侯爵別邸においても長い震動があり、皇族は食堂近くに避難するが皆無事であり、建物にも被害はなかった。夕刻には、東京方面の地震被害が甚大であるとの一報が同邸に届く。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、震災録

二日 日曜日 朝融王・邦久王の安否を御心配になりつつお過ごしのところ、昨一日の震災の被害状況等の情報が新潟県知事からもたらされる。また、午前、東京の久邇宮邸からの使者が御泊所細川侯爵別邸に到着する。同人は宮内事務官久邇野村礼讓の書状を持参し、自らの目撃談を報告する。これにより、邦久王が無事であること、久邇宮邸の破損状況等が確認される。また、同人は即日帰京の途

に就き、赤倉における久邇宮御一家の様子を東京に伝える。以後、新潟県知事や第十三師団等の軍関係者、久邇宮始め各宮関係者、田口駅始め近隣の各駅、新聞記者等を通じて、もしくは各地からの電信・新聞等により、各地の被害状況、天皇・皇后及び皇太子の御安否、東京の久邇宮邸の被害状況、朝融王・邦久王及び御学問所関係者等の安否、その他皇族・御親族等の安否についての情報が、逐次もたらされる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、侯爵久邇邦久伝、震災録

四日 火曜日 正午頃、箱根に滞在中の朝融王が沼津に避難し無事であるとの電報が到着する。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、大正震災志

宮内属峰島満吉が参邸する。同人は、一日の地震のために武彦王妃佐紀子女王が鎌倉の山階宮別邸において、師正王が鶴沼の東久邇宮別邸において、寛子女王が小田原の閑院宮別邸において、いずれも建物倒壊のため薨去した旨を伝える。なお、六日には、今回の震災にて薨去の各皇族の内葬方法につき、告別式の様式とすること、楽を廃すること、葬列を廃すること、近親のみの御拝礼とすることなどが定められる。これにより、故寛子女王の内葬は十日に、故師正王の内葬は十三日に、武彦王妃故佐紀子女王の内葬は十八日に、それぞれ執り行われる。

佐紀子女王は、明治三十六年に邦憲王御父邦彦王の兄の第二王女として誕生した。母は好子侯爵醍醐忠順第一女子である。大正十一年に菊麿王第一王子の武彦王と結婚した。享年二十一。

師正王は、大正六年に稔彦王御父邦彦王の弟の第二王子として誕生した。母は聡子内親王である。享年七。

寛子女王は、明治三十九年に載仁親王御祖父朝彦親王の弟の第四王女として誕生した。母は智恵子公爵三条実美第二女子である。

享年十八。○震災録、皇族身分録、墓誌銘録、宮内省省報、官報、東京震災録、大正震災志

この日、宮内属分部資吉が帰京するに当たり、所々にお見舞いの手紙を認められ、お言葉を託される。以後、折を見て、諸方にお見舞いの手紙を送られる。○良子女王殿下新御殿日誌

五日 水曜日 震災後、新潟県下においても治安に動揺が見られたことを受け、良子女王始め皇族護衛のため、歩兵第五十八聯隊の一個小隊が赤倉に派遣され、御泊所細川侯爵別邸及び故依仁親王妃周子の御泊所である織田別荘の警備に当たることとなる。また、良子女王等が両邸を往来する際には、同隊兵士が護衛することとなる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、高田市史、新潟県史

六日 木曜日 午前九時三十分頃御出門、織田別荘にお成りになる。この際、新潟県警察部長が先導し、兵士四名が道中を警護する。十一時頃御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌
九日 日曜日 この日、故依仁親王妃周子等と相談され、罹災民救恤のため衣類を製作することとなる。反物の用立ては中頸城郡長片山三男三が承る。○良子女王殿下新御殿日誌

参邸した新任の第十三師団長井戸川辰三陸軍中将に謁を賜う。○良子女王殿下御学問所日誌、官報

十一日 火曜日 この度の震災被害に対する御救恤の思召しにより、慰問袋を作成される。去る九日に中頸城郡長が用立てを承った反物がこの日の午後到着したため、邦彦王妃俣子及び信子女王・智子女王、久邇宮職員一同と共に裁縫に取りかかれる。以後、連日午後から夜にかけて裁縫をされる。故依仁親王妃周子も参邸し、材料の一部を持ち帰る。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌
家屋が被災し宮殿に家族が避難した宮内省御用掛後閑菊野のために、この日、信子女王・智子女王と共に子供用の衣類をお揃えになり、東京に送られる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

大正十二年九月

十五日 土曜日 午後、御機嫌伺いのため、第十三師団長夫人・中頸城郡長夫人、愛国婦人会・篤志看護婦人会の各代表が参邸する。その際、郡長夫人は慰問用反物三十反の追加を承る。○良子女王殿下御学問所日誌

十七日 月曜日 午前、信子女王・智子女王と共に織田別荘方面に御散策になり、故依仁親王妃周子等が滞在する織田別荘にお立ち寄りになる。午後、邦彦王・同妃靨子も加わり、五方にて同別荘にお成りになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

昨十六日、皇太子が宮内大臣牧野伸頭をお召しになり、この度の震災により今秋御予定の御婚儀の延期を希望する旨を述べられたことを受け、それを邦彦王に伝達するため、この日、牧野の命により宗秩寮総裁徳川頼倫が参邸する。皇后の御承諾を得た上で、十九日に宮内省より、御婚儀が翌年一月下旬から二月上旬の間に挙行されることが発表される。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、東

宮御婚儀録、震災録、牧野伸頭日記、伯爵平田東助伝、大正震災志、東京震災録、読売新聞

十八日 火曜日 智子女王が翌十九日京都に帰還するに当たり、午前、故依仁親王妃周子等が滞在する織田別荘にお成りになり、御昼餐を御会食になる。この度の震災による避難民と苦難を共にされるとの思召しにて、庭にテントを張り御座所とされ、御持参のお弁当をお召し上がりになる。その際、随行の久邇宮宮務監督国分三亥・宮内省御用掛後閑菊野等も、庭内の各所において昼食を取る。女王は午後も暫く同所に滞在される。その後、細川侯爵別邸に御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女

王殿下御学問所日誌

夜、東京・横浜の地震・火災の実景を撮影した活動写真を御覧になる。故依仁親王妃周子・邦英王も

観覧し、お供の者や地元住民も拝見する。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

この日午前、新潟県知事小原新三・同夫人愛国婦人会、新潟支部長、中頸城郡長片山三男三等が参邸する。その際、久

邇宮家から小原知事に、御救恤品として良子女王始め久邇宮の女子皇族や侍女等が製作した衣類が伝達される。御製作の衣類は、京浜地方の地震・火災の罹災者、新潟県の罹災者等に下賜される。知事・同夫人より、新潟・長岡・柏崎等へ女王お成りの際に献上すべく準備していた小千谷縮、十日町製御召縮緬・明石縮及び生糸が献上される。なお、この日より新たに御救恤品として子供用衣類の製作に取り掛かれる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十日 木曜日 東京より長野県上田に避難し、この日御機嫌伺いのため参邸した元学習院女学部教授木内成に謁を賜う。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十二日 土曜日 午後五時過ぎ、邦彦王・同妃倪子・信子女王、故依仁親王妃周子・邦英王と共に御泊所細川侯爵別邸を御出発になる。田口駅に御到着の後、奉送の人々の拝謁をお受けになる。午後六時三十三分発の汽車にて、御帰京の途に就かれる。赤倉より東京までの途次は陸軍の兵士が警護のため同行する。なお、去る九日に戒厳司令部・鉄道省等において協議がなされ、鉄道省が差し支えないと判断するまで御帰京は延期された。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、震災録

二十三日 日曜日 午前五時二十五分、上野駅の仮停車場に到着される。東伏見宮邸付近など地震被害の様子を御覧になりながら通過され、六時三十分頃、渋谷の久邇宮邸に御帰還になる。地震のため、邸内では御書院に居住されることとなる。その後、邦久王・朝融王が順次帰邸し、一同にてお互いの無事に安堵される。なお、故依仁親王妃周子は、この月より侯爵徳川頼倫旧邸に仮寓する。○良子女王

大正十二年九月

殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、宮内省省報

午後二時御出門、邦彦王妃倪子・信子女王と共に山階宮を御弔問になる。同所にて、皇太子撰の御機

嫌伺いのため赤坂離宮への参殿を終えた邦彦王・朝融王と御一緒になり、賀陽宮・閑院宮・東久邇宮

を順次御弔問になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記

二十五日 火曜日 午前、邸内の御霊舎において、この度の震災についての奉告祭が営まれる。邦彦

王は故佐紀子女王・故寛子女王薨去に伴う喪中につき参拝せず、朝融王が祭文を読み上げる。○良子女

王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、宮内省省報

良子女王御教育費等の御補助として下賜される金員のうち十一月受領分を、震災臨時支払いに充当す

るためこの際受領したい旨の申請が、この日付にて宮内事務官久邇野村礼讓より内蔵頭山崎四男六に提

出される。後日、十一月受領分が繰り上げて下賜される。○皇親録

二十六日 水曜日 この度罹災した神戸絢に、お見舞品を賜う。○良子女王殿下御学問所日誌

二十七日 木曜日 この度罹災した宮内省御用掛後閑菊野に、お見舞品を賜う。○良子女王殿下新御殿日誌、

良子女王殿下御学問所日誌

二十八日 金曜日 夕方、皇族の会合から帰還した邦彦王妃倪子より、明朝までに罹災入院者のため

枕を三十個作るようにとの指示があり、皇族や久邇宮職員一同と共に製作に取り組まれる。夜、枕が

幹事宛てに送付される。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

三十日 日曜日 花御殿にお成りになり、お召物を整理される。その際、御救恤に出される分のお召

物をお集めになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十月

一日 月曜日 この日より、御学問所における授業をお受けになる。この度は始業式を略され、時間割のとおりとされる。今学期より文学博士芳賀矢一による文学史の授業が加わり、この日より開始される。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二日 火曜日 午後、信子女王と御談話になる。信子女王はこの日、御微行にて被服廠跡を始め祭事や法要が行われる諸所にお成りになり、香花を手向けた。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

三日 水曜日 午後二時御出門、稔彦王妃聡子内親王と共に、東伏見宮邸にお成りになる。三時過ぎ、御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

四日 木曜日 この日から、法学博士窪田静太郎行政裁判所長より社会事業に関する講話をお聴きになる。窪田による講話は、以後十一月十五日まで六回にわたり、毎週木曜日に行われる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十日 水曜日 午前、罹災民に賜う御救恤品を整理される。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十一日 木曜日 夕方、信子女王の元奉仕者が参邸する。罹災者である同人に衣類を賜う。また宮内属分部資吉を通じ、罹災した久邇宮宮務監督国分三亥の親戚に衣類を賜う。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十二日 金曜日 午前、鈴木元美御学問所講師、理科担当より地震に関する講話をお聴きになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

大正十二年十月

十三日 土曜日 午後一時三十分御出門、豊島岡墓地にお成りになり、この度の震災により薨去した武彦王妃佐紀子女王・寛子女王・師正王の墓に御参拝になる。ついで瑞聖寺にお成りになり、一周年祭につき故男爵島津忠弘の墓に御参拝になる。四時頃、御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十七日 水曜日 午後、慰問品下賜のお礼言上のため参邸した元乳母工藤もんの拝謁をお受けになる。その際、同人に衣類等を賜う。○良子女王殿下新御殿日誌

十九日 金曜日 鈴木元美による地震に関する講話をお聴きになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十一日 日曜日 午後、邦彦王・同妃侃子と共に御出門、東園子爵邸にお成りになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十三日 火曜日 上京中の在郷軍人に謁を賜う。○良子女王殿下新御殿日誌

二十四日 水曜日 この度の御殿新築に従事した職人のうち、罹災した者に衣類等を賜う。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十五日 木曜日 この日、邦久王が陸軍歩兵少尉に任官する。また、臣籍降下し、侯爵を授けられ、従四位に叙され、久邇の家名を下賜される。臣籍降下に当たり、午後、久邇宮邸にて奉告祭が行われる。夕刻、内宴が催され、良子女王も出席する。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、皇族身分録、授爵録、邦久王殿下臣籍降下の件、宮内省省報、官報、侯爵久邇邦久伝

二十七日 土曜日 午後二時御出門、南葵文庫にお成りになり、陳列の古土器を御覧になる。また松

浦武四郎の書斎であった「一畳敷」を御見学になり、建築の由来についての説明をお聴きになる。○

良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十八日 日曜日 夜、理学博士今村明恒より地震に関する講話をお聴きになる。故依仁親王妃周子・

故菊麿王妃常子始め皇族等が同席する。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十九日 月曜日 午後、酒井秋子・同菊子と共にテニスをされる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下

下御学問所日誌

十一月

一日 木曜日 罹災者を御慰問のため、午後一時三十分御出門になり、邦彦王・同妃侘子、及び朝融

王・信子女王と共に日本赤十字社病院及び同産院にお成りになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御

学問所日誌、事業年報（日本赤十字社）、邦彦王行実

二日 金曜日 午前九時御出門、三井邸にお成りになり、同邸に収容されている罹災者を御慰問にな

る。また、同邸内外に築かれたバラックを見学される。十一時過ぎ御帰還になる。○良子女王殿下新御殿

日誌、良子女王殿下御学問所日誌、邦彦王行実

三日 土曜日 過日来御殿にて奉仕していた在郷軍人がこの日帰郷するに当たり、午前、謁を賜う。

○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

午後二時御出門、邦彦王・同妃侘子と共に明治神宮に御参拝になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下

下御学問所日誌

大正十二年十一月

四日 日曜日 午後三時御出門、麴町区平河町の侯爵久邇邦久新邸開きの招宴にお成りになる。八時三十分御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、侯爵久邇邦久伝

七日 水曜日 午前、邦彦王・朝融王等と共にお庭において、ボーイスカウトによる種々の演習を御覧になる。ジュリー・モレル及び御学友一名も陪観する。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、邦彦王行実

夕刻、東伏見宮邸にお成りになり、活動写真を御覧になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

八日 木曜日 午前十時御出門、御機嫌伺いのため参内される。十一時三十分御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十日 土曜日 午後、去る八月二十四日に宮内省御用掛を拝命した島津治子に謁を賜う。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、宮内省省報、官報

十一日 日曜日 午後一時御出門、盛岡町の高松宮所有地内に設けられた米国政府寄贈兵站病院にお成りになる。院長より説明をお受けになった後、入院患者を御慰問になる。四時頃御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十二日 月曜日 多嘉王主催の御晚餐に臨まれる。御父方の御親族である東園栄子・竹内絢子・壬生篤子、及びその子女等が参加する。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十三日 火曜日 午後、罹災のお見舞いに対するお礼言上のため参邸した嵯峨厚子に謁を賜う。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

夕刻、東園子爵家の招宴にお成りになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十一日 水曜日 午前、島津田鶴子故公爵島津忠濟夫人・同息女量子より、侯爵久邇邦久との結納の挨拶をお

受けになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

午後一時御出門、邦彦王・同妃倪子及び信子女王と共に東伏見宮邸にお成りになり、上代タノより近代文芸に関する講話をお聴きになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十三日 金曜日 午前九時三十分御出門、信子女王と共に水道橋の日本赤十字社産院にお成りになり、産院・乳児院を御覧になる。ついで水道橋松平邸跡において開催の常磐会主催のバザーにお成りになり、種々お買い上げになる。バザーには、故依仁親王妃周子・守正王妃伊都子・王世子李垠妃方子女王も参加する。午後零時三十分頃御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、現代華道家名鑑

二十四日 土曜日 午後一時三十分御出門、北白川宮邸にお成りになり、竹田宮主催の皇族講話会に御臨席になる。社会局長官池田宏帝都復興院理事より「帝都復興に就きて」、飛行協会理事徳永熊雄陸軍工兵大佐より

「被服廠跡遭難実験」と題する講話をお聴きになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、官報、読売新聞、東京朝日新聞

二十五日 日曜日 午前十時三十分御出門、信子女王と共に東久邇宮邸にお成りになる。御昼餐を御会食の後、稔彦王妃聡子内親王と共に竹田宮邸にお成りになる。午後四時頃御帰還になる。○良子女王

殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

大正十二年十二月

二十九日 木曜日 竹内千代子故子爵竹内惟忠・同夫人絢子の息女より暇乞いの挨拶をお受けになる。○良子女王殿下新御殿日誌

十二月

一日 土曜日 御風気につき御用心のため、この日より十一日まで御学問所の授業をお休みになる。

○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

四日 火曜日 正午前御出門、竹田宮邸にお成りになる。皇太子及び故恒久王妃昌子内親王と共に過ごされる。午後五時三十分頃、御帰還になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、東宮侍

従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、行啓録、宮内省省報

五日 水曜日 この日、津軽理喜子・山岡淑子・三輪もと・青山元子・油小路蒙子・高木多都雄が宮

内省御用掛を仰せ付けられる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、官報、大森鍾一関係資料

十四日 金曜日 午後、参邸した東宮職御用掛五名に謁を賜う。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学

問所日誌

夜、陸軍歩兵大佐三宅光治より陸軍講話をお聴きになる。故依仁親王妃周子も同席する。○良子女王殿下

新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、邦彦王行実

十六日 日曜日 午前、参邸したボーイスカウト団員による諸技の披露を御覧になる。故依仁親王妃

周子・邦英王始め皇族が同席する。御昼餐には、ボーイスカウトの手製によるライスカレーをお召し上がりになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

十七日 月曜日 夜、陸軍歩兵大佐三宅光治より第二回の陸軍講話をお聴きになる。○良子女王殿下新御

殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十日 木曜日 夜、海軍大佐藤田尚徳による海軍講話をお聴きになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

数日前より御多忙のため御学問所の授業をお休みになっていたところ、今学期の終業式は実施せず、翌年一月までお休みの予定となる。○良子女王殿下御学問所日誌

二十一日 金曜日 午後、掌侍吉見光子・権掌侍東坊城敏子より、御髪上げの奉仕をお受けになる。

翌二十二日にも、両名より御髪上げの、日野西・清岡・冷泉各夫人より衣紋方の、掌典長九条道実より賢所の習札の奉仕を受けられ、また写真撮影をお受けになる。故依仁親王妃周子始め御縁故者が拝見する。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

この日、参邸の元学習院女学部教授木内成・元女子学習院教授中島さと等に謁を賜う。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

側近の高等官に陪食を仰せ付けられる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十四日 月曜日 午後二時御出門、信子女王、及び京都より帰京した智子女王と共に東伏見宮邸にお成りになり、歌会に御参加になる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十五日 火曜日 陸軍施設を御見学のため、午前七時五十分御出門になり、邦彦王・同妃倪子、及び信子女王・智子女王と共に千葉県下にお成りになる。故依仁親王妃周子・邦英王・多嘉王妃静子、及び御学友二名も同行する。両国駅より千葉駅を経て、鉄道第一聯隊に御到着になり、鉄道作業や各種材料を御覧になる。続いて陸軍歩兵学校にお成りになり、演習を御見学の後、同所にて御昼餐をお

召し上がりになる。午後、千葉駅を経て陸軍航空学校下志津分校にお成りになり、御見学の後、千代田ヶ丘において各種砲の操作、及び飛行機と連動した実弾射撃の模様等を御覧になる。ついで陸軍野戦砲兵学校に移動され、馬の調教の様子や聴音機を御見学になる。夕方、両国駅を経て御帰還になる。

○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十六日 水曜日 午後、御歌会に御臨席になる。故依仁親王妃周子が参加する。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十七日 木曜日 朝、多嘉王妃静子が京都に帰還する。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌
午後、御仮縫いが行われる。故依仁親王妃周子・井上末子、及び島津治子^{宮内省御用掛}が参邸し、拝見する。

○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

二十八日 金曜日 午後、壬生種子と共にお過ごしになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

三十一日 月曜日 午後、御同級生一名より渡欧の暇乞いをお受けになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

宮内省御用掛油小路蒙子に謁を賜う。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌、官報

御夕餐後、側近奉仕者より歳末の祝詞言上をお受けになる。○良子女王殿下新御殿日誌、良子女王殿下御学問所日誌

大正十三年（西曆一九二四年） 二十一歳

一月

一日 火曜日 久邇宮邸において、邦彦王^{御父}・同妃侘子^{御母}等と共に新年をお迎えになる。久邇宮職員一同より祝詞言上をお受けになる。○良子女王殿下御学問所日誌

三日 木曜日 午後、久邇宮邸において、御学友及び御同級生^{学習院女子部の同級生}約三十名より、新年の挨拶をお受けになる。以後、この年も随時、御学友・御同級生に謁を賜う。○良子女王殿下御学問所日誌

夕刻、侯爵久邇邦久^{御兄}の招きにより、平河町の同侯爵邸にお成りになる。以後、この年も随時、皇族・王公族・御親族と御対面・御会食になる。○良子女王殿下御学問所日誌

六日 日曜日 午後、久邇宮邸において、皇后宮大夫大森鍾一夫人齡子・鈴木歌子・渡瀬里子等に謁を賜う。○良子女王殿下御学問所日誌

午後五時久邇宮邸を御出門になり、東久邇宮の招宴にお成りになる。○良子女王殿下御学問所日誌

十二日 土曜日 昨年九月の震災により延期された結婚の礼が来る二十六日に行われることとなり、この日午前、告期の儀が行われる。午前十一時、侍従長徳川達孝が勅使として久邇宮邸に到り、勅旨を伝宣する。邦彦王は久邇宮邸の霊殿にて奉告祭を行う。告期の儀に際し、この日、皇太子と久邇宮との間で鮮鯛が取り交わされる。○東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、幸啓録、行幸録、御婚儀録、東宮御婚

大正十三年一月

大正十三年一月

儀記録、宮内省省報、官報、邦彦王行実

午後、久邇宮邸において、祝詞言上のため参殿の故恒久王妃昌子内親王、東宮大夫珍田捨巳、東宮武官長奈良武次ほかに謁を賜う。○良子女王殿下御学問所日誌

夕刻、久邇宮邸において開催の内宴に臨まれる。御会食の後、活動写真を御覧になり、朝融王^{御兄}・久

邇邦久・邦英王^{御弟}等による音楽演奏をお聴きになる。○良子女王殿下御学問所日誌

東宮女官長に島津治子が、東宮女官に津軽理喜子・山岡淑子・三輪もと・青山元子・油小路蒙子が、東宮職御用掛に高木多都雄がそれぞれ任命される。なお、この日の午後、任命のお礼言上のため久邇宮邸に参上した東宮女官に謁を賜う。○良子女王殿下御学問所日誌、東宮侍従日誌、進退録

十六日 水曜日 久邇宮邸において、午後六時より東宮職関係者一同を召しての御晩餐が開かれる。

○良子女王殿下御学問所日誌

十七日 木曜日 久邇宮邸において、御学問所の講師を召しての午餐が催される。また、宮内省関係者一同に御晩餐の賜りがある。○良子女王殿下御学問所日誌、倉富勇三郎日記

十八日 金曜日 久邇宮邸において、邦彦王により内閣総理大臣ほかを招いての午餐が催され、邦彦王妃倪子と共に御臨席になる。○良子女王殿下御学問所日誌、猪熊信男関係文書

午後、御同級生約四十名をお招きになり、軽食を共にされる。川村艶子等のピアノをお聴きになり、また、独唱される。○良子女王殿下御学問所日誌

十九日 土曜日 午後、未成年の皇族・御親族を御招待になる。夜、雍仁親王始め皇族・御親族を招いての晩餐会に臨まれる。○良子女王殿下御学問所日誌

二十二日 火曜日 この日、貴族院・衆議院において、結婚の礼当日は奉祝の意を表するため休会とすることが全会一致で可決される。なお、衆議院はこの日より二十九日まで休会となる。○貴族院議事速記録、衆議院議事速記録、官報

二十四日 木曜日 暇乞いのため、久邇宮宮務監督国分三亥・宮内事務官^{久邇宮付}野村礼讓が各宮邸に赴く。○良子女王殿下御学問所日誌

二十五日 金曜日 午前、贈書の儀に臨まれる。勲一等宝冠章を佩用され、邦彦王・同妃侃子と共に正寝ノ間にお成りになり、皇太子御使の本多正復^{東宮侍從}をお出迎えになる。御使は皇太子の御書^{皇太子の御歌入り色紙}

を納めた柳箱を卓上に据え、口上を述べる。続いて、良子女王は皇太子の御書を受納され、御挨拶を述べられる。続いて邦彦王・同妃と共に別室に移られ、御書を御覧になり、奉答の御歌を色紙に認められた後、正寝ノ間において御使にお授けになる。御使はその後、赤坂離宮に帰還する。なお、皇太子より久邇宮に鮮鯛の御贈進がある。○良子女王殿下御学問所日誌、東宮侍從日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、御婚儀録、東宮御婚儀記録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報、邦彦王行実、奈良武次日記、読売新聞

午後、久邇宮職員及び先日来手伝いのため参邸の者に賜餐がある。その後、良子女王はピアノを、朝融王・侯爵久邇邦久はヴァイオリン・チェロを、邦英王はピアノを演奏される。また、陪食者による唱歌^{「蛍の光」の替え歌}の合唱があり、ついで慶賀のため「君が代」の奉唱がある。○良子女王殿下御学問所日誌、御素顔の皇后さま

二十六日 土曜日 結婚の礼が行われ、良子女王はこの日、皇太子妃となる。

御朝食前、久邇宮邸内の靈社を御遙拝になり、ついで邦彦王・同妃侃子と御対面になる。御朝食後、御髪上げ・着付けを済ませられ、久邇宮職員・御縁故者一同に謁を賜う。ついで御親族と御対面になった後、邦彦王・同妃侃子始め御一家に御挨拶をされる。その後、妃氏入宮の儀に臨まれる。邦彦王・同妃侃子と共に正寝ノ間にお出ましになり、皇太子御使の入江為守東宮侍から良子女王をお迎えする旨の令旨をお受けになる。東宮女官長島津治子を従えられ、九時三十分過ぎ御出門になる。

次に、賢所大前の儀に臨まれる。綾綺殿に参入され、皇太子東帯黄丹袍の儀服をお召しに続き、五衣・唐衣・裳の御装束にて賢所に参進される。皇太子に続いて内陣に着座され、御拝礼になる。ついで皇太子が御告文を

奏される。外陣に移座され、皇太子に続いて神盃をお受けになる。皇太子と共に御拝礼になり、退下される。ついで、雍仁親王、載仁親王、博忠王、恒憲王・同妃敏子、邦彦王・同妃侃子、朝融王、守正王・同妃伊都子、多嘉王・同妃静子、稔彦王妃聡子内親王、故恒久王妃昌子内親王、王世子李垠・同妃方子女王、李垠公が拝礼する。その後、大勲位以下東京市長に至る千余人が拝礼を行う。引き続き皇靈殿神殿に謁するの儀に臨まれ、皇太子と共に皇靈殿・神殿にそれぞれ御拝礼になる。

終了後、皇太子に先立ち参内される。御昼餐の後、中礼服ローブデコルテ、勲一等宝冠章御佩用をお召しになり、午後二時三十七分宮城を御出門、皇太子と御同車にて赤坂離宮に御到着になる。その際、離宮内西側にて学習院及び女子学習院職員・学生・生徒が整列奉拝する。御到着後直ちに、表謁見所において供膳の儀に臨まれる。終わって通常服をお召しになり、皇太子と共に再び表謁見所において、宮内大臣・宮内次官・澄宮御養育掛長以下に謁を賜い、拝賀をお受けになる。御夕食後、皇太子の御説明にて御書見室・御

政務室・殿下御座所など表の各室をお廻りになる。

御結婚に際し、天皇・皇后より皇太子・同妃に、それぞれ鮮鯛等の御贈進がある。皇太子・同妃より、天皇・皇后にそれぞれ鮮鯛材料及びお品が献進され、雍仁親王・宣仁親王・崇仁親王始め皇族・王公族・御親族等にそれぞれ賜品等がある。また、皇太子妃より皇太子に、鮮鯛及びお品をお贈りになる。

なお別に、結婚の礼終了につき、皇太子・同妃より故依仁親王妃周子・故恒久王妃昌子内親王・閑院宮にそれぞれ賜品がある。○良子女王殿下御学問所日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、秩父宮御側日誌、

秩父宮附宿直日記、皇子御殿日誌、祭祀録、御婚儀録、東宮御婚儀記録、東宮御婚儀録、幸啓録、行幸録、例規録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報、静岡民友新聞

皇太子御結婚につき、各国元首その他より天皇又は皇太子に祝電等が寄せられる。これに対し、天皇又は皇太子より礼電等を御發送になる。以後も各国元首その他よりお祝品等が寄せられる。○宮内省省報、官報

この日、貴族院議長公爵徳川家達・衆議院議長粕谷義三がそれぞれ参殿し、貴衆両院で可決した賀牋を奉呈する。このほか東京連合青年団長後藤新平・憲政会総裁加藤高明・立憲政友会総裁高橋是清・日本青年館理事長近衛文麿・帝国鉄道協会会長渡辺嘉一・東京帝国大学総長古在由直・京都帝国大学総長荒木寅三郎・愛国婦人会会長下田歌子、及びその他各区長等が赤坂離宮に賀牋を持参し、奉呈する。

○東宮御婚儀記録、宮内省省報、官報

この日、赤坂離宮が東宮仮御所と定められる。皇太子妃は、この日より同所にて起居される。なお、

東宮御所 東京市芝区高輪西台町一番の名称は廃止される。○東宮職日誌、東宮御婚儀記録、宮内省省報、官報

二十七日 日曜日 午前九時四十五分御出門、参内朝見の儀につき、皇太子と共に沼津に向かわれる。

御出門の際、皇太子と共に御車寄前において、奉祝のため整列の帝国在郷軍人会総裁載仁親王以下全国各連合分会代表者に謁を賜う。午後二時十五分沼津御用邸西附属邸に御到着になる。三時西附属邸を御出門、皇太子と共に本邸にお出ましになる。お揃いにて天皇と御対面になり、お礼を言上される。

ついで洋館御食堂に設けられたお席に着かれ、典侍千種任子の奉仕にて、天皇よりの御盃をお受けになる。天皇は御都合により臨御を略され、皇后も御風気のためお出ましをお取りやめになる。終了後、御内儀において御仮床にある皇后と御対面になる。その後、御泊所の西附属邸にお戻りになる。○東宮

侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、沼津御用邸西附属邸日誌、沼津御用邸日誌、東宮御婚儀記録、幸啓録、行啓録、行幸録、

大正天皇実録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報、帝国在郷軍人会三十年史

二十八日 月曜日 午前十時十分沼津御用邸西附属邸を御出門、皇太子と共に本邸にお出ましになり、天皇に暇乞いをされた後、十時三十分本邸を御出門、午後三時二十分東宮仮御所に還啓される。○東宮

侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、沼津御用邸西附属邸日誌、沼津御用邸日誌、東宮御婚儀記録、幸啓録、行幸録、貞明皇后

実録正本、宮内省省報、官報

二十九日 火曜日 午前十時御出門、皇太子と共に参内され、牡丹ノ間において皇族・王公族の拝賀をお受けになる。続いて宮中席次第一階の者及び国務大臣礼遇の者等、並びに宮内勅任官・同待遇の拝賀をお受けになる。ついで正殿において、宮中席次第二階から第三階第二十七号までの者、並びに神仏各宗派管長の拝賀をお受けになる。

午後、正殿において伯子男爵有位華族並びに朝鮮貴族の拝賀を、東溜ノ間において貴族院議員・衆議

院議員の拝賀を、西溜ノ間において宮内奏任官・同待遇の拝賀を、牡丹ノ間において各国大使等の拝賀をお受けになる。三時宮城を御退出になる。○東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、秩父宮御側日誌、皇子御殿日誌、御婚儀録、宮内省省報、官報

皇太子と共に御内儀において、天皇・皇后の御使として参殿の掌侍吉見光子に謁を賜う。御結婚の儀終了につき、天皇・皇后より五種交魚の御贈進をお受けになる。以後、折に触れて、天皇・皇后と皇太子・同妃との間で相互に御使が取り交わされる。○東宮侍従日誌、東宮職日誌、進献録、貞明皇后実録正本

三十日 水曜日 午前、孝明天皇例祭につき、東宮女官青山元子に御代拝を仰せ付けられる。○東宮職日誌、祭祀録、儀式録、典式録、宮内省省報、官報

三十一日 木曜日 午前、皇太子と共に表謁見所において、結婚の礼挙行につき、元東宮大夫事務取扱久我通久・元久邇宮家令小藤孝行その他元奉仕有資格者一同に謁を賜う。○東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、御婚儀録、東宮御婚儀記録

皇太子と共に、初参殿の恭仁子女王^{多嘉王の王女}・家彦王^{多嘉王の王子}と御対面になる。○東宮職日誌、東宮内舍人日記、祭祀録、宮内省省報、官報

結婚の礼挙行につき、皇太子と共に雍仁親王始め在京の成年皇族・王公族、及び宣仁親王をお招きになり、饗宴場^{花鳥ノ間}において午餐を催される。○東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、秩父宮御側日誌、皇子御殿日誌、東宮御婚儀記録、宮内省省報

二月

一日 金曜日 午前、皇太子と共に狩ノ間において、結婚の礼挙行の祝詞言上のため参殿の京都華族総代男爵小松行一に謁を賜う。○東宮侍従日誌、東宮職日誌、内賜録

結婚の礼挙行につき、皇太子と共に、久邇宮及びその親族の邦彦王・同妃倪子、及び朝融王・邦英王・信子女王・智子女王^御・侯爵久邇邦久をお召しになり、小食堂において午餐を催される。○東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、東宮御婚儀録、東宮御婚儀記録、宮内省省報、邦彦王行実

二日 土曜日 結婚の礼挙行につき、皇太子と共に饗宴場^{花鳥}ノ間において、宮内大臣・宮内次官、東宮大夫始め東宮職勤務高等官・同御用掛、久邇宮宮務監督始め久邇宮付高等官に、午餐の御陪食を賜う。

○東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、東宮御婚儀録、東宮御婚儀記録、宮内省省報、邦彦王行実

四日 月曜日 故貞愛親王一周年祭につき、皇太子妃の御使として東宮事務官戸田氏秀を権舎一周年祭並びに墓所一周年祭に差し遣わされる。また、皇太子・同妃から権舎に玉串・盛菓子を、墓所に玉串・榊をお供えになる。○東宮職日誌、典式録、祭祀録、宮内省省報、官報

五日 火曜日 午前、皇太子と共に御内儀において、この度佐世保鎮守府司令長官に補された博恭王と御対面になる。○東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、皇族身分録、宮内省省報、官報

七日 木曜日 故熾仁親王妃董子一周年祭につき、皇太子妃の御使として東宮事務官事務取扱本多正復を権舎並びに墓所に差し遣わされる。また皇太子・同妃から権舎に玉串・盛菓子を、墓所に玉串・榊をお供えになる。○東宮侍従日誌、東宮職日誌、典式録、宮内省省報

八日 金曜日 午前、皇太子と共に奥内謁見所において、佐世保鎮守府司令長官として赴任の暇乞い

のため参殿の博恭王と御対面になる。○東宮侍従日誌、贈賜録、宮内省省報、官報

十二日 火曜日 この日、帰国の挨拶のため参殿した元御学問所フランス語講師ジュリー・モレルに謁を賜う。同人にお品を賜う。○東宮職日誌

故成久王妃房子内親王フランス国より帰国につき、皇太子・同妃の御使として東宮侍従土屋正直を東京駅に差し遣わされる。○東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、贈賜録、宮内省省報、読売新聞

十四日 木曜日 元御学問所講師杉浦重剛元東宮御学問所御用掛 昨十三日死去につき、この日、弔問のため、皇太子・

同妃の御使として東宮事務官岡本愛祐を同人邸に差し遣わされる。さらに、皇太子・同妃より祭資料を下賜される。なお、去る十一日、皇太子・同妃より病氣お尋ねとして侍医鳥山南寿次郎を下賜され、五種果物を下賜され、昨十三日には、同人の危篤に際して皇太子・同妃より葡萄酒を下賜される。杉浦は、大正七年の御学問所開設時より講師を務め、良子女王に倫理学等を進講し、御慶事まで奉仕した。○東宮職日誌、贈賜録、内賜録、官報

十五日 金曜日 去る十三日、智子女王と従五位大谷光暢伯爵大谷光演子息との結婚勅許につき、この日、皇太

子・同妃から久邇宮に三種交魚を御贈進になる。○東宮職日誌、東宮内舍人日記、贈賜録、宮内省省報、官報

十八日 月曜日 午前、皇太子が東京帝国大学文学部教授松本亦太郎より「能率測定ニ就テ」と題する講話をお聴きになり、皇太子妃も陪聴される。○東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、秩父宮附宿直日記、

皇子御殿日誌、御教育録

十九日 火曜日 午後、皇太子と共に、参殿の元帥海軍大将東郷平八郎に謁を賜う。○東宮侍従日誌、東

宮職日誌

二十日 水曜日 去る一月二十五日より御仮床に就かれていた皇后がこの月十七日に御床払いになり、この日、皇太子・同妃の御使として東宮侍従牧野貞亮を沼津御用邸に差し遣わされる。○東宮職日誌、重要雑録、幸啓録、行幸録、貞明皇后実録正本

二十一日 木曜日 午前、仁孝天皇例祭につき、東宮女官青山元子に御代拝を仰せ付けられる。○東宮職日誌、祭祀録、儀式録、行幸録、宮内省省報

二十二日 金曜日 神宮・神武天皇陵並びに明治天皇陵・昭憲皇太后陵に謁するため、午前十時二十分皇太子と共に御出門、午後二時五十分沼津御用邸西附属邸に御到着になる。三時四十分西附属邸を御出門、皇太子と共に本邸にお出ましになり、天皇、皇后と順次御対面になる。五時五十分西附属邸にお戻りになる。○東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、東宮内舍人供奉日誌、沼津御用邸日誌、秩父宮御側日誌、秩父宮附宿直日記、皇子御殿日誌、皇子御殿日記、幸啓録、御婚儀録、東宮御婚儀記録、宮内省省報、官報、奈良武次日記、倉富勇三郎日記、三重毎日新聞、大阪毎日新聞

昨二十一日沼津市我入道地区において発生した火災により多数の家屋焼失につき、皇太子・同妃から静岡県に御救恤金を下賜される。○御婚儀録

二十三日 土曜日 午前八時二十分皇太子と共に沼津御用邸西附属邸を御出門、沼津駅より山田駅を経、午後四時五十分御泊所の神宮司庁に御到着になる。○東宮侍従日誌、東宮内舍人供奉日誌、沼津御用邸西

附属邸日誌、沼津御用邸日誌、幸啓録、行幸録、御婚儀録、東宮御婚儀記録、宮内省省報、官報、奈良武次日記、大阪毎日新聞

二十四日 日曜日 午前十時二十分皇太子と共に御泊所神宮司庁を御出門、神宮に謁するの儀に臨まれるため、神宮へ行啓される。最初に豊受大神宮において、皇太子と共に御拝礼になり、玉串を奉奠

される。一旦御泊所に戻られ御昼食の後、午後一時三十分御出門、皇太子と共に皇大神宮において御拝札になり、玉串を奉奠される。二時十分御泊所神宮司庁に還啓される。○東宮侍従日誌、東宮内舍人供奉日誌、御婚儀録、祭祀録、例規録、東宮御婚儀記録、宮内省省報、官報、神宮公報、奈良武次日誌、大阪毎日新聞

二十五日 月曜日 午前九時五十五分、皇太子と共に御泊所神宮司庁を御出門、山田駅より京都駅に向かわれる。京都駅に御到着後、駅貴賓室において多嘉王妃静子・智子女王と御対面になる。午後二時四十五分御泊所の大宮御所に御到着になる。○東宮侍従日誌、東宮内舍人供奉日誌、御婚儀録、東宮御婚儀記録、

宮内省省報、官報、京都市役所文書、奈良武次日誌、大阪毎日新聞、伊勢朝報

二十六日 火曜日 午前九時十五分皇太子と共に御泊所大宮御所を御出門、京都駅より畝傍駅を経て、神武天皇山陵勅使齋館に御到着になる。それより神武天皇山陵に謁するの儀に臨まれ、皇太子と共に同陵に御拝札になる。御昼食の後、御出発になり、畝傍駅より京都駅を経て、午後四時十五分御泊所大宮御所に還啓される。

なお、皇太子妃はこの日、東宮女官三輪もとを御使として泉山御陵に差し遣わされ、御祖父である朝彦親王墓の御代拝を仰せ付けられる。○東宮侍従日誌、東宮内舍人供奉日誌、祭祀録、御婚儀録、東宮御婚儀記録、行幸録、宮内省省報、官報、奈良武次日誌、京都日出新聞、大阪朝日新聞

二十七日 水曜日 午前十時五分皇太子と共に御泊所大宮御所を御出門、京都駅より桃山駅を経て、桃山参集所にお入りになる。それより皇太子と共に、明治天皇山陵昭憲皇太后山陵に謁するの儀に臨まれ、両陵に御拝札になる。終わって桃山駅より京都駅を経て、午後零時二十分御泊所に還啓される。

二時御泊所を御出門、皇太子と共に京都皇宮に行啓される。建春門より参入され、小御所において京

都在住の有資格者夫妻に謁を賜う。次に御学問所に移られ、雁之間において、京都府知事池松時和より献上の竹内栖鳳作「和暖」・山元春挙作「祥瑞図」の両屏風を、それぞれ作者の説明にて御覧になる。ついで廻廊において有資格者に謁を賜う。終わって御泊所大宮御所に還啓される。○東宮侍従日誌、

東宮内舍人供奉日誌、御婚儀録、東宮御婚儀記録、宮内省省報、官報、奈良武次日記、京都日出新聞

二十八日 木曜日 午前七時三十分皇太子と共に御泊所大宮御所を御出門、京都駅より沼津駅を経て、午後四時三十五分沼津御用邸西附属邸に御到着になる。ついで皇太子と共に本邸にお出ましになり、御内儀において天皇・皇后と御対面になった後、皇后と御夕食を御会食になる。八時三十分、西附属邸にお戻りになる。○東宮侍従日誌、東宮内舍人供奉日誌、沼津御用邸日誌、沼津御用邸西附属邸日誌、幸啓録、行幸録、御婚儀録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報、奈良武次日記

公爵松方正義病気につき、皇太子・同妃の御使として東宮侍従甘露寺受長を公爵別邸に差し遣わされ、お尋ねとして果物を賜う。三月一日には、同人の危篤に際して、皇太子・同妃より葡萄酒を賜う。○東宮職日誌、御婚儀録、東宮御婚儀記録、贈賜録、宮内省省報、松方正義関係資料

二十九日 金曜日 午前十時沼津御用邸西附属邸を御出門、皇太子と共に本邸にお出ましになり、天皇・皇后と御対面になる。その後、本邸を御退出になり、午後三時二十五分東宮仮御所に還啓される。

○東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、東宮内舍人供奉日誌、沼津御用邸西附属邸日誌、沼津御用邸日誌、幸啓録、行幸録、御婚儀録、東宮御婚儀記録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報、奈良武次日記

三月

二日 日曜日 午前十時御出門、皇太子と共に新宿御苑に行啓される。皇太子妃は大谷光明及び東宮職御用掛西園寺八郎の説明により初めてゴルフを御練習になる。午後、皇太子及び参苑の雍仁親王、恒憲王・同妃敏子、朝融王、侯爵久邇邦久とテニスをされる。四時二十分、皇太子と共に還啓される。

以後、この年も随時、皇太子と共に新宿御苑に行啓され、皇族・御親族等とお過ごしになる。○東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、秩父宮御側日誌、秩父宮附宿直日記、行啓録、新宿御苑日誌、新宿御苑上申報告書綴、宮内省省報

六日 木曜日 満二十一歳のお誕生日を迎えられる。

震災後の御遠慮のため祝賀は行われず、午前、表謁見所において、東宮職勤務高等官の拝賀のみをお受けになる。○東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記

この日、大谷光暢と智子女王の納采の儀執行につき、皇太子・同妃より久邇宮に鮮鯛を御贈進になる。

○贈賜録、皇族身分録

十日 月曜日 午前、御学問所において、皇太子が文学博士三上参次より「王政復古ノ大号令ニ就キテ」と題する講話をお聴きになり、皇太子妃も陪聴される。○東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、御教育録

十二日 水曜日 午後零時四十分御出門、紅葉山御写真場にお成りになる。皇太子と共に室内及び屋外庭園においてお写真の撮影をお受けになる。午後二時四十分還啓される。○東宮侍従日誌、東宮職日誌、

東宮内舎人日記、行啓録、幸啓録、宮内省省報

十四日 金曜日 海軍少尉博忠王が去る三日軍艦五十鈴において発病し、六日より佐世保海軍病院に入院する。皇太子・同妃は七日にお見舞いの電報を御発送になり、この日御使として東宮侍従土屋正直を、博忠王並びにその父博恭王佐世保鎮守府司令長官として同地に在りの許に差し遣わされる。○東宮職日誌、典式録、皇族身分録、

宮内省省報

十八日 火曜日 東宮仮御所において、今般帰任の米国特命全權大使サイラス・E・ウッズ及び同夫人をお召しの午餐が催される。皇太子撰と共政に狩ノ間において、大使夫妻と御握手になる。ついで花鳥ノ間大食において、御会食になる。御食後、再び狩ノ間において、大使夫妻と御歓談になる。なお、本午餐は東宮仮御所における催しのため、皇太子妃は皇后の御名代としてではなく、皇族の一員として御臨席になる。○東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、謁見録、外事録、官報

二十一日 金曜日 午前九時三十分皇太子撰と共政に御出門、春季皇霊祭及び同神殿祭につき、御拝礼になる。十時五十分還啓される。○東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、幸啓録、祭祀録、典式録、儀式録、例規録、宮内省省報、官報

二十二日 土曜日 午前、皇太子と共に狩ノ間において、岩手県知事牛塚虎太郎に謁を賜い、同県下の小中学校生徒による御慶事奉祝文の奉呈をお受けになる。○東宮侍従日誌、東宮職日誌

二十四日 月曜日 午前、御進講室において、皇太子が文学博士白鳥庫吉東京帝国大学文学部教授より「皇道ニ就テ」と題する講話をお聴きになり、皇太子妃も陪聴される。五月五日にも、同講話の続きを陪聴される。

○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、御教育録

二十五日 火曜日 博忠王昨二十四日薨去につき、この日、皇太子・同妃より弔問使として東宮侍従亀井茲常を華頂宮邸に差し遣わされ、靈前に白羽二重・榊・玉串をお供えになる。また、皇太子・同妃より盛菓子をお贈進になる。二十九日には、皇太子・同妃より賜物使として東宮侍従牧野貞亮を同邸に差し遣わされ、白羽二重・榊をお贈進になる。三十日には、靈代安置の儀につき、皇太子妃より御使として東宮事務官事務取扱本多正復を華頂宮邸に差し遣わされる。また、皇太子・同妃より靈前に玉串をお供えになる。三十一日に豊島岡墓地において行われる斂葬の儀には、皇太子妃より御使として東宮事務官岡本愛祐を差し遣わされる。

博忠王は、博恭王第二王子として明治三十五年一月二十六日に誕生する。父博恭王が華頂宮より伏見宮に復帰したため、同三十七年一月十五日華頂宮を嗣襲する。学習院初等学科時代は皇太子と同級にて、中等学科四年より海軍兵学校予科、ついで本科に進む。同校卒業後、大正十一年五月海軍少尉に任官する。この年三月十九日、危篤に際し中尉に進級、大勲位に叙せられ、菊花大綬章を授けられる。

○東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、典式録、内賜録、博忠王殿下葬儀録、皇族身分録、墓誌銘録、宮内省省報、官報、読売新聞

四月

一日 火曜日 故成久王一周年祭につき、御使として東宮事務官戸田氏秀を権舎一周年祭並びに墓所一周年祭に差し遣わされる。皇太子・同妃から権舎に玉串を、墓所に玉串・榊をお供えになる。なお、翌日午前にはお一方にて、参殿の故成久王妃房子内親王と御対面になる。○東宮女官日誌、東宮職日誌、東宮

大正十三年四月

内舎人日記、典式録、行幸録、宮内省省報

三日 木曜日 午前九時二十分皇太子撰と共に御出門になる。神武天皇祭につき、皇靈殿において御拝礼になる。十時五十五分還啓される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、幸啓録、祭祀録、儀式録、典式録、例規録、宮内省省報、官報

四日 金曜日 午後、阪正臣元御学問所講師に謁を賜う。以後、この年も随時、元奉仕者の拝謁等がある。○東宮女官日誌

五日 土曜日 午前、御学問所において、皇太子が元内務省警保局長後藤文夫より「思想運動ノ諸傾向ニ就テ」と題する講話をお聴きになり、皇太子妃も陪聴される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、御教育録

八日 火曜日 午後零時二十分、皇后が皇太子御成婚後初めて東宮仮御所にお立ち寄りになる。皇太子と共に御車寄において奉迎され、ついで御昼餐を御会食になる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、幸啓録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報、岡本愛祐関係文書

九日 水曜日 午前十一時御出門、参内される。御先着の皇太子と共に奥宮殿において、昨日の東宮仮御所行啓に対するお礼言上のため皇后と御対面になる。午後零時十五分皇太子と共に還啓される。

○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、幸啓録、行啓録、宮内省省報

十日 木曜日 午後、主馬寮分厩にお成りになり、皇太子と共に宮内省乗馬会・東京乗馬倶楽部・大阪愛馬会による馬術を御覧になる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、今上陛下御乗馬誌、奈良武次日記

十一日 金曜日 昭憲皇太后十年式年祭につき、皇太子妃が御使として東宮女官長島津治子を皇后の許に差し遣わされる。また、皇太子・同妃が御使として東宮侍従甘露寺受長を天皇の許に差し遣わされる。○東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、幸啓録、祭祀録、典式録、儀式録、行幸録、宮内省省報、官報

十二日 土曜日 午前十一時三十分御出門、皇太子と共に参内され、皇后と御昼餐を御会食になる。

午後、皇后及び皇太子・崇仁親王と共に、吹上御苑を御散策になる。五時三十分還啓される。○東宮女

官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、行啓録、貞明皇后実録正本、宮内省省報

十四日 月曜日 午前、妃殿下表謁見所において、日本赤十字社社長平山成信に謁を賜い、日本赤十字社有功章・日本赤十字社名誉社員章の奉呈をお受けになる。皇太子妃は、この日同社名誉社員となる。○東宮女官日誌、東宮職日誌、重要雑録、事業年報（日本赤十字社）

十五日 火曜日 定例の御学課が開始される。時間割は左のとおり。なお、火曜日の国文講師芳賀矢一は皇太子と御一緒に聴講される。また、ピアノは神戸絢が講師を務める。

金	木	火	自九時	自十時
		仏語		国文
			仏語	ピアノ
				仏語

○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、御教育録、奈良武次日記

皇太子と共に、今般婦嫁の智子女王昨日参内朝見の儀執行をお招きになり、御晚餐を御会食になる。○東宮女官日誌、東

大正十三年四月

宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、典式録

十九日 土曜日 午後一時御出門、皇太子と共に北白川宮邸に行啓される。北白川宮の各宮及び故恒久王妃昌子内親王と御対面になる。四時三十分還啓される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、行啓録、宮内省省報

二十四日 木曜日 正午、皇太子と共に東表謁見所において、京都華族総代の子爵西洞院信意に謁を賜う。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌

二十五日 金曜日 賢所・皇靈殿・神殿御修繕につき仮殿に奉遷の儀が行われる。午前九時三十二分、賢所、及び皇靈殿・神殿の神霊をそれぞれ御格納が賢所より仮殿に向けて御發につき、東宮仮御所の奥内謁見所前より御遙拝になる。なお、仮殿の儀につき、東宮女官津軽理喜子に御代拝を仰せ付けられる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、典式録、儀式録、宮内省省報、官報

二十九日 火曜日 この日、皇太子・同妃のお誕生日皇太子妃のお誕生日は三月六日であるがこの日まで御延引の祝宴が開かれる。午前、皇太子と共に表内謁見所において、東宮職及び同職詰高等官・御用掛の拝賀をお受けになる。その後、宮内大臣、式部長官始め宮内省各部署局長等の拝賀をお受けになる。正午、雍仁親王始め在京の成年皇族・王族の拝賀をお受けになる。ついで、大食堂において一同と午餐を御会食になる。

なお、お誕生日のお祝いは震災後に鑑み、全て略式にて行われる。
午後、皇太子と共に奥内謁見所において、皇太子の元奉仕者等に謁を賜う。御夕餐後、皇太子と共に旭ノ間において、雍仁親王及び崇仁親王・邦英王・信子女王始め在京の学齡以上の未成年皇族と御一

緒に、阿部徳藏奇術研
究家による手品を御覧になる。

なお、皇太子・同妃のお誕生日につき、天皇・皇后への御機嫌伺いのため、皇太子・同妃の御使として東宮侍従牧野貞亮が沼津御用邸に差し遣わされる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、秩父宮御側日誌、秩父宮附宿直日記、皇子御殿日誌、重要雑録、幸啓録、行幸録、典式録、奈良武次日記、倉富勇三郎日記、奇術隨筆、TAMC五〇年のあゆみ

五月

三日 土曜日 この日智子女王と従五位大谷光暢結婚につき、皇太子・同妃が祝電を御發送になる。

また、皇太子・同妃から久邇宮に五種交魚が、智子女王に紅白縮緬が贈られる。○東宮職日誌、贈賜録、皇族身分録、宮内省省報、官報

四日 日曜日 午後、赤坂離宮内丸山に完成のテニスコート開きが催され、皇太子と共にお出ましになる。雍仁親王、恒憲王・同妃敏子、朝融王・規子女王のほか、陪覧あるいはお相手をするため、侯爵小松輝久、日本庭球協会の朝吹常吉・熊谷一弥・田中虎之輔・鳥羽貞三その他が参苑する。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、秩父宮御側日誌、奈良武次日記

八日 木曜日 宮内省御用掛山本信次郎東宮御学問所においてフランス語を担当より、翌九日に参殿する仏領インドシナ総督マーシヤル・メルランについてお話を聞きになる。○東宮女官日誌

九日 金曜日 東宮御所において午餐が催され、皇太子撰と共に花鳥ノ間において、仏領インドシ

大正十三年五月

ナ総督マーシャル・メルラン震災に対する仏国政府の慰問及び個人として御成婚の祝詞言上のため来日及び同夫人と御会食になる。○東宮女官日誌、東宮

侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、謁見録、外事録、宮内省省報、官報

十二日 月曜日 故博忠王五十日祭につき、皇太子妃の御使として東宮事務官事務取扱本多正復を権

舎五十日祭及び墓所五十日祭に差し遣わされる。皇太子・同妃から、権舎に玉串・盛菓子、墓所に玉

串・櫛をお供えになる。○東宮職日誌、博忠王殿下葬儀録、典式録、内賜録、宮内省省報

十三日 火曜日 午後二時三十分御出門、皇太子と共に東京駅に行啓され、沼津より還啓の皇后を奉

迎される。三時二十五分還啓される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、行啓録、宮内省省

報、官報

皇太子と共に、この度欧州見学に出発する侯爵久邇邦久と御夕餐を御会食になる。二十一日には、皇

太子と共に、暇乞いのため参殿の同人に謁を賜う。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、

贈賜録、官報、侯爵久邇邦久伝

十五日 木曜日 午後、皇太子と共に御内儀において、京都より帰京の邦彦王妃倪子と御対面になる。

○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記

良子女王殿下御学問所閉鎖並びに御婚儀に関し諸費用を要したため、特に思召しをもって、久邇宮に

下賜金がある。○皇親録

十六日 金曜日 午後一時四十五分御出門、皇太子と共に参内され、奥宮殿において皇后と御対面に

なる。四時二十五分還啓される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、行啓録、宮内省省報

十七日 土曜日 午前十時十分御出門、皇太子と共に東京駅に行啓され、沼津に行啓の皇后を奉送さ

れる。十一時十分還啓される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、行啓録、宮内省省報、官報
十八日 日曜日 午前九時三十分御出門、皇太子と共に新宿御苑に行啓される。午後、皇太子と共に園遊会を催され、雍仁親王・崇仁親王始め学齡以上の在京皇族・王族、及び侯爵小松輝久・同夫人、侯爵久邇邦久をお招きになる。午後五時十分還啓される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、秩父宮御側日誌、秩父宮附宿直日記、行啓録、内賜録、新宿御苑日誌、新宿御苑上申報告書綴、宮内省省報

十九日 月曜日 午前、後龜山天皇五百年式年祭につき、皇太子と共に奥内謁見所において御遙拝になる。また、東宮侍従本多正復東宮事務官事務取扱に御代拝を仰せ付けられる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、典式録、儀式録、宮内省省報、官報

二十日 火曜日 午後、西謁見所において、今般離任のメキシコ国特命全権公使ルイス・N・ルバルカヴァ及び同夫人を御引見になる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、謁見録、宮内省省報、官報

二十六日 月曜日 午前、表御学問所において、皇太子が文学博士三上参次より「藩籍奉還二就キテ」と題する講話をお聴きになり、皇太子妃も陪聴される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、御教育録、三上参次御進講案

二十七日 火曜日 午前、皇太子と共に表内謁見所において、台湾総督内田嘉吉に謁を賜う。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、進献録

二十九日 木曜日 正午過ぎ、近く帰国の米国特命全権大使サイラス・E・ウッズ及び同夫人を御引見になる。ついで皇太子撰と共に小食堂において、大使夫妻のため午餐を催される。○東宮女官日誌、東宮

大正十三年五月

侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、謁見録、外事録、宮内省省報、官報

午後二時三十分御出門、皇太子と共に東京駅に行啓され、沼津より還啓の皇后を奉迎される。三時二十五分還啓される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、行啓録、宮内省省報、官報

皇太子と共に奥内謁見所において、翌三十日佐世保へ帰任の博恭王と御対面になる。○東宮侍従日誌、東

宮職日誌

去る二十七日に信子女王と従五位三条西公正伯爵三条西実義子息の結婚が勅許され、昨二十八日に納采終了につ

き、この日皇太子・同妃から久邇宮に鮮鯛を御贈進になる。○東宮職日誌、東宮内舎人日記、贈賜録、皇族身分録、

宮内省省報、官報

三十日 金曜日 午後二時御出門、皇太子と共に参内され、皇后と御対面になる。四時二十五分還啓される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、行啓録、宮内省省報

皇太子と共に、侯爵小松輝久と御夕餐を御会食になる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮内舎人日記

三十一日 土曜日 この日及び六月二日・三日・四日の四日間、宮城において皇太子結婚式中の宮中饗宴の儀が催される。この日は、親王・親王妃・王・王妃・王公族、大勲位以下親任官待遇以上・各国大使並びに同夫人、御婚儀委員・宮内省各部長官・東宮職職員・久邇宮付高等官・女官・式部官が招かれる。

午後六時二十分御出門、皇太子と共に参内される。皇太子と共に皇后に扈從して牡丹ノ間にお出ましになり、皇族・王公族と御対面になり、諸員に謁を賜う。各国大使・同夫人には御引見の上、御握手を賜う。その後、豊明殿において饗宴に臨まれ、御晚餐を御会食になり、諸員にも御陪食を賜う。

御会食後、牡丹ノ間において皇族・王公族その他の諸員と御談話になり、続いて千種ノ間において各国大使・同館員並びにその夫人をお召しになつての夜宴に臨まれる。皇后に暇乞いの上、十時十分還啓される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、秩父宮御側日誌、秩父宮附宿直日記、皇子御殿日誌、御婚儀録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

六月

二日 月曜日 午前十一時二十分御出門、皇太子と共に参内され、宮中饗宴の儀第二日に御臨席になる。この日は親王・親王妃・王・王妃・王公族、大勲位以下勲一等以上及び同夫人、高等官一等等以下勲任待遇以上、伯子男爵有位華族、貴衆両院議員、宮内奏任官同待遇のうち三分の一が招かれる。なお、同儀の第三日・第四日にも同様の範囲が招かれる。午後一時三十分還啓される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、秩父宮御側日誌、秩父宮附宿直日記、皇子御殿日誌、御婚儀録、宮内省省報、官報

三日 火曜日 午前十一時二十分御出門、皇太子と共に参内され、宮中饗宴の儀第三日に御臨席になる。午後一時二十五分還啓される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、御婚儀録、宮内省省報、官報

四日 水曜日 午前十一時二十分御出門、皇太子と共に参内され、宮中饗宴の儀第四日に御臨席になる。午後一時三十分還啓される。饗宴の儀はこの日をもつて終了となる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、御婚儀録、宮内省省報、官報

夜、皇太子と共に東宮御所のバルコニーにお出ましになり、正門前における東京株式取引所員、牛

込区青年団員等による奉祝提灯行列を御覧になり、「君が代」斉唱、万歳三唱をお受けになる。以後、随時、市民や各種団体による奉祝の提灯行列等を御覧になる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記

宮内舎人日記

五日 木曜日 午前十時五分御出門、皇太子と共に宮城二重橋前に行啓され、東京市主催御結婚奉祝会に臨まれる。十一時五分還啓される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、秩父宮御側日誌、秩父宮附宿直日誌、皇子御殿日誌、行啓録、東宮御婚儀記録、宮内省省報

皇太子結婚の礼終了につき、この日より東宮仮御所において祝宴が催される。この日は海軍軍令部長・海軍次官・第一艦隊司令長官以下、海軍軍令部員・海軍省員・第一艦隊員が参殿する。午前、皇太子と共に孔雀ノ間において勅任官以上、ついで旭ノ間において奏任官に謁を賜う。○東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、御婚儀録、宮内省省報

六日 金曜日 午前十時十分御出門、皇太子と共に東京駅に行啓され、皇后の沼津行啓を奉送される。十一時十分還啓される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、行啓録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

皇太子結婚の礼終了につき、皇太子と共に花鳥ノ間において、宮内大臣始め御婚儀関係員・御婚儀委員、及び東宮職職員・久邇宮職員に、午餐の御陪食を賜う。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、御婚儀録、東宮御婚儀記録、宮内省省報

七日 土曜日 皇太子結婚の礼終了につき、皇太子と共に花鳥ノ間において、公爵島津忠重始め久邇宮の親族、及び元東宮御学問所総裁東郷平八郎始め元奉仕者に、午餐の御陪食を賜う。○東宮女官日誌、

東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、御婚儀録、東宮御婚儀記録、宮内省省報

九日 月曜日 皇太子結婚の礼終了につき、参謀総長以下陸軍関係員が参殿する。正午頃、皇太子と共に孔雀ノ間において勅任官以上、続いて旭ノ間において奏任官に謁を賜う。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、御婚儀録、東宮御婚儀記録、宮内省省報

午後二時三十分御出門、皇太子と共に東京駅に行啓され、沼津より還幸啓の天皇・皇后を奉迎される。三時二十分還啓される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、行啓録、行幸録、大正天皇実録、

貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

十日 火曜日 皇太子結婚の礼終了につき、午前、皇太子と共に奥内謁見所において、正二位柳原愛子及び典侍千種任子以下皇后宮女官・御用掛等に謁を賜う。終わって柳原以下に賜饌がある。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮内舎人日記、御婚儀録、東宮御婚儀記録

沼津より還幸啓につき御機嫌伺いのため、午後一時三十分御出門、皇太子と共に参内され、雍仁親王も共に天皇・皇后と御対面になる。四時二十分還啓される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、秩父宮御側日誌、皇子御殿日誌、行啓録、大正天皇実録、宮内省省報、官報、雍仁親王実紀

十一日 水曜日 皇太子結婚の礼終了につき、奥内謁見所において皇太子と共に、皇太子の御縁故者としてお召しの柳原花子^{伯爵川村純義息女}、及び皇太子の元奉仕者としてお召しの坂野鈴・渥美千代・鈴木タカ・

清水シゲ・荒川玉・小山登美・菅千代・曾根ナツに謁を賜う。終わって柳原以下に賜饌がある。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、御婚儀録、東宮御婚儀記録

十二日 木曜日 御婚儀後の饗宴のため、かねて休講となっていた定例御学課が、この日より再開さ

れる。またこの日より、定例の学課のうち金曜日に行われていたフランス語が木曜日に変更となる。

○東宮女官日誌、東宮内舎人日記

十三日 金曜日 皇太子と共に、宮内大臣牧野伸顕と御夕餐を御会食になる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、牧野伸顕日記

十四日 土曜日 午後、昨十三日に宮内省御用掛を辞した後閑菊野に謁を賜う。後閑に対しお品を賜う。○東宮女官日誌、官報

十五日 日曜日 この日、新宿御苑において、東宮御慶事宮内職員奉祝会が举行される。これに先立ち、午前、皇太子と共に東宮仮御所のバルコニーにお出ましになり、奥内謁見所前の庭園に整列する東宮職職員一同に御会釈を賜い、東宮大夫の発声による万歳三唱をお受けになる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、贈賜録

十六日 月曜日 午前、皇太子が文学博士矢吹慶輝より「労働者ノ思想問題ニ就テ」と題する講話をお聴きになり、皇太子妃も陪聴される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、御教育録

午後一時三十分御出門、参内され、天皇・皇后と御対面になる。その後、皇后の御案内にて紅葉山御養蚕所を御覧になる。四時三十分還啓される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、行啓録、宮内省省報、大森鍾一関係資料

十八日 水曜日 午後、表謁見所において、新任の侍医頭入沢達吉・前任の侍医頭池辺棟三郎に謁を賜う。○東宮女官日誌、宮内省省報、官報

二十日 金曜日 午前、高取稚成から絵画の指導をお受けになる。以後、この年は同人より、金曜日

を定例として指導をお受けになる。○東宮女官日誌

東宮事務官兼宮内書記官戸田氏秀昨十九日死去につき、この日、弔問のため、皇太子・同妃の御使として東宮侍従甘露寺受長を同人邸に差し遣わされる。二十三日には、皇太子・同妃の御使として東宮侍従亀井茲常を差し遣わされ、祭資料を賜う。なお、同人の病気に際して、皇太子・同妃よりお尋ねとして、去る五月十五日には籠を、六月十七日には果物を下賜され、十九日には、危篤に際して葡萄酒を下賜される。○東宮職日誌、進退録、贈賜録、宮内省省報、官報

二十一日 土曜日 皇太子と共に表御食堂において、上直の側近奉仕者と御夕餐を御会食になる。以後、土曜日には上直の側近奉仕者と御夕餐を共にされることが定例となる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、

東宮職日誌、東宮内舍人日記

二十三日 月曜日 午後、皇太子と共に表内謁見所において、侍従武官浜田豊城より樺太及び薩哈噠州に関する講話をお聴きになる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、進退録、宮内省省報、官報

御機嫌伺いに参殿の正二位柳原愛子に、謁を賜う。○東宮女官日誌、東宮職日誌

二十五日 水曜日 皇后のお誕生日につき、午前十時十五分御出門、皇太子と共に参内される。御学問所において天皇と御対面の後、桐ノ間において皇太子に続き、皇后に拝賀される。ついで豊明殿において、御祝宴に臨まれる。午後零時十五分還啓される。○東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、典式録、儀式録、貞明皇后実録正本、宮内省省報

二十八日 土曜日 午後一時三十分御出門、皇太子と共に参内される。奥宮殿において、天皇・皇后と御対面になる。四時十五分還啓される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、行啓録、宮

大正十三年七月

内省省報

二十九日 日曜日 故威仁親王妃慰子一周年祭につき、皇太子妃の御使として東宮事務官岡本愛祐を権舎及び墓所に差し遣わされ、玉串をお供えになる。皇太子・同妃から権舎に盛菓子をお供えになる。○東宮職日誌、典式録、宮内省省報

三十日 月曜日 午前、旭ノ間において、新任のメキシコ国特命全権公使エドゥアルド・ヘイ及び同夫人を御引見になる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、宮内省省報、官報

七月

一日 火曜日 この日より定例の御学課は夏季休業となる。○東宮侍従日誌

故博忠王百日祭につき、皇太子妃の御使として東宮事務官事務取扱本多正復を権舎及び墓所に差し遣わされ、玉串をお供えになる。また、権舎に盛菓子をお供えになる。○東宮職日誌、博忠王殿下葬儀録、典式録

二日 水曜日 午後一時三十分御出門、参内される。皇后と共に紅葉山御養蚕所にお出ましになり、製糸・製綿の様子等を御覧になる。四時五十五分還啓される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、行啓録

公爵松方正義この日死去につき、皇太子・同妃より靈前に盛菓子をお供えになる。翌三日には、皇太子・同妃より弔問使として東宮侍従牧野貞亮を同人邸に差し遣わされる。十日には、皇太子・同妃より御使として東宮侍従伯爵亀井茲常を柩前に差し遣わされ、玉串・榊をお供えになる。十二日に行わ

れる国葬には、皇太子妃より御使として東宮事務官岡本愛祐を葬場に差し遣わされ、また、皇太子・同妃より玉串・榊をお供えになる。八月二十日の五十日祭には、皇太子・同妃より御使として東宮侍従岡本愛祐を墓所に差し遣わされる。なお、同人の病気に際し、皇太子・同妃より、病氣お尋ねとして果物を下賜され、皇太子・同妃の御使として牧野東宮侍従を同人邸に差し遣わされる。さらに、同人の危篤に際し、皇太子・同妃より葡萄酒を下賜される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮内舍人日記、贈賜録、故松方公国葬書類、宮内省省報、官報、公爵松方正義卿実記、公爵松方正義伝

七日 月曜日 午前十時四十五分御出門、皇太子と共に久邇宮邸に行啓される。邦彦王・同妃侘子、及び朝融王・信子女王・故依仁親王妃周子と御対面になり、久邇宮親族その他参邸者に謁を賜う。それより一同と歓談され、午餐を御会食になる。その後、旧良子女王御学問所^{花御殿}等を御覧になり、午後五時十五分還啓される。皇太子・同妃の御結婚後初めての同宮邸行啓につき、皇太子・同妃から邦彦王・同妃に七種交魚等を御贈進になる。また、朝融王・邦英王・信子女王に対しても皇太子・同妃から賜品がある。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、行啓録、典式録、御婚儀録

八日 火曜日 午前、参殿の内閣総理大臣加藤高明夫人春路に謁を賜う。○東宮女官日誌、皇太子と共に、昨日の行啓のお礼言上のため参殿した邦彦王・同妃侘子と御対面になる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記

午後、皇太子と共に表内謁見所において、在カルカッタ総領事縫田栄四郎より。ヘルシヤ視察談をお聴きになる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記

十日 木曜日 夜、皇太子と共に旭ノ間において、式部職業楽部員による洋楽演奏をお聴きになる。○

大正十三年七月

東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記

宮中顧問官公爵一条実輝元東宮侍従長、海軍大佐 昨九日死去につき、この日、皇太子・同妃より祭糝料・榊・盛菓

子を下賜される。なお、去る八日、同人の病氣危篤に際し、皇太子・同妃よりお尋ねとして葡萄酒を下賜される。○東宮職日誌、進退録、贈賜録、宮内省省報

十四日 月曜日 午前、皇太子が西御進講室において、文学博士三上参次より「君徳涵養ニ関スル維新元勲ノ事蹟ニ就テ」と題する講話をお聴きになり、皇太子妃も陪聴される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、御教育録

午後一時三十分皇太子と共に御出門、中元並びに翌十五日からの日光行幸啓につき、天皇・皇后に御機嫌伺いのため参内される。四時四十八分還啓される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、行啓録

十五日 火曜日 午前七時十分御出門、皇太子と共に上野駅に行啓され、日光に行幸啓の天皇・皇后を奉送される。八時三十分還啓される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、行啓録、大正天皇実録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

午前十一時三十分御出門、皇太子と共に閑院宮邸に行啓される。載仁親王・同妃智恵子・春仁王と御対面になり、続いて侯爵黒田長成始め親王の親族その他に謁を賜う。午餐を御会食の後、小金井蘆州の講談二席を御鑑賞になる。午後四時五分還啓される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、行啓録

十六日 水曜日 午前九時三十分御出門、皇太子と共に明治神宮に行啓される。本殿御拝所において、

皇太子に続き御拝礼になる。十時十五分還啓される。御参拝につき、皇太子・同妃から神饌料・幣帛料のお供えがある。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、行啓録

皇太子と共に奥内謁見所において、昨日の行啓のお礼言上のため参殿の載仁親王と御対面になる。○

東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記

午後、皇太子と共に、参殿の稔彦王妃聡子内親王と御対面になる。内親王は翌十七日より静岡県三島へ旅行する。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、宮内省省報

二十一日 月曜日 午後、皇太子と共に表内謁見所において、在ベルギー国大使館参事官武者小路公共より、稔彦王のルーマニア国訪問状況に関する講話をお聴きになる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、宮内省省報、読売新聞

二十四日 木曜日 午前、後宇多天皇六百年式年祭につき、御遙拝になる。また、東宮女官油小路蒙子に御代拝を仰せ付けられる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、儀式録、宮内省省報、官報

二十六日 土曜日 御不例につき、翌二十七日御出発予定の皇太子との日光及び翁島行啓は延期となる。○東宮女官日誌、東宮職日誌、行啓録、官報、大森鍾一関係資料

三十日 水曜日 午前、明治天皇例祭皇霊殿の儀につき、表置ノ間において御遙拝になる。夕刻、同御神楽の儀につき、御遙拝になる。なお、賢所仮殿における両儀共に、東宮女官油小路蒙子に御代拝を仰せ付けられる。また、日光御滞在中の天皇・皇后の許に、皇太子・同妃の御使として東宮侍従本多正復を差し遣わされる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、祭祀録、儀式録、典式録、宮内

省省報、官報

八月

三日 日曜日 日光及び翁島へ行啓のため、午前七時三十五分皇太子と共に御出門、午後零時十分日光御用邸に御到着になる。二時同邸を御出門、天皇・皇后に御機嫌伺いのため、皇太子と共に日光田母沢御用邸に行啓される。五時二十分日光御用邸に還啓される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮内舎人供奉日誌、秩父宮附宿直日誌、皇子御殿日誌、行啓録、幸啓録、行幸録、大正天皇実録、宮内省省報、官報

四日 月曜日 午前十時三十分日光御用邸を御出門、皇太子と共に日光田母沢御用邸に行啓され、皇后・崇仁親王と御昼餐を御会食になる。その後、御一緒にお庭を散策され、植物園や日光田母沢御用邸附属邸に立ち寄られる。皇太子と共に午後五時五分日光御用邸に還啓される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人供奉日誌、行啓録、行幸録、貞明皇后実録正本

五日 火曜日 午前八時五十五分皇太子と共に日光御用邸を御出門、日光駅より福島県の翁島駅を経て、午後三時十分御泊所の高松宮別邸に御到着になる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人供奉日誌、行啓録、行幸録、宮内省省報、官報

六日 水曜日 午後、御泊所高松宮別邸を御出発になり、皇太子と共に鳥狩原に行啓される。皇太子は御乗馬にて、皇太子妃は東宮職御用掛西園寺八郎が馭者を務める馬車にてお出ましになる。皇太子は同所にて御乗馬の御練習をされる。皇太子妃はその様子を御覧になった後に、お一方にて還啓される。以後、高松宮別邸御滞在中、皇太子と共にしばしば鳥狩原に行啓され、御散策やゴルフ競技等をしてお過ごしになる。なお、行啓の際にはしばしば皇太子と馬車に御同車になり、皇太子が時に馬車を馭される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮内舎人供奉日誌、行啓録

八日 金曜日 午後、皇太子と共に高松宮別邸裏の湖畔に下りられ、モーターボート浦安号にて猪苗代湖を御巡航になる。以後、同地御滞在中、浦安号やスカルにてしばしば湖上・湖畔にお出ましになり、時にお一方にて御乗船・御操縦になる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮内舎人供奉日誌、行啓録

九日 土曜日 午前、皇太子と共に、通信大臣・陸軍大臣・鉄道大臣・司法大臣に謁を賜う。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮内舎人供奉日誌、行啓録

十二日 火曜日 午前、皇太子と共に、参邸の博信王と御対面になり、去る三月の博忠王薨去に際して喪主を務めたことの報告並びにお礼言上をお受けになる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮内舎人供奉日誌、行啓録、宮内省省報

十五日 金曜日 皇太子と共に、参邸の宮内大臣牧野伸顕と御昼餐を御会食になる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮内舎人供奉日誌、行啓録、牧野伸顕日誌、福島民友新聞

十六日 土曜日 午前、皇太子と共に、参邸の内閣総理大臣・外務大臣・内務大臣・海軍大臣・文部大臣・農商務大臣・大蔵大臣ほかに謁を賜う。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮内舎人供奉日誌、行啓録

御夕餐後、皇太子と共に、教育総監部員の説明により、去る五月の陸軍戸山学校剣道大会への皇太子の行啓、日露戦争の旅順開城実況等の活動写真を御覧になる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮内舎人供奉日誌、行啓録、奈良武次日記

十七日 日曜日 午前、輝仁親王^{明治天皇第五皇子}三十年式年祭につき、御座所において皇太子と共に御遙拝になる。皇太子・同妃から墓所に榊をお供えになる。また、皇太子・同妃の御使として東宮侍従本多正復を日光田母沢御用邸に差し遣わされる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人供奉日誌、行啓録

大正十三年八月

典式録、重要雜録、宮内省省報

昨十六日宣仁親王乗艦の軍艦浅間新潟港寄港につき、皇太子・同妃の御使として東宮武官加藤隆義を同親王の許に差し遣わされる。○東宮内舎人供奉日誌、行啓録、官報、宣仁親王略伝

二十日 水曜日 午前九時十分高松宮別邸を御出門、皇太子と共に若松市に行啓される。翁島駅より会津若松駅を経て、飯盛山に向かわれる。洞門、栄螺堂、宇賀神社の白虎隊士の木像、同隊士の墓等を御覧になる。続いて蚕養国神社にお立ち寄りの後、若松城趾を訪問される。なお、飯盛山・若松城趾御見学の途次、扈従の男爵山川健次郎旧会津藩士、白虎隊所屬及び陸軍武官数名より、戊辰戦争当時の状況についての説明や回顧談等をお聞きになる。次に市公会堂において御昼餐をお召し上がりになる。その後、会津若松駅より翁島駅を経て、午後三時三十分高松宮別邸に還啓される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東

宮職日誌、東宮内舎人供奉日誌、行啓録、行幸録、今上陛下御乗馬誌

二十七日 水曜日 午後一時四十五分高松宮別邸を御出門、東京電灯株式会社猪苗代第一発電所に行啓され、御先着の皇太子と共に同所を御巡覧になる。午後四時五十分お一方にて高松宮別邸に還啓される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮内舎人供奉日誌、行啓録、今上陛下御乗馬誌

二十九日 金曜日 皇太子と共に、参邸の福島県知事香坂昌康に午餐の御陪食を賜う。○東宮女官日誌、

東宮侍従日誌、行啓録

三十日 土曜日 午前七時五十五分皇太子と共に高松宮別邸を御出門、翁島駅より栃木県の日光駅を経て、午後二時十分御泊所の日光御用邸に御到着になる。四時同邸を御出門、皇太子と共に日光田母沢御用邸に行啓される。天皇・皇后と御対面になり、皇后及び皇太子・雍仁親王・宣仁親王・崇仁親

王と御夕餐を御会食になる。九時三十分日光御用邸に還啓される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮内舎人供奉日誌、行啓録、幸啓録、行幸録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

三十一日 日曜日 午前十時三十分皇太子と共に日光御用邸を御出門、天長節につき、日光田母沢御用邸に行啓され、天皇・皇后と御対面になる。十一時五十五分同邸を御出門、午後四時十分東宮仮御所に還啓される。○東宮女官日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、行啓録、行幸録、大正天皇実録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

九月

一日 月曜日 関東大震災一周年につき、終日御運動等をお控えになる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記

故寛子女王・故師正王・武彦王妃故佐紀子女王の各一周年祭につき、皇太子妃の御使として東宮事務官岡本愛祐をそれぞれの権舎及び墓所に差し遣わされる。皇太子・同妃から、故寛子女王・故師正王・故佐紀子女王の権舎に玉串・盛菓子をも、また、故寛子女王・故師正王の墓所に玉串を、故佐紀子女王の墓所に榊・玉串をそれぞれお供えになる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、典式録、宮内省省報

二日 火曜日 午前、皇太子と共に奥内謁見所において、昨日故寛子女王一周年祭に御使御差遣の御礼のため参殿の載仁親王と御対面になる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記

八日 月曜日 午前、奥内謁見所において、新任の侍従武官海軍少将小山田繁蔵に謁を賜う。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、官報

十日 水曜日 午前、奥内謁見所において、安藤幸からヴァイオリンの指導をお受けになる。以後、

この年は同人より、毎週水曜日を定例として指導をお受けになる。○東宮女官日誌、東宮職日誌

宣仁親王病氣重体の報到達につき、皇太子・同妃よりお尋ねの電報を御發送になる。翌十一日、皇太子・同妃の御使として、東宮事務官岡本愛祐を海軍砲術学校に差し遣わされ、お尋ねとして盆栽を御贈進になる。宣仁親王は昨九日より病氣となり、軍艦浅間より海軍砲術学校に移され治療を受け、十二日に赤痢と診断される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、贈賜録、宮内省省報、高松宮宣仁親王、読売新聞

十一日 木曜日 この日より定例の御学課が再開される。各時間は四十五分にて、第一時は九時、第二時は十時開始とされる。時間割は左のとおり。

	第一時自九時	第二時自十時
火	外国語	国文
水		ヴァイオリン
木	外国語	ピアノ
金	絵画	

○東宮女官日誌、東宮内舎人日記、東宮職日誌、御教育録

十三日 土曜日 午前、西謁見所において、今般帰国のフランス国特命全權大使ポール・クロードル夫人を御引見になる。なお、同夫人は昨十二年の震災に際して救護事業に尽力したことから、皇后より御紋付花瓶の下賜があり、この日、皇太子妃から同夫人に代授される。○東宮女官日誌、東宮職日誌、東宮

内舎人日記、貞明皇后実録正本、大森鍾一関係資料

二十二日 月曜日 午前十一時十分御出門、皇太子と共に参内され、この日日光より還幸啓の天皇・皇后と御対面になる。午後零時十分還啓される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、行啓録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

二十三日 火曜日 午前、秋季皇霊祭及び同神殿祭につき、表置ノ間において御遙拝になる。また、東宮女官青山元子に御代拝を仰せ付けられる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、祭礼録、儀式録、典式録、官報

二十四日 水曜日 午後二時御出門、皇太子と共に参内され、奥宮殿において天皇・皇后と御対面になる。四時十五分還啓される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、行啓録、宮内省省報

二十九日 月曜日 午前、表御進講室において、皇太子が文学博士三上参次より「明治天皇ト維新ノ政治」と題する講話去る七月十日の続きをお聴きになり、皇太子妃も陪聴される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、秩父宮御側日誌、秩父宮附宿直日記、御教育録

十月

一日 水曜日 懿徳天皇二千四百年式年祭につき、午前のヴァイオリンの稽古をお取りやめになり、お慎みになる。○東宮女官日誌、儀式録、典式録、宮内省省報、官報

六日 月曜日 午前、皇太子が東京帝国大学法学部教授小野塚喜平次より「輿論ニ就テ」と題する講話をお聴きになり、皇太子妃も陪聴される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、御教育録

午後、東宮仮御所において、新任のアルゼンチン国特命全権公使セルヒオ・ガルシヤ・ウリブル、今般帰国のチリ国公使館付陸軍武官ペドロ・ガレトン及び同夫人を御引見になる。○東宮女官日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、謁見録、外事録、宮内省省報、官報

十一日 土曜日 午後二時御出門、皇太子と共に参内される。四時二十分還啓される。○東宮女官日誌、

東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、行啓録、宮内省省報

十三日 月曜日 午前、東御学問所において、皇太子が農事試験場長安藤広太郎農学博士より「曆ノ季節ト

農作物トノ関係」と題する講話をお聴きになり、皇太子妃も陪聴される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東

宮職日誌、東宮内舎人日記、御教育録

十四日 火曜日 午後一時御出門、皇太子と共に上野公園園竹の台に行啓され、帝国美術院第五回美術展覧会、ついで日本美術協会第六十六回美術展覧会を御覧になる。四時四十分還啓される。○東宮女官

日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、行啓録、宮内省省報

昨十三日東京帝国大学医学部附属医院において手術を受けた守正王妃伊都子に、この日、皇太子・同妃より病氣お尋ねとして盆栽及び盆景を御贈進になる。○東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、皇族身

録、贈賜録

十五日 水曜日 この日より、皇太子は毎週水曜日宮城に出務され、午後は奥宮殿に参内されること

となる。皇太子妃は、隔週水曜日の午後、奥宮殿に参内されることとなる。○東宮職日誌

十七日 金曜日 午前、神嘗祭につき、表畳ノ間において御遙拝になる。また、東宮女官三輪もとに

御代拝を仰せ付けられる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮内舎人日記、祭祀録、儀式録、典式録、宮内省省報、官報

十八日 土曜日 皇太子と共に、公爵西園寺公望に午餐の御陪食を賜う。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、典式録

二十一日 火曜日 賢所・皇靈殿・神殿修繕竣功につき、本殿に奉遷の儀が行われる。午前、仮殿の儀につき、御挨拶になる。ついで本殿の儀につき、十時二十五分御出門、賢所に行啓され、御拝礼になる。十一時五十分還啓される。夕刻、御神楽の儀につき御遙拝になり、また東宮女官山岡淑子に御代拝を仰せ付けられる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、幸啓録、儀式録、典式録、宮内省省報、官報

二十二日 水曜日 午後二時御出門、参内され、御先着の皇太子と共に奥宮殿において天皇・皇后と御対面になる。四時二十分還啓される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、幸啓録、行啓録、宮内省省報、奈良武次日誌、牧野伸顕日記、倉富勇三郎日記

二十七日 月曜日 午後、皇太子と共に、この度病氣全快につき参殿の宣仁親王と御対面になる。なお、去る二十五日、親王の退院帰京に際して、皇太子・同妃より三種交魚を御贈進になる。○東宮女官日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、贈賜録、高松宮宣仁親王

三十日 木曜日 午後、皇太子と共に奥内謁見所において、翌三十一日より石川県下に出張する載仁親王と御対面になり、暇乞いの挨拶をお受けになる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、宮内省省報

三十一日 金曜日 天長節祝日につき、午前、皇太子と共に表内謁見所において、東宮大夫以下東宮職及び東宮職詰高等官一同等の拝賀をお受けになる。

大正十三年十一月

午後三時十分御出門、お一方にて参内され、奥宮殿において皇后との内宴に臨まれる。四時五十分還啓される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、典式録、宮内省省報、貞明皇后実録正本

十一月

四日 火曜日 午前、参殿の大森齡子^{皇后官大夫大森鍾一夫人}に謁を賜う。○東宮女官日誌、大森鍾一関係資料

五日 水曜日 午後、東宮仮御所において、今般スウェーデン国より帰国の特命全権公使畑良太郎及び同夫人に謁を賜う。○東宮女官日誌、東宮内舍人日記、典式録、宮内省省報、官報

二時十分御出門になり、参内される。四時三十分還啓される。○東宮女官日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、行啓録、宮内省省報

十日 月曜日 午前十時五十分御出門、参内され、皇后と御昼餐を御会食になる。その後、皇后と共に吹上御苑を散策される。午後四時十分還啓される。○東宮女官日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、行啓録、貞

明皇后実録正本、宮内省省報、大森鍾一関係資料

十四日 金曜日 午前十時十五分御出門、昨十二日北陸地方から還啓の皇太子と共に参内され、奥宮殿において皇后と御昼餐を御会食になる。午後二時二十分還啓される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮

職日誌、東宮内舍人日記、行啓録、貞明皇后実録正本、宮内省省報

皇太子と共に奥内謁見所において、病氣全快につきお礼言上のため参殿の守正王妃伊都子と御対面になる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、皇族身分録

虎ノ門事件の犯人難波大助に昨日死刑判決が下される。この日、皇太子は同判決に関する各種報告を

お聴きになり、また判決文をお受け取りになる。皇太子の御公務のため、午後に予定されていた皇太子・同妃の白耳義国寄贈絵画展覧会行啓はお取りやめとなる。○東宮侍従日誌、東宮職日誌、行啓録、奈良武次日記、続現代史資料

十八日 火曜日 午後、皇太子と共に御内儀において、邦彦王妃倪子と御対面になり、信子女王結婚の参内朝見の儀この日執行等に対するお礼言上をお受けになる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、幸啓録、拜謁参拝録、典式録、贈賜録、皇族身分録、皇族叙勲録、大正天皇実録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

二十日 木曜日 午後、皇太子撰政と共に、赤坂離宮御苑において開催の観菊会に御臨場になる。青山御所において皇后及び各皇族と御対面になり、ついで皇后・皇太子撰政と共に会場にお出ましになる。

途中、参苑の各国大公使並びに招待の外国人、親任官等に謁を賜う。その後、菊花を御覧になり、御茶屋においてお茶を召される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、観菊会録、典式録、貞明皇后実録正本、宮内省省報

二十二日 土曜日 午後、皇太子と共に表内謁見所において、お礼言上のため参殿の春仁王と御対面になる。春仁王は、去る十月二十五日陸軍騎兵少尉に任官、勲一等に叙せられ、旭日桐花大綬章を授けられる。皇太子・同妃より三種交魚を御贈進になる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、贈賜録、皇族身分録、皇族叙勲録、官報

二十四日 月曜日 午後二時御出門、皇太子と共に社会局麹町区元衛町に行啓され、白耳義国寄贈絵画展覧会を御覧になる。三時三十五分還啓される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、行啓録、宮内省省報

二十六日 水曜日 午後、皇太子と共に、邦彦王妃侘子及び今般婦嫁の信子女王と御対面になり、暇乞いをお受けになる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、奈良武次日記

二十七日 木曜日 午前十時二十分御出門、皇太子と共に参内され、京都府・大阪府に行啓の皇后を奉送される。十一時十分還啓される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、行啓録、貞明皇后

実録正本、宮内省省報、官報

東宮仮御所において午餐が催され、皇太子撰と共に花鳥ノ間において、シヤム国皇弟プラチャーティポック及び同妃と御会食になる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、外賓参内録、外賓接待

録、外事録、宮内省省報、官報

二十九日 土曜日 午後、東宮仮御所において、今般婦国のイタリア国特命全権大使ジャコモ・デ・マルティーノ及び同夫人を御引見になる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、謁見録、外事録、宮内省省報、官報

十二月

一日 月曜日 午前、旭ノ間において、皇太子が法学博士穂積重遠東京帝国大学法学部教授より「家族制度ニ就テ」と題する講話をお聴きになり、皇太子妃も陪聴される。八日にも、穂積博士による講話「婦人論」を陪聴される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、御教育録

二日 火曜日 午後、東宮仮御所において、新任の米国特命全権大使エドガー・アディソン・バンクロフトを御引見になる。○東宮女官日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、宮内省省報、官報

夕刻、皇太子と共に、参殿の宣仁親王と御対面になり、療養先の横須賀からの帰還、並びにこの日麴町区三年町邸元有栖川宮邸に移転した旨の挨拶をお受けになる。その後、御夕餐を御会食になる。なお、移転につき、皇太子・同妃より宣仁親王に三種交魚を御贈進になる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、

東宮内舍人日記、贈賜録、進献録、宮内省省報、官報

朝融王昨日付にて海軍中尉に昇進につき、皇太子・同妃より王に三種交魚を御贈進になる。○東宮職日誌、東宮内舍人日記、贈賜録、皇族身分録、官報

六日 土曜日 午前、皇太子・同妃御慶事の際に賜謁・賜饌がなかった在京の旧女官園祥子・清水谷豊子・香川志保子・西西子・生源寺伊佐雄に対し、皇太子と共に奥内謁見所において謁を賜う。終わって園以下に賜饌がある。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、進献録

七日 日曜日 崇仁親王の誕生日十二月二日の余興開催につき、午後、皇太子と共に澄宮御殿にお出ましになり、崇仁親王及び雍仁親王・宣仁親王と御一緒に琵琶演奏、講談、文鳥の芸を御鑑賞になる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、秩父宮御側日誌、行啓録、宮内省省報

九日 火曜日 この日従五位三条西公正へ帰嫁の信子女王に対し、皇太子・同妃から紅白縮緬を御贈進になる。また、皇太子・同妃から久邇宮に五種交魚を御贈進になる。○東宮職日誌、東宮内舍人日記、贈賜録、進献録、宮内省省報、官報

十一日 木曜日 午後四時十五分御出門、皇太子と共に参内され、京都府より還啓の皇后を奉迎される。五時三十分還啓される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、秩父宮御側日誌、行啓録、貞

明皇后実録正本、宮内省省報、官報

十二日 金曜日 午前九時二十分皇太子撰と共に御出門になる。光格天皇例祭につき、皇靈殿におい

て御拝礼になる。十時三十分還啓される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、幸啓録、祭

祀録、儀式録、典式録、宮内省省報、官報

十四日 日曜日 午前九時三十分御出門、皇太子と共に浜離宮に行啓され、鴨猟をされる。午後三時

四十五分還啓される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、行啓録、宮内省省報

十五日 月曜日 午後四時二十分皇太子撰と共に御出門、賢所御神楽につき、御拝礼になる。五時四

十分還啓される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、幸啓録、祭祀録、儀式録、典式録、宮内省

省報、官報

十六日 火曜日 午後、皇太子と共に、南支方面の病院・医学校等の視察より帰国につき参殿した侍

医頭入沢達吉に謁を賜う。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌

二時十五分御出門、参内される。四時二十分還啓される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎

人日記、行啓録、宮内省省報

十八日 木曜日 この日、表御座所において、去る十五日付にて野戦重砲兵第一旅団長に転補の元侍

従武官桑田安三郎に謁を賜う。桑田武官の転補に際し、白羽二重を下賜される。○東宮侍従日誌、東宮職日

誌、官報

二十日 土曜日 午前、皇太子と共に、参殿の邦彦王・同妃侘子と御対面になり、銀婚に際してのお

仕向けに対するお礼言上をお受けになる。去る十三日、皇太子・同妃の御使として東宮女官長島津治

子を差し遣わされ、邦彦王・同妃に三種交魚を、また王及び同妃それぞれにお品を御贈進になる。○

東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、贈賜録

午後二時御出門、皇太子と共に参内され、天皇・皇后と御対面になる。二十二日より天皇・皇后が沼津へ行幸啓されるに当たり、暇乞いの御挨拶をされる。三時二十五分還啓される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、行啓録、宮内省省報

二十二日 月曜日 午前十時二十分御出門、皇太子と共に参内され、天皇・皇后の沼津行幸啓を奉送される。十一時十五分還啓される。○東宮女官日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、行啓録、宮内省省報、官報

二十五日 木曜日 午前、御内儀において、正二位柳原愛子より歳末の祝詞言上をお受けになる。○東宮女官日誌、東宮職日誌

御夕餐後、皇太子と共に旭ノ間において、活動写真「進化の歴史」を御覧になる。太陽系の成立から現代文明に至る映像が上映され、理学士村上鋭夫大阪朝日新聞社員より説明をお聴きになる。○東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記

二十六日 金曜日 東宮仮御所にて午餐が催され、皇太子撰と共に花鳥ノ間において、米国特命全權

大使エドガー・アデイソン・バンククロフトと御会食になる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、秩父宮御側日誌、皇子御殿日誌、謁見録、外事録、宮内省省報、官報

二十七日 土曜日 御風気につき、夕刻より御仮床に就かれ、歳末に当たつての皇族等との御会食を御欠席になる。以後、翌年一月八日の御床払いまで御静養になる。○東宮女官日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、典式録、宮内省省報

大正十四年（西曆一九二五年） 二十二歳

一月

一日 木曜日 皇太子妃として初めての新年を東宮仮御所において迎えられる。昨年末来の御風気のため、新年の諸儀へのお出ましはなく、御仮床にてお過ごしになる。夕刻、皇太子のお見舞いをお受けになる。以後、八日の御床払いまで、しばしば皇太子のお見舞いをお受けになる。○東宮女官日誌、東

宮侍従日誌、東宮職日誌、幸啓録、儀式録、典式録

皇太子・同妃より、沼津御滞在中の天皇・皇后に新年御祝詞の電報をお送りになる。○典式録

二日 金曜日 午後、故依仁親王妃周子・邦彦王妃倪子御母のお見舞いをお受けになる。以後、この年

も皇族・王公族・御親族と随時、御対面・御会食になる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、幸啓録、典式録

三日 土曜日 宣仁親王の誕生日成年に達するにつき、皇太子・同妃より御使として東宮侍従牧野貞亮を差し

遣わされる。また、親王に鮮鯛を御贈進になる。○東宮女官日誌、贈賜録、皇族身分録、宮内省省報、官報

四日 日曜日 東宮侍従亀井茲常病気につき、皇太子・同妃より侍医八田善之進を転地先の神奈川県二宮に差し遣わされ、お尋ねとして鶏卵・鶉卵を下賜される。○東宮職日誌、進退録、贈賜録

六日 火曜日 午前、天皇・皇后の御使始として掌侍吉見光子が参殿する。天皇・皇后より御静養中

の皇太子妃に、お尋ねとして盆栽と花束の御贈進がある。これに対し、東宮女官長より典侍宛ての電報を通じて、お礼をお伝えになる。以後、この年も折に触れて、天皇・皇后と皇太子・同妃との間で相互に御使をお取り交わしになる。○東宮女官日誌、東宮職日誌、贈賜録

この年初めて、皇太子と共に奥御食堂において、御昼餐をお召し上がりになる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌

八日 木曜日 御床払いになる。午前、御内儀において、故依仁親王妃周子と御対面になる。また、

この日の御昼餐より、皇太子との御会食を通常どおり再開される。○東宮女官日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、重要雑録

十日 土曜日 新年につき、天皇・皇后に御機嫌伺いのため、皇太子と共に沼津御用邸に行啓される。午前九時四十分御出門になり、午後一時五十分沼津御用邸本邸に御到着になる。洋館において天皇と、ついで御内儀御休所において皇后と御対面になる。皇后とお祝御膳の御夕餐を御会食の後、皇太子と共に西附属邸にお入りになる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、東宮内舎人供奉日誌、沼津御用邸日誌、沼津御用邸西附属邸日誌、行啓録、大正天皇実録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報、大森鍾一関係資料

十一日 日曜日 午前、英照皇太后祥月命日のため、海岸の御散策をお取りやめになる。午後、皇太子と共に本邸にお成りになり、天皇・皇后と御対面になる。皇后と御夕餐を御会食の後、皇太子と共に西附属邸に戻られる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮内舎人日記、東宮内舎人供奉日誌、行啓録、沼津御用邸日誌、沼津御用邸西附属邸日誌、貞明皇后実録正本

十二日 月曜日 午前、皇太子と共に本邸にお成りになる。天皇・皇后に暇乞いをされた後、十時三

大正十四年一月

十分本邸を御出門になり、午後三時東宮仮御所に還啓される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日誌、東宮内舎人供奉日誌、沼津御用邸日誌、沼津御用邸西附属邸日誌、行啓録、宮内省省報、官報

十三日 火曜日 午後、皇太子と共に奥内謁見所において、この日成年式挙行の宣仁親王と御対面になり、お礼言上をお受けになる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮内舎人日誌、貞明皇后実録正本、進献録

皇太子と共に表内謁見所において、宣仁親王成年式の祝詞言上のため参殿した載仁親王、守正王・同妃伊都子、王世子李垠・同妃方子女王、恒憲王とそれぞれ御対面になる。ついで、皇太子と共に奥内謁見所において、同じく祝詞言上のため参殿した故成久王妃房子内親王・稔彦王妃聡子内親王とそれぞれ御対面になる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日誌

この日朝融王^御・知子女王^{博恭王弟三王女} 納采につき、皇太子・同妃と久邇宮・伏見宮との間でお祝品が取り交わされる。○東宮職日誌、贈賜録、進献録

十四日 水曜日 午後、元奉仕者二名参殿につき、皇太子と共に謁を賜う。以後、この年も随時、元奉仕者の拝謁等がある。○東宮女官日誌

従一位久我通久^{元東宮大夫事務取扱、麿香間祇候} 去る十二日死去につき、この日、皇太子・同妃より花・盛菓子を下賜される。なお、去る十一日、同人の病氣危篤に際して皇太子・同妃よりお尋ねとして葡萄酒を下賜される。

○東宮職日誌、贈賜録、官報

十五日 木曜日 午前、孔雀ノ間において、今般着任のフランス国大使館参事官フランソワ・ジアン<sup>同国大使に
チ伴われ参殿</sup>を御引見になる。○東宮女官日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日誌、外事録、官報

午後二時二十五分皇太子と共に御出門、参内され、北御車寄において沼津より還啓の皇后をお出迎えになり、内謁見所において御対面になる。折柄参内の崇仁親王とも御対面になる。その後、三時二十五分還啓される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、行啓録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報、大森鍾一関係資料

十六日 金曜日 午後零時御出門、参内され、千種ノ間において皇后御主催の宣仁親王成年式終了の内宴に御臨席になり、御先着の皇太子及び雍仁親王始め皇族・王族と御会食になる。三時二十五分、皇太子と共に還啓される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、秩父宮御側日誌、幸啓録、典式録、大正天皇実録、貞明皇后実録正本、宮内省省報

十七日 土曜日 午前十一時十五分皇太子と共に御出門、参内され、天皇・皇后御主催の宣仁親王成年祝賀の饗宴に御参列になる。皇太子^撰・皇后^撰並びに宣仁親王と共に、桐ノ間において雍仁親王始め皇族・王族の拝賀をお受けになり、ついで千種ノ間において各国大公使・大勲位以下前官礼遇以上・宮内省部局長官並びに以上の者の夫人等に謁を賜う。その後、豊明殿において午餐、千種ノ間において茶会に臨まれる。午後二時三十分、皇太子と共に還啓される。十九日には、豊明殿において枢密院副議長以下の親任官待遇以上並びに同夫人、宮内勅任官・同待遇、宮内奏任官・同待遇への賜餐があり、同じく皇太子^撰・皇后と共に御臨席になる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、秩父宮御側日誌、幸啓録、儀式録、典式録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報、奈良武次日記、倉富勇三郎日記、大森鍾一関係資料
先般退官の元皇子傅育官長松浦寅三郎に、この日、皇太子・同妃より賜品・賜金がある。○贈賜録
十八日 日曜日 宣仁親王の招きにより、午前十一時三十五分皇太子と共に御出門、高松宮邸に行啓

大正十四年一月

される。宣仁親王並びに雍仁親王・崇仁親王・故恒久王妃昌子内親王・故成久王妃房子内親王・稔彦王妃聡子内親王と午餐を御会食になり、記念写真の撮影に臨まれる。午後一時四十五分還啓される。

○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、典式録、秩父宮御側日誌、宮内省省報

十九日 月曜日 午後、皇太子と共に東宮仮御所において、国際連盟事務局次長新渡戸稲造より、国際連盟に関する講話をお聴きになる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、御教育録、新渡戸稲造日記

御夕餐後、皇太子と共に旭ノ間において、活動写真「水兵の母」を原作者の子爵小笠原長生元東宮御学問所幹事の解説にて御覧になる。以後、この年も折に触れて、活動写真を御覧になる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、

東宮職日誌、東宮内舍人日記

二十日 火曜日 午前、歌御会始の儀が行われる。皇太子妃は御欠席になる。この年のお題は「山色連天」であり、皇太子妃の御歌は次のとおり。

東宮妃御歌

初日の出をろかみをへてかへりみる空につゞけり不尽の高嶺は

○東宮女官日誌、典式録、御歌録、宮内省省報、官報

二十一日 水曜日 午前、階上謁見所において、今般米国へ赴任の特命全権大使松平恒雄・同夫人信子に謁を賜う。○東宮女官日誌、東宮職日誌、拝謁参拝録

午後二時十五分御出門、参内され、皇太子及び宣仁親王・崇仁親王と共に皇后と御対面になり、来る二十三日沼津へ行啓の皇后に御挨拶をされる。四時二十五分、皇太子と共に還啓される。○東宮女官日誌、

東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、幸啓録、行啓録、宮内省省報

二十二日 木曜日 この日、肥厚性鼻炎手術をお受けになつた皇太子を御看病になる。以後、二十七日まで連日、お食事・御氷嚢・御清拭・お足湯等のお世話をされる。また、折に触れて花生け、蓄音機、ヴァイオリン演奏にて皇太子を慰められる。二月一日、皇太子は御床払いになる。○東宮女官日誌、

東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記

二十三日 金曜日 午前九時十五分御出門、参内され、皇后の沼津行啓をお見送りになる。十時、還啓される。○東宮女官日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、行啓録、宮内省省報、官報

皇太子のお見舞いのため天皇・皇后の御使として参殿した皇后宮事務官西邑清に、謁を賜う。○東宮女官日誌、東宮職日誌

二十五日 日曜日 午後、奥内謁見所において、博恭王妃経子及び知子女王と御対面になる。翌二十六日に朝融王と結婚する知子女王より、暇乞いの挨拶をお受けになる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記

二十六日 月曜日 御結婚一周年をお迎えになる。皇太子御不例のため、祝宴は翌月十日に延期される。午後、東宮侍従長入江為守・内大臣秘書官松井定克をお召しになり、お慰みとして謡曲をされる。

○東宮女官日誌

この日朝融王・知子女王結婚につき、皇太子・同妃より御使として東宮侍従本多正復を久邇宮邸に差し遣わされる。なお、皇太子・同妃と久邇宮・伏見宮との間で相互にお祝品が取り交わされる。○東宮

女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、贈賜録、進献録、宮内省省報、官報

大正十四年一月

二十八日 水曜日 午後、御座所において邦彦王妃侘子と御対面になり、皇太子のお見舞い、及び朝融王結婚の御祝儀拝領についてのお礼言上をお受けになる。○東宮女官日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記

二月

一日 日曜日 皇太子御床払いにつき、午前、皇太子と共に、天皇・皇后の御使として参殿した皇后宮事務官西邑清に謁を賜う。その際、皇太子御不例により延期された御結婚一周年御慶事記念品が披露される。皇太子は奈良人形「高砂」を、皇太子妃は和歌帖「臣ノ声」を、皇后より拝領される。後日、皇太子・同妃よりお礼として皇后に牙彫棚飾等を献上される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、贈賜録、進献録、重要雑録

二日 月曜日 午後、皇太子と共に奥内謁見所において、朝融王・同妃知子女王と御対面になり、結婚式挙行のお礼言上をお受けになる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記

三日 火曜日 この年の御学課が開始となる。午前九時より宮内省御用掛山本信次郎の指導にてフランス語の稽古をされ、十時より国語の進講をお聴きになる。以後、儀式・行啓など特段の事情がない限り、火曜日と木曜日にフランス語を、火曜日に国語を、お一方又は皇太子と共に定例の御学課として履修される。○東宮女官日誌、御教育録

午後、庭にお出ましになり、テザーボール一本の支柱に吊り下げられたボールを、支柱を挟んで向き合う二人が交互に素手で打ち、自分の方向にボールを巻き付けた方が勝者となる球技、ゴルフをされる。御夕餐後、二階舞踏室においてピンポンをされる。以後、三月中旬頃まで、テザーボール、ゴルフ、ピンポン、テニスにて御運動になることを日課とされる。○東宮女官日誌

四日 水曜日 午前、今般シヤム国より帰国の特命全権公使矢田長之助・同夫人参殿につき、謁を賜う。同公使から、シヤム国皇弟妃昨年十一月来日より御贈進の肖像写真が奉呈される。○東宮女官日誌、東宮職日誌

午後、皇太子と共に奥内謁見所において、邦彦王御父・同妃御侘子と御対面になる。邦彦王より、過日來の感冒全快の挨拶及び朝融王結婚についてのお礼言上をお受けになる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記

五日 木曜日 午前、東京音楽学校教授神戸絢の指導によりピアノの練習をされる。以後、概ね毎週木曜日を定例として、三月まで神戸の指導をお受けになる。○東宮女官日誌

皇太子と共に、お召しにより参殿の正二位柳原愛子に謁を賜う。その後、皇太子と共に奥御食堂において、同人に御昼餐の御陪食を賜う。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌

この日、司法大臣横田千之助死去につき、弔問のため、皇太子・同妃の御使として東宮侍従岡本愛祐を同人邸に差し遣わされる。七日には同土屋正直を靈前に、八日に行われる葬送には同本多正復を葬斎場に、皇太子・同妃の御使としてそれぞれ差し遣わされる。なお、皇太子・同妃より祭資・色花・盛菓子を下賜される。○東宮侍従日誌、東宮職日誌、贈賜録、宮内省省報、官報

六日 金曜日 午前、日本画家高取稚成の指導により絵画の稽古をされる。以後、概ね毎週金曜日を定例として、三月まで高取の指導をお受けになる。○東宮女官日誌

午後、東宮職御用掛高木多都雄の伴奏にて歌の練習をされる。以後、折に触れて歌の練習をされる。

○東宮女官日誌

九日 月曜日 午後、丸山の畑にお出ましになり、野菜ほうれん草・小松菜・苺を収穫される。以後、折に触れて、お一方にて又は皇太子と共に丸山の畑にお出ましになり、野菜や果物・切り花の収穫や植付け等をしてお過ごしになる。○東宮女官日誌、東宮職日誌

この日、沢田節蔵在米国日本大使館参事官・伯爵二荒芳徳東宮職御用掛より、*The Crown Prince's European Tour* 『皇太子殿下御外遊記』英文版が皇太子・同妃に献上される。○進献録

十日 火曜日 夕刻、皇太子と共に花鳥ノ間において、御結婚一周年と皇太子御全快のお祝いを兼ね、東宮職男女高等官一同をお召しになり、晚餐会を催される。御食後、小食堂に移られ、イタリア人音楽家ラファエレ・カラーチエのマンドリン及びリュートの演奏を、近藤柏次郎のピアノの伴奏にてお聴きになる。雍仁親王・宣仁親王・故恒久王妃昌子内親王・故成久王妃房子内親王・稔彦王妃聡子内親王が陪席する。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、典式録、贈賜録、秩父宮御側日誌

十一日 水曜日 午前、紀元節につき、皇太子と共に表内謁見所において、東宮職高等官の拝賀をお受けになる。九時三十分皇太子撰政と共に御出門、御結婚後初めて紀元節祭に臨まれ、皇靈殿において御拝礼になる。昨年は御不例のため御不参 十時三十分賢所を御出発、お一方にて還啓される。御神楽の儀は、東宮女官

津軽理喜子に御代拝を仰せ付けられる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、幸啓録、祭祀録、儀式録、典式録、宮内省省報、官報

東宮侍従亀井茲常病気につき、皇太子・同妃よりお尋ねとして東宮侍従土屋正直を転地先の神奈川県二宮に差し遣わされ、菓子を下賜される。○東宮職日誌、進退録、贈賜録

十三日 金曜日 午後、東宮女官長室の窓より、皇太子に拝謁するため前庭に整列した廃兵及び付添人約三千名<sup>全国廃兵連合
大会出席者</sup>を御覧になり、御同情のお言葉を漏らされる。○東宮女官日誌

十五日 日曜日 午前十時皇太子と共に御出門、新宿御苑に行啓され、ゴルフ競技を行われる。王世子李垠妃方子女王をお相手にコースを回られる。午後三時四十五分還啓される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、行啓録、宮内省省報、新宿御苑日誌、新宿御苑上申報告綴

十七日 火曜日 午後、皇太子と共に奥内謁見所において、神宮・山陵参拝より帰京の朝融王・同妃知子女王と御対面になる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、宮内省省報

十八日 水曜日 午前、昨年十二月十七日以来久方ぶりに、東京音楽学校教授安藤幸の指導によりヴァイオリンの練習をされる。以後三月まで、この年も毎週水曜日を定例として、同人の指導をお受けになる。○東宮女官日誌、東宮職日誌

十九日 木曜日 午後、皇太子と共に表内謁見所において、元大蔵大臣井上準之助より欧米の復興経済に関する観察についての講話をお聴きになる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、御教育録

二十日 金曜日 午後、皇太子と共に二階大食堂において、日本画家福永晴帆制作の聯隊旗画及び花鳥の図を御覧になる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、奈良武次日記

二十三日 月曜日 午前、皇太子と共に旭ノ間において、中央气象台長岡田武松^{理学博士}より天気予報と暴

風警報についての講話をお聴きになる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、御教育録

二十四日 火曜日 この日、東宮侍従兼式部官侍従亀井茲常が本官並びに兼官を免じられ、式部官専

大正十四年三月

任となる。○東宮職日誌、進退録、贈賜録、宮内省省報、官報

二十六日 木曜日 御昼餐後、皇太子と共に、翌二十七日欧州へ出発の侯爵小松輝久に謁を賜い、暇乞いをお受けになる。なお、去る十八日には、皇太子・同妃より同人に洋杖を下賜される。○東宮女官

日誌、東宮職日誌、贈賜録

午後、皇太子と共に表内謁見所において、内務大臣若槻礼次郎より失業問題についての講話をお聴きになる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、御教育録

三月

一日 日曜日 午前十時皇太子と共に御出門、新宿御苑に行啓され、ゴルフ競技を行われる。東宮職御用掛西園寺八郎・東宮女官青山元子をお相手にコースを回られる。午後四時還啓される。○東宮女官

日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、行啓録、宮内省省報、新宿御苑日誌、新宿御苑上申報告綴

新宿御苑より還啓後、皇太子と共に奥御食堂において、仮放送局からのラジオの試験放送を試聴される。御夕餐後も独唱や長唄「越後獅子」の試験放送をお聴きになるが、ラジオ機器の不調による雑音がある。翌日と翌々日もラジオを試聴されるが、いずれも雑音や機器の故障のため、御聴取に支障が生じる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、読売新聞

二日 月曜日 午前、皇太子と共に旭ノ間において、外務書記官芦田均より、世界戦争勃発前十日間の外交についての講話をお聴きになる。なお、同人による講話は、この日及び十六日・二十三日の三回にわたって行われる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、御教育録、外務省記録、東宮同妃

四日 水曜日 夜、皇太子と共に奥御食堂において、新たに設置された米国製ラジオ機器を通じて、仮放送局からの試験放送の独唱等をお聴きになる。以後、この年は、御就寝前に皇太子と共に奥御食堂においてラジオをお聴きになることを習慣とされる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌

六日 金曜日 午前、皇太子と共に奥内謁見所において、英国留学より帰国の侯爵久邇邦久御兄と御対面になる。○東宮女官日誌、侯爵久邇邦久伝
満二十二歳のお誕生日を迎えられる。

午前、祝詞言上のため参殿の御同級生学習院女学部の御同級生 総代等三名に謁を賜う。正午前、皇太子と共に表謁見所において、東宮大夫始め東宮職高等官一同の拝賀をお受けになる。ついで花鳥ノ間において、御結婚後初のお誕生日の内宴昨年は震災後の御遠慮のためお誕生日祝賀の催しをお取りやめが催され、東宮職高等官に午餐の御陪食を賜う。その後、彩鸞ノ間において珈琲を賜い、一同と御談話になる。

午後、旭ノ間において、東宮職職員一同二百十余名に、福引によりお品を賜う。その後、奥内謁見所において、女子学習院教授児玉錦平・同鈴木元美・同依田豊始め新旧講師十七名に茶菓を賜い、御談話になる。終わって退出の際に、福引の品をそれぞれに賜う。夕刻、皇太子と共に表御食堂において、邦彦王・同妃侘子、及び朝融王妃知子女王・侯爵久邇邦久・三条西信子御妹と御晚餐を御会食になる。

○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、典式録

七日 土曜日 午前、皇太子と共に東御進講室において、東京天文台長平山信東京帝国大学理学部教授、理学博士より天文学

大正十四年三月

についての講話をお聴きになる。なお、同人による講話は、この日及び十四日・二十八日・四月四日の四回にわたって行われる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、御教育録

八日 日曜日 ドイツ国大使館において同国前大統領フリードリヒ・エーベルトの弔祭式執行につき、午前中、御座所にてお過ごしになる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、宮内省省報、官報

九日 月曜日 夜、皇太子と共に旭ノ間において、滋賀県知事・京都府知事より献上の報徳会会堂建設に関する活動写真を御覧になる。それに先立ち、報徳会幹事陸軍歩兵中佐花田仲之助より報徳会の由来についての言上をお受けになり、花田幹事及び同会幹事陸軍歩兵大尉松本七郎より活動写真の説明をお聴きになる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、進献録、報徳会三十五年史

十四日 土曜日 午前、皇太子と共に、東京天文台長平山信より天文学についての講話をお聴きになる。夜、皇太子と共に東宮仮御所屋上西側の物見にお出ましになり、この日の講話にてお聴きになった星座を御覧になる。その際、東宮武官近藤信竹より説明をお聴きになる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、御教育録

十五日 日曜日 午後、皇太子と共に御座所において、翌日沼津へお成りの崇仁親王と御対面になる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記

十六日 月曜日 午前、皇太子と共に、外務書記官芦田均より、革命ロシアの国家生活についての講話をお聴きになる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、御教育録、外務省記録、東宮同妃兩殿下御進講紀念小篇集、芦田均日記

この日、東宮職において、東京音楽学校教授安藤幸・同神戸絢に対し皇太子妃の音楽御練習に関する

ことを、御歌所寄人阪正臣に対し皇太子妃の御歌拝見に関する^{日本}高取稚成^{画家}に対し皇太子妃の
絵画御練習に関する^{日本}ことを囑託する。○進退録

十九日 木曜日 午後、皇太子と共に奥内謁見所において、稔彦王妃聡子内親王と御対面になり、今
般関西旅行へ出発の暇乞いをお受けになる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、宮内省省
報

二十一日 土曜日 午前、春季皇霊祭及び同神殿祭につき、東宮女官山岡淑子に御代拝を仰せ付けら
れる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、儀式録、宮内省省報

二十二日 日曜日 この日、仮放送局からのラジオ放送開始につき、放送開始の午前九時三十分より
ラジオをお聴きになる。○東宮女官日誌

二十三日 月曜日 午前、皇太子と共に彩鸞ノ間において、外務書記官芦田均より、世界戦後におけ
る英米独仏の関係についての講話をお聴きになる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮内舍人日記、御教育録、外
務省記録、東宮同妃両殿下御進講紀念小篇集、芦田均日記

二十四日 火曜日 故博忠王一周年祭につき、東宮事務官岡本愛祐を権舎及び墓所に差し遣わされ、
玉串をお供えになる。なお、皇太子・同妃より盛菓子を権舎に、柶を墓所にお供えになる。○東宮職日
誌、典式録、宮内省省報

二十六日 木曜日 午後、皇太子と共に表内謁見所において、東宮武官兼侍従武官服部真彦より朝鮮
見聞談をお聴きになる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、御教育録

二十七日 金曜日 先般来御不例の天皇が昨二十六日御床払いになり、この日、皇太子・同妃より東

大正十四年四月

宮侍従本多正復を沼津に差し遣わされる。○東宮女官日誌、東宮職日誌、贈賜録、進退録

二十八日 土曜日 午前、皇太子と共に、東京天文台長平山信より天文学についての講話をお聴きになる。○東宮女官日誌、東宮職日誌、御教育録

宮中顧問官岡玄卿去る二十五日死去につき、この日、皇太子・同妃より祭資を下賜される。○東宮職日誌、進退録、贈賜録、宮内省省報、官報

三十日 月曜日 午後、この日新任の内大臣牧野伸顕・宮内大臣一木喜徳郎に謁を賜う。○東宮女官日誌、進退録、宮内省省報、官報

三十一日 火曜日 午後二時二十五分御出門、皇太子と共に参内され、北御車寄において、沼津より還啓の皇后を奉迎される。奥宮殿において御対面の後、三時三十五分還啓される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、行啓録、宮内省省報、官報

四月

一日 水曜日 午前十一時四十分御出門、参内され、御執務を終えた皇太子と共に皇后と御対面になり、御昼餐を御会食になる。午後三時五十分、皇太子と共に還啓される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、行啓録、幸啓録、宮内省省報

三日 金曜日 午前、神武天皇祭につき、東宮事務官岡本愛祐に御代拝を仰せ付けられる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、祭祀録、儀式録、宮内省省報

四日 土曜日 午前、皇太子と共に、去る二日に結婚しお礼のために参殿した侯爵山階芳麿・同夫人

寿賀子^{伯爵酒井忠道の息女}に謁を賜う。なお、結婚の日に、皇太子・同妃より山階侯爵に三種交魚を下賜される。

○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、贈賜録

皇太子と共に、東京天文台長平山信より天文学についての講話をお聴きになる。同人の講話は、この日をもって終了する。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記

宮中顧問官丸尾錦作に謁を賜う。同人の実母が八十八歳、同人が七十歳に達した内祝いとして皇太子・同妃に献上品があつたため、皇太子・同妃より同人に万那料・白羽二重^{大日本蚕糸会より献上のもの}を下賜される。○東

宮女官日誌、東宮職日誌、贈賜録

午後、去る一日熱海より帰京の邦彦王・同妃倪子参殿につき、皇太子と共に御対面になる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、宮内省省報

小食堂において茶話会が催され、皇太子と共に御臨席になる。この日午前に講話を行った平山東京天文台長等に茶菓を賜う。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記

六日 月曜日 午前九時御出門、女子学習院卒業式に行啓される。職員・生徒が奉迎する中、御到着になり、本館階上御休所において先着の故依仁親王妃周子・邦彦王妃倪子・故恒久王妃昌子内親王・守正王妃伊都子・王世子李垠妃方子女王と御対面になる。ついで御車寄において皇后の御到着をお出迎えになった後、便殿にて御対面になり、各妃及び院長松浦寅三郎等の拝謁の際には御侍立になる。その後、各妃に続いて卒業式場にお出ましになり、皇后の臨御をお迎えになる。卒業式は、幼稚園修了者・高等科卒業生・本科卒業生等への証書授与の後、院長の式辞、宮内大臣の告辞、卒業生総代の答辞があり、「金剛石」の合唱にて終了する。皇后の式場御退出後、続いて退出され、各妃と共に便

殿において恩賜品伝達式に御侍立になる。ついで皇后及び各妃と共に各教室を回られ、成績品を御覧になる。御車寄において皇后をお見送りの後、午後零時二十五分還啓される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、行啓録、宮内省省報、官報、読売新聞

午後二時十五分皇太子と共に御出門、参内され、奥宮殿において、翌七日沼津へ行啓の皇后と御対面になり、崇仁親王とも御対面になる。四時二十分還啓される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、行啓録、宮内省省報

七日 火曜日 午前九時十五分皇太子と共に御出門、参内され、皇后の沼津行啓を奉送される。十時五分還啓される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、行啓録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

八日 水曜日 午後、雛祭りを催される。皇太子と共に奥内謁見所において、東宮大夫・東宮侍従長・東宮武官長等の常侍官、御用掛、東宮女官等に茶菓を供され、雛菓子入りのボンボンエールを賜う。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記

九日 木曜日 夕刻、雛祭りの内宴につき、振袖をお召しになり、お招きの故恒久王妃昌子内親王・故成久王妃房子内親王・稔彦王妃聡子内親王をお迎えになる。皇太子及び三内親王と共に奥内謁見所の雛壇前において御会食になり、御座所において御談話になる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記

十一日 土曜日 午前、昭憲皇太后例祭につき、東宮女官青山元子に御代拝を仰せ付けられる。○東宮女官日誌、東宮職日誌、儀式録、祭祀録、典式録、宮内省省報

今般宮内大臣を退任の内大臣牧野伸顕に対し、皇太子・同妃より思召しをもってお品を賜う。○東宮職日誌、贈賜録、牧野伸顕日記

十五日 水曜日 元内大臣平田東助昨十四日死去につき、この日、弔問のため、皇太子・同妃より御使として東宮侍従岡本愛祐を同人邸に差し遣わされる。十八日には、皇太子・同妃より御使として東宮侍従甘露寺受長を柩前に差し遣わされ、祭資・盛菓子・花を下賜される。十九日に同人邸において行われる葬送には、皇太子・同妃より御使として東宮侍従牧野貞亮を差し遣わされ、焼香させられる。

なお、去る二月二十七日、同人の病氣重体に際して皇太子・同妃よりお尋ねとして草花三鉢新宿御苑にて
仕立てたものを下賜される。また、三月四日には、同人の危篤に際して皇太子・同妃より葡萄酒を下賜され、翌五日には、皇太子・同妃よりお尋ねとして甘露寺東宮侍従を神奈川県逗子町の同人別邸に差し遣わされる。○東宮職日誌、贈賜録、進退録、宮内省省報、官報、伯爵平田東助伝

二十六日 日曜日 午後、皇太子と共に更衣室において、写真の現像をされる。皇太子は焼付けを御担当になり、皇太子妃は薬液作り・水洗い・仕上げを御担当になる。以後、六月にかけて六回にわたり写真の現像をされる。○東宮女官日誌

二十九日 水曜日 皇太子のお誕生日につき、これまで延期されていた皇太子妃のお誕生日祝賀を兼ねての拝賀・祝宴・余興が催される。御不例のため表へのお出ましはなく、東宮女官の恐悦のみお受けになり、奥内謁見所において東宮女官に御昼餐の御陪食を賜う。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、

東宮内舎人日記、典式録、東京日日新聞

五月

四日 月曜日 午前、皇太子と共に東宮仮御所において、理学博士長岡半太郎より原子の構造についての講話をお聴きになる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、御教育録

この日、沼津より還幸啓の天皇・皇后をお出迎えのため、御使として東宮女官長島津治子を宮城に差し遣わされる。○東宮職日誌、宮内省省報、官報

五日 火曜日 午後、侍医頭入沢達吉・侍医高橋信・東京帝国大学医学部教授磐瀬雄一より、確定ではないものの御懐妊の模様との診断をお受けになる。拝診結果に基づき、来る十五日御出発予定の皇太子と御同列の京都・大阪行啓について、翌六日、東宮大夫が京都・大阪の両府知事及び両市長に対し、御懐妊の模様につき御同行をお取りやめになる旨を打電すると共に、東宮職が新聞通信記者を東宮仮御所に招致し、次のとおり発表する。

東宮妃殿下ニハ侍医ニ於テ未タ確定シ奉ラサルモ御妊娠ノ御模様ニ拝診シ奉レルヲ以テ特ニ御用心遊ハサレ今回ノ東宮殿下ノ関西行啓ニハ御同伴遊ハサレサルコトニ御治定相成リタリ

○東宮女官日誌、東宮職日誌、照宮御誕生記録、照宮御誕生録、皇親録、入沢達吉日記、東京日日新聞、読売新聞

七日 木曜日 宮中顧問官正三位勲二等丸尾錦作去る五日死去につき、この日、皇太子・同妃より祭資・色花を下賜される。なお、去る四月二十四日、皇太子・同妃より病氣お尋ねとしてスープを下賜される。丸尾は、皇孫御養育掛長として、裕仁親王・雍仁親王・宣仁親王の傅育に奉仕した。○東宮職日誌、進退録、贈賜録、宮内省省報、官報

十日 日曜日 天皇皇后御結婚満二十五年の御祝儀につき、天皇・皇后と皇太子・同妃との間でお祝

品が取り交わされる。また、正二位柳原愛子より皇太子・同妃に万那料が献上される。○東宮女官日誌、東宮職日誌、典式録、大婚二十五年御祝典録

陸軍歩兵中尉に昇任の雍仁親王に、皇太子・同妃よりお悦びとして三種交魚を御贈進になる。○東宮女

官日誌、秩父宮附宿直日記、贈賜録、進献録、皇族身分録

十一日 月曜日 御夕餐後、天皇皇后御結婚満二十五年奉祝の花電車の通過を二階より御覧になる。

○東宮女官日誌、読売新聞

十二日 火曜日 今般雍仁親王渡欧につき、皇太子・同妃より三種交魚・組釦を御贈進になる。○東宮職日誌、重要雑録、御渡欧録

十五日 金曜日 午前、この日より二十一日まで京都・大阪両府へ行啓の皇太子をお見送りになる。

○東宮女官日誌

二十一日 木曜日 夕刻、京都・大阪両府より還啓の皇太子をお出迎えになる。○東宮女官日誌

二十二日 金曜日 夕刻、小食堂において、雍仁親王渡欧につき別宴が催される。皇太子妃は御臨席にならず、御晩餐の後、皇太子の御誘導があつて御内儀に参入した雍仁親王・宣仁親王と御座所において御対面になり、茶菓を供され御歓談になる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、典式録

二十三日 土曜日 午前、皇太子と共に奥内謁見所において、翌二十四日より渡欧する雍仁親王と御対面になり、暇乞いの挨拶をお受けになる。皇太子妃より雍仁親王に錦紗友禪を御贈進になる。○東宮

女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、秩父宮附宿直日記、重要雑録、御渡欧録

大正十四年五月

宗秩寮総裁徳川頼倫去る十九日死去につき、この日、皇太子・同妃より祭資・生花を下賜される。なお十九日、同人の病氣危篤に際して、皇太子・同妃より葡萄酒を下賜される。○贈賜録、読売新聞

二十六日 火曜日 午後、侍医頭入沢達吉・侍医高橋信・同八田善之進・同松永琢磨及びこの日宮内省御用掛を拝命の東京帝国大学医学部教授磐瀬雄一の拝診をお受けになる。その結果、御懐妊四箇月と確定する。本件は東宮大夫より皇太子に言上される。また、天皇・皇后に御報告のため、東宮女官長島津治子を宮城に差し遣わされる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、進退録、照宮御誕生記録、照宮御誕生録、皇親録、宮内省省報、官報、入沢達吉日記

二十七日 水曜日 午後零時三十分、宮内省より皇太子妃の御懐妊について、次のとおり発表される。

昨二十六日午後二時入沢侍医頭高橋八田松永各侍医及磐瀬宮内省御用掛伺候拝診ノ結果皇太子妃殿下御妊娠第四ヶ月卜御確定御経過至極御順当ニアラセラル

発表後、久邇宮より祝電があり、竹田宮・北白川宮・東久邇宮よりそれぞれ御使が参殿する。○東宮職日誌、照宮御誕生記録、照宮御誕生録、皇親録、宮内省省報

二十八日 木曜日 午後、皇太子と共に彩鸞ノ間において、京都・大阪兩府下行啓時の献上品並びにお買上品を御覧になり、天皇・皇后及び皇族方への御贈進品をお選びになる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、皇太子殿下行啓一件

皇太子と共に、御懐妊お祝いのため参殿した王世子李垠・同妃方子女王と御対面になる。ついで法華寺門跡の近衛高尊参殿につき、引き続き皇太子と共に御対面になる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職

日誌、東宮内舍人日記、照宮御誕生記録

この日、御出産までお過ごししの御居室が、日常御使用の二階御学問所から一階皇族御休所に変更される。○東宮女官日誌

二十九日 金曜日 午前、皇太子と共に奥内謁見所において、御懐妊お祝いのため参殿した守正王・同妃伊都子と御対面になる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、照宮御誕生記録

三十一日 日曜日 午後、関西旅行より帰京の邦彦王・同妃倪子参殿につき、皇太子と共に御対面になる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、照宮御誕生記録、皇親録、宮内省省報

六月

四日 木曜日 午後、伯爵大谷光暢・同夫人智子御妹・同子息光紹去る三月九日誕生、第一男子参殿につき、皇太子と共に

御対面になる。光紹に白羽二重大日本蚕糸会より献上・お品を賜う。○東宮女官日誌、東宮職日誌、贈賜録

六日 土曜日 午後、御学友二名参殿につき、謁を賜い、御懐妊の恭悦言上を受けられる。○東宮女官日誌、東宮職日誌

九日 火曜日 午後、皇太子と共に奥内謁見所において、故成久王妃房子内親王・稔彦王妃聡子内親王と御対面になり、御懐妊の祝詞言上をお受けになる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人

日記

二十日 土曜日 午前、東宮仮御所において、この日侍医を拝命の塚原伊勢松前日本赤十字社富山支部病院産科婦人科部長に謁を賜う。○東宮女官日誌、照宮御誕生記録、宮内省省報、官報

大正十四年六月

二十三日 火曜日 午後、侍医寮事務囑託を命じられた梅林寺こう・坂田あきに謁を賜う。以後、兩名は皇太子妃の御出産に際して産婆として奉仕する。○東宮女官日誌、照宮御誕生記録、贈賜録

二十五日 木曜日 皇后のお誕生日につき、稽古はお取りやめとなる。○東宮女官日誌、東宮職日誌、典式録

二十七日 土曜日 午前、皇太子と共に東宮仮御所において、昨二十六日結婚の侯爵久邇邦久・同夫

人量子公爵島津忠承妹と御対面になり、お礼言上をお受けになる。なお、侯爵の結婚に際して、皇太子・同妃

より三種交魚等を下賜される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、贈賜録、進献録、侯爵久邇邦久伝

七月

一日 水曜日 内着帯の儀が行われる。午前九時、髪をお解き下げにされ、桂袴をお召しになり、御

格子ノ間御食にお出ましになる。この時、皇后より拝領の御帯が、東宮女官長島津治子により皇太子妃

の傍らの卓に置かれる。ついで皇太子妃は同間の入口において、皇太子のお出まし東宮女官山岡淑子先導をお迎えに

なる。それより皇太子・同妃は御椅子に対席される。卓上の御帯は、皇太子により皇太子妃の袴の上

に左から右に回され、蝶結びにされる。この間、東宮女官長は室外に侍立し、東宮女官津軽喜子が

皇太子妃のお側に侍立し、着帯のお世話をする。終わって、皇太子の退席をお見送りになる。その後、

御座所にお戻りになり、御帯を解かれ、これを東宮女官三輪もと慣例では両親ある者が奉仕するが、東宮女官には該当者が不在であったため三輪女官が奉仕するに

お渡しになり、内着帯の儀が終了となる。

式後、再び御格子ノ間において、侍医頭入沢達吉・宮内省御用掛磐瀬雄一・侍医塚原伊勢松・侍医寮

事務囑託梅林寺こう・同坂田あきの奉仕により、東宮職にて用意の帯を着される。ついで皇太子と共に奥内謁見所において、東宮職勤務高等官の祝賀をお受けになり、続いて東宮大夫より、東宮職勤務判任官の参賀を受けた旨の言上をお受けになる。その後、お一方にて奥内謁見所において、故恒久王妃昌子内親王・稔彦王妃聡子内親王と御対面になり、恐悦をお受けになる。正午過ぎ、皇太子・同妃に酒饌及びお祝御膳が供進される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、照宮御誕生録、照宮御誕生記録、皇親録、宮内省省報

内着帯の儀終了につき、午後、皇太子・同妃より、御使として東宮女官津軽理喜子を宮城に差し遣わされる。宮城より天皇・皇后の御使として掌侍吉見光子参殿につき、皇太子と共に謁を賜う。天皇・皇后と皇太子・同妃との間でお祝いの御贈進が取り交わされる。また、皇太子と共に奥内謁見所において、祝詞言上のため参殿の邦彦王・同妃倪子、故依仁親王妃周子とそれぞれ御対面になる。皇太子・同妃と皇族との間でもお祝いの御贈進が取り交わされる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、進献録、照宮御誕生録、皇親録、秩父宮附宿直日記、貞明皇后実録正本

二日 木曜日 午前、皇太子と共に御車寄内において、東宮仮御所に行啓の皇后をお出迎えになる。

皇太子と共に皇后を御休所^{奥内謁見所}に御案内になり、御挨拶の後、供奉の皇后宮大夫大森鍾一、皇后宮事務官西邑清、侍医山川一郎、典侍正親町鍾子始め女官、及びこの日特にお召しの正二位柳原愛子に謁を賜う。その後、奥御食堂において御昼餐を御会食になり、柳原に御陪食を賜う。午後、表内謁見所において、式部職業部員による四部合奏、神戸絢によるピアノ独奏、幸田延・安藤幸によるピアノとヴァイオリンの合奏等をお聴きになる。その後、皇太子が皇后に御乗馬を御披露の間、御所内におい

て御休息になる。皇后・皇太子がお戻りになった後、御一緒に御座所において茶菓を召される。夕刻、皇太子と共に御車寄内において、皇后の還啓をお見送りになる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、

東宮内舎人日記、進献録、重要雜録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報、大森鍾一關係資料

三日 金曜日 午前、故成久王妃房子内親王参殿につき、皇太子と共に御対面になり、内着帯の儀終了の祝詞言上をお受けになる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、照宮御誕生記録

七日 火曜日 午前、前庭にお出ましになり、葉山行啓の準備のため、現地にて御使用予定の自動車に試乗される。御懐妊後初めて自動車にお乗りになる。東宮女官長島津治子・侍医八田善之進・同塚原伊勢松・東宮侍従本多正復が同乗し、御乗車中に御体調の異状がないことを確認する。御試乗は十日にも行われる。○東宮女官日誌、東宮職日誌、照宮御誕生記録

九日 木曜日 夜、皇太子と共に伺候ノ間において、米国特命全權大使からの願い出により供された、同国のリー・ド・フォレスト発明の発声活動写真フォノフィルムを御覧になる。プログラムは二巻十七番組にて、フォノフィルムの説明及び音楽、舞踊等により構成される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東

宮職日誌、東宮内舎人日記、御教育録、外事録、贈賜録、読売新聞

十二日 日曜日 午前、江田島・豊後水道沖への行啓に御出発の皇太子をお見送りになる。○東宮女官日誌

午後、この日より愛宕山の放送局において開始されたラジオ本放送をお聴きになる。○東宮女官日誌

十三日 月曜日 葉山に行啓される。お出ましの際、侍従兼東宮侍従黒田長敬、崇仁親王御使として参殿の澄宮御養育掛東胤徳に謁を賜う。午前九時二十五分御出門になる。十一時二十五分葉山御用邸

に御到着になる。○東宮女官日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、東宮内舎人供奉日誌、行啓録、宮内省省報、官報

十四日 火曜日 午前、御食堂において、宮内省御用掛磐瀬雄一・侍医八田善之進・同塚原伊勢松の診察をお受けになる。以後、葉山御滞在中、火曜日を定例として診察をお受けになる。○東宮女官日誌、

入沢達吉日記

十五日 水曜日 この日、皇太子・同妃の御使として東宮大夫珍田捨巳を日光田母沢御用邸御滞在中の天皇・皇后の許に差し遣わされ、皇太子妃の御健康状態をお伝えになる。十七日、東宮大夫より皇后からのお言葉について復命をお聞きになる。○東宮女官日誌、東宮職日誌、行啓録、照宮御誕生記録、宮内省省報

十七日 金曜日 午後、南外庭内に造成の畑にお出ましになり、ラツカセイの移植、ナス・青トウガラシ・カキチシャの収穫をされる。以後、折に触れて南外庭畑にお出ましになり、作業をされる。○

東宮女官日誌、行啓録

十八日 土曜日 午前、江田島・豊後水道沖への行啓より御帰還の皇太子をお出迎えになる。午後、御一緒に前庭海岸を御散策になる。海岸御散策は、皇太子の葉山御到着以降、お二方お揃いにて行われ、魚や貝を採集される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮内舎人供奉日誌、行啓録

十九日 日曜日 午後、皇太子と共に前庭にお出ましになり、軍艦長門の軍楽隊による演奏をお聴きになる。御所望により御夕餐の際にも再び演奏が行われる。また、二十八日も同軍楽隊の演奏をお聴きになる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮内舎人供奉日誌、行啓録

二十八日 火曜日 今般久邇宮宮務監督を免じられた国分三亥^{宮中顧問官}に対し、皇太子・同妃より白絹を下賜される。○東宮職日誌、贈賜録、宮内省省報、官報

大正十四年八月

二十九日 水曜日 夕刻、東京へ還啓の皇太子をお見送りになる。○東宮女官日誌、東宮職日誌、行啓録

三十日 木曜日 午前、明治天皇例祭につき、御遙拝になる。なお、同皇靈殿の儀・御神楽の儀共に、

東宮女官青山元子に御代拝を仰せ付けられる。○東宮女官日誌、東宮職日誌、行啓録、儀式録、祭祀録、宮内省省報

三十一日 金曜日 午後、皇太子御使として東京より参邸の東宮侍従甘露寺受長に謁を賜い、加藤高

明内閣総辞職のため翌八月一日の葉山行啓がお取りやめになったことについて皇太子の御伝言をお聞きになる。また、この日予定されていた皇太子の日光行啓お取りやめにつき、皇太子・同妃の御使と

して東宮侍従本多正復を天皇・皇后御滞在中の日光田母沢御用邸に差し遣わされる。○東宮女官日誌、東

宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、行啓録、進退録、宮内省省報、官報

八月

一日 土曜日 午前、この日帰京の東宮大夫珍田捨巳に謁を賜い、皇太子への御伝言を託される。○

東宮女官日誌、行啓録

米國特命全權大使エドガー・バンククロフト去る七月二十八日軽井沢において死去につき、この日、弔問のため、皇太子・同妃より御使として東宮侍従牧野貞亮を同国大使館に差し遣わされる。六日に芝区栄町のセント・アンドリュース教会において行われる葬儀には、皇太子・同妃より御使として東宮大夫珍田捨巳を差し遣わされ、花環をお贈りになる。○東宮女官日誌、東宮職日誌、行啓録、外事録、外交慶弔録、

宮内省省報、官報

二日 日曜日 午後、交代により帰京の東宮事務官岡本愛祐に謁を賜い、翌三日皇太子が葉山に御着、

五日より樺太行啓へ御出発になる旨の言上をお聞きになる。○東宮女官日誌、行啓録

三日 月曜日 夕刻、御車寄において、皇太子の葉山御用邸到着をお出迎えになる。○東宮女官日誌、東

宮職日誌

五日 水曜日 午前、御車寄において、樺太行啓に御出発の皇太子をお見送りになる。また、廊下に

おいて、皇太子のお見送りのため天皇・皇后の御使として参邸の侍従河緒実英に謁を賜う。○東宮女官

日誌、行啓録

八日 土曜日 御夕餐後、汐見御茶屋にお出ましになり、東宮属の打ち上げる花火を御覧になる。以

後、御用邸御滞在中、折に触れて花火を御覧になる。○東宮女官日誌、東宮内舍人供奉日誌

十四日 金曜日 松浦益子^{伯爵松浦厚夫人} 去る十日死去につき、この日、皇太子妃より菓子料を下賜される。

松浦は、皇太子妃の入内前、茶道の指導に奉仕した。○東宮職日誌、行啓録

十七日 月曜日 午前、皇太子の葉山御用邸還啓をお出迎えになる。その後、皇太子と共に、宮内大

臣始め供奉員一同、及び新任の東宮武官兼侍従武官陸軍歩兵中佐矢野機^{八月七日付にて補任}、天皇・皇后の御使と

して参邸の侍従黒田長敬に謁を賜う。御昼餐の後、皇太子と共に、前任の東宮武官兼侍従武官浜田豊

城に謁を賜い、暇乞いをお受けになる。この日、中庭において樺太産の七面鳥・ウトウ・小熊を御覧

になる。以後、折に触れて、樺太産の動物を御覧になり、お手ずから餌をお与えになる。○東宮女官日誌、

東宮侍従日誌、東宮内舍人供奉日誌、行啓録、官報

十八日 火曜日 御夕餐後、皇太子と共に庭にお出ましになり、海岸における当地の盃蘭盆灯籠流し

を御覧になる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、行啓録

三十一日 月曜日 午前、天長節祭につき、皇太子と共に謁見所において御遙拜になる。ついで供奉側近高等官一同に謁を賜い、祝詞言上をお受けになる。この日、皇太子・同妃の御使として東宮大夫珍田捨巳を日光に差し遣わされ、天長節の祝詞を天皇・皇后にお伝えになる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、東宮内舍人供奉日誌、贈賜録、進退録、大正天皇実録、貞明皇后実録正本、奈良武次日記

九月

一日 火曜日 午前、震災記念日につき、皇太子と共に御内儀においてお慎みになる。また、東京府市主催震災死亡者追弔会並びに横浜市主催震災死亡者追弔会開催につき、皇太子・同妃よりそれぞれ生花一对を下賜される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、贈賜録、行啓録

九日 水曜日 午後、東京へ還啓のため御出発の皇太子をお見送りになる。○東宮女官日誌、行啓録

十二日 土曜日 午前八時三十五分御出門、十時五十五分東宮仮御所に還啓される。直ちに崇仁親王御使山尾三郎、久邇宮御使長崎省吾に謁を賜う。その後、御車寄において、宮城より還啓の皇太子をお出迎えになる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、行啓録、宮内省省報、官報

午後、皇太子と共に奥内謁見所において、昨十一日海上勤務より帰京の宣仁親王と御対面になる。○東宮侍従日誌、東宮内舍人日記、宮内省省報

十七日 木曜日 午前、去る十五日新潟県赤倉より帰京の邦彦王・同妃侘子参殿につき、皇太子と共に御対面になる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、宮内省省報

十八日 金曜日 東宮女官三輪もと去る十六日死去につき、この日、皇太子・同妃より祭糝料を下賜

される。なお、皇太子・同妃より、十五日には病氣お尋ねとして野菜・果物の缶詰を、十六日には危篤に際して葡萄酒を下賜され、昨十七日の午前、皇太子と共に、かねて日本赤十字社病院に入院加療中の同人が十六日に死去した旨の言上を東宮女官長島津治子よりお受けになった。三輪は、学習院において教鞭を執り、皇太子妃の御学問所時代より奉仕し、皇太子妃の御結婚に際して東宮女官を仰せ付けられた。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、贈賜録、進退録

二十三日 水曜日 午前、秋季皇霊祭及び同神殿祭につき、東宮仮御所において御遙拝になる。東宮女官青山元子に御代拝を仰せ付けられる。○東宮女官日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、儀式録、祭祀録、宮内省省報

二十六日 土曜日 枢密院議長浜尾新昨二十五日死去につき、この日、弔問のため、皇太子・同妃より御使として東宮侍従土屋正直を差し遣わされ、祭資・榊・盛菓子・玉串を下賜される。二十八日には、皇太子・同妃より御使として東宮侍従甘露寺受長を靈前に差し遣わされ、二十九日に東京帝国大学中央大講堂において行われる葬儀には、皇太子・同妃より御使として東宮侍従牧野貞亮を齋場に差し遣わされる。なお、昨二十五日、同人の重体に際して、皇太子・同妃より侍医松永琢磨及び土屋東宮侍従を、同人が入院中の東京帝国大学医学部附属医院塩田外科に差し遣わされ、葡萄酒を下賜される。浜尾は、去る二十四日、自邸の庭において塵芥焼却中の穴に転落して全身に火傷を負い、重体となった。○東宮職日誌、贈賜録、宮内省省報、官報、東京日日新聞、読売新聞

十月

一日 木曜日 この日、博信王成年式につき、お悦びとして皇太子・同妃より王に交魚料を御贈進に

なる。○東宮職日誌、贈賜録、進献録、宮内省省報

五日 月曜日 皇室親族令中の皇子誕生式を準用し、御帯進献の儀、賢所皇靈殿神殿に着帯奉告の儀、着帯の儀が行われる。最初に御帯進献の儀が行われる。午前、載仁親王が勅旨を奉じ、御帯進献のため東宮仮御所に参入、西皇族休所において東宮大夫珍田捨巳に御帯を渡す。皇太子妃は袴袴を着用され、奥内謁見所に御臨場になり、東宮大夫より御帯の奉呈をお受けになる。御帯が所定の案上に置かれた後、御退出になる。

次に賢所皇靈殿神殿に着帯奉告の儀が行われる。御帯が神殿の案上に供えられた後、賢所の儀が行われ、掌典長九条道実が祝詞を奏し、東宮侍従甘露寺受長に皇太子の御代拝を、東宮女官山岡淑子に皇太子妃の御代拝を仰せ付けられる。賢所の儀の時刻、皇太子と共に奥内謁見所前ペランダにおいて御遙拝になる。ついで皇靈殿の儀、神殿の儀が行われる。終わって御帯が東宮仮御所に奉還された後、着帯の儀が行われる。皇太子妃は奥御座所に臨まれ、入口において皇太子の御臨場をお出迎えになり、御一緒に御着席、御着帯を行われる。終わって皇太子に続き御退出になる。その後、皇太子と共に御着帯関係の宮内官・東宮職勤務高等官等の拝賀をお受けになる。なお、着帯の儀が行われる前に、天皇・皇后の御使として掌侍吉見光子参殿につき、皇太子と共に謁を賜う。また、着帯の儀終了後、皇太子・同妃より御使として珍田東宮大夫を宮城に差し遣わされ、侍従長・皇后宮大夫に、御着帯に關する諸儀が滞りなく終了した旨の天皇・皇后への言上を御依頼になる。

午後、洋装にお召し替えになり、皇太子と共に奥内謁見所において、載仁親王、邦彦王・同妃親子と御対面になり、祝詞言上をお受けになる。その後、お一方にて奥御食堂において、邦彦王妃と御昼餐

を御会食になり、正二位柳原愛子等に御陪食を賜う。

なお、この日、天皇・皇后と皇太子・同妃との間、皇太子・同妃と皇族等との間でそれぞれ御贈進が取り交わされる。天皇・皇后への御使は、東宮侍従甘露寺受長が奉仕する。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、

東宮職日誌、東宮内舍人日記、照宮御誕生記録、照宮御誕生録、皇親録、儀式録、祭祀録、進献録、宮内省省報、官報、貞明皇后実録正本

御誕生予定の皇孫の御養育は、主として皇太子妃の母乳によることが既に決定していたが、万全の方法として予備的に乳人を選定しておく必要があるため、この日、東宮大夫より東京・神奈川・千葉・埼玉の各府県知事に対し、乳人候補者を五名ずつ推挙するよう依頼する。後日、各地より挙げられた候補者に対する医科学的検査や身上調査の結果、十二月六日に、東京府の辰巳恒陸軍歩兵大尉
辰巳栄一夫人と神奈川県

の平山シズエが乳人に命じられる。その後、辰巳が病気に罹患したため、翌大正十五年四月十八日、新たに飯島家寿が乳人に命じられる。なお、辰巳は同年六月三十日願いにより乳人を免じられ、平山・

飯島は同年十二月六日まで乳人を務める。○照宮御誕生録、照宮御誕生記録、皇親録、岡本愛祐関係文書、読売新聞

六日 火曜日 午後、皇太子と共に東宮仮御所において、故恒久王妃昌子内親王・故成久王妃房子内親王・稔彦王妃聡子内親王と御対面になり、御着帯の祝詞言上をお受けになる。○東宮女官日誌、東宮侍従

日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、照宮御誕生記録

七日 水曜日 午前、東宮仮御所において、守正王・同妃伊都子と御対面になり、御着帯の祝詞言上をお受けになる。○東宮女官日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、照宮御誕生記録

八日 木曜日 午後、皇太子と共に御内儀において、故依仁親王妃周子・恒憲王妃敏子とそれぞれ御

大正十四年十月

対面になり、御着帯の祝詞言上をお受けになる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、照宮御誕生記録

十一日 日曜日 朝、崇仁親王と共に玄関において、山形・秋田・宮城三県行啓へ御出發の皇太子をお見送りになる。なお、去る九日、「両陛下摂政殿下皇太子殿下皇太子妃殿下御平常自動車鹵簿」が改定され、この日より実施される。これにより、虎ノ門事件以後一時的に実施された近衛將校による騎馬側衛を全廃し、サイドカーをもってこれに代えることとなり、以後、近衛將校搭乗のサイドカーが御料車の左右両側及び後方より扈從することとされる。なお、従来実施の皇宮警察官搭乗のサイドカーは、摂政・皇太子妃御同列及び皇太子・同妃御同列の鹵簿については四両、皇太子妃単独の鹵簿については三両を付し、地方警察官のサイドカーは除くこととされる。○東宮女官日誌、東宮職日誌、行啓録、

例規録

十七日 土曜日 午前、神嘗祭につき、東宮仮御所において御遙拝になる。賢所においては、東宮女官青山元子に御代拝を仰せ付けられる。○東宮女官日誌、東宮職日誌、祭祀録、典式録、儀式録、宮内省省報

十九日 月曜日 この日、御使として東宮侍従本多正復を宮城県仙台市の皇太子御泊所仙台借に差し遣

わされ、お慰みとして落花生・チョコレート・搔餅を御贈進になる。○東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎

人日記、贈賜録、進退録

二十二日 木曜日 宮城県行啓中の皇太子より、鯛・白菜の御贈進をお受けになる。なお、この日、皇太子は侍医により上気道カタル及び軽度の胃腸症と診断される。○東宮職日誌、幸啓録

二十三日 金曜日 午前、仙台御滞在中の皇太子を拝診のため侍医頭入沢達吉出發につき、謁を賜い、

暇乞いの挨拶をお受けになる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、行啓録、入沢達吉日記、河北新報

東宮仮御所において、邦彦王妃侘子と御対面になり、皇太子に対するお見舞いをお受けになる。○東宮

女官日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記

二十五日 日曜日 夕刻、山形・秋田・宮城三県より還啓の皇太子をお出迎えになる。○東宮女官日誌、

東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、東宮内舍人供奉日誌、行啓録、宮内省省報、官報

三十日 金曜日 午後、東宮女官長・侍医の案内にて御産室を御覧になる。日当たり良く、落ち着きのある部屋と思う旨を仰せられる。○東宮女官日誌

三十一日 土曜日 午前、皇太子と共に東宮仮御所において、東宮職・同職詰高等官より、天長節祝日の拝賀と、この日皇太子が陸軍歩兵大佐・海軍大佐に昇任されたことについての祝詞言上をお受けになる。夕刻、皇太子と共に、お祝御膳の御夕餐をお召し上がりになる。またこの日、皇后の思召しにより天皇皇后銀婚式を記念して製作されたお祝品が、皇太子・同妃にそれぞれ贈られる。○東宮女官

日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、典式録、進献録、官報

十一月

二日 月曜日 午後、京都府下への旅行より帰京の故依仁親王妃周子参殿につき、皇太子と共に御対面になる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、宮内省省報

御夕餐後、皇太子と共に伺候ノ間において、山形・秋田・宮城三県よりの献上品、及び皇太子のお買上品の陳列を御覧になり、天皇・皇后への御献上品、皇族への御贈進品をお選びになる。翌三日も、

お一方にてお土産品を御覧になる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、皇太子殿下山形県行啓録、山形新聞、米沢新聞、米沢朝報、荘内新報、鶴岡日報、酒田新聞

六日 金曜日 午後、侍医頭入沢達吉・侍医塚原伊勢松の拝診をお受けになる。この日より御出産に備え、拝診が週一回から金曜日を含めた週二回とされる。これに伴い、侍医団が増員され、新たに小児科医の元朝鮮総督府医院副医官田中幸一・千葉医科大学教授小山武夫が東宮仮御所詰の侍医に任じられる。○東宮女官日誌、照宮御誕生記録、進退録、宮内省省報、官報、入沢達吉日記

十日 火曜日 午後、去る九月二十五日に宮内省御用掛を拝命の東京帝国大学教授栗山重信小児科医に謁を賜う。○東宮女官日誌、照宮御誕生記録、皇親録、宮内省省報、官報

去る十月二日ベルギー国皇帝皇后御結婚二十五年御祝儀につき、この日、皇太子・同妃よりお祝品を御贈進になる。後日、同国皇帝より礼状がある。○贈賜録、外事録、外交慶弔録、謁見録、宮内省省報、官報

二十六日 木曜日 御夕餐後、御座所において、御誕生間近の皇孫のため肩掛けを縫われる。翌日にはよだれ掛けを縫われる。○東宮女官日誌

二十八日 土曜日 芝区栄町のセント・アンドリュース教会において英国皇太后故アレキサンドラ去る二十

日崩の弔祭式執行につき、皇太子・同妃の御使として東宮大夫珍田捨巳を差し遣わされる。○東宮侍従日誌、東宮職日誌、外事録、外交慶弔録、宮内省省報、官報

十二月

一日 火曜日 皇太子・同妃より、この日海軍少尉に任官し大勲位菊花大綬章を拝受した宣仁親王に、三種交魚代料を御贈進になる。○東宮職日誌、東宮内舍人日記、皇族身分録、贈賜録、官報

六日 日曜日 午後三時過ぎ、御産室にお入りになる。六時三十分、御産氣付かれた旨が発表される。八時十分、内親王を御出産になる。十時三十分、皇太子及び邦彦王妃倪子が御産室を御訪問になり、新誕の内親王と御対面になる。

皇孫誕生につき、天皇・皇后の御使として典侍正親町鍾子が参殿し、奥内謁見所において皇太子に祝詞を言上する。また、皇太子・同妃の御使として東宮侍従長入江為守が参内し、皇孫誕生の旨を言上する。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、照宮御誕生録、皇親録、秩父宮附宿直日記、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報、東京朝日新聞

七日 月曜日 午前、東宮仮御所において、誕生の皇孫に御剣を賜うの儀が行われる。儀終了後、皇太子・同妃の御使として東宮大夫珍田捨巳が参内し、お礼を言上する。○東宮女官日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、儀式録、照宮御誕生録、皇親録、宮内省省報、官報

午後、御産室において、皇太子と御歓談になる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌

御夕餐後、侍医寮事務嘱託梅林寺こうの奉仕にて、初めて内親王に授乳をされる。○東宮女官日誌
内親王誕生のお祝いとして、この日、皇太子・同妃それぞれに、天皇より五種交魚代料が、皇后より五種交魚代料が贈られる。また、皇太子に祝詞言上のため載仁親王、守正王・同妃伊都子始め皇族・王族が相次いで参殿し、参殿のない皇族・王公族は御使又は電報をもって祝詞を言上する。その他有

大正十四年十二月

資格者が陸続として参賀する。○東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、照宮御誕生記録、進献録、皇親録

十日 木曜日 午後、皇太子の御案内にて来室の邦彦王・同妃侘子と御対面になる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記

十一日 金曜日 夕刻、強震発生につき、皇太子の御使として来室の東宮侍従岡本愛祐よりお見舞いをお受けになる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌

この日、欧米より鳩彦王・同妃允子内親王帰国につき、皇太子・同妃の御使として東宮侍従本多正復を東京駅及び朝香宮邸に差し遣わされる。○東宮職日誌、贈賜録、宮内省省報、官報

十二日 土曜日 午前、光格天皇例祭につき、東宮事務官岡本愛祐に御代拝を仰せ付けられる。○祭祀録、儀式録、典式録、宮内省省報

去る六日に誕生した内親王の命名の儀を始めとする諸儀式が挙行される。午前七時、青山御所内寒香亭脇の小丘において、御胞衣埋納の儀が行われる。ついで九時三十分、東宮仮御所の浴殿において、内親王の浴湯の儀が行われる。その際、隣室において読書鳴弦の儀が行われる。読書・鳴弦。共に二回。 続いて、命名

の儀が行われた後、東宮女官長より内親王の名の言上をお受けになる。内親王は成子しげこと命名され、照宮ていのみやと称する。なお、内親王の印章は、皇后の勘考された数号から皇太子・同妃がお選びになった「紅梅」となる。命名の儀と同時に、賢所皇靈殿神殿に誕生命名奉告の儀が行われ、東宮侍従牧野貞亮に皇太子の御代拝を、東宮事務官岡本愛祐に皇太子妃の御代拝を仰せ付けられる。命名の儀終了後、皇太子・同妃の御使として東宮大夫が参内し、命名のお礼を言上する。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、

東宮内舎人日記、儀式録、祭祀録、照宮御誕生録、照宮御誕生記録、皇親録、大正天皇実録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

午前、権典侍竹屋津根子が天皇・皇后よりの御祝儀を奉じて参殿し、内親王に拝謁する。この日、天皇・皇后と皇太子・同妃及び内親王との間で、それぞれお祝いの御贈進が取り交わされる。○東宮女官日誌、進献録、皇親録、貞明皇后実録正本

十五日 火曜日 夕刻、賢所御神楽につき、東宮事務官岡本愛祐に御代拝を仰せ付けられる。○東宮職日誌、祭祀録、儀式録、典式録、宮内省省報

十八日 金曜日 夜、皇太子の御案内にて御産室に鳩彦王・同妃允子内親王並びに故恒久王妃昌子内親王・稔彦王妃聡子内親王来室につき、成子内親王と共に御対面になる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記

十九日 土曜日 午後、天皇・皇后の御使として参殿の典侍正親町鍾子・権掌侍東坊城敏子・命婦富田算子、及び今般退職の元典侍千種任子参殿につき、御産室において正親町・千種兩名に謁を賜う。

○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、贈賜録、進献録

二十日 日曜日 昨十九日脳貧血の症状にて一時御違例となった天皇が御回復になり、この日、東宮女官長島津治子をお見舞言上のため宮城に差し遣わされる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、大正天皇実録

二十四日 木曜日 夕刻、邦彦王・同妃侘子参殿につき、御産室において御対面になる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌

この日、東京帝国大学助手佐藤久が侍医補に任じられ、東宮仮御所詰を命じられる。○東宮職日誌、照宮御誕生録、照宮御誕生記録、宮内省省報、官報

二十五日 金曜日 枢密院副議長岡野敬次郎去る二十三日死去につき、この日、皇太子・同妃より御

大正十四年十二月

使として東宮侍従牧野貞亮を同人邸に差し遣わされ、祭資・生花・盛菓子を下賜される。○贈賜録、進退録、宮内省省報、官報

二十六日 土曜日 横須賀海軍病院に朝融王入院につき、皇太子・同妃より東宮侍従土屋正直を差し遣わされ、花卉三鉢を御贈進になる。○贈賜録、読売新聞

二十七日 日曜日 午前、御床払いになる。正午過ぎ、御座所にお出ましになり、平常に復される。

ついで、皇太子と共に御食堂において御昼餐をお召し上がりになる。午後、皇太子及び成子内親王と共にお過ごしになる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、照宮御誕生録、皇親録

二十八日 月曜日 午前、奥内謁見所において、東宮大夫珍田捨巳等より御床払いの祝詞言上をお受けになる。午後、内大臣牧野伸顕より祝詞言上をお受けになる。○東宮女官日誌

御床払いに伴って侍医寮事務嘱託^{産婆}を退任の梅林寺ここう・坂田あきに謁を賜う。○東宮女官日誌、照宮御誕生録、照宮御誕生録

二十九日 火曜日 午前、皇太子と共に奥内謁見所において、歳末の祝詞言上のため参殿した鳩彦王・

同妃允子内親王、及び故恒久王妃昌子内親王、故成久王妃房子内親王、稔彦王妃聡子内親王とそれぞれ御対面になる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記

三十日 水曜日 午前、皇太子と共に奥内謁見所において、歳末の祝詞言上のため参殿した邦彦王・

同妃侘子と御対面になる。午後、お一方にて、歳末の祝詞言上のため参殿した故依仁親王妃周子、博恭王・同妃経子と御対面になり、成子内親王の居室に御案内になる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職

日誌、東宮内舍人日記

一月

一日 金曜日 午前、皇太子と共に表内謁見所にお出ましになり、東宮大夫以下の東宮職高等官等の拝賀をお受けになる。午後、宣仁親王参殿につき、皇太子と共に奥内謁見所において御対面になり、新年の祝詞言上をお受けになる。その後、皇太子と共に奥内謁見所において宮内大臣、宮内次官、侍従長に謁を賜い、新年の祝詞言上をお受けになる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、奈良武次日記、高松宮日記、関屋貞三郎日記

二日 土曜日 午後、邦彦王^{御父}・同妃侃子^{御母}、故依仁親王妃周子参殿につき、奥内謁見所において御対面になる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌

三日 日曜日 午前、元始祭につき、東宮事務官岡本愛祐に御代拝を仰せ付けられる。○儀式録、祭祀録、

宮内省省報

御同級生総代二名、御学友二名より、それぞれ新年の祝詞言上をお受けになる。○東宮女官日誌

午後、元奉仕者の清水シゲ・鈴木タカ・荒川玉参殿につき、皇太子と共に奥内謁見所において謁を賜う。以後、この年も随時、元奉仕者の拝謁等がある。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌

故恒久王妃昌子内親王・故成久王妃房子内親王・稔彦王妃聡子内親王参殿につき、成子内親王と共に奥内謁見所において御対面になる。以後、この年も随時、皇族・御親族と御対面・御会食になる。○

大正十五年一月

東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記

六日 水曜日 午前、御出産後の忌明けの儀として御入浴になる。午後、東宮女官長島津治子を御使始並びに御出産後の忌明けの御使として宮城に差し遣わされる。これに対し、天皇・皇后の御使として掌侍吉見光子参殿につき、皇太子と共に奥内謁見所において謁を賜う。以後、折に触れて天皇・皇后と皇太子・同妃との間で相互に御使をお取り交わしになる。○東宮女官日誌、東宮職日誌、皇親録

七日 木曜日 午後、皇太子と共に奥内謁見所において、正二位柳原愛子に謁を賜い、新年の祝詞言上をお受けになる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌

八日 金曜日 午前、皇后宮職御用掛山中貞子・同佐分利文子に謁を賜い、年頭の挨拶をお受けになる。○東宮女官日誌

十日 日曜日 午前、皇太子と共に奥内謁見所において、崇仁親王と御対面になり、新年の祝詞言上をお受けになる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌

十一日 月曜日 この日、東宮大夫珍田捨巳より、次の謹話が新聞に発表される。

旧臘六日目出度ク御誕生遊ハサレタル照宮成子内親王殿下ニハ主トシテ御壮健ニ在シマス

皇太子妃殿下ノ御母乳ニ依リ御成長アラセラレ其ノ御發育極テ御良好ニ涉ラセラル満一ヶ月後ノ御体重一貫百二十六匁御身長一尺七寸五分ニ御増加アラセラレタリ

○照宮御誕生録

十八日 月曜日 午前、歌御会始の儀が行われる。皇太子妃は御欠席になる。この年のお題は「河水清」であり、皇太子妃の御歌は次のとおり。

東宮妃御歌

水底のさゝれのかすもよむはかり河の流のきよくもあるかな

○御歌録、宮内省省報、官報

二十一日 木曜日 午後、奥内謁見所において、この日東宮職御用掛を拝命の竹屋志計子に謁を賜う。同人は照宮御養育掛を命じられる。○東宮女官日誌、東宮職日誌、進退録

夕刻、学習院初等学科時代の御同級生として皇太子が御晚餐にお召しになった侯爵久邇邦久御参殿につき、皇太子と共に御対面になる。○東宮女官日誌、東宮職日誌

二十九日 金曜日 この日、内閣総理大臣伯爵加藤高明死去につき、皇太子・同妃より弔問使として東宮侍従牧野貞亮を同人邸に差し遣わされる。二月一日には、皇太子・同妃の御使として東宮侍従木下道雄を柩前に差し遣わされ、盛菓子・生花を下賜され、焼香させられる。二日に行われる葬儀には、皇太子・同妃の御使として東宮侍従本多正復を葬場に差し遣わされる。なお、昨二十八日、同人の危篤に際し、皇太子・同妃より御使として東宮侍従本多正復を同人邸に差し遣わされ、葡萄酒を下賜される。○東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、贈賜録、宮内省省報、官報

三十日 土曜日 午前、孝明天皇例祭につき、東宮仮御所において御遙拝になる。また、東宮女官青山元子に御代拝を仰せ付けられる。○東宮女官日誌、東宮職日誌、祭祀録、宮内省省報

二月

十一日 木曜日 紀元節につき、午前、皇太子と共に表内謁見所において、東宮大夫始め東宮職勤務

高等官等の拝賀をお受けになる。また紀元節祭につき、お一方にて御遙拝になる。御代拝は東宮事務官岡本愛祐に仰せ付けられる。夕刻、賢所御神楽につき、皇太子と共に奥内謁見所前廊下において御遙拝になる。ついでお祝御膳をお召し上がりになる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、儀式録、祭礼録、典式録、宮内省省報

十三日 土曜日 文秀女王邦家親王第七王女病氣重体につき、皇太子・同妃よりお見舞電報を御發送になる。また、病氣お尋ねとして葡萄酒を御贈進になる。○東宮職日誌、典式録

朝鮮総督府中樞院副議長侯爵李完用昨十二日死去につき、この日、皇太子・同妃より祭資・榊・盛菓子を下賜される。○贈賜録

十七日 水曜日 スイス訪問中の雍仁親王が去る十五日発病し、十六日に麻疹と診断される。この日、皇太子・同妃よりお見舞電報を御發送になる。○東宮侍従日誌、重要雜録、雍仁親王実紀

二十一日 日曜日 午前、仁孝天皇例祭につき、東宮仮御所において御遙拝になる。また、東宮女官津軽理喜子に御代拝を仰せ付けられる。○東宮女官日誌、東宮職日誌、儀式録、宮内省省報

成子内親王誕生以来、しばしば内親王の写真を御撮影になる。御夕餐後、この日御撮影の写真を御自身にて現像し、御研究になる。以後、折に触れて写真を御撮影になり、現像を試みられる。○東宮女官日誌

文秀女王去る十五日薨去につき、この日、弔問のため、皇太子・同妃の御使として東宮侍従本多正復を奈良県の円照寺に差し遣わされる。二十二日には、賜物の儀・靈代安置の儀につき、皇太子・同妃の御使として同人を差し遣わされる。また、皇太子・同妃より榊・盛菓・玉串を靈前にお供えにな

る。二十三日に行われる斂葬の儀にも、皇太子・同妃の御使として同人を差し遣わされる。

文秀女王は、邦家親王第七王女として天保十五年に生まれ、弘化四年円照寺に入寺し、嘉永四年得度する。万延元年孝明天皇の御養子となり、明治六年寺門を離れて伏見宮に復籍したが、翌年再び円照寺に移徙し、この時に至る。享年八十三。○東宮職日誌、皇族身分録、典式録、文秀女王殿下喪儀録、伏見宮実録、宮内省省報、官報

二十四日 水曜日 天皇御不例につき、皇太子・同妃の御使として東宮女官長島津治子を宮城に差し遣わされ、新宿御苑産の花弁を御献上になる。○東宮職日誌、贈賜録

二十五日 木曜日 午後、皇太子と共に彩鸞ノ間において、御慶事に際しての献上品の陳列を御覧になる。○東宮女官日誌

二十六日 金曜日 午後、皇太子と共に奥内謁見所において、宮城よりの御使として参殿した権典侍清水谷英子・命婦生源寺政子に謁を賜う。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌

二十七日 土曜日 午前、奥内謁見所において、三月一日より朝鮮旅行に出発する王世子李垠・同妃方子女王と御対面になり、暇乞いをお受けになる。○東宮女官日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、宮内省省報

三月

一日 月曜日 午前、奥内謁見所において、御機嫌伺い、及び成子内親王に節句雛を進献のため参殿した、元宮内省御用掛後閑菊野・元侍女田中俊子に謁を賜う。○東宮女官日誌

二日 火曜日 午後二時御出門、御出産後初めて参内され、天皇・皇后と御対面になる。四時五分還

啓される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、行啓録

三日 水曜日 成子内親王初節句につき、午後、皇太子及び成子内親王と共に奥内謁見所において、内大臣・宮内大臣・宮内次官・東宮職高等官一同をお召しになり、白酒・菓子等を賜う。この日、天皇・皇后より皇太子・同妃に五種交魚が、成子内親王に御台人形・五種交魚・菓子が下賜される。拝領の御台人形は、雛人形と共に奥内謁見所に飾られる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、貞明皇后実録正本

六日 土曜日 満二十三歳のお誕生日を迎えられる。

この日、故文秀女王二十日祭相当につき、お祝いは八日に延期される。午前、前庭芝生にお出ましになり、東宮侍従甘露寺受長の指導にてゴルフの練習をされる。以後、しばしばゴルフをされる。○東宮女官日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記

八日 月曜日 皇太子妃のお誕生日のお祝いにつき、正午、皇太子と共に狩ノ間において、内大臣・宮内大臣・宮内次官及び東宮職高等官の拝賀を順次お受けになる。ついで花鳥ノ間において内宴を催され、一同に午餐の御陪食を賜う。御食後、彩鸞ノ間において珈琲を賜う。

午後、拝賀のため参殿した元宮内省御用掛後閑菊野始め四名、及び御学友・御同級生五名に謁を賜う。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、典式録、宮内省省報

十四日 日曜日 午前、皇太子及び成子内親王と共に奥内謁見所において、崇仁親王と御対面になり、関西旅行へ出発の暇乞いをお受けになる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記

十六日 火曜日 午前、奥内謁見所において、朝鮮より帰京の王世子李垠・同妃方子女王に謁を賜う。

○東宮女官日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、宮内省省報

二十日 土曜日 午後、恒徳王を伴い参殿の故恒久王妃昌子内親王と御対面になる。恒徳王の東京陸軍幼年学校卒業につきお札言上をお受けになる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、皇族身分録

二十一日 日曜日 午前、春季皇霊祭及び同神殿祭につき、東宮仮御所において御遙拝になる。御代拝は東宮女官津軽理喜子に仰せ付けられる。○東宮女官日誌、東宮職日誌、儀式録、祭祀録、宮内省省報

二十二日 月曜日 デンマーク国皇太后ルーセ崩御につき、この日より二十八日まで七日間の宮中喪が発せられたため、夕刻より喪服をお召しになる。○東宮女官日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、外事録、外交慶弔録、宮内省省報、官報

内大臣秘書官長東宮職御用掛大塚常三郎昨二十一日死去につき、この日、皇太子・同妃より祭資を下賜される。なお、同人の病気に際して、皇太子・同妃よりお尋ねとして花卉・葡萄酒を下賜される。

○東宮職日誌、贈賜録

二十三日 火曜日 御夕餐後、皇太子と共に旭ノ間において、昨秋の皇太子の東北行啓及び新宿御苑におけるゴルフマツチを撮影した活動写真を御覧になる。以後、折に触れて活動写真を御覧になる。

○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌

二十九日 月曜日 成子内親王の賢所皇霊殿神殿に謁するの儀につき、午前十時十分、内親王と御同列にて御出門、参内される。内親王は途中より別れて賢所・皇霊殿・神殿に拝礼した後、参内する。ついで御一緒に天皇・皇后と御対面になる。午後零時二十分還啓される。その後、内宴が催される。

大正十五年四月

皇太子と共に孔雀ノ間において、お召しの宮内大臣以下六十九名に謁を賜う。狩ノ間において載仁親王始め皇族と御対面の後、花鳥ノ間において一同と御会食になる。御食後、彩鸞ノ間において皇族・大臣その他と御歓談になる。夜、お祝御膳をお召し上がりになる。この日、天皇・皇后と皇太子・同妃並びに成子内親王との間でお祝品が取り交わされる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、行啓録、祭祀録、照宮御誕生録、照宮御誕生記録、皇親録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

三十日 火曜日 午後、皇太子及び成子内親王と共に孔雀ノ間において、宮内大臣官房庶務課長白根松介以下の内親王誕生に関係した宮内高等官十一名に謁を賜う。一同に午餐を賜い、東宮大夫・東宮侍従長・東宮武官長等が出席する。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、照宮御誕生録、照宮御誕生記録

四月

三日 土曜日 午前、神武天皇祭につき、奥内謁見所において御遙拝になる。東宮女官山岡淑子に御代拝を仰せ付けられる。○東宮女官日誌、東宮職日誌、儀式録、祭祀録、宮内省省報

午後、皇太子と共に奥内謁見所において、永久王を同伴し参殿した故成久王妃房子内親王と御対面になり、去る一日の成久王三年祭に際してのお供えについてのお礼言上をお受けになる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、典式録

四日 日曜日 午前十時、皇太子・成子内親王と共に御食堂において、成子内親王の箸初の儀を行われる。夕刻、お揃いにてお祝御膳をお召し上がりになる。この日、天皇・皇后と皇太子・同妃並びに

内親王との間でお祝品が取り交わされる。○東宮女官日誌、東宮職日誌、照宮御誕生録、照宮御誕生記録、皇親録、貞明皇后実録正本

五日 月曜日 午後、皇太子御参加の第一回馬術競技会開催につき、主馬寮覆馬場にお出ましになり、馬場馬術等を御覧になる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、今上陛下御乗馬誌

李王圻重体の報到達につき、皇太子・同妃より電報をもって篤く加養されるべき旨を伝えられ、病氣をお尋ねとして棹物を御贈進になる。翌六日御予定の王世子李垠・同妃方子女王との御晩餐御会食は、李垠・同妃方子女王が急遽朝鮮へ出発につき、お取りやめとなる。○東宮内舍人日記、典式録、宮内省省報、読売新聞

六日 火曜日 正午過ぎ、皇太子と共に御車寄内にお出ましになり、女子学習院行啓の御帰途に東宮仮御所にお立ち寄りの皇后をお出迎えになる。ついで奥御食堂において、御昼餐を御会食になる。その前後、お揃いにて成子内親王の居間に移られ、内親王と御対面になる。終わって、皇后の御退出を奉送される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、重要雜録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

八日 木曜日 枢密院議長男爵穂積陳重昨日死去につき、この日、皇太子・同妃より弔問使として東宮侍従牧野貞亮を差し遣わされる。翌九日には、同人を柩前に差し遣わされ、玉串をお供えになり、榊・盛菓子を賜う。十日の葬送には、東宮侍従本多正復を葬場に差し遣わされ、玉串をお供えになる。なお、同人の危篤に際して、皇太子・同妃よりお尋ねとして葡萄酒を賜う。○東宮職日誌、贈賜録、宮内省省報

九日 金曜日 午後、皇太子御参加の第二回馬術競技会開催につき、主馬寮覆馬場にお出ましになり、

大正十五年四月

障碍飛越等を御覧になる。ついで広芝に移動され、御茶屋前においてリレーレースを御覧になる。○

東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、今上陛下御乗馬誌

十一日 日曜日 午前、昭憲皇太后例祭につき、東宮女官油小路蒙子に御代拝を仰せ付けられる。○

東宮女官日誌、東宮職日誌、儀式録、祭祀録、宮内省省報

十二日 月曜日 午後、皇太子と共に茶畑脇馬場にお出ましになり、皇太子御参加の第三回馬術競技会の打毬を御覧になる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、今上陛下御乗馬誌

十三日 火曜日 午前、宮内省御用掛山本信次郎よりフランス語の進講をお受けになる。以後、毎週

火曜日と金曜日を定例としてフランス語の進講をお受けになる。○東宮女官日誌

十四日 水曜日 午後、生物学御研究室に立ち寄られ、皇太子と共に東宮職御用掛服部広太郎より鉄魚などについての説明をお聞きになる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮内舎人日記

十六日 金曜日 夜、皇太子と共に旭ノ間において、子供の育て方、蚊の一生と伝染病の伝播、伝染病の病原体に関する活動写真を御覧になる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記

二十二日 木曜日 午後二時三十分皇太子撰政と共に御出門、新宿御苑に行啓され、観桜会に御臨場になる。四時二十五分還啓される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、観桜会録、幸啓録、宮

内省省報、官報

二十五日 日曜日 李王圻危篤につき、皇太子・同妃よりお見舞電報を御發送になり、朝鮮総督府警務局長三矢宮松を御使として差し遣わされる。○東宮職日誌、典式録

二十七日 火曜日 李王圻昨二十六日薨去につき、二十八日まで三日間宮中喪が発せられたため、黒

服をお召しになる。また、皇太子・同妃より故李王妃並びに李王娘・同妃方子女王に弔詞を伝えられる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、典式録、宮内省省報、官報

二十九日 木曜日 この日、皇太子・同妃のお誕生日のお祝いにつき、午前、皇太子と共に表内謁見所において、東宮大夫始め東宮職高等官一同の拝賀をお受けになる。正午、皇太子と共に西表謁見所において、この日の内宴^{当初祝宴の予定であったが李王拓墓去につき内宴に変更}にお召しになった宮内大臣以下一同に謁を賜う。また、

東表謁見所において、邦彦王・同妃侃子、故恒久王妃昌子内親王・故成久王妃房子内親王・鳩彦王妃允子内親王・稔彦王妃聡子内親王と御対面になる。それより花鳥ノ間において、内宴に臨まれる。御食後、彩鸞ノ間において珈琲を召される。ついで皇太子と共に奥内謁見所において、故依仁親王妃周子始め参殿の皇族と、また崇仁親王と御対面になり、さらに清水シゲ始め元奉仕者五名に謁を賜う。

○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、典式録

三十日 金曜日 議定官元帥陸軍大将子爵川村景明去る二十八日死去につき、この日、皇太子・同妃より弔問使として東宮侍従岡本愛祐を柩前に差し遣わされ、榊・盛菓子・玉串を賜う。五月一日に行われる葬送には、東宮侍従木下道雄を葬斎場に差し遣わされる。○東宮職日誌、贈賜録、宮内省省報、官報

五月

四日 火曜日 午前、今般英国へ出発の松井テル^{特命全權大使松井慶四郎夫人}に謁を賜う。○東宮女官日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記

五日 水曜日 夜、皇太子と共に小食堂において、版画家吉田博制作・献上の風景木版画二十七枚を

御覧になり、東宮事務官岡本愛祐の説明をお聞きになる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、進献録

この日より五日間、山梨県において児童愛護展覧会開催につき、御使用の玩具二個籠二小鳥・
蓑二狗をお貸し下げになる。○重要雑録

六日 木曜日 午後一時四十五分御出門、成子内親王を伴い参内され、天皇・皇后と御対面になる。

四時三十分還啓される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、行啓録、宮内省省報

八日 土曜日 天皇御床払いにつき、皇太子・同妃の御使として東宮大夫珍田捨巳を宮城に差し遣わされる。翌日も東宮侍従本多正復を差し遣わされ、三種交魚を御贈進になる。○東宮侍従日誌、東宮職日誌、

贈賜録、大正天皇実録、奈良武次日記

九日 日曜日 午前より赤坂離宮御苑において開催のゴルフ大会に臨まれ、東宮武官長奈良武次・東宮事務官木下道雄・同岡本愛祐及び侍医・東宮女官等と共に競技を行われる。優勝者に賞品を賜う。

○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、奈良武次日記

十四日 金曜日 夕刻、奥内謁見所において公爵西園寺公望に謁を賜う。○東宮女官日誌

十七日 月曜日 午後、今般皇太子妃の漢文学御習学に関することを囑託された加藤虎之亮武蔵高等
学校教授参邸につき、皇太子と共に謁を賜う。○東宮女官日誌、進退録

十九日 水曜日 午後、中国地方行啓へ皇太子御出発につき、成子内親王と共に東宮仮御所玄関までお見送りになる。○東宮女官日誌、東宮職日誌

二十一日 金曜日 この日より、毎週金曜日を定例として、加藤虎之亮奉仕による漢文の学習を始める。○東宮女官日誌、東宮職日誌、御教育録

二十五日 火曜日 夜、フランス国特命全權大使ポール・クロードルのラジオ文芸講座「能芸術に就いての一考察」をお聞きになる。○東宮女官日誌、日本におけるポール・クロードル、読売新聞
故文秀女王百日祭につき、皇太子・同妃より御使として東宮侍従本多正復を権舎並びに墓所に差し遣わされ、盛菓子を権舎に、玉串を権舎並びに墓所にお供えになる。○典式録
二十九日 土曜日 午前十時四十五分御出門、参内され、天皇をお見舞いになった後、皇后と御対面になる。午後零時十分還啓される。○東宮女官日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、行啓録、宮内省省報

六月

二日 水曜日 夕刻、中国地方より皇太子還啓につき、成子内親王と共に御出迎えになる。○東宮女官日誌、東宮職日誌

八日 火曜日 李王圻去る四月二十六日薨去につき、この日、皇太子・同妃の御使として東宮侍従本多正復を朝鮮京城の昌徳宮邸に差し遣わされ、白羽二重・櫛を賜う。○東宮職日誌、典式録、宮内省省報

十日 木曜日 朝鮮において故李王圻の国葬執行につき、午前、哀悼の意を示される。皇太子・同妃の御使として、東宮侍従本多正復を奉訣式場に差し遣わされる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、典式録、宮内省省報、官報

十一日 金曜日 夜、皇太子と共に大食堂において、皇太子の中国地方行啓時の献上品・御買上品を御覧になり、天皇・皇后への御献上品、皇族への御贈進品を選定される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌

宮職日誌

大正十五年六月

十五日 火曜日 来る七月一日より京都市岡崎公園において大阪毎日新聞社主催のこども博覧会開催につき、御幼少時の玩具二個鳥籠・破笠に
戯れる小犬をお貸し下げになる。○重要雑録、皇孫御誕生記念京都こども博覧会誌

十六日 水曜日 午前、東宮仮御所において、今般離任帰国のメキシコ国特命全権公使カルロス・プイグ・カサウランク及び同夫人を御引見になる。○東宮職日誌、東宮内舍人日記、外事録、宮内省省報、官報

二十三日 水曜日 午前、謁見室において、今般賜暇帰国より帰任のベルギー国特命全権大使アルベール・ド・バツソンピエール及び同夫人、今般着任のブラジル国特命全権大使リナルド・デ・リマ・エ・シルヴァ及び同夫人を御引見になる。○東宮女官日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、外事録、宮内省省報、官報

二十五日 金曜日 皇后のお誕生日につき、午前十時二十分皇太子と共に御出門、参内され、桐ノ間において皇后に祝詞を言上される。ついで豊明殿において祝宴に御臨場の後、午後零時七分還啓される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、儀式録、典式録、貞明皇后実録正本、宮内省省報

滞英中の雍仁親王の誕生日につき、皇太子・同妃より祝電を発せられる。○東宮職日誌、重要雑録

三十日 水曜日 午前、奥内謁見所において、李王垠・同妃子女王と御対面になり、李王圻薨去に際してのお仕向けにつきお札言上をお受けになる。○東宮女官日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記

七月

三日 土曜日 恒憲王妃敏子第二王子出産につき、皇太子・同妃の御使として東宮事務官岡本愛祐を賀陽宮邸に差し遣わされ、祝詞をお申し入れになる。○東宮職日誌、皇族身分録、宮内省省報、官報

七日 水曜日 午後、イタリア国特命全権大使ジュリオ・デッラ・トツレ・デイ・ラヴァンニヤ並び

に同夫人及び息女二名、英国特命全權大使ジョン・アントニー・セシル・テイラー並びに同夫人及び息女を御引見になる。○東宮女官日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、外事録、宮内省省報、官報

九日 金曜日 去る三日に誕生した恒憲王第二王子が、七夜に当たるこの日、治憲はるのりと命名される。命名当日に際し、皇太子・同妃の御使として東宮侍従岡本愛祐を賀陽宮邸に差し遣わされ、お祝いとして五種交魚を御贈進になる。○東宮職日誌、贈賜録、宮内省省報、官報

十二日 月曜日 午後一時四十五分御出門、成子内親王を伴い参内され、皇后と御対面になる。四時三十分還啓される。○東宮女官日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、行啓録、宮内省省報

十四日 水曜日 午前十一時四十分御出門、参内され、御先着の皇太子と共に桐ノ間において皇后と御対面になる。お揃いにて千種ノ間において、守正王・同妃伊都子、李王垠・同妃方子女王と御対面の後、豊明殿において李王・同妃御慰勞の午餐に御臨席になる。三時三十五分、皇太子と共に還啓される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、行啓録、宣召録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

十五日 木曜日 午前、皇太子及び成子内親王と共に奥内謁見所において、載仁親王並びに昨十四日結婚の春仁王・同妃直子公爵一条実孝妹と御対面になる。昨日の結婚に当たり、皇太子・同妃の御使として東宮侍従本多正復を閑院宮邸に差し遣わされ、載仁親王、及び春仁王・同妃にそれぞれお祝品を御贈進になる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、行啓録、皇族身分録、宮内省省報、官報

十九日 月曜日 午前、この日より放送開始のラジオ仏語講座をお聴きになる。○東宮女官日誌

二十日 火曜日 午後、皇太子と共に奥内謁見所において、翌二十一日より塩原に旅行する崇仁親王と御対面になり、暇乞いの挨拶をお受けになる。○東宮女官日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、贈賜録

大正十五年八月

二十二日 木曜日 午後、皇太子と共に奥内謁見所において、東宮職御用掛松平慶民に謁を賜い、昨年雍仁親王に随行して渡英のところ昨二十一日帰国につき、挨拶をお受けになる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記

二十九日 木曜日 夜、標本室において、皇太子より御整理中の貝類・昆虫類の標本について説明をお聞きになる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌

三十日 金曜日 午前、明治天皇例祭皇霊殿の儀につき、奥内謁見所において御遙拝になる。夕刻、同御神楽の儀につき、皇太子と共に奥内謁見所前ペランダにおいて御遙拝になる。なお、両儀共に、東宮女官山岡淑子に御代拝を仰せ付けられる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、儀式録、祭祀録、典式録、宮内省省報

八月

三日 火曜日 夕刻、強震発生につき、皇太子・同妃より東宮事務官岡本愛祐を通じて電話にて天皇・皇后の御機嫌をお伺いになり、併せて東宮侍従長入江為守を宮城に差し遣わされる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌

九日 月曜日 午前十時四十五分御出門、皇太子と共に参内され、翌十日葉山に行幸啓の天皇・皇后と御対面になる。午後零時十五分還啓される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、行啓録、宮内省省報

十日 火曜日 午前八時五分御出門、皇太子と共に参内され、天皇・皇后の葉山行幸啓を奉送される。

九時還啓される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、行啓録、幸啓録、貞明皇后実録正本、宮内省省報

十二日 木曜日 皇太子・成子内親王と共に那須御用邸に行啓される。午前七時四十分御出門、午後零時二十分同邸に到着される。午後、東宮事務官岡本愛祐の案内にて御用邸内各室を御巡覧になる。

夕刻、御内庭を御散策になる。御用邸御滞在中は皇太子と共に御散策、ゴルフ等をしてお過ごしになる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、東宮内舎人供奉日誌、行啓録、宮内省省報、官報

十六日 月曜日 午前、庭内の生物学研究室にお出ましになり、皇太子の御研究を御覧になる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮内舎人供奉日誌

十七日 火曜日 午後、宮内大臣一木喜徳郎参邸につき、皇太子と共に謁を賜い、御機嫌伺いをお受けになる。ついで宮内大臣始め供奉高等官一同にお茶を賜う。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮内舎人供奉日誌、行啓録

二十三日 月曜日 夜、皇太子と共にお月見をされる。また、那須村湯本の住民約二百名の提灯行列が御用邸正門前に整列した際に、万歳三唱に応えられる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮内舎人供奉日誌、行啓録、栃木県庁文書

二十五日 水曜日 朝融王妃知子女王内着帯につき、皇太子・同妃より万那料を御贈進になる。○東宮職日誌、贈賜録、行啓録

二十六日 木曜日 午前、内閣総理大臣若槻礼次郎・司法大臣江木翼・農林大臣町田忠治参邸につき、謁を賜い、御機嫌伺いをお受けになる。○東宮女官日誌、行啓録

大正十五年八月

二十七日 金曜日 午前、内大臣牧野伸顕・内大臣秘書官長河井弥八参邸につき、皇太子と共に謁を賜い、御機嫌伺いをお受けになる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、河井弥八日記

皇太子と共に、文学博士黒板勝美より正倉院御物に関する講話をお聴きになる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮内舍人供奉日誌、行啓録

侍医鳥山南寿次郎去る二十五日死去につき、この日、皇太子・同妃の御使として東宮侍従牧野貞亮を同人邸に差し遣わされ、祭資等を賜う。なお、これより先、病氣お尋ねとして花卉・葡萄酒を賜う。

○東宮職日誌、行啓録、贈賜録、内賜録、宮内省省報、官報

二十八日 土曜日 午前、御機嫌伺いのため海軍大臣財部彪・外務大臣幣原喜重郎・文部大臣岡田良平・内務大臣浜口雄幸・通信大臣安達謙蔵・商工大臣片岡直温、及び侍従長徳川達孝・侍医頭入沢達吉参邸につき、皇太子と共に謁を賜う。○東宮女官日誌、行啓録、入沢達吉日記

三十一日 火曜日 天長節につき、皇太子・同妃の御使として東宮大夫珍田捨巳を葉山御用邸に差し遣わされる。また、皇太子と共に、東宮侍従長入江為守始め供奉高等官の祝賀をお受けになる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人供奉日誌、行啓録、典式録、大正天皇実録、貞明皇后実録正本、宮内省省報

九月

一日 水曜日 横浜市において震災死亡者納骨堂の新設に際して追悼式挙行につき、皇太子・同妃より榊一对を同市に下賜される。○東宮職日誌、贈賜録

二日 木曜日 静寛院宮^{仁孝天皇の皇女親子内親王、和宮}五十回忌法会執行につき、皇太子・同妃より芝増上寺の式場及び

墓所に色花をお供えになり、また、御使として東宮侍従本多正復を差し遣わされ、焼香させられる。

○東宮職日誌、贈賜録、皇親録、宮内省省報

四日 土曜日 午前、皇太子と共に東京帝国大学理学部助教理学博士松村瞭より、貝塚の概念及び

千葉県姥山貝塚・埼玉県吉見百穴に関する講話をお聴きになる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮内舍人供

奉日誌、行啓録

夜、栃木県下の煙火製造業者により打上花火が開催され、皇太子と共に御覧になる。○東宮女官日誌、東

宮侍従日誌、東宮内舍人供奉日誌、行啓録

六日 月曜日 午前、陸軍大臣宇垣一成・鉄道大臣井上匡四郎参邸につき、皇太子と共に謁を賜う。

○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮内舍人供奉日誌、行啓録

七日 火曜日 午前、参謀総長鈴木莊六以下三名参邸につき、皇太子と共に謁を賜う。終わって、宮

内省御用掛二荒芳徳・教育総監菊池慎之助・第十四師団長宮地久寿馬参邸につき、皇太子と共にそれ

ぞれ謁を賜う。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮内舍人供奉日誌、行啓録

八日 水曜日 午前、海軍軍令部長鈴木貫太郎参邸につき、皇太子と共に謁を賜う。○東宮女官日誌、東

宮侍従日誌、東宮内舍人供奉日誌、行啓録

九日 木曜日 午前十時四十分、皇太子・成子内親王と共に那須御用邸を御出門、午後二時五十五分、

東宮仮御所に還啓される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、東宮内舍人供奉日誌、行啓録

宮内省省報、官報

十日 金曜日 午後、皇太子と共に宮内事務官松平慶民に謁を賜い、滯英中の雍仁親王の動静等につ

大正十五年九月

いてお聞きになる。翌十一日英国へ出発の松平に、皇太子・同妃より雍仁親王への親書・御贈進品を託される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌

三時三十分御出門、皇太子と共に参内され、葉山より還啓の皇后を奉迎される。奥内謁見所において御対面後、四時二十五分還啓される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、行啓録、貞明皇后

実録正本、宮内省省報

十一日 土曜日 午後一時十五分御出門、皇太子と共に参内され、奥宮殿においてお過ごしになる。

三時二十分還啓される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、行啓録、宮内省省報

十二日 日曜日 午前、皇太子と共に旭ノ間において、京都帝国大学教授文学博士浜田耕作より「京都府下並奈良大分両県下ニ於ケル考古学的研究ニ就テ」の講話をお聴きになる。○東宮女官日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、御教育録

十三日 月曜日 午後零時十五分御出門、参内される。皇后と共に千種ノ間において、御先着の皇太子撰の紹介にてスウェーデン国皇太子グスタフ・アドルフ親王・同妃と御会談になる。ついでお揃いにて豊明殿において、歓迎の宮中午餐に御臨席になる。午後三時十五分、皇太子と共に還啓される。

その後、スウェーデン国皇太子・同妃が東宮仮御所を訪問したため、三時三十分お一方にて再び御出門、御答訪のため霞関離宮に行啓され、名刺を置かれ、直ちに還啓される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、

東宮職日誌、東宮内舎人日記、外事録、外賓参内録、外賓接待録、宮内省省報

十四日 火曜日 午前十一時四十五分皇太子と共に御出門、参内される。皇太子撰・皇后と共に千種ノ間において、今般離任帰国のブラジル国特命全権大使リナルド・デ・リマ・エ・シルヴァ及び同夫

人と御握手になる。ついで豊明殿において、大使夫妻のための宮中午餐に御臨席になる。牡丹ノ間において賜茶の後、皇后と共に奥宮殿にお入りになる。その後、皇太子、照宮御養育掛竹屋志計子に抱かれて参内の成子内親王、及び崇仁親王も奥宮殿にお入りになり、御一緒に過ごされる。午後四時四十五分、皇太子及び成子内親王と共に還啓される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、謁見録、行啓録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

大蔵大臣早速整爾昨十三日死去につき、この日、皇太子・同妃の弔問使として東宮侍従牧野貞亮を同人邸大蔵大臣官舎に差し遣わされる。翌十五日には、東宮侍従岡本愛祐を差し遣わされ、祭資・花・盛菓子を賜い、焼香させられる。十六日には、東宮侍従本多正復を葬祭場に差し遣わされる。○東宮職日誌、贈賜録、宮内省省報、官報

十五日 水曜日 午前九時十五分御出門、皇太子と共に参内され、葉山に行啓の皇后を奉送される。十時五分還啓される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、行啓録、宮内省省報

午後、皇太子と共に奥内謁見所において、御出産後初参殿の恒憲王妃敏子と御対面になる。なお、昨十四日の治憲王の賢所初参拝に当たり、皇太子・同妃より万那料を恒憲王・同妃、及び治憲王にそれぞれ御贈進になる。○東宮女官日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、贈賜録、宮内省省報、官報

十六日 木曜日 夕刻、スウェーデン国皇太子グスタフ・アドルフ親王・同妃のため、皇太子と共に東宮御所において茶会を催される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、外事録、外賓参内録、外賓接待録、宮内省省報

十七日 金曜日 午前、今般帰国のブラジル国特命全權大使リナルド・デ・リマ・エ・シルヴァ及び

大正十五年十月

同夫人を御引見になる。○東宮女官日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、外事録、宮内省省報、官報
二十一日 火曜日 この日より御学課を御履修になる。当分の時間割は次のとおり。

	第一時 <small>自午前十時至同四十五分</small>	第二時 <small>自午後二時至同四十五分</small>
火	仏語	
木	ピアノ	
金	仏語	漢文

○東宮女官日誌、御教育録

三十日 木曜日 午前、昨年春以来約一年半振りに音楽囑託神戸絢の指導により、ピアノの練習をされる。以後、木曜日を定例として同人よりピアノの指導をお受けになる。○東宮女官日誌

十月

二日 土曜日 土曜定例御相伴が再開され、皇太子と共に当直側近奉仕者と御会食になる。御食後、千葉県の下志津陸軍飛行学校修業式への皇太子行啓、国際女子オリンピックにおける人見絹枝の活躍を記録した活動写真を御覧になる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記

三日 日曜日 午後二時御出門、成子内親王と共に新宿御苑に行啓され、皇族・王族を招いてのゴルフ競技会に御参加になる。皇太子妃は小原駈吉と組まれ、皇太子・李王垠の組と対戦される。四時十分お揃いにて還啓される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、行啓録、宮内省省報、新宿御苑

日誌、新宿御苑上申報告綴

五日 火曜日 午前、皇太子と共に生物学御研究室において、岩国の白蛇、熱帯産のニシキヘビを御覧になり、東宮職御用掛服部広太郎の説明をお聴きになる。○東宮女官日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記

九日 土曜日 午後、東宮仮御所において今般来日のシヤム国皇族ターニー親王・シップパン女王のため茶会開催につき、参集の皇族と共に狩ノ間において、皇太子撰政の紹介によりシヤム国皇族と御対面になる。ついで、旭ノ間において、茶会に臨まれる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、外事録、外賓参内録、宮内省省報、官報

十一日 月曜日 午前、皇太子と共に奥内謁見所において、先般満洲より帰還の載仁親王と御対面になる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、皇族旅行録、宮内省省報

午後、奥内謁見所において、今般新任の侍医村山浩一東宮仮御所詰に謁を賜う。○東宮女官日誌、東宮職日誌、宮内省省報、官報

十三日 水曜日 この日、皇太子・同妃よりスウェーデン国皇太子グスタフ・アドルフ親王並びに同妃にお写真を御贈進になる。即日、礼電をお受けになる。○外事録、宮内省省報、官報

十五日 金曜日 午後一時皇太子と共に御出門、東京府美術館に行啓され、帝国美術院第七回美術展覧会及び日本工芸美術会第一回展覧会を御覧になる。三時五十五分還啓される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、行啓録、宮内省省報、関屋貞三郎日記

十七日 日曜日 神嘗祭につき、午前、奥内謁見所ペランダにお出ましになり、御遙拝になる。御代拝は東宮女官油小路蒙子に仰せ付けられる。○東宮女官日誌、東宮職日誌、儀式録、祭祀録、宮内省省報

大正十五年十月

大正十五年十月

二十二日 金曜日 昨二十一日長慶天皇が皇代に列せられ、この日、賢所皇靈殿神殿に親告の儀挙行につき、皇太子・同妃の御使として東宮侍従岡本愛祐を葉山御用邸に差し遣わされる。天皇・皇后と皇太子・同妃との間でお祝いとして鮮鯛の御贈進が取り交わされる。○東宮女官日誌、東宮職日誌、典式録、貞明皇后実録正本

二十三日 土曜日 午前、博恭王妃経子並びに近く伯爵清棲幸保と結婚の敦子女王参殿につき、皇太子と共に奥内謁見所において御対面になる。なお、去る二十日の朝見の儀に際しては、皇太子・同妃より五種交魚代料を伏見宮に御贈進になる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、皇族身分録、贈賜録、宮内省省報、官報

二十五日 月曜日 午前九時四十五分皇太子と共に御出門、葉山御用邸附属邸に行啓され、天皇・皇后の御機嫌を伺われる。皇后と御昼餐を御会食になり、午後三時五十五分還啓される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、行啓録、幸啓録、宮内省省報、官報

二十六日 火曜日 午前、今般フランス語御学習のお相手としてフランス国より招聘のマルトウ・ド・ラ・サール初参殿につき、謁を賜う。○東宮職日誌、仏語御進講仏国婦人傭聘録

翌二十七日伯爵清棲幸保に帰嫁する敦子女王に、この日、皇太子・同妃より紅白縮緬を御贈進になる。結婚当日には、皇太子・同妃より五種交魚を伏見宮に御贈進になる。○東宮職日誌、贈賜録

二十七日 水曜日 午後、宮内省雇マルトウ・ド・ラ・サール参殿につき、皇太子と共に謁を賜う。

○東宮女官日誌、東宮職日誌

三十一日 日曜日 天長節祝日につき、午前、皇太子・成子内親王と共に表内謁見所において、東宮

職高等官に謁を賜う。御夕餐にお祝御膳をお召し上がりになる。この日、皇太子・同妃より御使として東宮大夫珍田捨巳を天皇・皇后が御滞在中の葉山御用邸附属邸に差し遣わされ、天長節祝日のお祝品を天皇に御献上になる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、典式録、宮内省省報

十一月

二日 火曜日 午後三時二十五分御出門、皇太子と共に参内され、葉山御用邸より還啓の皇后をお出迎えになる。四時三十五分還啓される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、行啓録、宮内省省報

三日 水曜日 午前九時二十八分御出門、日本赤十字社第三十四回通常総会並びに同社創立五十年祝典式に御臨席のため、東京市上野恩賜公園竹の台に行啓される。総裁載仁親王及び故依仁親王妃周子始め皇族妃と共に皇后の御到着を奉迎され、御休所において社長平山成信以下の職員に謁を賜う。ついで皇后に扈従して総会及び式典に臨まれる。十一時終了、皇后の還啓をお見送りになった後、参内される。折柄参内の皇太子と共に、皇后の葉山行啓を奉送される。午後三時五分皇太子と共に還啓される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、行啓録、宮内省省報、官報、事業年報（日本赤十字社）、日本赤十字社社史稿

十日 水曜日 午後二時三十分皇太子撰と共に御出発、赤坂離宮御苑において開催の観菊会に御臨席になる。三時四十五分還啓される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、観菊会録、典式録、

宮内省省報、官報

大正十五年十一月

十三日 土曜日 午前、奥内謁見所において、宮内省雇マルトウ・ド・ラ・サールの指導によりフランス語の第一回稽古をされる。以後、毎週水曜日と土曜日を定例としてド・ラ・サールよりフランス語の指導をお受けになる。○東宮女官日誌

午後、邦彦王妃倪子参殿につき、皇太子と共に御対面になり、天皇御不例の御機嫌伺いをお受けになる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記

十五日 月曜日 昨日神戸を出航のシヤム国皇族ターニー親王・シツパン女王より、本邦滞在中の優遇を謝する礼電が皇太子・同妃に寄せられる。翌十六日、皇太子・同妃より答電を御發送になる。

○外事録、宮内省省報、官報

十八日 木曜日 午前九時四十五分皇太子と共に御出門、葉山御用邸附属邸に行啓され、天皇をお見舞いになる。午後、皇后と御対面になり、四時還啓される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、行啓録、幸啓録、大正天皇大喪記録、宮内省省報、官報

十九日 金曜日 午前、皇太子と共に東御学問所において、文学博士三上参次より「君徳涵養ニ関スル維新元勳ノ事蹟ニ就テ」と題する明治維新輔弼の勲臣に関する講話をお聴きになる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、御教育録、三上参次御進講案

二十二日 月曜日 午後、朝融王参殿につき、皇太子と共に御対面になり、病氣全快のお礼言上をお受けになる。去る十一月八日に東京帝国大学医学部附属医院塩田外科において盲腸炎の手術を受けた朝融王に、皇太子・同妃よりお尋ねとして五種果物を御贈進になる。○東宮女官日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、皇族身分録、贈賜録

二十六日 金曜日 午前十時三十分皇太子と共に御出門、芝公園内の日本赤十字社に行啓され、今般竣工の参考館の展示を御巡覧になる。十一時五十分還啓される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、

東宮内舍人日記、行啓録、宮内省省報、官報、事業年報（日本赤十字社）、日本赤十字社史稿

二十八日 日曜日 午前九時四十五分皇太子と共に御出門、葉山御用邸附属邸に行啓される。十一時三十分御着、直ちに御療養中の天皇をお見舞いになる。その後、皇后と御昼餐を御会食になり、御容体を伺われ、お慰めになる。再び御座所において天皇に御帰京の御挨拶をされる。午後四時還啓される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、幸啓録、行啓録、貞明皇后実録正本、大正天皇大喪記録、宮内省省報、官報

二十九日 月曜日 午後、奥内謁見所において故能久親王妃富子と御対面になり、先般台湾より帰京につきお礼言上をお受けになる。成子内親王を交えて茶菓を共にされる。○東宮女官日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、皇族旅行録、宮内省省報

御夕餐後、皇太子と共に彩鸞ノ間において、先般陸軍特別大演習を実施の佐賀県下よりの献上品を御覧になる。翌日も同所において、お一方にて献上品を御覧になる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、

東宮内舍人日記

三十日 火曜日 午後、皇太子と共に奥内謁見所において、守正王妃伊都子、及び来る十二月二日に伯爵広橋直光と結婚する規子女王と御対面になり、暇乞いをお受けになる。翌十二月一日、皇太子・同妃より規子女王に紅白縮緬を御贈進になる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、皇族

身分録、贈賜録

十二月

一日 水曜日 午後、皇太子と共に奥内謁見所において、今般海軍大尉に昇進した朝融王と御対面になり、お礼言上をお受けになる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、皇族身分録

三日 金曜日 午前、皇太子と共に表御進講室において、文学博士三上参次より「君徳涵養ニ関スル維新元勳ノ事蹟ニ就テ」の講話の続きをお聴きになる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、御教育録

午後、畑にお出ましの際、生物学御研究室に増築した実験室を御巡覧になる。○東宮女官日誌

五日 日曜日 午前、皇太子と共に茶畑脇馬場にお出ましになり、宣仁親王・永久王・恒徳王・孚彦王・李鍋公による打毬を御覧になる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記

六日 月曜日 成子内親王初誕辰につき、午前、皇太子及び成子内親王と共に奥内謁見所において、故恒久王妃昌子内親王・故成久王妃房子内親王・鳩彦王妃允子内親王・稔彦王妃聡子内親王、侯爵久邇邦久と御対面になり、祝詞の言上をお受けになる。また、天皇・皇后の御使として典侍竹屋津根子参殿につき、皇太子及び成子内親王と共に謁を賜い、祝詞言上並びに御贈進品をお受けになる。終わって、三方お揃いにて表内謁見所において、宮内大臣以下の職員より祝賀をお受けになる。午後、お一方にて、この日退任の乳人平山シズエ・飯島家寿に謁を賜う。ついで皇太子と共に元奉仕者の清水シゲ・鈴木タカ・曾根ナツ等に椅子を差し許され、謁を賜う。その後、邦彦王・同妃幌子及び朝融王参殿につき、御対面になる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、貞明皇后実録正本

正午、翌七日臣籍降下の博信王のため送別午餐会開催につき、皇太子と共に小食堂において、博恭王・

同妃経子、博義王妃朝子、博信王と御会食になる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、典式録、宣召録、宮内省省報、官報

七日 火曜日 この日、博信王が情願により皇族の身分を離れ、天皇より華頂の家名を下賜され、華族に列し、侯爵を授けられる。よって、皇太子・同妃の御使として東宮侍従牧野貞亮を伏見宮邸に差し遣わされる。なお、皇太子・同妃より鮮鯛等を下賜される。○東宮職日誌、贈賜録、宮内省省報、官報

八日 水曜日 朝融王妃知子女王第一王女出産につき、東宮女官長島津治子を御使として久邇宮邸に差し遣わされる。この日誕生した王女は、七夜に当たる十四日、正子まさこと命名される。命名当日に際し、皇太子・同妃の御使として東宮侍従牧野貞亮を久邇宮邸に差し遣わされ、三種交魚を朝融王・同妃に御贈進になる。○東宮職日誌、行啓録、皇族身分録、贈賜録、宮内省省報、官報

十日 金曜日 午後、皇太子と共に小食堂において、宮内省雇マルトウ・ド・ラ・サールに茶菓を供される。全てフランス語にて御対話になる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記

夕刻、葉山への御差遣より帰京の東宮侍従長入江為守・侍医八田善之進参殿につき、皇太子と共に謁を賜い、天皇の御容体につき復命をお聞きになる。○東宮女官日誌、東宮職日誌

十一日 土曜日 午前九時四十五分皇太子と共に御出門、葉山御用邸附属邸に行啓され、天皇をお見舞いになる。午後三時五十五分還啓される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、行啓録、幸啓録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

皇太子と共に奥内謁見所において、載仁親王・華子女王と御対面になり、来る十三日侯爵華頂博信に降嫁の女王より暇乞いをお受けになる。結婚当日、皇太子・同妃より華子女王に紅白縮緬を、閑院宮

に五種交魚を御贈進になる。○東宮女官日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、皇族身分録、贈賜録

十二日 日曜日 午前、光格天皇例祭につき、東宮女官山岡淑子に御代拝を仰せ付けられる。また、祭典の時刻に、東宮仮御所において御遙拝になる。○東宮女官日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、儀式録、宮内省省報

午後、皇太子と共に奥内謁見所において、この日京都に帰還する多嘉王御叔父・同妃静子と御対面にな

る。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、宮内省省報

十三日 月曜日 天皇のお見舞いのため、皇太子と共に葉山に行啓される。午前九時四十五分御出門、十一時三十分葉山御用邸附属邸に御到着になり、直ちに天皇をお見舞いになる。皇后・皇太子と御昼餐を御会食の後、参邸の宣仁親王・崇仁親王と御対面になり、御一緒に天皇の御看護を続けられる。

御夕餐の後、改築九月三十日竣工後の本邸に入られ、御宿泊になる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、東宮内舍人供奉日誌、行啓録、幸啓録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

十四日 火曜日 午前、皇太子と共に附属邸に赴かれ、天皇をお見舞いになる。午後、本邸にお戻りになる。その後、天皇をお見舞いのため参邸の故恒久王妃昌子内親王・故成久王妃房子内親王と御対面になる。それより再び附属邸に赴かれ、天皇をお見舞いになる。夜、本邸にお戻りになる。この日、東宮職より、皇太子・同妃が東京への還啓をお取りやめになり当分葉山に御滞在になる旨が発表される。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、東宮内舍人供奉日誌、行啓録、幸啓録、大正天皇大喪記録、貞明皇后実録正本、東京日日新聞

十五日 水曜日 午後より夜にかけて、皇太子と共に二回にわたって附属邸に赴かれ、天皇をお見舞

いになる。終わって、本邸にお戻りになる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人供奉日誌、行啓録、幸啓録、大正天皇大喪記録

賢所御神楽につき、皇太子と共に葉山御用邸において御遙拝になる。御代拝は東宮女官津軽理喜子に仰せ付けられる。○東宮女官日誌、東宮職日誌、東宮内舎人日記、東宮内舎人供奉日誌、儀式録、祭祀録、典式録、宮内省省報

天皇御平癒祈願のため、皇太子・同妃の御使として東宮侍従牧野貞亮を神宮に差し遣わされ、御代拝を仰せ付けられる。同人は十七日、皇大神宮並びに豊受大神宮に参拝する。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、行啓録、重要雑録

十六日 木曜日 午後一時過ぎ、天皇御重体の報知があり、直ちに皇太子と共に附属邸に赴かれ、御看護になる。皇族・王族、元帥、大勲位、国務大臣等も陸統として葉山に到着し、夕刻より御寝所において天皇と御対面になり、又は拝謁する。十七日は同日参邸の皇族が御対面、十八日は天皇の元奉仕者等が拝謁。その間、皇后・皇太子・宣仁親

王・崇仁親王と共に侍立される。その後、天皇の御病状はやや小康を得たため、十時三十分御退出、皇太子と共に本邸に戻られる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舎人供奉日誌、行啓録、幸啓録、重要雑録、大正天皇実録、貞明皇后実録正本、大正天皇大喪記録、宮内省省報、官報

十七日 金曜日 天皇の御容体が引き続き重篤であり、四時間ごとに御容体が発表される。この日午前より夜にかけて、皇太子と共に三回にわたって附属邸に赴かれ、天皇の御看護に当たられる。皇太子・同妃共に終日の御看護を望まれるが、この夜の御容体急変は万々ない旨の侍医頭入沢達吉の意見や、連日の御看護による御健康への影響を慮る侍医の言上もあり、午後十時三十分本邸に戻られる。

○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人供奉日誌、東宮内舍人日記、行啓録、幸啓録、重要雑録、貞明皇后実録正本、大正天皇大喪記録、宮内省省報、官報

午前、成子内親王参邸につき、皇太子と共に御対面になる。なお、同内親王は、午後、附属邸において天皇と対面する。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌

十八日 土曜日 午前九時、皇太子と共に附属邸に赴かれ、終日天皇の御看護を続けられる。午後十時二十五分の皇太子御退出後も、皇后と共に終夜御看護になり、翌日午前七時本邸に御帰還になる。

○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮内舍人供奉日誌、行啓録、幸啓録、大正天皇大喪記録、重要雑録、大正天皇実録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

十九日 日曜日 午前より夜にかけて、皇太子と共に三回にわたって附属邸に赴かれ、天皇の御看護に当たられる。なお、本邸に滞在中の成子内親王は、午前、附属邸において天皇と対面し暇乞いの上、午後帰京する。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、東宮内舍人供奉日誌、行啓録、幸啓録、重要雑録、大正天皇大喪記録、宮内省省報、官報

二十日 月曜日 午前より夜にかけて、皇太子と共に二回にわたって附属邸に赴かれ、天皇の御看護に当たられる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人供奉日誌、行啓録、幸啓録、重要雑録、貞明皇后実録正本、大正天皇大喪記録、官報

二十一日 火曜日 午前、皇太子及び参邸の宣仁親王と共に附属邸に赴かれ、天皇の御看護に当たられる。正午、本邸に戻られる。午後より夜にかけて、皇太子と共に二回にわたって附属邸に赴かれ、天皇の御看護に当たられる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人供奉日誌、行啓録、幸啓録、重要雑

録、貞明皇后実録正本、大正天皇大喪記録、官報

二十二日 水曜日 午前、皇太子と共に附属邸に赴かれ、天皇の御看護に当たられる。正午過ぎ本邸に戻られる。この兩三日における皇太子のお食事量の減少を憂慮した侍医八田善之進より御散策の進言があり、午後、皇太子と共に徒歩にて本邸内苑より下山川架橋を経て南邸御苑にお出ましになり、苑内の馬場側を通られ、再び本邸内苑を経て附属邸に御到着になる。それより天皇の御看護に当たられる。十時三十分の皇太子御退出後も、附属邸において天皇の御看護を続けられ、翌日午前七時本邸にお戻りになる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮内舍人供奉日誌、行啓録、幸啓録、重要雑録、貞明皇后実録正本、大正天皇大喪記録、官報

二十三日 木曜日 午前、皇太子と共に附属邸に赴かれ、天皇の御看護に当たられる。夕刻、本邸に戻られる。御夕餐の際、宮内次官閑屋貞三郎より、天皇の御容体急変につき今夜の御参邸時刻の繰り上げを願う旨が言上される。午後六時四十分皇太子と共に附属邸に赴かれ、御看護を続けられる。十時三十分皇太子と共に本邸に戻られる。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮内舍人供奉日誌、行啓録、幸啓録、重要雑録、大正天皇実録、貞明皇后実録正本、大正天皇大喪記録、官報

二十四日 金曜日 午前より午後にかけて、皇太子と共に二回にわたって附属邸に赴かれ、天皇の御看護に当たられる。午後一時四十分頃、天皇の御容体悪化につき、侍従・侍従武官が急遽伺候、皇族のほか、公爵・元帥・内大臣・内閣総理大臣等の大官が相次いで参邸する。その後、天皇の御脈拍・御呼吸共にますます増加し、御体温も急上昇につき、六時四十分、侍医頭入沢達吉より御絶望の由が皇太子に言上される。十時三十分、天皇の側近に奉仕の侍従・侍従武官が御前に伺候する。皇太子妃

は、皇后・皇太子・宣仁親王・崇仁親王・故恒久王妃昌子内親王・鳩彦王妃允子内親王・稔彦王妃聡子内親王と共に御看護に努められ、深夜零時に至る。○東宮女官日誌、東宮侍従日誌、侍従日誌、東宮内舍人供奉日誌、行啓録、幸啓録、重要雑録、大正天皇大喪記録、宮内省省報、官報

二十五日 土曜日 昨日に引き続き、皇后・皇太子等と共に天皇の御看護を続けられる。天皇の御病勢がますます増進し、午前一時二十五分心臓麻痺により崩御される。御歳四十八、御在位は十五年に渉らせられる。侍医より御臨終の旨が言上され、直ちに皇后・皇太子に続き、綿棒を水に浸し、天皇のお口元に奉られる。その後、宣仁親王・崇仁親王・故恒久王妃昌子内親王・鳩彦王妃允子内親王・稔彦王妃聡子内親王及び女官一同がこれに続く。二時四十分、宮内大臣・内閣総理大臣連署の告示をもって天皇崩御が公表される。天皇崩御により、皇太子は直ちに践祚され、皇太子妃は皇后となられ、皇后は皇太后となられる。また、天皇・皇后・皇太后は一年服喪される。○

東宮女官長日記、東宮女官日誌、東宮侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人供奉日誌、東宮内舍人日記、行啓録、幸啓録、重要雑録、大正天皇大喪記録、大正天皇実録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報、入沢達吉日記

践祚につき、三時十五分、賢所の儀が行われ、掌典長谷信道に皇后の御代拝を仰せ付けられる。二十六日・二十七日に行われる賢所第二日の儀・賢所第三日の儀も同人御代拝。 ついで皇霊殿神殿に奉告の儀が行われ、同人に御代拝を仰せ付けられる。賢所

の儀と同時刻、天皇は葉山御用邸附属邸内謁見所において剣璽渡御の儀を行われる。

剣璽渡御の儀の終了後、天皇と共に大行天皇の御尊骸を拝される。 ついで参邸の皇族・王族、大勲位・国務大臣・枢密院議長・元帥、及び内大臣・宮内大臣・侍従・侍従武官・侍医等側近奉仕者の拝訣があり、天皇・皇太后と共に侍立される。五時二十五分天皇と御同列にて附属邸を御出門、本邸に遷啓

される。その後、天皇と共に御座所において宮内大臣以下の供奉員に謁を賜い、大行天皇崩御の弔詞並びに踐祚の祝詞言上をお受けになる。○東宮女官長日記、東宮女官日誌、侍従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人供奉日誌、儀式録、祭祀録、幸啓録、行啓録、重要雜録、大正天皇大喪記録、昭和大礼記録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報、奈良武次日記

午後二時天皇と共に御出門、附属邸に出御され、大行天皇の御尊骸を御拝礼になる。三時四十分本邸に還御される。八時、天皇と共に再び附属邸に出御される。大行天皇の御尊骸に御拝礼、皇太后と御対面になり、九時五分還御される。○東宮女官長日記、東宮女官日誌、侍従日誌、東宮内舍人供奉日誌、行啓録、幸啓録この日、元号が「昭和」と改められる。また、東宮職官制が廃止され、皇太后宮職官制が公布・施行される。これまで皇太子・同妃に奉仕の高等官は概ね侍従職又は皇后宮職に属することとなり、兼任東宮大夫珍田捨巳本官は枢密顧問官は兼任皇后宮大夫となり、侍従職御用掛を仰せ付けられ、東宮侍従長兼侍従次長入江為守は侍従次長に、侍従兼任の東宮侍従はいずれも侍従に任じられる。また、島津治子は皇后宮女官に任じられ、皇后宮女官長心得を仰せ付けられる。高木多都雄は皇后宮職御用掛を仰せ付けられる。なお、竹屋志計子は皇后宮職御用掛を仰せ付けられ、照宮御養育掛を命じられる。さらに東宮武官官制の廃止に伴い、東宮武官は侍従武官となる。○大正天皇大喪記録、昭和大礼記録、行啓録、進退録、宮

内省省報、官報

宮内省告示をもって、天皇・皇后は当分の内、赤坂離宮を御在所と定められる旨が仰せ出される。これに伴い、赤坂離宮を東宮仮御所と定めた告示は廃止される。○宮内省省報、官報
二十六日 日曜日 午前、天皇と共に附属邸に出御され、大行天皇の御尊骸に御拝礼になる。終わつ

て皇太后に御挨拶の後、本邸に還御される。午後、再び天皇と共に附属邸に出御され、御尊骸に御拝礼の後、皇太后に御挨拶をされる。五時より御舟入の儀が行われる。終わって御拝礼になり、本邸に還御される。

七時十五分、大行天皇の御靈柩が附属邸より本邸に奉遷されるに当たり、天皇と共に本邸御車寄広間において奉迎され、御拝礼になる。皇太后は、御靈柩に扈従され附属邸より本邸に移御される。それより天皇・皇太后と共に御靈柩のお列に加われ、櫛殿^奥に御到着後、御靈柩を御拝礼になる。終わって、御休所に入御される。九時頃より天皇・皇太后と共に再び櫛殿に出御され、通夜を行われる。翌日午前零時三十分、御座所に戻られる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日記、内舍人供奉日誌、行啓録、

幸啓録、大正天皇大喪記録、大正天皇実録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

二十七日 月曜日 午前、天皇と共に櫛殿に出御され、大行天皇の御尊骸に御拝礼になる。その後、邦彦王・同妃侘子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌

天皇と共に東京に還啓される。午後三時五分葉山御用邸を御出門、逗子駅より東京駅を経て、四時四十五分宮城に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日記、内舍人供奉日誌、幸啓録、行

啓録、大正天皇大喪録、大正天皇大喪記録、宮内省省報、官報

四時五十分、大行天皇の御靈柩が皇太后御同列にて葉山御用邸を發御、逗子駅より原宿駅を経て、八時五分宮城に着御される。天皇と共に御車寄において奉迎され、天皇・皇太后と共に御靈柩のお列に扈従される。御靈柩が櫛殿^{御常御殿の旧御座所}に奉安され、天皇と共に御拝礼になる。八時五十分天皇と共に宮城を御出門、九時五分赤坂離宮に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日記、幸啓録、

行啓録、重要雑録、大正天皇大喪録、大正天皇大喪記録、大正天皇実録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

二十八日 火曜日 踐祚後朝見の儀につき、午前九時四十分御出門、天皇と共に宮城に行啓される。御到着後、お一方にて桐ノ間に入られ、朝見の儀に扈従の宮内大臣一木喜徳郎・侍従長徳川達孝・式部長官伊藤博邦・侍従武官長奈良武次・侍従武官大島陸太郎に謁を賜う。それより鳳凰ノ間に出御され、天皇と共に宣仁親王始め皇族・王族、宮内親任官・同待遇・宮内勅任官・同待遇・麝香間祇候・錦鶏間祇候の拝賀をお受けになる。終わって、天皇と御同列にて正殿に御参進になる。これより先、大勲位東郷平八郎・内閣総理大臣若槻礼次郎・枢密院議長倉富勇三郎以下の諸員が正殿に参進し、本位に就く。十時五十五分天皇が正殿西入口より出御、侍従土屋正直が剣を捧じて先行し、侍従牧野貞亮が璽を捧じて御後に従い、侍従長・侍従武官長以下侍従・侍従武官が御後に候し、親王・王・王族が供奉する。皇后は東入口より出御、式部次長心得渡辺直達・皇后宮大夫珍田捨巳が前行、皇后宮女官長心得島津治子始め皇后宮女官が御後に候し、親王妃・王妃・王族妃が供奉する。天皇・皇后は玉座に御起立になり、天皇が勅語を朗読され、首相が奉答文を奏上する。儀終了後、天皇は御学問所に、皇后は桐ノ間に入御される。それより御同列にて觀殿に参進され、大行天皇の御靈柩に御拝礼になる。十一時五十分天皇と共に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日記、儀式録、重要雑録、大正天皇大喪録、大正天皇大喪記録、昭和大礼記録、宮内省省報、官報

この日より皇后御名代として皇后宮女官が一名ずつ通夜に参向することとなり、この夜は皇后宮女官津軽理喜子に参向を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌

二十九日 水曜日 昨日来の御風気のため、御仮床に就かれる。以後、年末は御静養になる。○女官長

大正十五年・昭和元年十二月

日記、女官日誌、侍従日誌

三十一日 金曜日 秩父宮・高松宮・崇仁親王・故恒久王妃昌子内親王・故成久王妃房子内親王・鳩彦王妃允子内親王・稔彦王妃聡子内親王・正二位柳原愛子に、天皇・皇后より喪中お尋ねとして菓子又はその代料を賜う。○侍従職日誌、内舍人日記、大正天皇大喪録